

成田新高速鉄道・北千葉道路 埋蔵文化財発掘調査報告書 1

—成田市松崎山ノ台遺跡—

平成21年 2 月

成田高速鉄道アクセス株式会社

財団法人 千葉県教育振興財団

成田新高速鉄道・北千葉道路 埋蔵文化財発掘調査報告書 1

なりた しまんざきやまの だい
—成田市松崎山ノ台遺跡—





航空写真(西から)



SM-001 第1主体部(東から)



SM-001 第1主体部掘方断面(東から)



SI-004 出土土器



SM-001 出土土器



土製玉類

序 文

財団法人千葉県教育振興財団(文化財センター)は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第618集として、成田新高速鉄道・北千葉道路建設工事に伴って実施した成田市松崎山ノ台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代後期～終末期の集落跡と方墳などが検出され、この地域の歴史を知るうえで多くの貴重な成果が得られています。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際しご指導、ご協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また発掘から整理までご苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年2月

財団法人千葉県教育振興財団
理事長 福島義弘

凡 例

- 1 本書は、成田新高速鉄道・北千葉道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡と所在地は以下の通りである。
松崎山ノ台遺跡（遺跡コード211-072）成田市松崎山ノ台1374ほか
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田高速鉄道アクセス株式会社の委託を受けて財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査および整理事業の担当者および実施期間は第1章に記載した。
- 5 本書の執筆は研究員 黒沢 崇が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育振興部文化財課、成田市教育委員会、茂木雅博氏、永塚俊司氏にご指導、ご協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は下記の通りである。
国土地理院発行 1:25,000 地形図「成田」(N1-54-19-10-3)
成田市役所作成 1:2,500 「成田市地形図」24・25・31・32 平成12年修正
- 8 周辺地形航空写真は京葉測量株式会社による平成14年1月撮影(S=1/10,000)のものを使用した。
- 9 本書で使用した座標値は第1図の周辺地形図を除き、世界測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 10 図などの表現の凡例は以下の通りである。



焼土・火焼部



炭化物



粘土・山砂



赤影



黒色処理

本文目次

| | |
|-------------------|-----|
| 第1章 はじめに | 1 |
| 第1節 調査の概要 | 1 |
| 1 事業の経緯と経過 | 1 |
| 2 調査の方法と成果 | 3 |
| 第2節 遺跡の位置と周辺遺跡 | 6 |
| 第2章 旧石器時代～弥生時代 | 8 |
| 第1節 旧石器時代 | 8 |
| 第2節 縄文時代 | 12 |
| 1 遺構外出土土器 | 12 |
| 2 遺構外出土土製品 | 17 |
| 3 遺構外出土石器 | 18 |
| 第3節 弥生時代 | 21 |
| 1 竪穴住居跡 | 21 |
| 2 遺構外出土遺物 | 26 |
| 第3章 古墳時代以降 | 27 |
| 第1節 竪穴住居跡 | 27 |
| 第2節 古墳 | 55 |
| 1 墳丘と周溝 | 57 |
| 2 主体部 | 57 |
| 3 出土遺物 | 61 |
| 第3節 その他 | 64 |
| 1 遺構 | 64 |
| 2 遺構外出土遺物 | 65 |
| 第4章 まとめ | 103 |
| 第1節 出土遺物の様相と集落の変遷 | 103 |
| 1 出土遺物の様相 | 103 |
| 2 集落の変遷 | 105 |
| 第2節 古墳の検討 | 108 |
| 報告書抄録 | 巻末 |

挿図目次

| | | | |
|-----------------------------|----|--------------------------------------|----|
| 第1図 周辺地形図と調査区 | 2 | 第35図 SI-013(1) | 42 |
| 第2図 上層調査区全体図 | 4 | 第36図 SI-013(2) | 43 |
| 第3図 下層調査区全体図 | 4 | 第37図 SI-014 | 43 |
| 第4図 上層遺構分布図 | 5 | 第38図 SI-015 | 45 |
| 第5図 周辺の主な遺跡 | 7 | 第39図 SI-016 | 46 |
| 第6図 立川ロームの土層柱状図 | 8 | 第40図 SI-017 | 47 |
| 第7図 拡張地点3・4 | 9 | 第41図 SI-018 | 49 |
| 第8図 旧石器(1) | 10 | 第42図 SI-021 | 50 |
| 第9図 旧石器(2) | 11 | 第43図 SI-022 | 51 |
| 第10図 縄文土器(1) | 13 | 第44図 SI-023 | 52 |
| 第11図 縄文土器(2) | 14 | 第45図 SI-024 | 53 |
| 第12図 縄文土器(3) | 15 | 第46図 SI-025 | 54 |
| 第13図 縄文土器(4) | 16 | 第47図 SM-001地形測量図 | 55 |
| 第14図 土製品 | 18 | 第48図 SM-001墳丘・周溝断面図(1) | 56 |
| 第15図 縄文時代石器(1) | 19 | 第49図 SM-001墳丘・周溝断面図(2) | 57 |
| 第16図 縄文時代石器(2) | 20 | 第50図 SM-001第1主体部(1) | 58 |
| 第17図 SI-019 | 21 | 第51図 SM-001第1主体部(2) | 59 |
| 第18図 SI-020 | 22 | 第52図 SM-001第1主体部 石棺材出土状況 | 60 |
| 第19図 弥生土器(1)(SI-019・SI-020) | 23 | 第53図 SM-001第2主体部 | 61 |
| 第20図 土製品・石製品(弥生時代) | 23 | 第54図 SM-001遺物出土状況(1) | 62 |
| 第21図 弥生土器(2)(遺構外) | 25 | 第55図 SM-001遺物出土状況(2) | 63 |
| 第22図 SI-001 | 27 | 第56図 SK-001~003・SH-001 | 64 |
| 第23図 SI-002 | 28 | 第57図 SS-001 | 65 |
| 第24図 SI-003 | 30 | 第58図 土器類(1)(SI-001・SI-002(1)) | 66 |
| 第25図 SI-004(1) | 31 | 第59図 土器類(2)(SI-002(2)・SI-003(1)) | 67 |
| 第26図 SI-004(2) | 32 | 第60図 土器類(3)(SI-003(2)・SI-004(1)) | 68 |
| 第27図 SI-005 | 33 | 第61図 土器類(4)(SI-004(2)) | 69 |
| 第28図 SI-006 | 34 | 第62図 土器類(5)(SI-004(3)) | 70 |
| 第29図 SI-007 | 35 | 第63図 土器類(6)(SI-005・SI-006(1)) | 71 |
| 第30図 SI-008 | 37 | 第64図 土器類(7)(SI-006(2)・SI-007) | 72 |
| 第31図 SI-009 | 38 | 第65図 土器類(8)(SI-008・SI-009) | 73 |
| 第32図 SI-010 | 39 | 第66図 土器類(9)(SI-010・SI-011・SI-012(1)) | 74 |
| 第33図 SI-011 | 40 | 第67図 土器類(10)(SI-012(2)) | 75 |
| 第34図 SI-012 | 41 | 第68図 土器類(11)(SI-012(3)・SI-013(1)) | 76 |

| | | | |
|---|----|--------------------|-----|
| 第69図 土器類(12) (SI-013(2)・SI-014(1)) | 77 | 第76図 土製品(2) | 84 |
| 第70図 土器類(13) (SI-014(2)・SI-015・SI-016(1)) | 78 | 第77図 石製品 | 85 |
| 第71図 土器類(14) (SI-016(2)・SI-017) | 79 | 第78図 金属製品 | 85 |
| 第72図 土器類(15) (SI-018・SI-021(1)) | 80 | 第79図 土器の変遷 | 104 |
| 第73図 土器類(16) (SI-021(2)・SI-022・SI-023(1)) | 81 | 第80図 竪穴住居の変遷 | 106 |
| 第74図 土器類(17) (SI-023(2)・SI-024・SI-025・SM-001・ 遺構外) | 82 | 第81図 時期別 竪穴住居床面積分布 | 106 |
| 第75図 土製品(1) | 83 | 第82図 時期別 竪穴住居主軸方位 | 106 |
| | | 第83図 SM-001の類別 | 109 |

図版目次

巻頭図版 1 遺跡全景・SM-001

巻頭図版 2 出土遺物

図版 1 航空写真(S=1/10,000)

図版 2 調査前(西から)

3 D-61グリッド断面(西から)

2 D-61拡張区石器出土(北から)

2 E-09拡張区石器出土(北東から)

2 E-25拡張区石器出土(南から)

図版 3 SI-001(南西から) SI-001断面(南東から)

SI-001遺物出土(西から)

SI-002(南東から)

図版 4 SI-002カマド(南東から)

SI-003カマド遺物出土(南東から)

SI-003(南東から) SI-004(北から)

図版 5 SI-004遺物出土(北から)

SI-004貯蔵穴遺物出土(東から)

SI-005(北東から)

SI-005カマド遺物出土(南東から)

SI-005カマド(南東から)

図版 6 SI-006(南東から)

SI-006カマド(南東から)

SI-007カマド遺物出土(南西から)

SI-007(南から)

図版 7 SI-008(北西から) SI-009(南西から)

SI-009カマド(南から)

SI-009遺物出土(北東から)

図版 8 SI-010(南東から) SI-011(南東から)

SI-011カマド(南東から)

SI-011遺物出土(南から)

図版 9 SI-012(北東から)

SI-012カマド(南東から)

SI-013貯蔵穴遺物出土(南から)

SI-013(南から)

図版 10 SI-014(西から)

SI-014遺物出土(南西から)

SI-015カマド(南から)

SI-015(南から)

図版 11 SI-016(北から)

SI-016遺物出土(北から)

SI-016遺物出土(北西から)

SI-017(東から)

図版 12 SI-017カマド(東から)

SI-017貯蔵穴遺物出土(南から)

SI-018(南から)

| | | |
|------|-------------------------|--------------------------|
| | SI-018カマド(南から) | SM-001第1主体部石棺材出土(西から) |
| | SI-018遺物出土(南から) | SM-001第1主体部(西から) |
| 図版13 | SI-019(東から) | 図版20 SM-001南周溝石棺材出土(東から) |
| | SI-019遺物出土(西から) | SM-001南周溝断面(東から) |
| | SI-020遺物出土(南東から) | SM-001東周溝遺物出土(南から) |
| | SI-020(南東から) | SM-001南西隅周溝遺物出土(北から) |
| 図版14 | SI-021(南から) SI-021遺物出土 | SM-001第2主体部断面(南から) |
| | SI-022カマド(南東から) | SM-001第2主体部(南から) |
| | SI-022(南東から) | 図版21 旧石器 |
| 図版15 | SI-023(南東から) | 図版22 縄文土器(1) |
| | SI-023貯蔵穴遺物出土(北西から) | 図版23 縄文土器(2) |
| | SI-024断面(南から) | 図版24 縄文時代土製品・石器 |
| | SI-024(西から) | 図版25 弥生土器(1) |
| 図版16 | SI-025(北西から) | 図版26 弥生土器(2)・土製品(1) |
| | SI-025貯蔵穴(南西から) | 図版27 土製品(2) |
| | SK-002(南から) SS-001(北から) | 図版28 石製品・金属製品ほか |
| 図版17 | SM-001調査前(東から) | 図版29 古墳時代土器(1) |
| | SM-001現表土除去後(南東から) | 図版30 古墳時代土器(2) |
| | SM-001南北墳丘断面(南側)(南西から) | 図版31 古墳時代土器(3) |
| | SM-001南北墳丘断面(北側)(北東から) | 図版32 古墳時代土器(4) |
| 図版18 | SM-001主体部確認段階(手前が南) | 図版33 古墳時代土器(5) |
| | SM-001第1主体部(東から) | 図版34 古墳時代土器(6) |
| 図版19 | SM-001主体部完掘段階(手前が南) | 図版35 古墳時代土器(7) |
| | SM-001第1主体部断面(北東から) | 図版36 古墳時代土器(8) |
| | SM-001第1主体部掘方断面(東から) | |

表 目 次

| | | | | | |
|-----|------------------|----|------|---------------|-----|
| 第1表 | 遺構一覧表 | 3 | 第8表 | 古墳時代以降 土器類観測表 | 87 |
| 第2表 | 旧石器 計測表 | 12 | 第9表 | 古墳時代 金属製品 計測表 | 99 |
| 第3表 | 縄文時代 土製品 計測表 | 17 | 第10表 | 古墳時代 土製品 計測表 | 100 |
| 第4表 | 縄文時代 石器 計測表 | 20 | 第11表 | 古墳時代 石製品 計測表 | 102 |
| 第5表 | 弥生時代 竪穴住居 計測表 | 24 | 第12表 | 竪穴住居 時期別一覧表 | 106 |
| 第6表 | 弥生時代 土製品・石製品 計測表 | 24 | 第13表 | 竪穴住居 時期別内容一覧表 | 107 |
| 第7表 | 古墳時代 竪穴住居 計測表 | 86 | | | |

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 事業の経緯と経過

一般国道464号北千葉道路は、松戸市から千葉ニュータウンを経て、成田市を結ぶ全長約47kmの幹線道路である。この度、首都圏や県西地域と成田国際空港間とのアクセス強化などを目的に、印旛村若萩から国道295号に接続する成田市大山までの北千葉道路(印旛～成田)建設と印旛日本区大駅まで開通している北総鉄道北総線を東に延伸し、成田国際空港に直結させる成田新高速鉄道建設を一体的に整備することが計画された。これらの一体的な整備は空港アクセスの大幅な改善にとどまらず、地域の活性化、交通処理能力の向上、物流効率化、成田市街地の交通円滑化、広域道路ネットワーク・救急医療・防災機能の強化などにも大きく寄与することが期待されている。

この成田新高速鉄道・北千葉道路整備の実施にあたり、平成16年9月15日付道計第145号で千葉県土木整備部道路計画課長より「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査結果を踏まえ、平成16年11月29日付教文第16号63で事業計画地内には松崎山ノ台遺跡をはじめ、6か所に遺跡が所在する旨の回答を行った。そしてこの回答を受け、その取り扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、千葉県教育振興財団文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

今回報告する松崎山ノ台遺跡の調査組織及び発掘調査と整理作業の担当者は以下のとおりである。

平成18年度 北部調査事務所長 古内 茂

(発掘) 調査期間 平成19年1月18日～平成19年3月27日
調査内容 上層確認調査・上層本調査(竪穴住居跡SI-001～007・古墳SM-001地形測量)
調査担当者 上席研究員 鳴田浩司

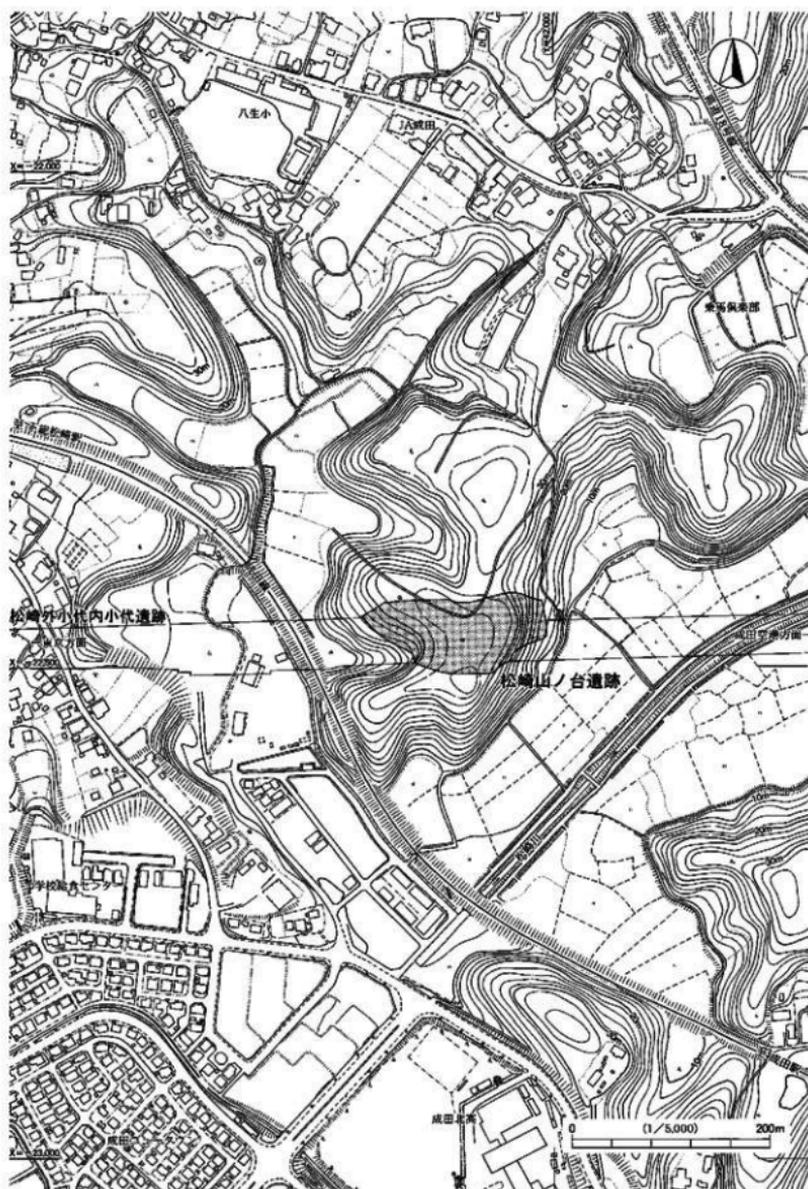
平成19年度 北部調査事務所長 豊田佳伸

(発掘) 調査期間 平成19年4月6日～平成19年6月29日
調査内容 上層本調査・下層確認調査
調査担当者 上席研究員 石倉亮治(4月:SM-001)
上席研究員 鈴木弘幸(5月・6月:SI-019～024, SH-001, 旧石器)
研究員 黒沢 崇(4月～6月:SI-008～018・025, SM-001, SK001～003, SS-001)

(整理) 整理期間 平成19年7月2日～12月28日
整理内容 記録整理から実測の一部まで
整理担当者 研究員 黒沢 崇

平成20年度 北部調査事務所長 豊田佳伸

(整理) 整理期間 平成20年4月1日～10月31日
整理内容 実測の一部から報告書発行まで
整理担当者 研究員 黒沢 崇



第1図 周辺地形図と調査区

2 調査の方法と成果 (第1～4図, 第1表)

発掘調査 調査にあたり、調査区全体を覆うように世界測地系(座標系IX)のX=-22,040, Y=41,480を起点に40m×40mの方眼網を設定し、大グリッドとした。名称は起点から南方向に1,2…東方向にA, B…とした。大グリッドを4m四方に100分割し、北西隅を00, 南東隅を99として小グリッドとした。グリッドの呼称は数字とアルファベットと組み合わせ3D-36というように表記し、現地調査の記録類から遺物の注記にあたっても踏襲した。調査はまず上層の確認調査を調査対象面積の10%を目安に、微地形等を考慮に入れて任意にトレンチを設定した。遺構の性格・時期・深度等を把握するために、遺構の埋土の一部掘り上げた。確認調査の結果、調査地全域に竪穴住居が分布しており、斜面部以外が本調査範囲となった。当初から現地表面において窪地が数か所確認されていたが、それは古墳時代後期の竪穴住居跡が埋まりきっていない痕跡であることも判明した。本調査のための表土除去は重機を使用し、表土除去後精査を行い本調査へと移行した。遺構の種類によって竪穴住居跡はSI, 土坑はSK, 古墳はSMと記号を付し、種別ごとに通し番号を付けて遺構番号とした。遺物は各遺構ごとに通し番号を付け、旧石器や所属遺構が不明確な遺物についてはグリッド単位で取り上げた。なお、調査中の平成19年5月19日には発掘調査の成果を一般県民に周知する目的で現地説明会を行い、約100名の見学者の方が参加された。

第1表 遺構一覧表

弥生時代

| 遺構№ | 種類 | 位置(主グリッド) | 時期 |
|--------|-------|-----------|--------|
| SI-019 | 竪穴住居跡 | 2C-60 | 弥生時代後期 |

| 遺構№ | 種類 | 位置(主グリッド) | 時期 |
|--------|-------|-----------|--------|
| SI-020 | 竪穴住居跡 | 2C-42 | 弥生時代後期 |

古墳時代

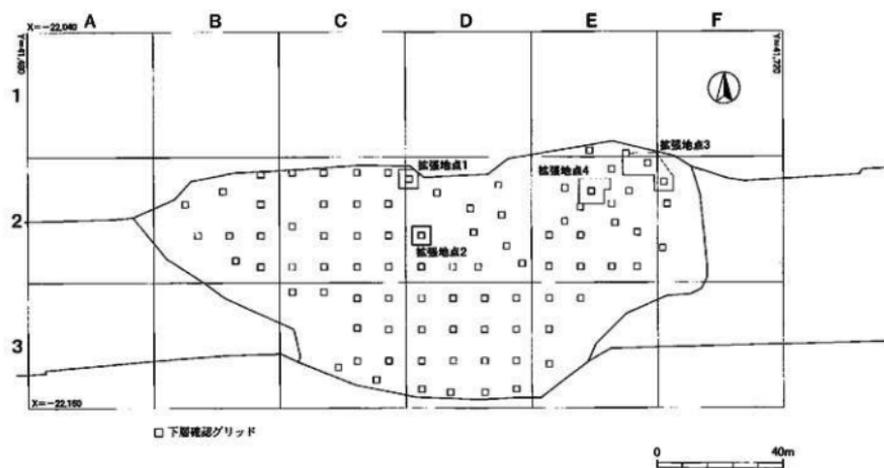
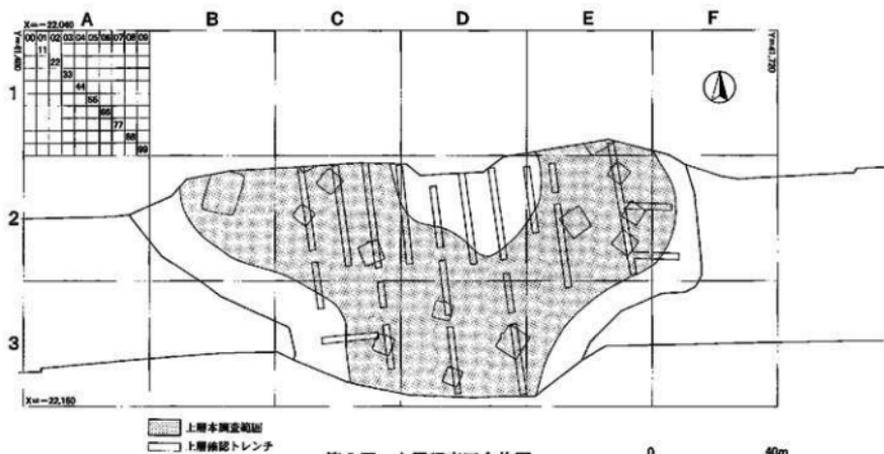
| 遺構№ | 種類 | 位置(主グリッド) | 時期 |
|-------------|-------|-----------|--------|
| SI-001 | 竪穴住居跡 | 1E-95 | 古墳時代後期 |
| SI-002 | 竪穴住居跡 | 2E-17 | 古墳時代後期 |
| SI-003 | 竪穴住居跡 | 2E-48 | 古墳時代後期 |
| SI-004 | 竪穴住居跡 | 2F-67 | 古墳時代後期 |
| SI-005 | 竪穴住居跡 | 2E-65 | 古墳時代後期 |
| SI-006 | 竪穴住居跡 | 3D-48 | 古墳時代後期 |
| SI-007 | 竪穴住居跡 | 3D-66 | 古墳時代後期 |
| SI-008 | 竪穴住居跡 | 2E-84 | 古墳時代後期 |
| SI-009 | 竪穴住居跡 | 3E-11 | 古墳時代後期 |
| SI-010 | 竪穴住居跡 | 2E-53 | 古墳時代後期 |
| SI-011 | 竪穴住居跡 | 3C-25 | 古墳時代後期 |
| SI-012a・b・c | 竪穴住居跡 | 3D-61 | 古墳時代後期 |
| SI-013 | 竪穴住居跡 | 3D-25 | 古墳時代後期 |
| SI-014 | 竪穴住居跡 | 3D-67 | 古墳時代後期 |
| SI-015 | 竪穴住居跡 | 3D-23 | 古墳時代後期 |

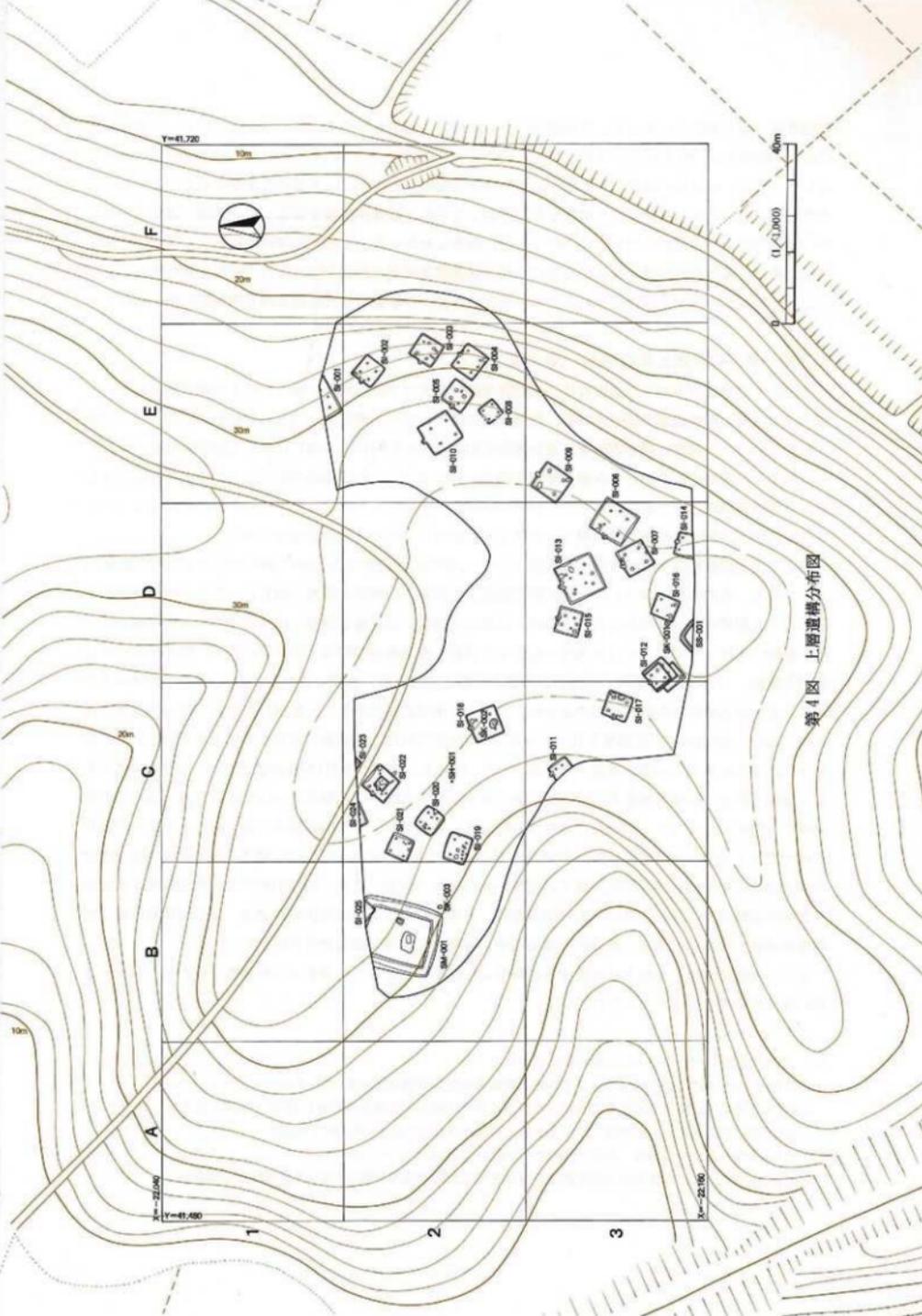
| 遺構№ | 種類 | 位置(主グリッド) | 時期 |
|-----------|-------|-----------|---------|
| SI-016 | 竪穴住居跡 | 3D-74 | 古墳時代後期 |
| SI-017 | 竪穴住居跡 | 3C-58 | 古墳時代後期 |
| SI-018 | 竪穴住居跡 | 2C-77 | 古墳時代後期 |
| SI-021 | 竪穴住居跡 | 3C-30 | 古墳時代後期 |
| SI-022a・b | 竪穴住居跡 | 2C-24 | 古墳時代後期 |
| SI-023 | 竪穴住居跡 | 2C-05 | 古墳時代後期 |
| SI-024 | 竪穴住居跡 | 3C-12 | 古墳時代後期 |
| SI-025 | 竪穴住居跡 | 2B-17 | 古墳時代後期 |
| SM-001 | 方墳 | 2B-35 | 古墳時代後期 |
| SK-001 | 土坑 | 3D-73 | 古墳時代後期? |
| SK-002 | 土坑 | 2C-87 | 古墳時代後期? |
| SK-003 | 土坑 | 2B-57 | 古墳時代後期? |
| SS-001 | 方形区画墓 | 3D-82 | 奈良時代以降? |
| SH-001 | ピット | 2C-54 | 古墳時代後期? |

本遺跡は主に古墳時代後期～終末期の竪穴住居で構成される集落遺跡であることが明らかとなり、特に当概期の土師器や土玉類が多量に出土した。台地の西側縁辺部では箱式石棺を主体部とする長方墳が造営されていた。また、縄文時代の遺構は検出されなかったが、早期～後期にかけての土器片が比較的多く出土した。弥生時代では出土遺物は多くないが、後期の竪穴住居が2軒検出された。

上層の調査後に下層の確認調査を行った。台地東側を中心に主にⅢ層・ⅠⅡ層から旧石器が出土したが、石器の出土分布に広がりは見られなかったため、確認グリッドの拡張範囲での調査にて終了した。

なお、調査対象面積は10,360㎡、確認調査面積は上層938㎡・下層568㎡、本調査面積は上層7,120㎡・下層0㎡であった。





第4圖 上層遺構分布圖

整理作業 報告書作成にあたり、発掘調査において付けた遺構番号をそのまま使用している。整理の進捗に伴い、遺構番号が付されていない2C-54グリッドのビットについてのみSH-001の遺構番号を新規に付した。なお、注記後の変更のため出土遺物の注記は発掘段階のグリッド番号のままである。整理作業は水洗注記を行った後、遺構ごとに遺物を種別分類してから、接合作業等を実施した。時間・遺物量の問題から遺構間接合は須恵器に関するのみ行なったが、接合しなかった。土器類の接合の結果は、遺物出土図・遺物台帳に記載された位置と高さをもとに、接合状況図を平面と断面で作成した。なお、遺物実測は完形に近い個体が想定以上多数復元されたため、デジタルカメラを使用した写真実測を積極的に取り入れた。

第2節 遺跡の位置と周辺遺跡⁹⁾ (第5図)

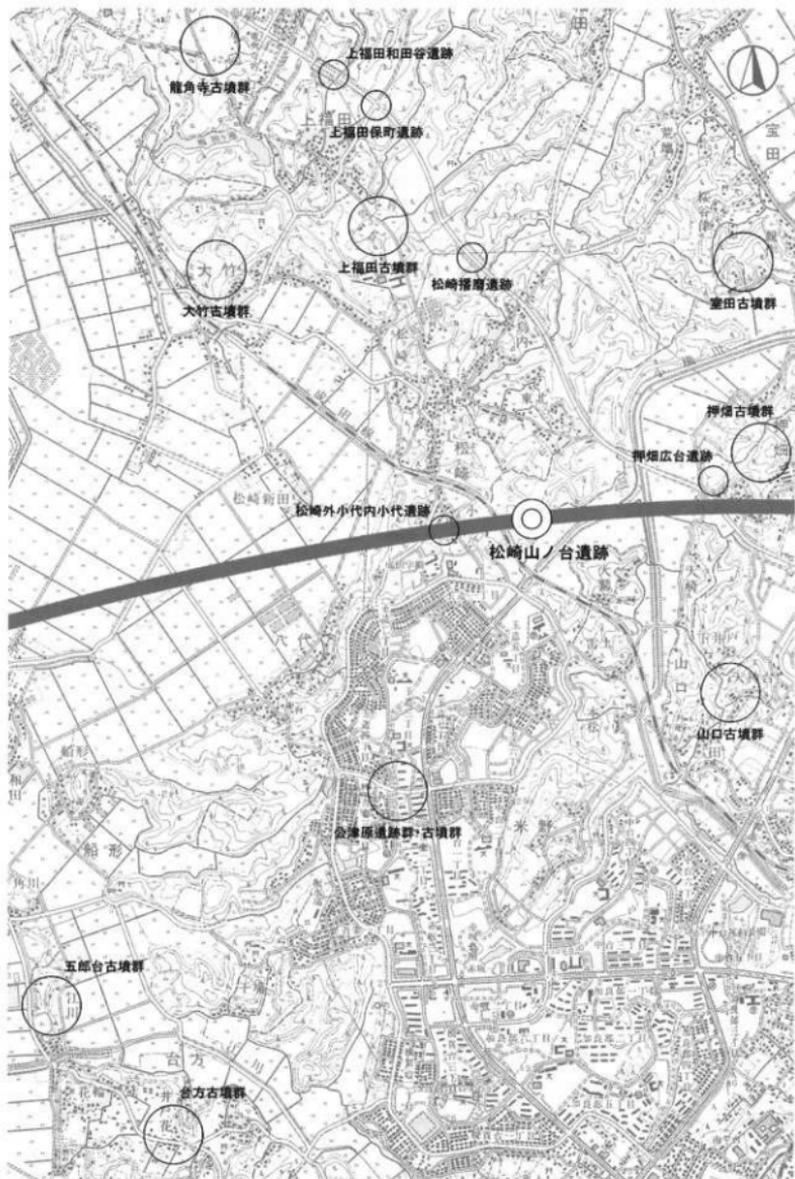
松崎山ノ台遺跡の所在する成田市は、千葉県北部の広大な下総台地の一角を占める洪積台地と印旛沼・根木名川流域の沖積低地で構成される。台地は主に根木名川・印旛沼からのびる樹枝状の谷によって複雑に開折される。本遺跡は西を印旛沼、東を根木名川の支流の松崎川・小橋川に面した標高約34mの台地上に立地する。複雑に張り出した台地全体の先端の台地平坦部を中心に遺跡が広がっていると考えられており、今回の事業地はその中心にあたる。台地の突端は成田線により削平され、その南西には成田ニュータウンが広がる。調査地の地目は山林で、台地下の水田面までの比高差は約25mである。

周辺での大規模な弥生時代遺跡の発掘例は少なく、押畑広台遺跡で弥生時代後期の竪穴住居跡が2軒検出されている。古墳時代になると印旛沼東岸は龍角寺古墳群・公津原古墳群をはじめ、多くの古墳群が造営される。大規模古墳群は南から方古墳群・五郎古墳群・公津原古墳群・山口古墳群・押畑古墳群・宝田古墳群・上福田古墳群・大竹古墳群・龍角寺古墳群・南羽鳥古墳群などが挙げられる。公津原古墳群は瓢箪古墳群、天王・船塚古墳群、八代古墳群の3群で構成され、古墳は合計129基、その内方墳は34基である。上福田古墳群は合計22基が確認され、その内方墳は13基である。上福田13号墳は一部発掘調査が行われ、墳丘一辺約20mの2重周溝を有する方墳で、主体部は貝化石を多量に含む石材による横穴式石室が採用され、7世紀後半の須恵器壺・坏が出土した。龍角寺古墳群は合計114基が確認され、その内方墳が6基で構成される。印旛郡域最大の方後円墳である浅間山古墳、三段築成の一辺79mの岩屋古墳など後期以降の古墳が主体である。南羽鳥古墳群は合計38基が確認され、その内方墳は3基である。中でも南羽鳥正福寺遺跡3号墳は本遺跡SM-001と同規模の長方形墳である。古墳時代の集落遺跡としては公津原遺跡群内で大規模な発掘調査が行われ、多くの成果があげられている。また、印旛沼東岸の台地を縦断する成田安食線の道路改良工事により、北から向台遺跡、大畑I遺跡、上福田和田谷津遺跡、上福田保町遺跡、松崎幡磨遺跡、押畑広台遺跡で部分的ではあるが、古墳時代後期の集落調査が行われている。

また、本遺跡の西の台地上に位置する松崎外小代内小代遺跡は、同事業で発掘調査が行われ、奈良～中世の集落跡の様相が明らかにされている。

注1 歴史的環境については下記文献を参考にした。

- 1985『主要地方道成田安食線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)千葉県文化財センター
- 1993『主要地方道成田安食線地方道道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』(財)千葉県文化財センター
- 1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)―東葛飾・印旛地区(改訂版)』千葉県教育委員会
- 2003『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』県史シリーズ10 千葉県
- 2007『主要地方道成田安食線地方道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』(財)千葉県教育振興財団



第5図 周辺の主な遺跡

第2章 旧石器時代～弥生時代

第1節 旧石器時代 (第3図, 図版2)

旧石器時代の確認調査は対象面積10,360㎡のうち568㎡について実施した。調査対象地域内に2m×2mの確認グリッドを87か所を設定した。確認調査は重機(バックホー)によって立川ローム層を少しずつ掘削し、地上で遺物の有無を確認する方法で行った。確認調査によって、ローム層中から旧石器時代の遺物が出土した4地点(第3図参照)について周囲を拡張した結果、石器出土分布に大きな広がりはなく、確認グリッドの拡張の範囲内で調査を終了した。以下、拡張地点を西から1～4と地点番号を付けて説明を行う。

下層確認グリッドのうち3C-16グリッド東壁の土層断面図を第6図に示した。立川ロームの層厚はおおよそ1.6mである。



第6図 立川ロームの土層柱状図

拡張地点1<2D-10グリッド周辺> (第8図, 第2表, 図版21)

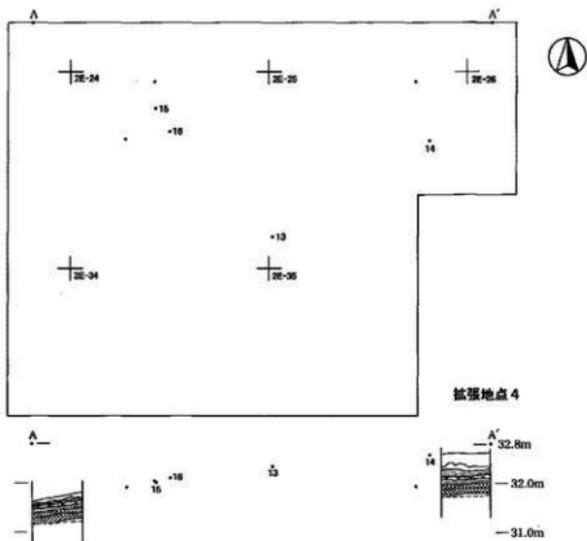
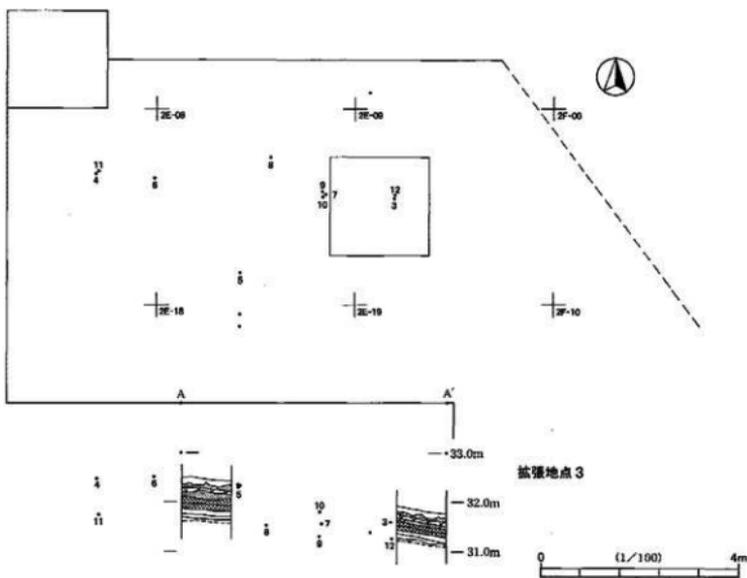
調査区中央部北端の緩やかに北東に傾斜する位置の確認グリッドから出土した。斜面部であり確認グリッドでの出土のため層位は明確ではないが、IV～V層中と考えられる。1点出土したため周囲を拡張したが、他に旧石器と捉えられる出土遺物はなく単独の出土である。

出土した石器は白みを帯びた珪質頁岩製の使用痕のある剥片である。左下側縁は表面から、右下側縁は裏面から調整される。

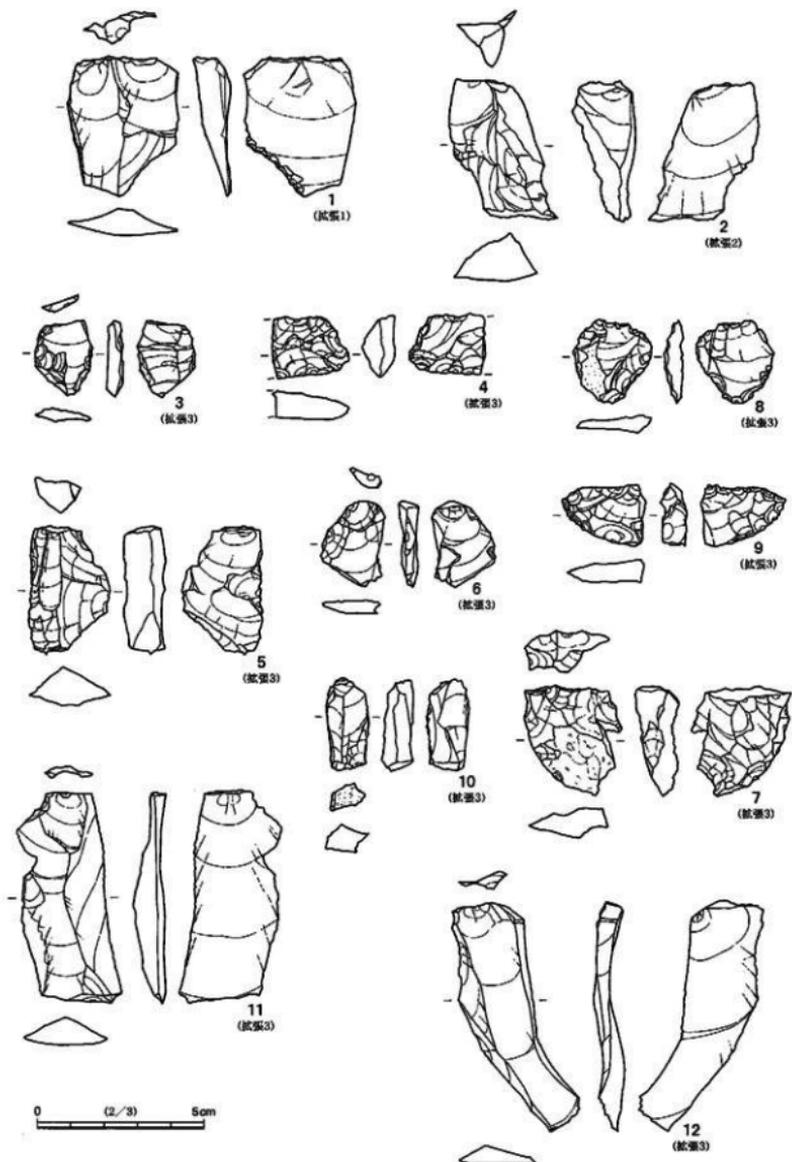
拡張地点2<2D-61グリッド周辺> (第8図, 第2表, 図版21)

調査区中央部の緩やかに北に傾斜する位置の確認グリッドから出土した。確認グリッドでの出土のため層位は明確ではないが、VII層中と考えられる。1点出土したため周囲を拡張したが、同層中には旧石器と捉えられる出土遺物はなく、単独の出土である。

出土した石器は霜降り状に部分的に灰色を帯びるチャート製の縦長剥片である。節理が入り各剥離面は平らではない。



第7图 拡張地点3・4



第8图 旧石器(1)

拡張地点3 <2E-08グリッド周辺> (第7・8図, 第2表, 図版2・21)

調査区北東端の2E-08・09・18・グリッド周辺の東側に緩やかに傾斜する台地縁辺部に位置する。南北5m×東西6.5mの小範囲にまばらに散在する出土分布状況である。出土層位はⅢ層とⅠ層を主体とする2ブロックがほぼ平面・規模ともに重複する。

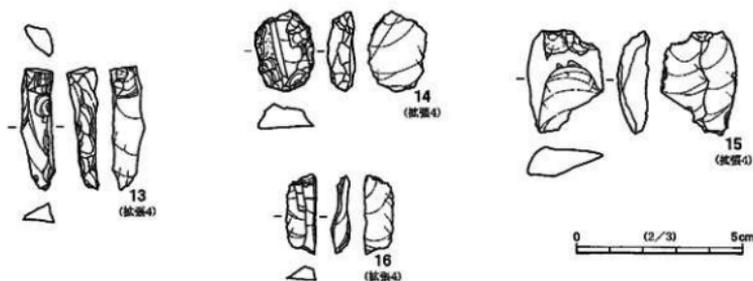
Ⅲ層を中心とするブロックでは尖頭器1点・楔形石器1点・調整痕のある剥片2点・剥片2点の合計6点が出土した。石材はメノウ4点・チャート2点で構成される。3は比較的透明度の高いメノウ製の尖頭器で、基部に急角度調整が施される。4はやや茶色味を部分的に帯びたメノウ製の楔形石器である。厚みのある横長の剥片を素材とし、右側を欠損する。5・6はメノウ製の調整痕のある剥片である。6は欠損しているため断定できないが、楔形石器の可能性も考えられる。

Ⅰ層を中心とするブロックでは削器1点・楔形石器2点・使用痕のある剥片1点・剥片3点の合計7点が出土した。石材は珪質頁岩3点・メノウ2点・チャート1点・赤玉石1点で構成される。7は珪質頁岩製の削器である。比較的厚手の剥片を素材にして、弧を描くように緩やかな刃部を作り出している。8は薄灰緑色を呈した珪質頁岩製の楔形石器で、扁平な剥片を素材とする。9は白みの強いメノウ製の楔形石器と考えられるが、欠損しているため断定できない。10はチャート製の柱状剥片で、右側縁には微細剥離痕が観察される。11は薄緑色を呈する珪質頁岩製の縦長剥片である。12は赤玉石製の縦長剥片である。色調はクリーム色と赤色でマーブル状を呈する。剥離面は極めてシャープである。

拡張地点4 <2E-25グリッド周辺> (第7～9図, 第2表, 図版2・21)

調査区東側の2E-24・25グリッドを中心に、南北4m×東西6mの範囲にまばらに散在する分布状況である。出土層位はⅢ層を主体とする。

器種は削片1点・搔器1点・楔形石器1点・剥片3点で合計6点が出土した。石材は玉髓3点・チャート2点・珪質頁岩1点で構成されるが、同一母岩はない。13は玉髓製の縦長剥片を素材とする削片と考えられる。表面右側縁には微細剥離痕が観察される。14は小型剥片の両側縁と端部に急角度調整が施された玉髓製の搔器である。15は表面に自然面を残した小型礫を素材としたチャート製の楔形石器である。16は玉髓製の小型剥片である。



第9図 旧石器(2)

第2表 旧石器 計測表

| 地点 | 探検No. | グリッド | 遺物No. | 層位 | 器種 | 石材 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) | 備考 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|-------|--------|-------|--------|
| 拡張1 | 1 | 2D-10 | 2 | IV~V | 使用痕のある剥片 | 珧質頁岩 | 42.7 | 33.9 | 11.5 | 10.94 | |
| 拡張2 | 2 | 2D-61 | 1 | V | 剥片 | チャート | 42.4 | 33.0 | 29.7 | 15.67 | |
| 拡張3 | 3 | 2E-09 | 1 | III | 尖頭器 | メノウ | 22.9 | 17.5 | 5.4 | 2.80 | |
| 拡張9 | 4 | 2E-07 | 2 | III | 楕形石器 | メノウ | 18.9 | 23.6 | 10.2 | 4.45 | |
| 拡張3 | 5 | 2E-08 | 4 | III | 調整痕のある剥片 | メノウ | 38.4 | 24.9 | 13.2 | 12.10 | |
| 拡張6 | 6 | 2E-07 | 1 | III | 調整痕のある剥片 | メノウ | 25.9 | 19.5 | 6.6 | 2.52 | 楕形石器? |
| 拡張3 | - | 2E-18 | 1 | III | 剥片 | チャート | 14.2 | 17.1 | 10.3 | 2.99 | 表のみ |
| 拡張3 | - | 2E-18 | 2 | III | 剥片 | チャート | 39.0 | 32.4 | 16.6 | 26.00 | 表のみ |
| 拡張9 | 7 | 2E-06 | 3 | IX | 刺器 | 珧質頁岩 | 32.8 | 29.7 | 13.3 | 10.77 | |
| 拡張3 | 8 | 2E-08 | 1 | IX | 楕形石器 | 珧質頁岩 | 25.2 | 23.9 | 5.9 | 2.62 | |
| 拡張3 | 9 | 2E-08 | 6 | IX | 楕形石器? | メノウ | 19.0 | 26.1 | 8.4 | 4.01 | |
| 拡張3 | 10 | 2E-08 | 5 | IX | 使用痕のある剥片 | チャート | 27.9 | 13.4 | 9.6 | 3.94 | |
| 拡張3 | 11 | 2E-07 | 3 | IX | 剥片 | 珧質頁岩 | 63.6 | 31.1 | 9.8 | 12.79 | |
| 拡張3 | 12 | 2E-09 | 2 | IX | 剥片 | 赤玉石 | 69.4 | 38.0 | 9.3 | 12.01 | |
| 拡張3 | - | 1E-99 | 1 | IX | 剥片 | メノウ | 15.0 | 15.0 | 9.8 | 1.78 | 表のみ |
| 拡張4 | 13 | 2E-25 | 2 | III | 削片? | 玉髓 | 36.5 | 10.1 | 9.2 | 3.26 | |
| 拡張4 | 14 | 2E-25 | 3 | III | 搔器 | 玉髓 | 24.3 | 18.2 | 8.7 | 3.78 | |
| 拡張4 | 15 | 2E-24 | 4 | III | 楕形石器 | チャート | 31.0 | 22.9 | 9.5 | 6.63 | |
| 拡張4 | 16 | 2E-24 | 3 | III | 剥片 | 玉髓 | 24.4 | 9.2 | 5.7 | 1.10 | |
| 拡張4 | - | 2E-24 | 2 | III | 剥片 | チャート | 16.0 | 13.4 | 10.3 | 1.34 | 表のみ |
| 拡張4 | - | 2E-24 | 5 | III | 剥片 | 珧質頁岩 | 12.2 | 16.8 | 4.2 | 1.11 | 表のみ |
| 拡張4 | - | 2E-25 | 4 | IX | 調整痕のある剥片? | チャート | 29.9 | 16.4 | 9.3 | 4.81 | 表・写真のみ |
| 地点外 | - | 2F-20 | 1 | IV~V? | 楕形石器? | チャート | 18.7 | 22.7 | 7.1 | 2.74 | 表・写真のみ |

第2節 縄文時代

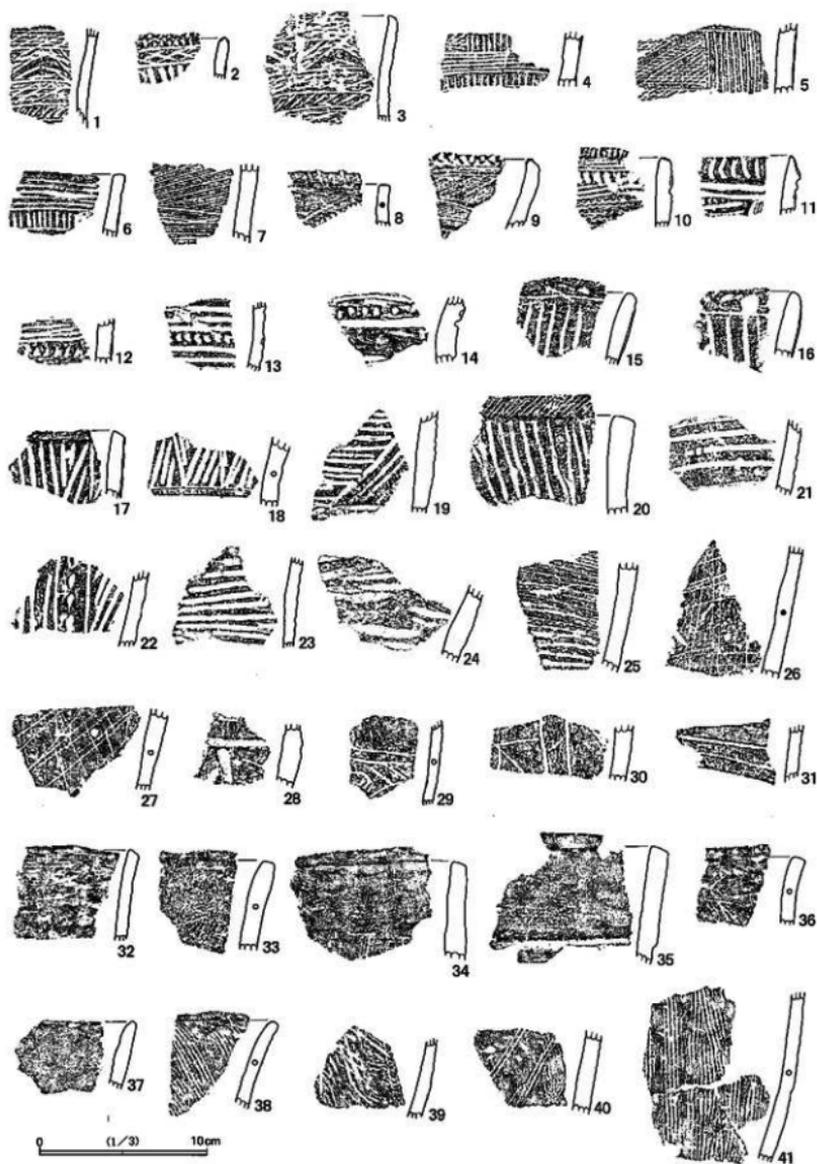
縄文土器は弥生土器より多く出土したが、縄文時代と捉えられる確実な遺構は検出されなかった。なお、SK-002は、古墳時代後期住居(SI-018)より古い、縄文時代と断定できる状況ではない。

1 遺構外出土土器 (第10~13図, 図版22・23)

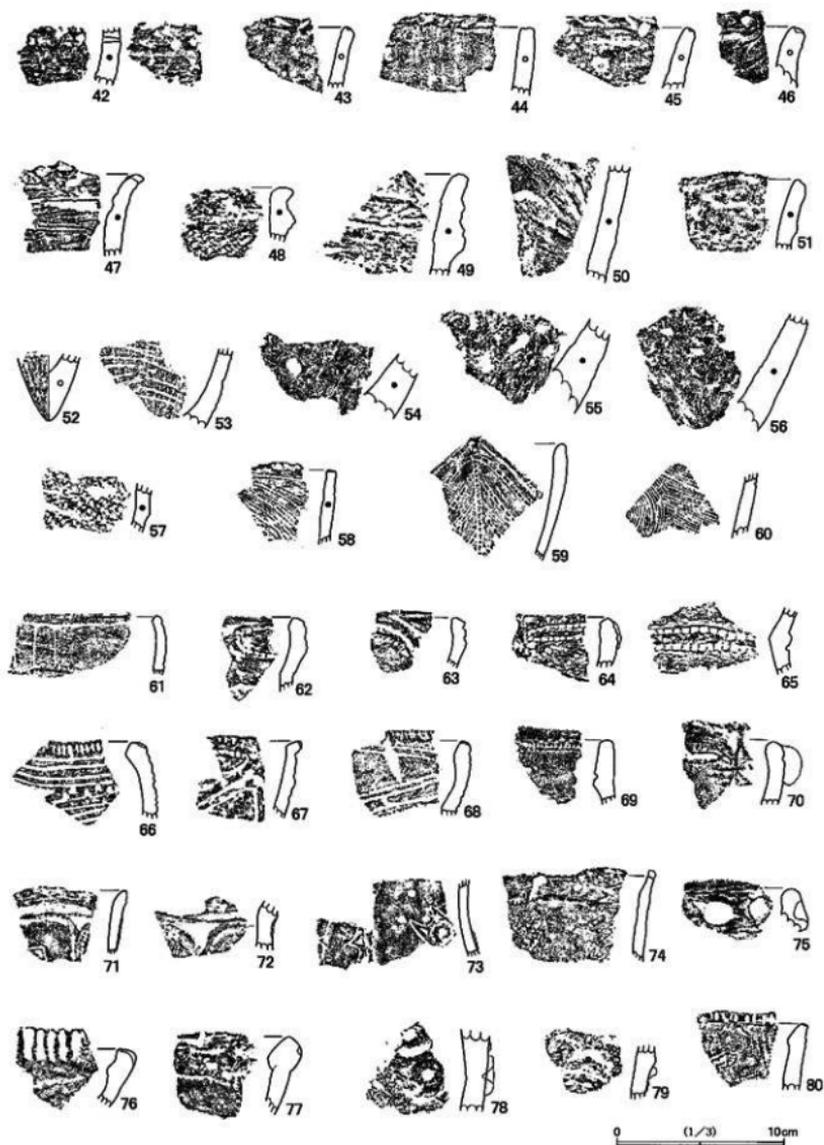
縄文時代早期の沈線文系から後期安行式土器までの土器が出土した。特に後期の土器に大型の破片が多くみられた。なお、土器断面の●は胎土中に繊維が多く含まれるもの、○は繊維が微量含まれていることを示す。1~56は早期、57~60は前期、61~87は中期、88~117は後期に属すると考えられる。

1~41は沈線文系土器群である。1~7は細沈線による文様が主体で、多段帯状の文様帯を角度の異なる沈線で充填する。8~10は腹線文、11~14は刺突文が沈線文とともに施文される。15~24は太沈線文が主体で、口縁部は斜位や縦位の平行沈線、胴部以下は横方向の沈線が施される。25~27は平行しない細沈線、28~31は比較的浅くて幅広い沈線文が施される32~37は主に擦痕・削痕がみられ、胎土中の砂粒の移動が顕著に観察される。32は胎土に多量の砂礫が含まれる。37は内面に条線がみられ、器面は被熱により赤みを帯びる。38~41は条痕文が主体的に施文される。42~51は条痕文系の土器群である。42は口縁直下に刺突、43~46は口唇部に圧痕が施され、子母口式の特徴と捉えられる。47~49は特に胎土に繊維が多く含まれる。49には繊維の他に砂礫が多く含まれ、特異である。50・51は雑なナデ、条痕が施される個体である。52~56は尖底部分破片である。

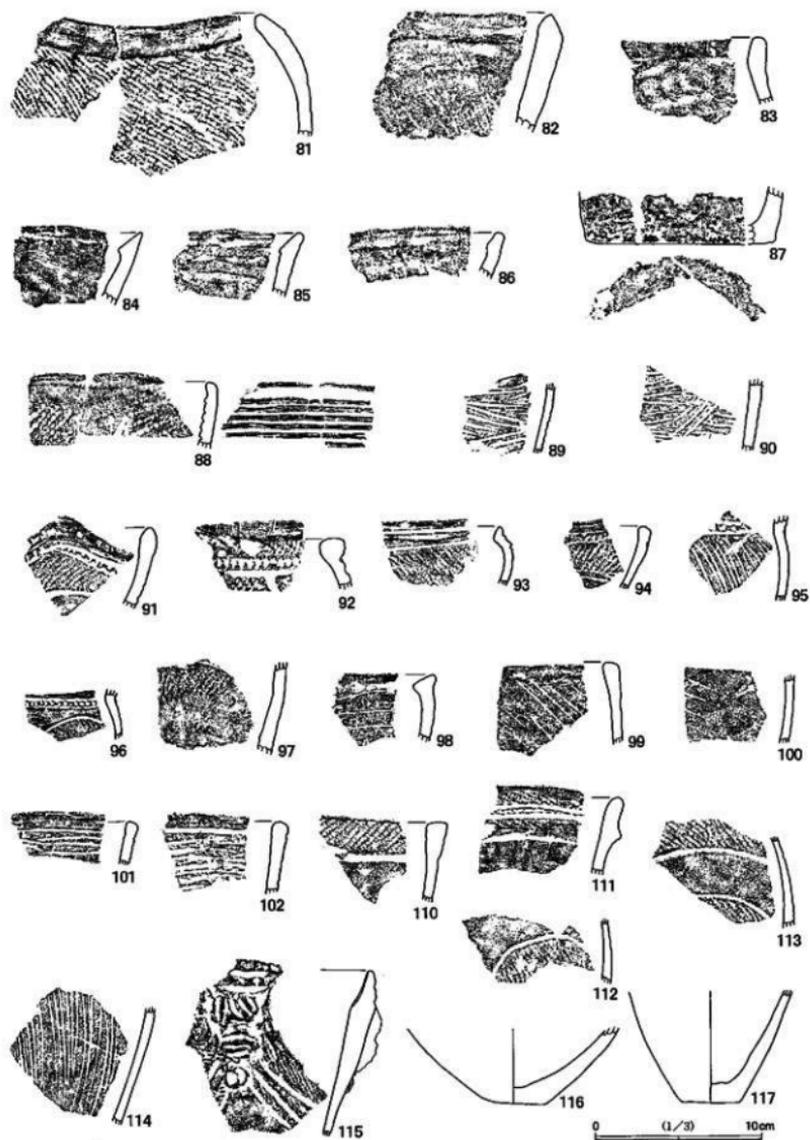
57・58は黒浜式で、胎土に多量の繊維が含まれ、内面は丁寧に磨かれる。59は諸磯・浮島式期で波状口



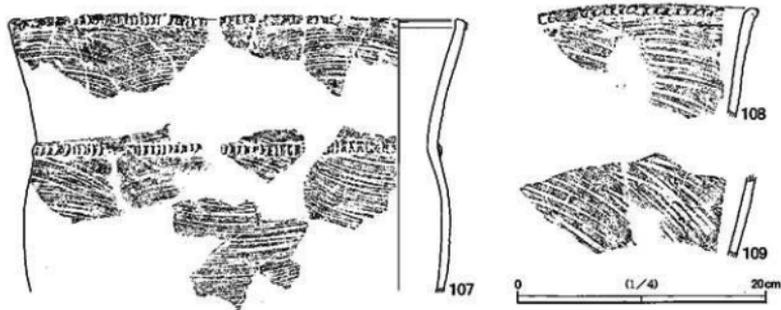
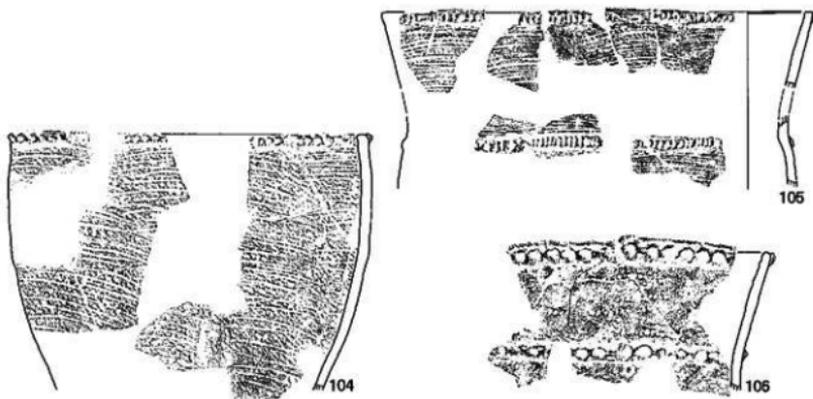
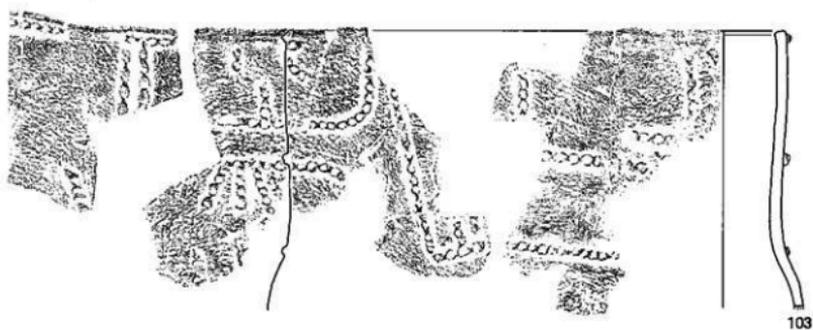
第10圖 縄文土器(1)



第11圖 縄文土器(2)



第12図 縄文土器(3)



第13図 縄文土器(4)

縁に半截竹管による押引文が施される。60は十三菩提式と考えられ、ハケ目が渦巻状に施文される。

中期は前半の阿玉台式期が主体で加曾利B式(80~82)が一部含まれる。61~69は口縁部の文様帯が角押文・押引文により区画されるものと考えられる。いずれも口縁部内面に明瞭な稜を有している。70~72は隆帯が交わり、三角形の区画を作り出す。特に、70は胎土に白色砂粒が多量に含まれる。73・74は薄手の個体である。73は径が小さく、獣手状の小さな隆帯と三角の刺突に沿って角押文が施される。74は地文にまばらな縄文が施される。口縁は薄い2重口縁で、口縁端部に緩やかな突起を有する。75は口縁に沿って大きな刺突が巡り、内外面共に丁寧なミガキが施される。76は波状口縁の頂部で、強い刻みが口唇部に施される。77~79は隆帯を丸く巡り、特に79は胎土に白色砂粒・雲母粒が多く含まれる。80~82は胴部に縄文が施される。80は口唇部に浅い刻み、81・82の口縁部は丁寧にミガキ・ナデが施され無文帯となる。83~86は無文土器である。外面は横方向の雑なナデ、口縁内部には明瞭な稜が巡る。87は平底破片である。胎土から中期に属するものと考えられる。

後期の土器は後半の土器群が主体である。88~90は壘之内2式であろうか。89・90は同一個体で明瞭な沈線が斜位に組み合わせられて施文される。91~102は加曾利B式~曾谷式土器である。91~97は加曾利B3式の精製土器破片で、横位の連続刺突文を特徴とする。98~102は沈線文が主体である。103~109は大型の紐縄文系の深鉢であり、縮尺を1/4で掲載した。地文に縄文を施され、口縁部に紐線が添付される。紐線は胴部の屈曲する部分にも巡らされ、103では複雑なモチーフが描かれる。110~114は安行1式と考えられ、口縁部の横位の縄文帯と磨消縄文が特徴的である。114は粗製土器の胴部下段である。115は安行2式特有の突起のある波状口縁で、ブタ鼻状の貼瘤文がみられる。116・117は胎土・器形から後期の深鉢土器の底部と考えられる。器面は丁寧に磨かれ、底面はヘラケズリされる。

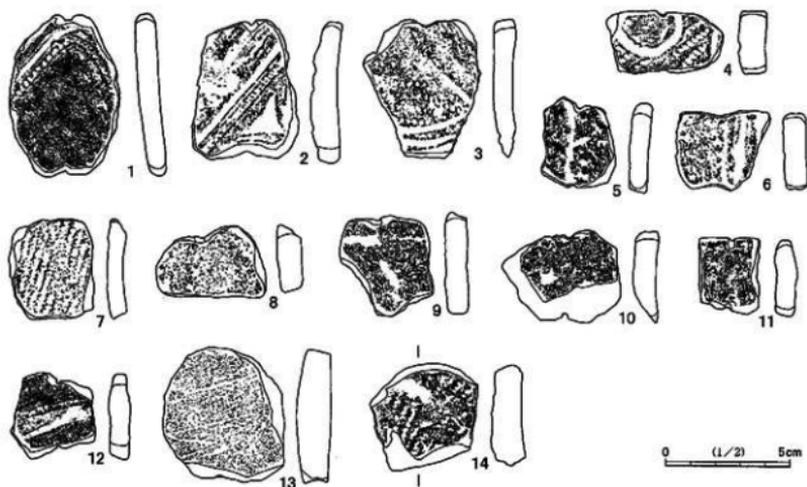
2 遺構外出土土製品 (第14図, 第3表, 図版24)

縄文時代の土製品は確認できたものすべて、破片であってもほとんど実測、掲載している。土製品の大部分は土器片鏝である。13・14は切り込みが遺存部では確認できず、側面をより丁寧に磨いて整形しているため、土製円盤と捉えた。時期は無文土器が含まれるが、胎土などの特徴からほとんどが中期に属するものと考えられる。1~10の胎土には白色砂粒が多く含まれ、特に1~4・8には雲母粒が目立つ。

なお、色調・分量などは一覽表(第3表)のとおりである。

第3表 縄文時代 土製品 計測表

| 探出No. | 遺構番号 | 遺物No. | 種類 | 色調(Hue) | 横幅(mm) | 縦幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) |
|-------|----------|-------|------|---------------|--------|--------|--------|-------|
| 1 | (SM-001) | 4E-8 | 土器片鏝 | 7.5YR にぶい黄6/4 | 41.30 | 65.90 | 9.00 | 31.65 |
| 2 | (SM-001) | 2E-23 | 土器片鏝 | 10YR にぶい黄橙6/3 | 42.90 | 57.20 | 11.60 | 29.44 |
| 3 | (SI-011) | 1 | 土器片鏝 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 47.30 | 56.40 | 9.10 | 25.40 |
| 4 | (SM-001) | 4E-8 | 土器片鏝 | 7.5YR にぶい黄6/4 | 25.60 | 46.90 | 11.30 | 16.70 |
| 5 | (SM-001) | 1E-1 | 土器片鏝 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 30.80 | 36.30 | 8.60 | 10.45 |
| 6 | 表採 | 1 | 土器片鏝 | 10YR にぶい黄橙7/4 | 32.70 | 32.50 | 9.80 | 13.74 |
| 7 | (SI-013) | 4 | 土器片鏝 | 7.5YR 橙6/6 | 33.60 | 40.50 | 7.20 | 12.91 |
| 8 | (SI-017) | 1 | 土器片鏝 | 5YR 明赤褐6/6 | 43.90 | 29.00 | 9.60 | 15.16 |
| 9 | (SM-001) | 3E-1 | 土器片鏝 | 5YR 赤褐4/6 | 37.10 | 40.40 | 8.90 | 14.99 |
| 10 | (SM-001) | 3E-2 | 土器片鏝 | 5YR にぶい赤褐4/4 | 48.50 | 37.00 | 10.10 | 17.55 |
| 11 | (SM-001) | 2E-2 | 土器片鏝 | 10YR にぶい黄橙5/3 | 24.80 | 30.60 | 9.40 | 8.43 |
| 12 | (SM-001) | 4E-8 | 土器片鏝 | 10YR にぶい黄橙5/3 | 33.30 | 34.80 | 8.60 | 10.87 |
| 13 | (SI-002) | 1 | 土製円盤 | 7.5YR 橙6/6 | 48.80 | 55.10 | 13.60 | 40.71 |
| 14 | (SI-014) | 1 | 土製円盤 | 7.5YR にぶい黄6/4 | 43.40 | 43.30 | 14.50 | 26.98 |



第14図 土製品

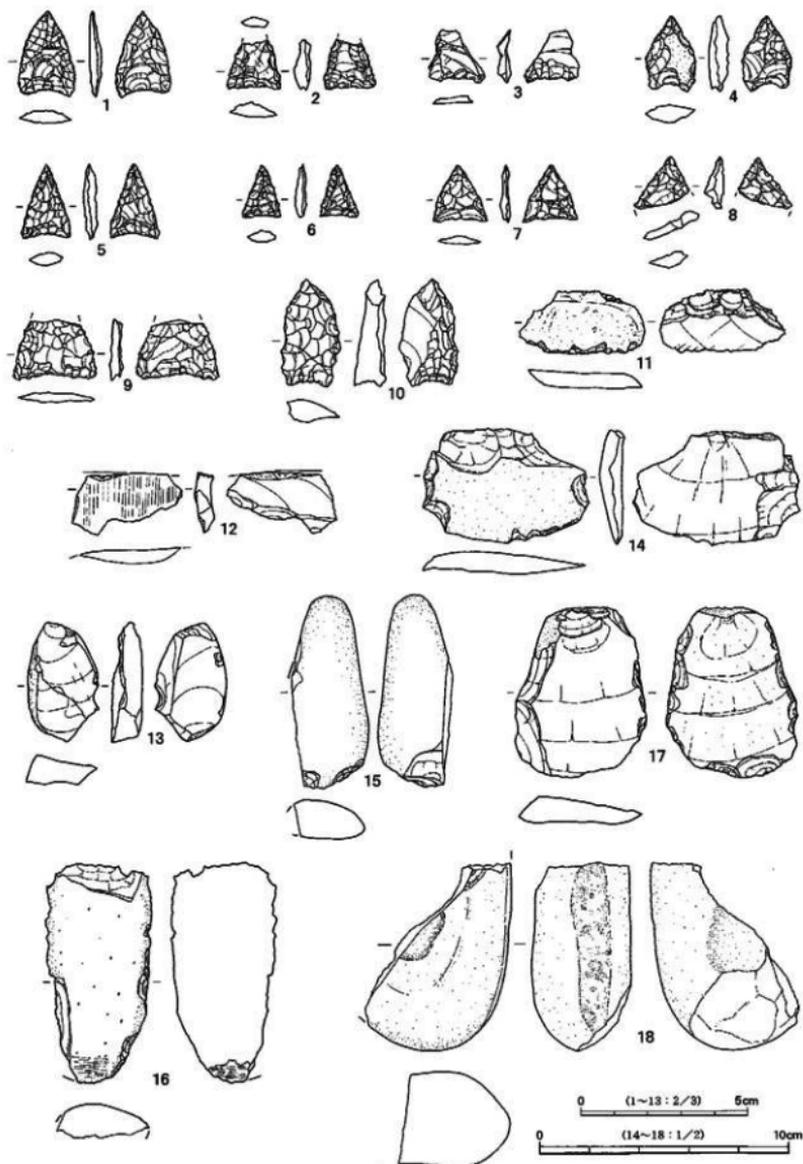
3 遺構外出土石器 (第15・16図, 第4表, 図版24)

縄文時代の石器は確認できたものは破片であってもほとんど実測, 掲載している。

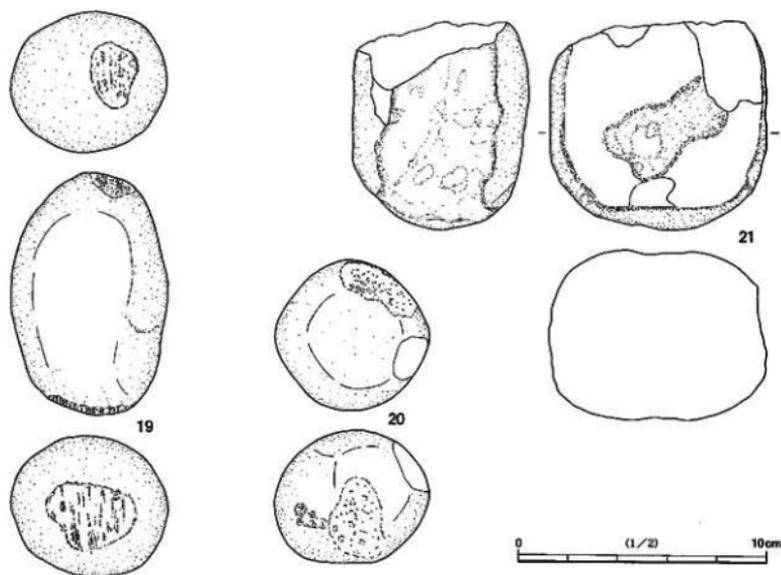
縄文時代石器の内ほぼ半数は石鏃であった。1～10は凹基の石鏃である。なお, 3は一部のため石鏃とは断定できない。石材はチャート製が4点, 黒曜石製が3点と主体的である。10はメノウ製の未製品である。11は片面に自然面を多く残したチャート製の調整痕のある横長剥片である。12は剥離面以外は丁寧に研磨された剥片で, 石材は凝灰岩であろうか。磨製石斧の破損したものの可能性がある。13は一部に自然面を残す楕円礫を用いた安山岩製の楔形石器である。

14はホルンフェルス製の石斧調整剥片である。15もホルンフェルス製で, 先端刃部のみを簡易に加工した礫斧と考えられ, 一部欠損している。16は流紋岩製の石斧で, 刃部は胴部より細身で, 研磨されている。裏面は大きく欠損している。17はホルンフェルス製の石斧で, 一部自然面を残すが, 分割面の稜は風化などで, 摩滅している。18～21は敲石である。周縁部を中心に敲打痕がみられるが, 19・21は平坦面中央部にも使用痕が確認できる。

なお, 石材・法量などは一覧表(第4表)の通りである。



第15図 縄文時代石器(1)



第16図 縄文時代石器(2)

第4表 縄文時代 石器 計測表

| 押印No. | 遺物No. | 遺物No. | 器種 | 石材 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) |
|-------|-----------|--------|-----------|---------|--------|-------|--------|--------|
| 1 | (SI-009) | 48 | 石鏃 | 黒曜石 | 26.3 | 17.1 | 4.3 | 1.61 |
| 2 | (SI-003) | 1 | 石鏃 | 黒曜石 | 15.6 | 16.4 | 5.4 | 1.21 |
| 3 | 2B-26-36 | 1 | 石鏃片? | 黒曜石 | 16.5 | 16.8 | 4.3 | 0.77 |
| 4 | (SM-001) | トレ2-1 | 石鏃 | チャート | 23.3 | 15.2 | 6.4 | 2.22 |
| 5 | (SM-001) | 1 | 石鏃 | チャート | 22.9 | 14.8 | 4.5 | 1.18 |
| 6 | (SI-007) | 1 | 石鏃 | チャート | 16.3 | 11.8 | 3.9 | 0.46 |
| 7 | (SI-024) | 6 | 石鏃 | チャート | 17.6 | 16.4 | 3.3 | 0.6 |
| 8 | (SM-001) | 3層-2 | 石鏃片 | 凝灰岩 | 16.3 | 16.6 | 6.2 | 0.78 |
| 9 | 2E-34 | 1 | 石鏃 | 安山岩 | 18.4 | 24.7 | 4.2 | 1.74 |
| 10 | (SI-001) | 1 | 石鏃未製品 | メノウ | 32.9 | 18.3 | 9.8 | 4.86 |
| 11 | (SI-001) | 1 | 調整痕のある剥片? | チャート | 19.5 | 38.0 | 7.9 | 5.48 |
| 12 | (SI-012C) | 1 | 調整痕のある剥片 | 凝灰岩? | 19.2 | 33.0 | 6.2 | 3.44 |
| 13 | (SI-005) | 1 | 楔形石器 | 安山岩 | 36.5 | 21.9 | 9.6 | 8.56 |
| 14 | (SI-003) | 82 | 石斧調整剥片 | ホルンフェルス | 46.7 | 67.3 | 9.8 | 29.44 |
| 15 | (SM-001) | 1E-101 | 磯斧 | ホルンフェルス | 78.1 | 30.6 | 17.6 | 56.58 |
| 16 | (SI-019) | 3 | 石斧(刃部研削) | 凝灰岩 | 90.2 | 42.7 | 15.8 | 68.04 |
| 17 | 2E-15 | 1 | 石斧 | ホルンフェルス | 69.7 | 53.1 | 4.8 | 59.55 |
| 18 | (SI-017) | 1 | 礫石 | 砂岩 | 76.3 | 59.1 | 40.6 | 209.3 |
| 19 | (SI-014) | 14 | 礫石 | チャート | 98.8 | 64.1 | 57.8 | 516.31 |
| 20 | (SI-007) | 14 | 礫石 | 砂岩 | 61.5 | 62.4 | 54.6 | 285.38 |
| 21 | (SI-015) | 7 | 礫石 | 安山岩 | 85.8 | 87.9 | 71.8 | 860.99 |

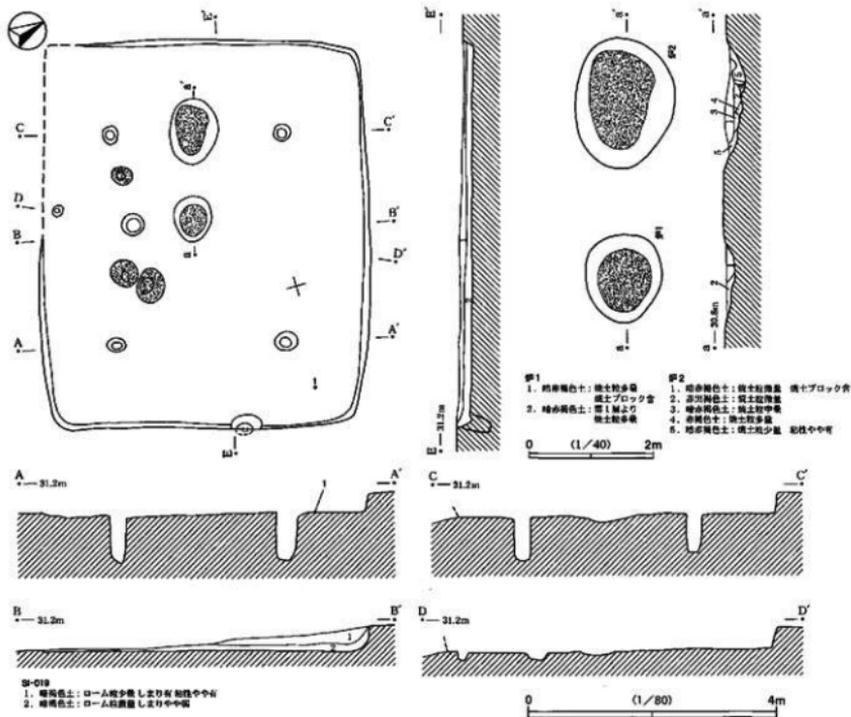
第3節 弥生時代

弥生時代後期に属する遺構として竪穴住居跡2軒を検出した。住居跡は調査区西側で、比較的隣接して分布する。遺構外からも土器破片は出土したが、少量であり後期に限定される。

1 竪穴住居跡

SI-019 (第17・19・20図, 第5・6表, 図版13・25・26・28)

2C-60グリッド周辺の台地西側の緩斜面部に位置する。南西側は壁が攪乱され検出されなかった。平面形は縦長隅丸方形で、規模は主軸長6.16m, 幅5.12mである。主軸はN-71°-Wである。掘り込みは確認面から41cmである。炉は主軸上に2基検出されたが、新旧は不明である。ピットは主柱穴が4基とやや内傾した入口ピットが1基, 小規模の深さ10cm程度の補助柱穴が南側で2基検出された。床面には明確な硬化面は検出されなかった。床が被熱し, 赤化した部分が住居南側で3か所確認できた。壁周溝はめぐらない。

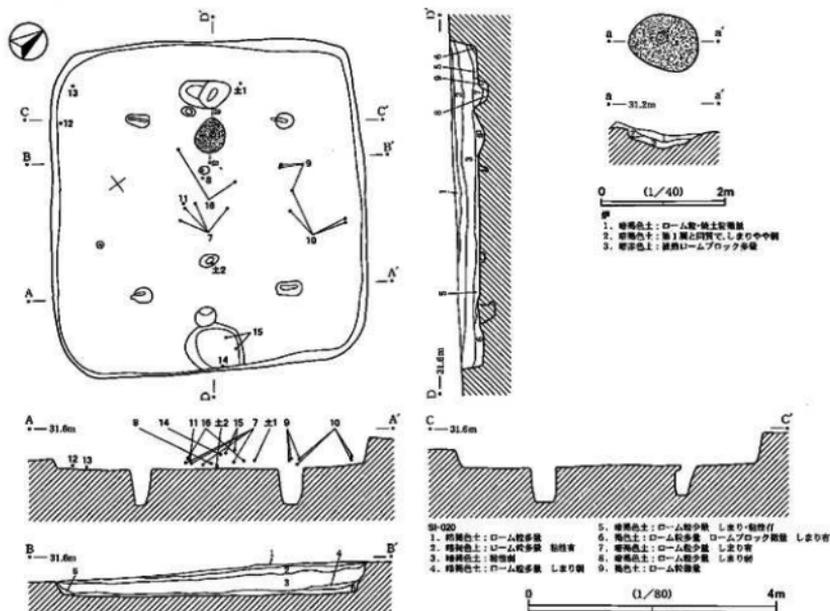


第17図 SI-019

出土遺物は、弥生土器破片55点・縄文土器破片23点であった。1は高坏の坏部で、正位状態で出土した。無文で稜ではなく比較的直線的に口縁部が立ち上がり、内外面共に赤彩される。口径19.6cmで、坏部のみ完存する。焼成は良好で、胎土には特に白色砂粒が多く含まれる。内外面共に比較的丁寧なナデ・ミガキ調整である。2～6は甕破片である。2～5は胎土や焼成が近似し、同一個体の可能性が高い。胎土には微砂粒が含まれ、焼成は良好である。色調はにぶい黄褐色である。2は横位に筋状の弱い沈線、3にはS字の結節文、胴部の4・5は3本単位で施文がみられる附加条縄文が施される。6は胴部破片である。色調は明黄褐色で、焼成は良好である。附加条縄文が施される。他に砂岩製の砥石(石1)が出土した。

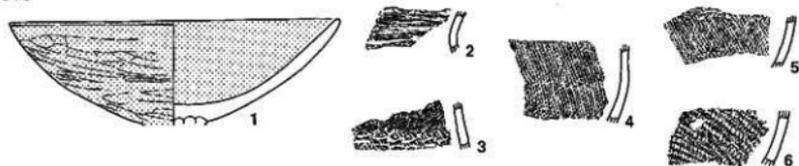
SI-020 (第18～20図, 第5・6表, 図版13・25・26)

2C-42グリッド周辺でSI-019の北東に位置する。平面形は縦長隅丸方形で、規模は主軸長5.26m, 幅4.9mである。主軸はN-49°-Wである。掘り込みは確認面から52cmである。炉は主軸上のやや北西壁寄りに1基検出された。その北西にも下部に焼土層が確認できる不整形の掘り込みがあり、炉として機能していた可能性が高い。その炉内土の堆積は第5層を切っており、5・6層はしまりもあることから貼床層とも捉えられる。ピットは主柱穴が4基, 主軸上にやや不整形で小規模な補助柱穴が2基検出された。床面には、明確な硬化面は検出されなかった。壁周溝はめぐらない。

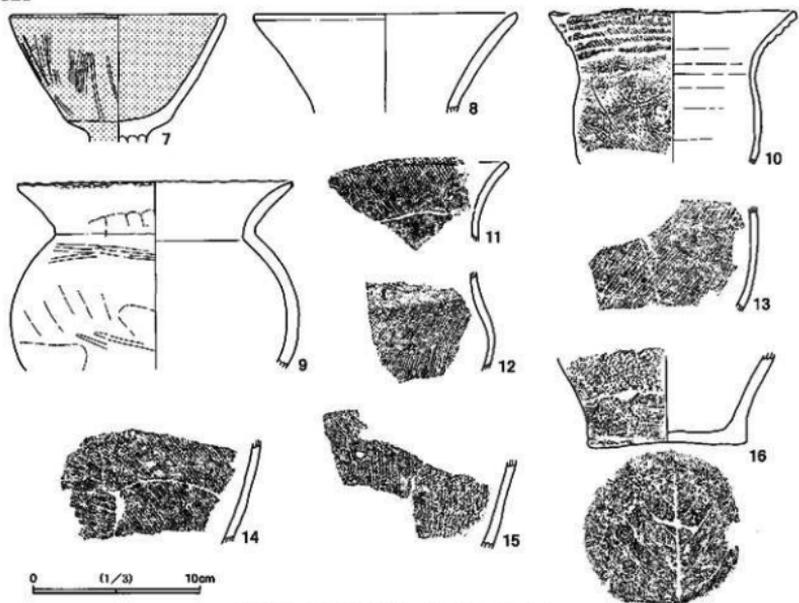


第18図 SI-020

SI-019

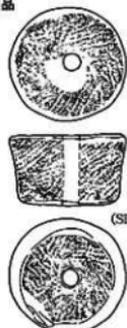


SI-020

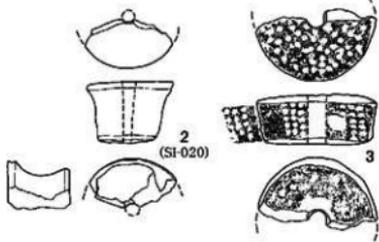


第19図 弥生時代(1) (SI-019・SI-020)

土製品



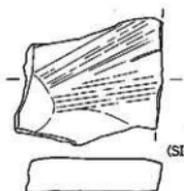
1 (SI-020)



2 (SI-020)

3

石製品



1 (SI-019)

0 (1/2) 5cm

第20図 土製品・石製品 (弥生時代)

出土物には、土師器は含まれていない。半数は弥生土器、残り半数は縄文前期の繊維が含まれる破片であった。7は高坏の坏部の35%の遺存である。内外面共に赤彩される。口径は推定で12.7cmである。胎土は白みを帯び、砂粒が少量含まれる。焼成はやや不良である。口縁下部に稜をもち急角度で立ち上がる。内外面共に丁寧に直線的なミガキ調整が施される。8は小型壺の口縁部の可能性もあるが、SI-019-1の形状の高坏に対応する脚部破片と考えられる。胎土は近似し、焼成は良好である。底径は推定で15.7cmである。色調は橙色で、内外面ともナデ調整である。9は壺口縁部へ胴部上半の20%の遺存である。口径は推定で16.4cmである。口縁端部は交互押捺が施される。無文で、頸部にも輪積痕はみられない。色調はにぶい褐色で、胎土には白色砂粒が含まれる。焼成はやや不良である。10～16はいわゆる北関東系の縄文が施される甕である。10～15は薄手の甕で色調が暗く、附加条縄文を主文様とする同系統の破片である。10は口縁部に輪積痕を残し、口唇部・口縁部・胴部に附加条縄文が施される。頸部は無文で、ナデ調整である。11は素口縁で、口縁部に附加条縄文が施され、頸部は無文である。12は胴部上端にZ字の結節文がみられる。12と13、14と15は同一個体の可能性が高い。16は底部破片で、他のものに比べ色調も橙色で、器厚もある。胎土には比較的大きめの砂粒が多量に含まれる。底面には明瞭に木葉痕が残る。外面は節の大きい附加条縄文が雑に施される。

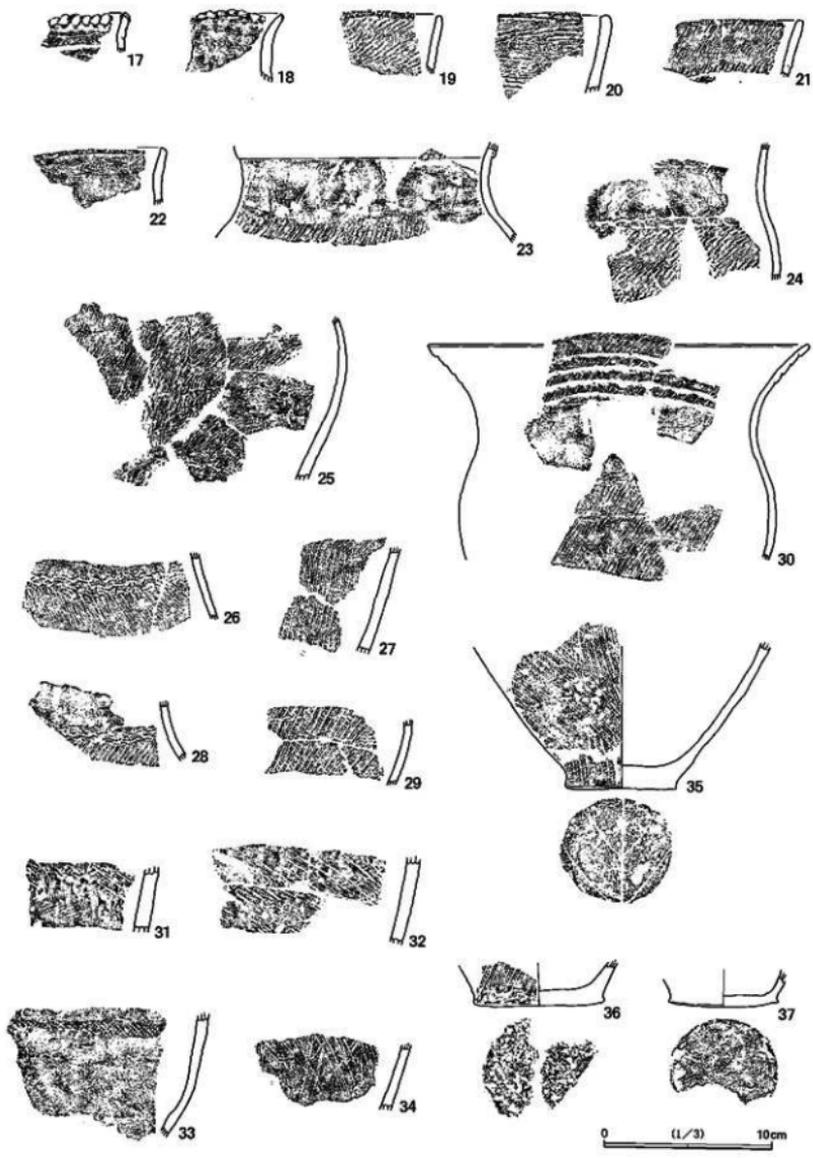
土製品では土製紡錘車が2点出土した。土1はほぼ完形で、全面に細かい附加条縄文が施される。縄文の節のなかに赤みを残す部分があり、赤彩されていた可能性がある。焼成は良好である。重量は75.05gである。土2は、全体の30%の遺存である。外面は丁寧に磨かれ、無文である。重量は12.78gである。他に支脚のような被熱してボロボロになった破片が30点出土したが実測はできなかった。

第5表 弥生時代 壺・穴住居 計測表

| 遺物No. | 位置 (主グリッド) | 平面形 | 伊の 有無・位置 | 主軸方向 | 楕圓 (m) | 床面積 (m) | 直徑 標高(m) | 支柱穴 | 補助柱穴 (入口等) | 貯蔵穴 有無・位置 | 壁周溝 |
|--------|---------------|------|-------------|----------|-----------|------------|-------------|-----|---------------|--------------|-----|
| SI-019 | 2C-60 | 隅丸方形 | 2 主軸西壁寄 | N-71° -W | 6.16×5.12 | 31.06 | 30.712 | 4 | 入口1 他2 | なし | なし |
| SI-020 | 2C-42 | 隅丸方形 | 2 主軸北西壁寄 | N-49° -W | 5.26×4.9 | 24.44 | 30.7 | 4 | 他2 | なし | なし |

第6表 弥生時代 土製品・石製品 計測表

| 土製品 | | | | | | | | < 現存長 | | |
|-------|----------|-------|-----|---------------|--------|--------|--------|-------|--|--|
| 発掘No. | 遺物No. | 遺物No. | 種類 | 色調(Hue) | 横幅(mm) | 縦幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) | | |
| 1 | SI-020 | 7 | 紡錘車 | 7.5YR にぶい橙5/4 | 楕47.0 | | 28.0 | 75.05 | | |
| 2 | SI-020 | 33 | 紡錘車 | 10YR 焼灰4/1 | <35.0> | <20.0> | 25.0 | 12.78 | | |
| 3 | (SM-001) | 4B-7 | 紡錘車 | 10YR にぶい黄褐5/4 | <29.1> | <47.8> | 20.3 | 29.69 | | |
| 石製品 | | | | | | | | | | |
| 発掘No. | 遺物No. | 遺物No. | 種類 | 石材 | 横幅(mm) | 縦幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) | | |
| 1 | SI-019 | 1 | 砥石 | 砂岩 | 52.4 | 59.8 | 15.5 | 61.75 | | |



第21图 弥生土器(2) (遺構外)

2 遺構外出土遺物 (第20・21図, 第6表, 図版25・26)

17~37はすべて甕の土器破片であり, 31・32を除き薄手の作りである。17~22は口縁破片である。17は口唇部に深い工具による押捺刻み, 口縁部は輪積痕を明瞭に残す。18は口唇部に弱い押捺が施され, 口縁部は無文である。19~21は節がはっきりしないため無節の附加条縄文と考えられる。縄文を細かく口縁部全面, 19・21には口唇部にも施文される。同様の文様は胴部の23~25にもみられる。22は口縁の上位にZ字の結節文のみを残し, 施文の際付いた文様はナデ消される。23は胴部上端の文様は他とは異なり, 結節せず施文される。24・25は同一個体で胴部は無節の附加条縄文で, 胴部文様帯の上下をZ字結節文が施される。26~30・35・36は単節の細かい附加条縄文と多条のZ字結節文の組み合わせである。30は口縁部の4条の輪積痕部分と口唇部にも附加条縄文が施される。なお, 27と36, 28と30は同一個体である。31・32は色調は橙色を呈し, 他とは異質で器厚も厚い。外面は摩滅気味で, 節の比較的大きい附加条縄文が施される。内面は明瞭なミガキ調整が確認できる。破片は直線的で, 大型の甕と考えられる。33は横位のRL縄文が1条施される。破片は被熱し, 器面が荒れている。胎土には微砂粒が多量に含まれる。34は底部に近い胴部破片で, 外面は斜位に浅く細い沈線が施される。内面はヘラナデ調整である。他の個体に比べ焼成は非常に良好である。胎土は弥生時代土器に近いため, 弥生土器と判断したが, 縄文土器の可能性もある。35~37は底部破片で, 底径は小さく, 端部は自重で粘土がはみ出すように膨らむ形状である。35・36の底面には明瞭に木葉痕が残り, 37はケズリとナデで消されている。

土3はSM-001(古墳)下の旧表土層を精査中に出土した土製紡錘車である。薄い焼土・炭化物と共に出土しており, 周辺を丁寧に確認したが, 住居跡などの掘り込みなどはみられなかった。遺物上面は全面刺突痕が施され, 側面は3列で5段~6段の刺突が施され, 同間隔と考ええると6単位あったと考えられる。また下面に2か所刺突文が施される。重量は29.69gである。

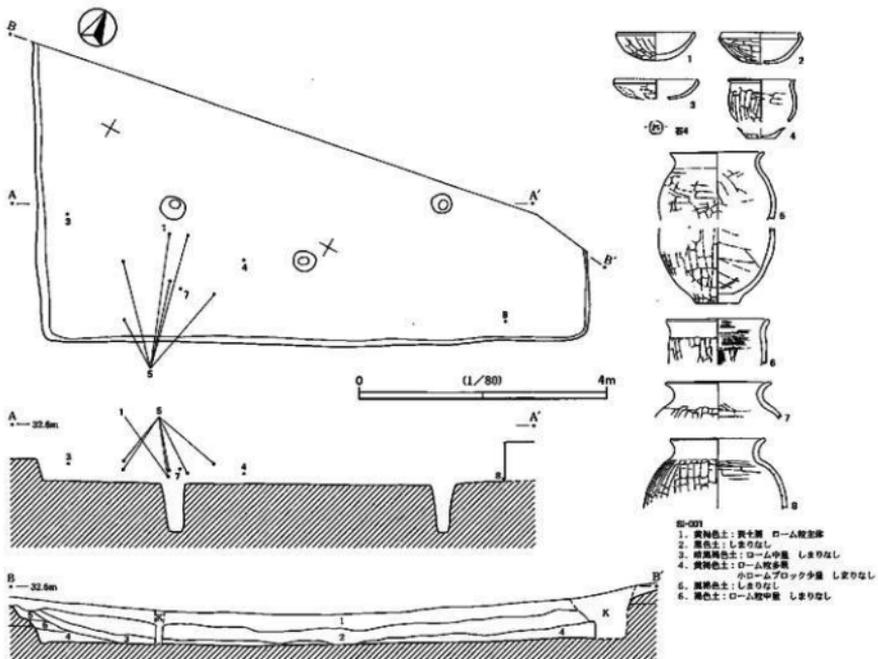
第3章 古墳時代以降

古墳時代後期になると俄に竪穴住居を主体として集落が形成され、古墳時代終末期まで継続する。竪穴住居は調査区内の台地平坦面を中心に合計23軒分布し、切り合いはほとんどない。また、台地西側縁辺部には古墳時代終末期の長方形墳が造営されている。

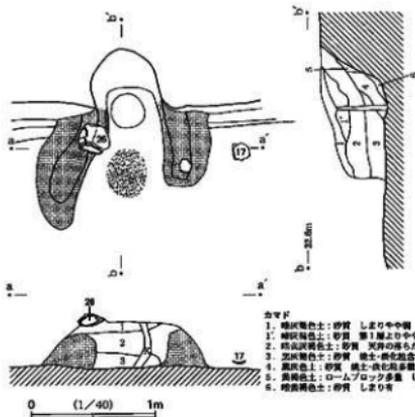
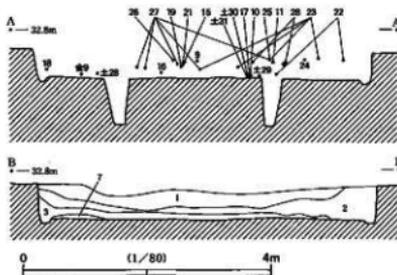
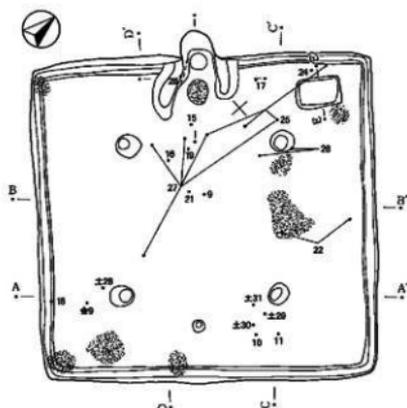
第1節 竪穴住居跡

SI-001 (第22・58・77図, 第7・8・11表, 図版3・28・29)

1E-95グリッド周辺に位置する。北側半分は調査範囲外にあたる。調査区境部の断面で現表土が住居中央ほど低くなっている状況や、壁外側に周提帯の残存部状の高まりを確認することができた。平面形は方形で、規模は主軸長不明、幅は8.7mで大型である。主軸はN-30°-Wである。掘り込みは確認面から60cmである。カマドは調査区外の北西壁に付設されていると考えられる。ピットは主柱穴が2基と入口ピット(深33cm)が検出された。床面には明確な硬化面・壁周溝は確認できなかった。

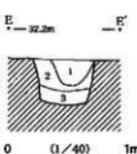
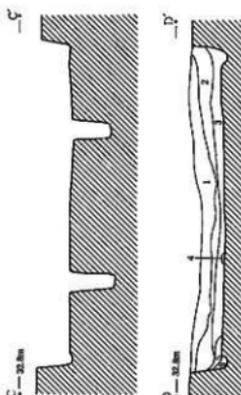


第22図 SI-001



各部分

1. 焼成褐色土：砂質 しまりや中細
- 1'. 焼成褐色土：砂質 著し盛りの中細なさい
2. 焼成褐色土：砂質 灰質の落ちたもの しまりや
3. 灰褐色土：砂質 粘土・微石多量 しまりや
4. 灰褐色土：砂質 粘土・微石多量
5. 黄褐色土：ロームブロック多量 しまりや
6. 焼成褐色土：砂質 しまりや



09-002

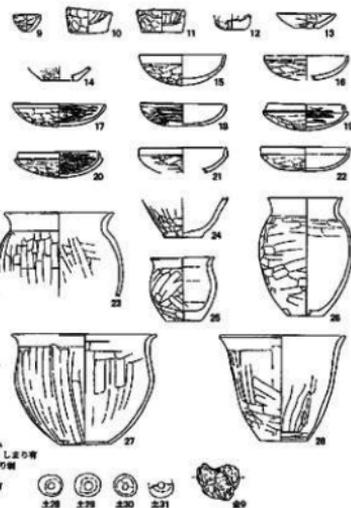
1. 灰色土：ローム多量
2. 褐色土：ローム散在・ロームブロック多量
3. 褐色土：ローム散在・ロームブロック多量
粘土質・微石多量
4. 灰色土：灰質多量
5. 赤褐色土：粘土多量
6. 黄褐色土：ローム散在・ロームブロック多量
7. 黄褐色土：ローム散在・ロームブロック多量

貯蔵内法定

1. 灰褐色土：ハードローム質 砂質多量 しまりなし

2. 褐色土：ローム散在・ロームブロック・砂質・微石多量 しまりなし

3. 褐色土：ロームブロック多量 しまりなし



第23図 SI-002

半分以下の調査区のため、遺物量はあまり多くない。土器器類は黒色処理の遺存が不良である。須恵器模倣灰であるが、比較的口縁部の短いものが主体である。甕は口縁部の屈曲が強く、胴部に丸みを帯びるものが目立つ。8の甕は胴部上半〜口縁部のみで完存で、横位の状態で床面直上から出土した。石4は石製模倣品で、表面は摩滅している。側面の面取りが雑で、全体的に粗雑な印象を受ける。

実測個体以外では、坏類は黒色処理破片が主体であり、甕類は実測個体の残破片がほとんどである。他に甕破片、砂礫を多量に含む甕破片、支脚破片が出土した。

SI-002 (第23・58・59・75・78図, 第7〜10表, 図版3・4・26・28・29)

2E-17グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-51°-W, 規模は主軸長5.08m, 幅5.35mである。掘り込みは確認面から58cmである。カマドは北西壁中央に付設される。ピットは主柱穴が4基と入口ピット(深28cm)、貯蔵穴が検出された。床面に明確な硬化面はないが、ほぼ全面に焼土粒・焼土ブロック・炭化材が出土した。大きな焼土ブロックはトーンで図示した。覆土第2層以下はロームブロックが多く、人為的な埋戻土と考えられる。遺物はほとんどその層から出土した。壁周溝は深さ4.6cmで、全周する。

ミニチュア土器が一定量出土した。坏類は黒色処理された個体が半数を占め、須恵器模倣灰と口縁部の屈曲に丸みを帯びた個体がみられる。甕は小型品・中型・甕2種類と遺存が良好である。カマド袖の上でつぶれるように甕(26)が出土した。他に、土玉4点と鍛冶滓が1点出土した。

実測個体以外では、大型坏破片や坏破片(ほとんど黒色処理個体)、支脚破片が確認できた。

SI-003 (第24・59・60・75・76図, 第7・8・10表, 図版4・26・27・29・30)

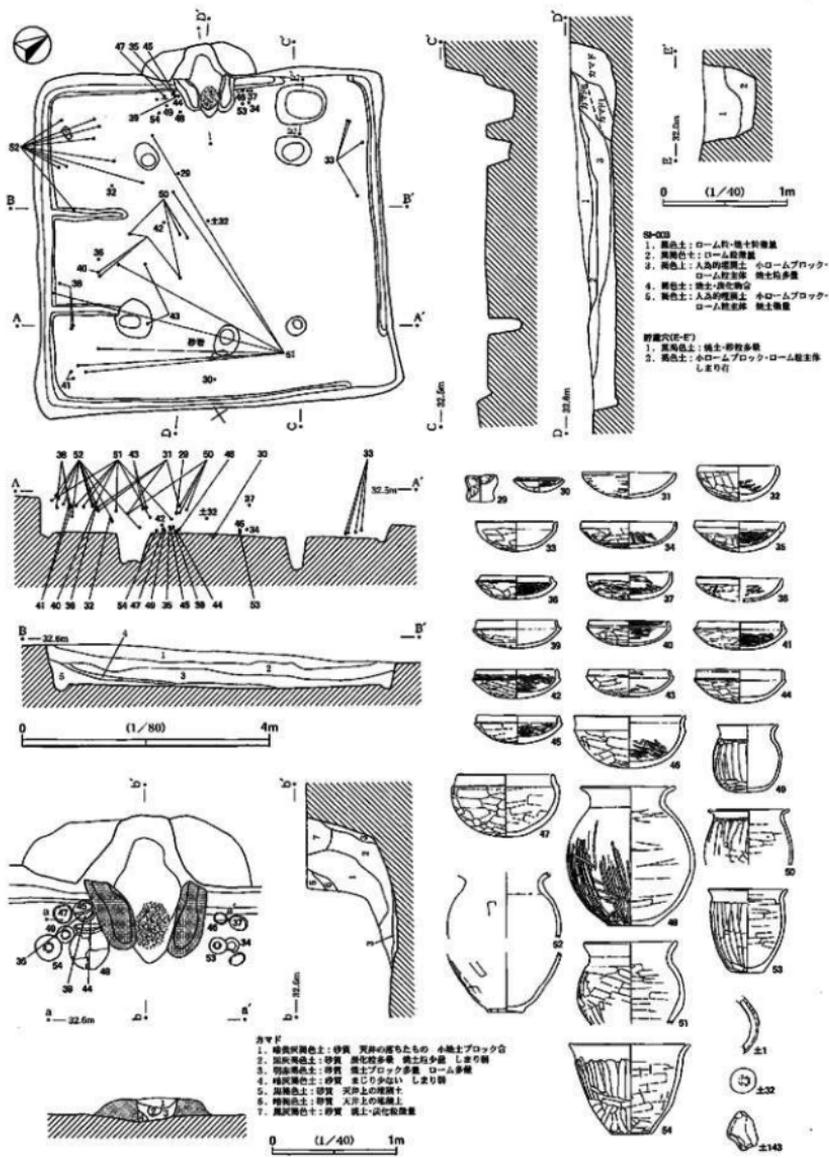
2E-48グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-60°-W, 規模は主軸長5.26m, 幅5.45mである。掘り込みは確認面から70cmである。カマドは北西壁中央に付設され、火焼部の焼土堆積は少ないが、底面は硬化していた。ピットは主柱穴が4基と入口ピット(深26cm)、貯蔵穴が検出された。第5層は人為的に埋め戻した土と考えられる。床面はあまり硬化せず、南側に間仕切り溝が検出された。周溝は所々とぎれながらも全周し、深さは平均5.9cmである。

遺存の良好な土器類が、カマド周辺の床面直上に置かれたように多く出土した。左袖脇では甕・甕と坏が逆位で重なるように出土した。入口ピット付近では被熱してボロボロになった砂岩の塊が床面直上から出土した。坏は赤彩された個体も含まれるが、半数は黒色処理されていた。大型坏・小型甕、胴部下半にミガキが施される甕(常総甕)が出土した。他に棒状刻みのある土製品(土1)や土玉・不明土製品(土143:ナデ調整、一部めくりあがるように整形される)が出土した。

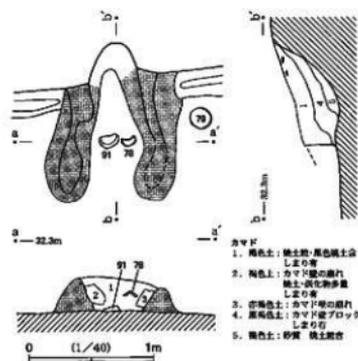
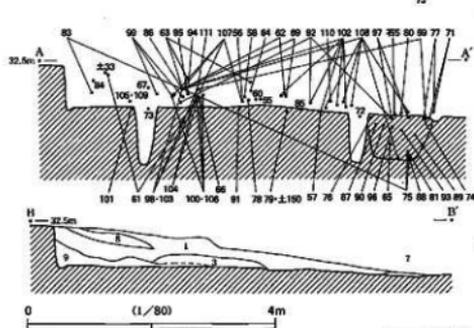
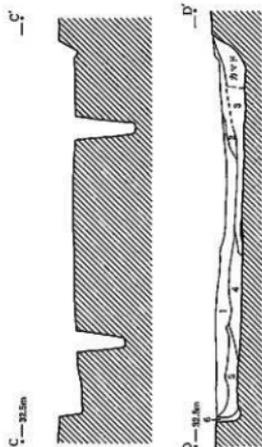
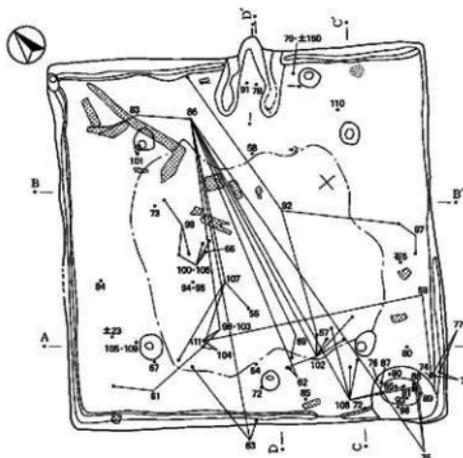
実測個体以外では、坏類の9割程度が黒色処理され、内面に暗文状のミガキが施された破片がみられた。甕類では赤彩された小型甕の破片や頸部屈曲の弱い甕破片、甕底部破片4〜5個体分が確認できた。

SI-004 (第25・26・60〜62・75〜78図, 第7〜11表, 図版4・5・26〜28・30・31)

2E-67グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-38°-E, 規模は主軸長5.78m, 幅5.82mである。掘り込みは確認面から67cmである。カマドは北東壁中央に付設され、火焼部はほぼ平坦で、全体に赤褐色に被熱している状態であった。カマド構築材はスサ入りの粘土で、右袖はブロック状に崩れて検出された。また、カマドの内部は黒く炭化していた。ピットは主柱穴が4基と入口ピット(深13cm)、カマド右脇に浅いピット(深7cm)、南コーナーに貯蔵穴(67cm)が検出された。床面直上には炭化材が多くみられることか

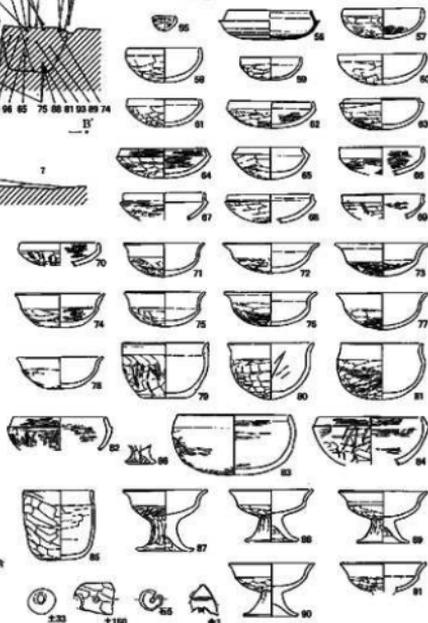


第24図 SI-003

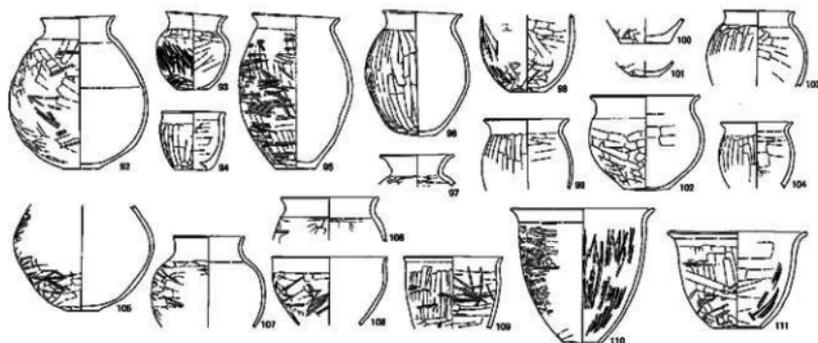


- カマド
1. 褐色土：焼土質・黒色焼土質
しまり有
 2. 褐色土：カマド底の崩れ
焼土・炭化物多量
しまり有
 3. 赤褐色土：カマド下の崩れ
 4. 黒褐色土：カマド壁ブロック状
しまり有
 5. 褐色土：砂質 焼土痕

- SI-004
1. 褐色土：焼土質・ローム混合
しまり有
 2. 黒褐色土：炭化物・焼土多量
しまり有
 3. 褐色土：炭化物・焼土多量
しまり有
 4. 黒褐色土：炭化物・焼土多量
ローム混合
しまり有
 5. 黒褐色土：ロームブロック多量
炭化物多量
しまり有
 6. 灰褐色土：焼土質・炭化物多量
 7. 灰褐色土：ローム・焼土質
炭化物多量
しまり有
 8. 黒褐色土：ローム多量
ロームブロック多量
 9. 灰褐色土：ローム土質
炭化物多量



第25図 SI-004(1)



第26図 SI-004(2)

ら、焼失住居と考えられる。床面は中央部で顕著な硬化面が確認できた。周溝は南東壁・斜面部で検出できなかった壁部分を除いて全周し、深さは平均4.2cmである。

全体的に遺存の良好な土器類が多く出土し、特に貯蔵穴に落ち込むような形で多くの完形土器が出土した(図版5参照)。床面からはやや浮くが、第5層上位からも多くの土器片が出土した。カマド周辺では遺存の良好な個体は坏類が多く、甕類は少ない。坏類は赤彩された個体が半数を占め、黒色処理された個体は坏類の約1/4であった。出土点数だけでなく、大型坏・高坏・小型甕など器種も豊富で、甕の形状も多種にわたる。他に坏や高坏のミニチュア土器(55・86)や土製品(土33:土玉・土150:焼成後穿孔破片)や被熱してボロボロの石製紡錘車(石5)、三角形式の挟りのみられる鉄製の鎌身部(金1)が出土した。

実測個体以外では、坏類ではあまり色処理される個体はなく、大型鉢の破片が1点みられた。甕類では底部が4個体分程度と頸部屈曲の非常に弱い甕口縁破片が2個体分みられた。

SI-005 (第27・63・77図, 第7・8・11表, 図版5・28・31・32)

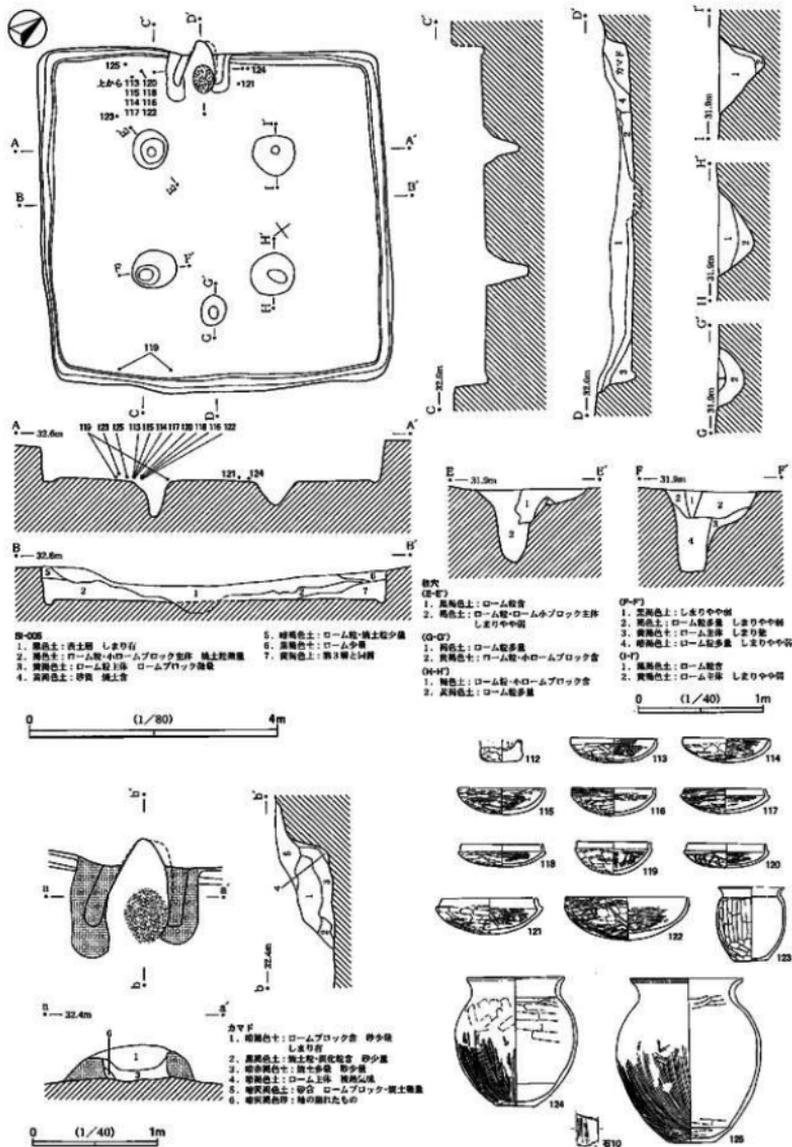
2E-65グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-54°-W、規模は主軸長5.48m、幅5.5mである。掘り込みは確認面から60cmである。中央部は近代以降の道により一部削平を受けていた。カマドは北西壁中央に付設され、火焼部と奥壁に顕著な被熱がみられた。ピットは主柱穴が4基と入口ピット1基が検出された。第1層は道として使用されていたため、非常にしまりが強い。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はしっかりと全周し、深さは平均5.3cmである。

遺物はカマドの周辺から集中して出土した(図版5参照)。左袖脇では甕の隣に坏が重なって、4枚ずつ2か所出土した。右袖からも置かれた状態で、ほぼ完形の甕と坏のセットが出土した。出土状況としてはSI-003と類似する。坏類はすべて黒色処理される。大型甕と中型甕は胴部下位が磨かれ、胎土には白色砂粒・砂礫が多く含まれるが、同胎土ではない。他にミニチュア土器と凝灰岩製砥石が出土した。

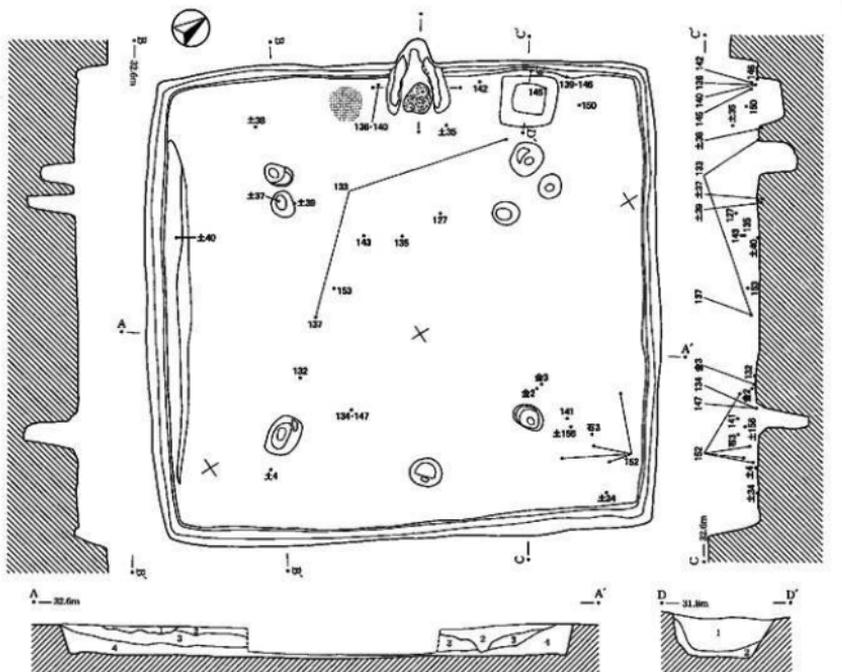
実測個体以外の遺物は多くない。頸部屈曲の弱い甕やカマド袖内芯に利用された支脚片が確認できた。

SI-006 (第28・63・64・75~78図, 第7~11表, 図版6・26~28・32)

3D-48グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-58°-W、規模は主軸長7.64m、幅8.01mである。



第27図 SI-005

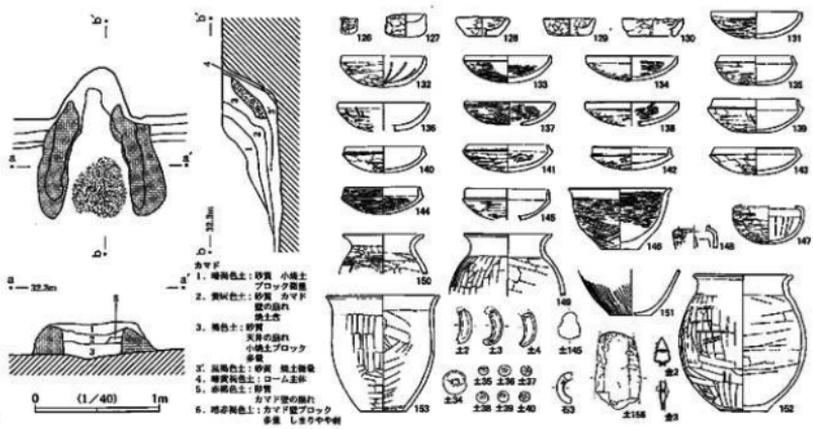


0 (1/80) 4m

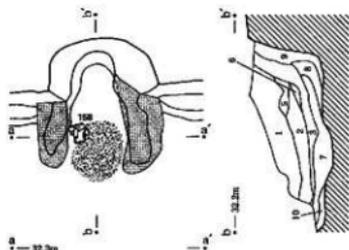
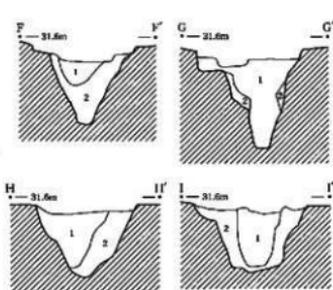
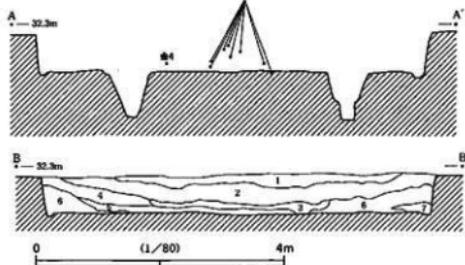
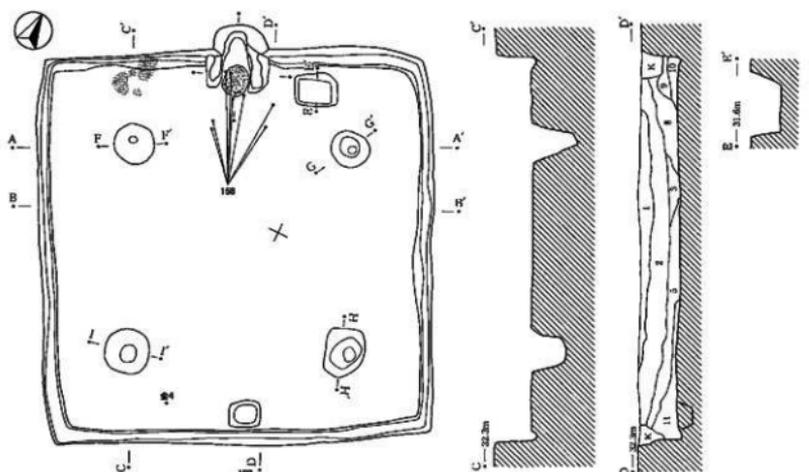
0 (1/40) 1m

0-026
 1. 黄褐色土：入島貯埋坑
 2. 黒色土：ローム貯埋坑
 3. 黒褐色土：ローム堆積
 4. 褐色土：ローム貯埋坑
 5. 褐色土：ローム貯埋坑
 6. 褐色土：ローム貯埋坑

貯埋坑(D-D')
 1. 黄褐色土：ローム貯埋坑
 2. 褐色土：空の掘削
 3. 褐色土：ローム貯埋坑

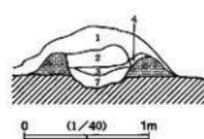


第28図 SI-006

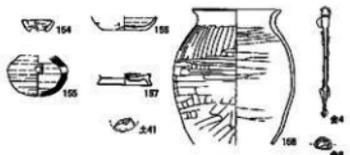


- 80-007
1. 褐色土：ローム粒・ローム多量
 2. 褐色土：ローム粒少量
 3. 褐色土：ローム多量
 4. 褐色土：ローム粒・ロームブロック多量
 5. 褐色土：ローム粒
 6. 褐色土：ローム粒・ロームブロック多量・しまりや中硬
 7. 褐色土：ローム粒・ロームブロック少量・しまりや中硬
 8. 褐色土：ローム粒
 9. 褐色土：ローム粒・ロームブロック多量
 10. 褐色土：砂・泥・中硬・カマド材の混れ・しまりや
 11. 褐色土：ローム粒・ロームブロック少量・しまりや中硬

- 80-008
- 80-009
- 80-010
1. 褐色土：ローム粒少量・しまりや
 2. 褐色土：ローム粒・ローム多量・しまりや
 1. 褐色土：ローム粒少量・しまりや
 2. 褐色土：ローム粒・ローム多量・しまりや
 1. 褐色土：ローム粒少量・しまりや
 2. 褐色土：ローム粒・ローム多量・しまりや



- カマド
1. 褐色土：ローム粒・ロームブロック多量
 2. 灰白色土：砂・泥・しまりや
 3. 褐色土：砂・泥・しまりや
 4. 褐色土：灰白色土・ローム少量・しまりや
 5. 灰白色土：泥・しまりや
 6. 灰白色土：泥・少量・しまりや
 7. 褐色土：泥・しまりや
 8. 褐色土：砂・泥・しまりや
 9. 褐色土：ローム粒・ロームブロック多量
 10. 褐色土：ローム粒・ロームブロック少量・しまりや



第29図 SI-007

掘り込みは確認面から56cmである。カマドは北西壁中央に付設され、火焼部と奥壁・側壁に顕著な被熱がみられた。カマド左袖脇からは粘土の塊が出土した。ピットは主柱穴が4基と入口ピット1基(深20cm)、貯蔵穴が検出された。西側の主柱穴に対しては補助柱穴が3基みられた。南壁沿いには地山掘り残しによる周りの床面より一段高い部分が検出された。住居中央部は確認トレンチによって本調査前に掘削を行った。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は全周し、深さは平均1.8cmである。

遺物は各層位から出土したが、第3～4層にかけてが最も多い。土製品などはピット周辺から出土する傾向がみられる。坏類の9割近くが黒色処理された個体である。須恵器模倣坏が多いが、屈曲が弱く、口縁の立ち上がり短い個体も含まれる。甕はやや長胴化した個体がみられ、部分的ではあるが胴部下位にミガキの施された常総型甕も出土した。他にミニチュア土器5点と土玉などの土製品や石製品・金属製品など各種の遺物が出土した。鉄鏝(金2・3)は接合しないが、出土位置も近いことから同一個体の可能性が高い。長三角形の長頸鏝である。

実測個体以外では、坏類の破片数が多く、ほとんどが黒色処理破片である。甕も口縁部、底部破片があり、約6個体分が確認できた。また、ミニチュア土器の破片も5個体分あり、実測分も含め多量である。

SI-007 (第29・64・75・78図, 第7～10表, 図版6・28・32)

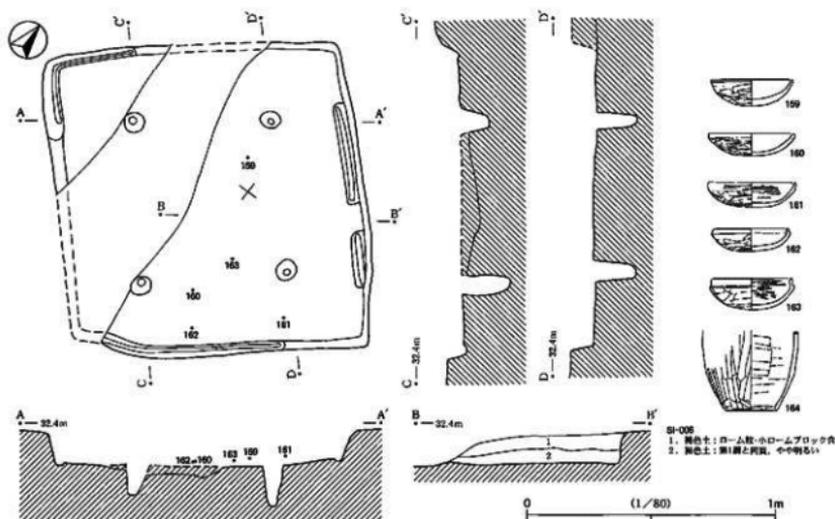
3D-66グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-27°-W, 規模は主軸長6.28m, 幅6.18mである。掘り込みは確認面から75cmである。カマドは北西壁中央に付設され、火焼部床面と奥壁・側壁に顕著な被熱がみられた。SI-006と同様にカマド左袖脇からは粘土の塊が出土した。ピットは主柱穴が4基と入口ピット1基、貯蔵穴が検出された。貯蔵穴は調査最終段階に床面を削った際に検出され、覆土はしまりの強いロームブロックが大量に含まれる土で人為的に埋められていた。住居全体の覆土は自然堆積であり、貯蔵穴だけは先に埋められていたことになる。入口ピットは他の住居に比べ平面が方形で、しっかりとした掘り込みを有している。覆土は第1～5層まで自然堆積の様相を呈し、焼土はほとんど含まれない。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はやや幅広で全周し、深さは平均6.6cmである。

住居に伴う遺物は少なく、主に覆土中層～上層からの出土である。確実に住居に伴うものはカマド出土の158の甕であろう。その他の遺物は床面よりやや浮いた状態の出土であった。特にロクロ整形の156・157は時期的にも離れており、混入の可能性が高い。土器類の他に点数は少ないが、ミニチュア土器、土製品や石製品・金属製品などが出土した。金4の鉄鏝はほぼ完形で、棘篋を有する笠箭式長頸鏝である。金8は鉄滓の小破片で、恐らく鍛冶滓と思われる。

実測個体以外では、坏類の小破片が多く、赤彩と黒色処理破片数は半々であった。一部に須恵器模倣坏の口縁破片がみられた。他に甕の底部破片と支脚破片が少量確認できた。

SI-008 (第30・65図, 第7・8表, 図版7・32)

2E-84グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-42°-W, 規模は主軸長4.94m, 幅4.58mである。掘り込みは確認面から50cmである。北西壁から南西壁にかけて近代以降の道により削平され、カマドは砂・焼土を含め全く痕跡がない。ピットは主柱穴が4基のみ検出され、西コーナーのピットのみやや浅い。道路に接する床面や柱穴覆土は非常に堅くしまっていた。床面は雑木の根が入り込み、床面は平らに検出することはできなかった。住居中央の床面は硬化しているが、その範囲は不明瞭である。周溝も不明瞭で、部分的にしか検出されなかった。深さは平均3.4cmである。



第30図 SI-008

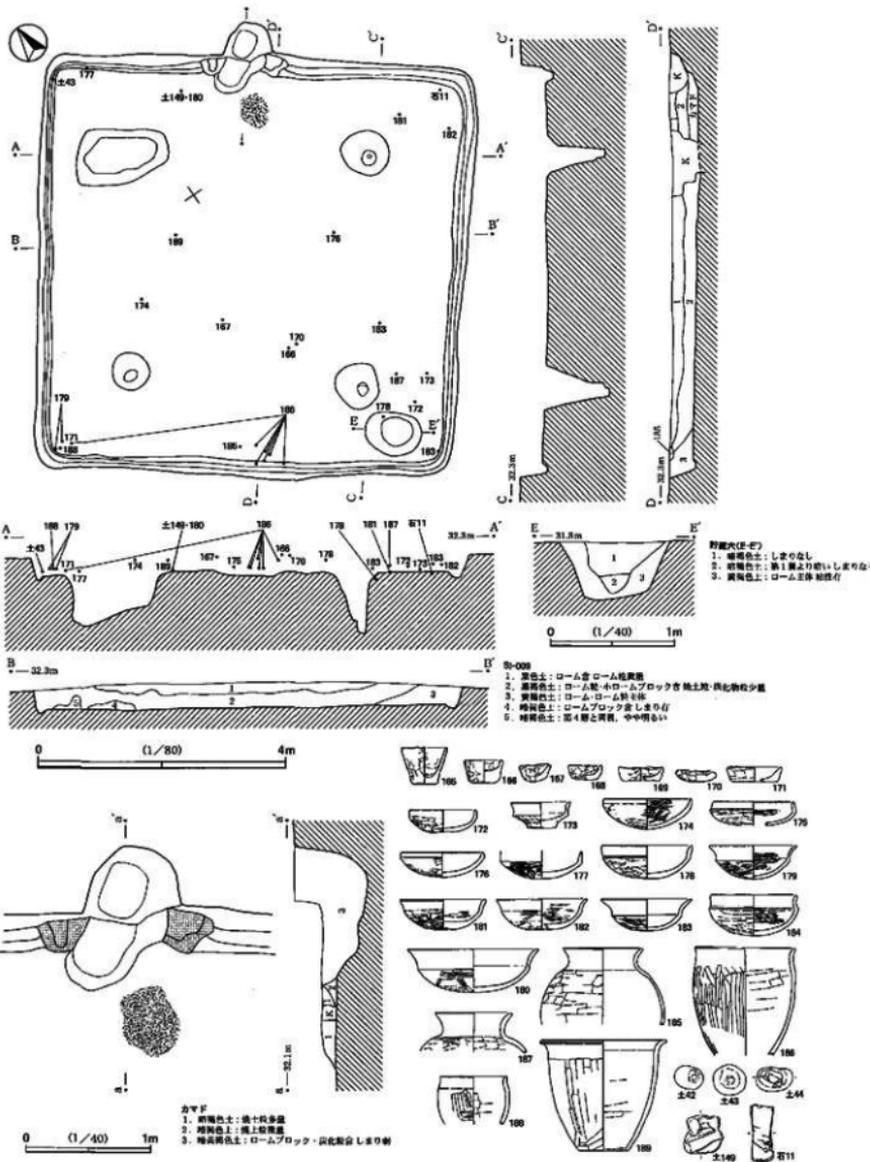
遺物は覆土の遺存が悪く、多く出土しなかった。ほとんどが土師器坏類で、すべて黒色処理される。160・161の底部調整は平底を意識している。甔は胴部下半の遺存で、胴部に膨らみを有しない形状である。

実測個体以外では、坏類はほとんどなく、甔類も被熱した厚い破片が1個体分程度といずれも少ない。

SI-009 (第31・65・75～77図, 第7・8・10・11表, 図版7・26・27・32)

3E-11グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-37°-E, 規模は主軸長6.63m, 幅6.7mである。掘り込みは確認面から44cmである。カマドは北東壁中央に付設されるが、壊され遺存は不良である。根などによる攪乱ではなく、人為的に縦に深く掘ることにより破壊しているようである。袖部分の遺存も悪く、火焼部が離れて存在しているようにみえる。火焼部床面は比較的良好に焼けており、焼土厚は11cmであった。カマド袖を除去した結果、周溝はカマド袖下部分も巡ることが確認された。ピットは支柱穴4基と貯蔵穴が検出された。北コーナーのピットは他のピットに比べ大きく不整形であり、覆土はしまりがなく、ロームブロックがまばらに含まれる。貯蔵穴の覆土上層はしまりのない土であるが、自然に埋まったものと考えられる。土師器坏(178)が側壁に沿って落ち込むよう出土した。住居全体の覆土は自然堆積の様相を呈する。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は全周し、深さは平均4.9cmである。

遺物は、特にミニチュア土器の出土が目立つ。それぞれ特徴的な形状を呈し、共通性は少ない。坏類個体数は赤彩、黒色処理と同比率である。172は底部無調整で、平底気味である。173は高坏の脚部分を取り、坏部底面を磨いて平らにしたと思われる、異質である。甔は口縁部径が小さく、胴部が大きく張る形状のものがみられる。甔は口縁部は屈曲が強いが、胴部から底部は直線的である。土器類の他に土玉3点、不明土製品、凝灰岩製の砥石が出土した。



第31図 SI-009

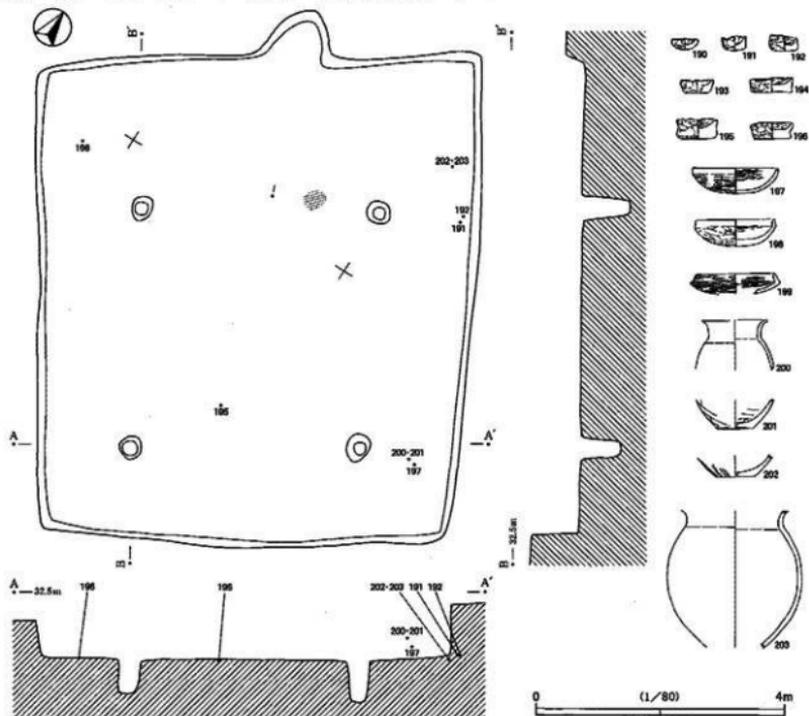
実測個体以外では、坏類の破片は8割が赤彩破片で、甕類は約4個体分の破片がみられた。

SI-010 (第32・66図, 第7・8表, 図版8・32・33)

2E-53グリッド周辺に位置する。平面形はやや縦長方形であるが、特に北壁の検出は難しく、本来はここまで北にのびない可能性もある。主軸はN-33°-W, 規模は、推定主軸長7.8m, 幅6.96mである。掘り込みは確認面から32cmである。中央部に大きな木根, 近代以降の道による攪乱があり, 定型的な位置にセクションベルトの設定を行うことができなかった。カマドは北西壁に付設されたと考えられるが, ほとんど構築材は流れてしまっていて不明瞭であった。北壁部分の検出も不確定であり, 地山全体が道による攪乱により乱れていた。ピットは主柱穴が4基のみ検出され, それぞれしっかりとした掘り込みである。床面の硬化面は不明瞭で, 周溝は巡らない。

遺物は覆土の遺存も悪かったため, 多く出土しなかった。東壁沿い床面からまともなミニチュア土器が出土した。土器器坏類は, すべて黒色処理される。甕類に遺存の良好な個体は少ない。202・203は器面が剥落して調整は不明瞭であるが, 胎土に白色砂礫が多量に含まれる。

実測個体以外では, 坏類では赤彩の口縁が外反する個体が見られるが, 半数以上は黒色処理がなされる。甕類は頸部の屈曲の緩やかな口縁破片が約3個体分確認できた。



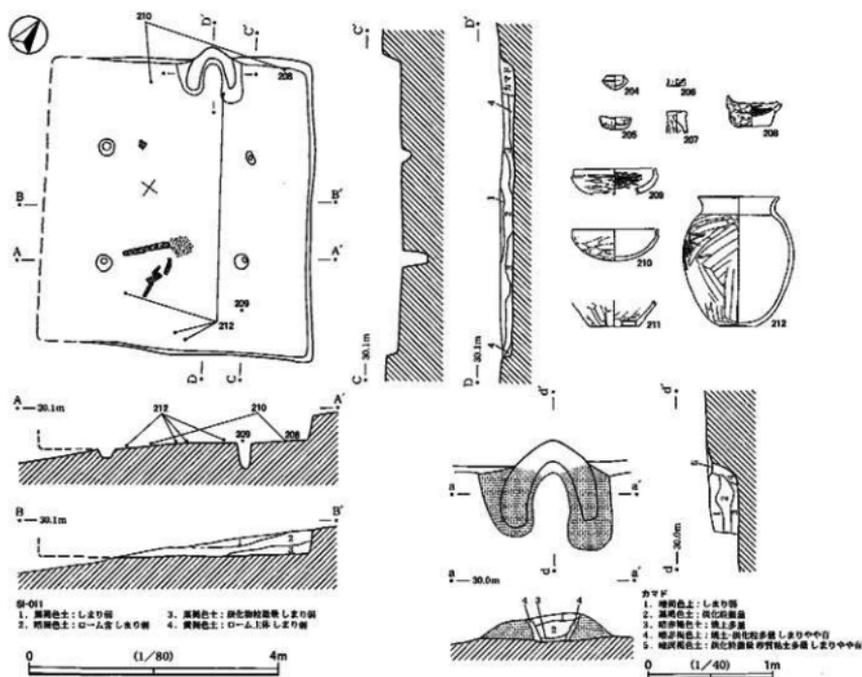
第32図 SI-010

SI-011 (第33・66図, 第7・8表, 図版8・33)

3C-25グリッド周辺に位置する。平面形は方形であるが, 西は斜面により壁の検出ができなかった。主軸はN-34°-Wで, 規模は主軸長4.64m, 推定幅4.32mである。掘り込みは確認面から40cmである。カマドは北西壁北寄りにつ設される。ピットは主柱穴が4基検出されたが, 南東コーナーのピット以外は浅い。ピットの位置はカマドとのバランスが悪く, 竪穴部分以外も精査を念入りに行ったが, 他に柱穴は検出されなかった。床面の硬化面は不明瞭で, 周溝は巡らない。床面直上からは炭化物・焼土が出土した。

遺物は覆土の遺存も悪く, 総量は少ない。カマド右袖で甕(212)がつぶれた状態で出土し, 離れた位置の破片とも接合した。ミニチュア土器が各種出土し, 207は器台形と捉えて実測したが, 破片であり上下を断定することは困難である。211は甌だが, 小破片で時期的にも他とはずれられるため混入品の可能性が高い。

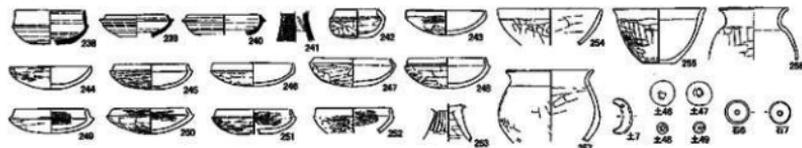
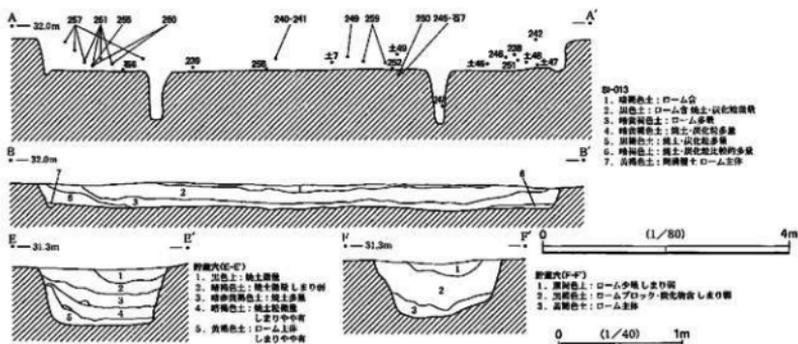
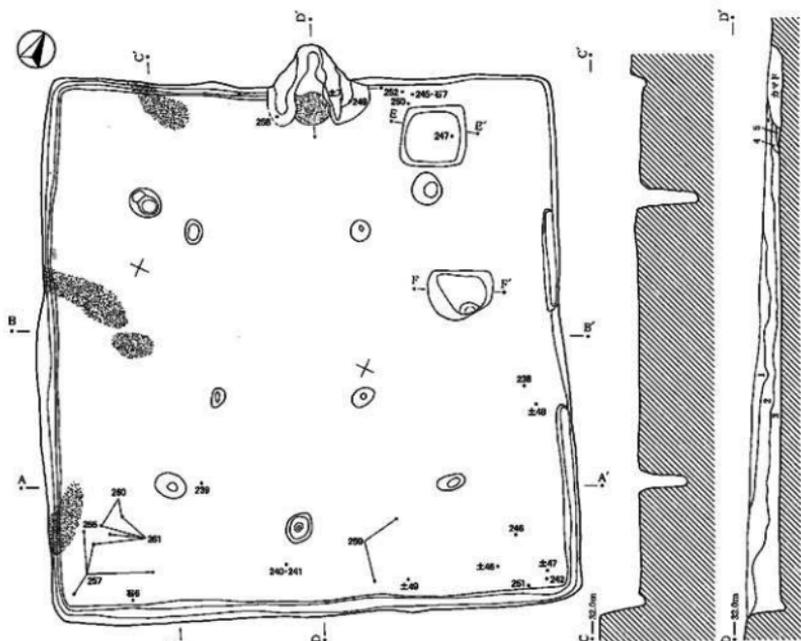
実測個体以外は小破片であり, 特に特徴のある個体は確認できない。



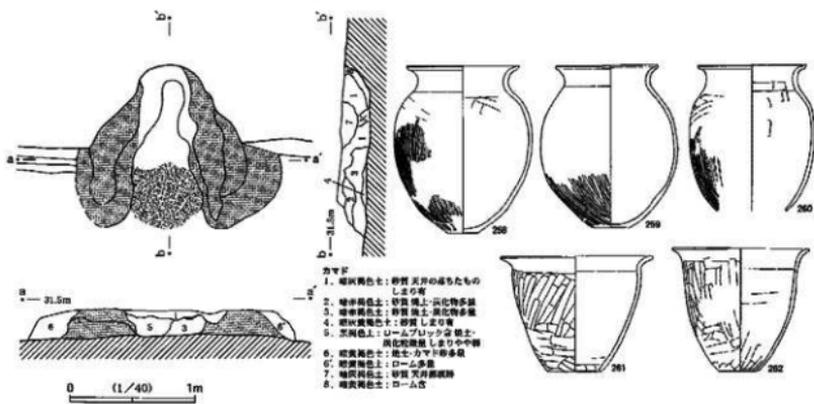
第33図 SI-011

SI-012A・B・C (第34・66~68・75図, 第7・8・10表, 図版9・26・33)

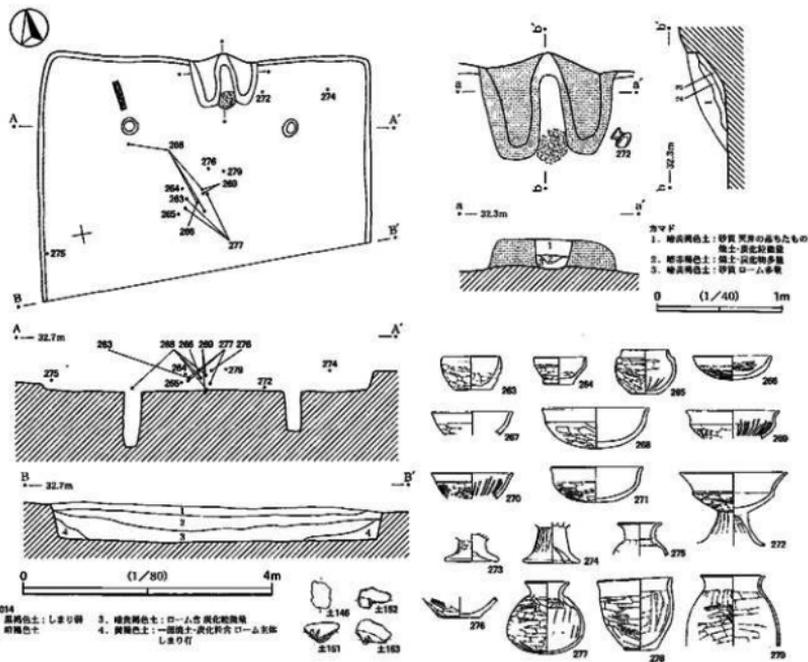
3D-61グリッド周辺に位置する。3軒の切り合いである。近代以降の道や木の根の攪乱により, セクションでは明瞭な切り合い関係を明らかにすることはできなかったが, A→B→Cの順番で構築されたと考えられる。主軸はほぼ同じでN-42°-Wである。



第35図 SI-013(1)



第36図 SI-013(2)



第37図 SI-014

SI-012Aの平面形は縦長方形としたが、北西コーナーに近代以降の道が重複するため、推定した部分も多い。調査当初は道の部分的なピット状の掘り込みに土師器(216)が出土したことから貯蔵穴と誤認した。規模は推定主軸長5.04m、幅4.24mである。掘り込みは確認面から42cmである。カマドは不明、ピットは南コーナーに貯蔵穴が確認されたのみで、主柱穴は検出されなかった。SI-012Bと重複しない部分で床面直上で炭化物・焼土が出土した。床面の硬化面は不明瞭で、周溝は巡らない。

SI-012Bは平面形はやや縦長方形である。調査当初はSI-012Cとの重複部分で硬化面がSI-012C覆土中位にみられ、SI-012Bが新しいと考えたが、その硬化面は広範囲ではなく近代以降の道と重なることが判明した。そこでカマドの遺存状況を考え合わせ、SI-012Cが最新、またはB・Cが同時と考えた。規模は主軸長5.7m、幅5.22mである。掘り込みは確認面から55cmである。カマドはSI-012Cと同位置と考えられる。ピットはSI-012C南東壁に半分かかる位置で2基検出されたが、深さはSI-012C床面までは達しないため、北西部分の2基分は検出されなかった。その他に1基補助柱穴が確認できた。壁周溝は巡らない。

SI-012Cは平面形は方形で、規模は主軸長4.44m、幅4.43mである。掘り込みは確認面から105cmである。しっかりとした掘り込みであるが、南東壁(SI-012Bと接する壁)は直立せず、下場が上場より挟り込むように掘り込まれる。カマドは北西壁中央に付設される。ピットは主柱穴が4基分検出され、しっかりとした掘り込みを有する。壁周溝は巡らない。

遺物は出土位置によりSI-012A～Cに分けた。坏類は半数以上が黒色処理されるが、一番古いSI-012A出土土器は赤彩される。壺類は胴部がほとんど張らない。233は胎土に白色砂礫・雲母が多く含まれる。ミニチュア土器・勾玉・土玉も出土した。

実測個体以外では、坏類は赤彩、黒色処理の破片数がほぼ同数、壺類は底部が約3個体分確認できた。

SI-013 (第35・36・68・69・75・77図, 第7・8・10・11表, 図版9・26・28・33・34)

3D-25グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-26°-W, 規模は主軸長8.5m、幅8.16mの大型住居である。掘り込みは確認面から54cmである。カマドは北西壁中央に付設される。袖部分に接して土製勾玉(土7)が出土した。火焼部床面は顕著に被熱し赤化していた。ピットは主柱穴が4基とその内側に補助柱穴が4基、入口ピット(深38cm)、貯蔵穴が2基検出された。補助柱穴は北東部分のみ深さ22cmと浅く、その他は40～58cmと平面形は小さいが、しっかりとした掘り込みを有する。貯蔵穴は定位置のものは方形で定型であるが、その南側に位置する貯蔵穴は不整形である。確実にこの住居に伴うものがどうか判然としませんが、貯蔵穴覆土は類似していた。住居覆土は自然堆積と考えられるが、全体に焼土粒・炭化粒が含まれ、特に住居西側で焼土の出土が多く、ブロックで検出された。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は北コーナー周辺以外を巡り、深さは平均5.3cmである。

遺物は多量に出土した。他の住居に比べ、須恵器の出土点数が多く、住居の規模と関係するのであろうか。土師器坏類は須恵器模倣坏が主体で、赤彩はみられない。壺は胴下半部にミガキのある個体が主体となる。他に土製勾玉・土玉・石製紡錘車が出土した。

実測個体以外では、坏類の破片はほとんどが黒色処理される。他に高坏破片1個体分・壺4個体分・甗1個体分が破片で確認できた。

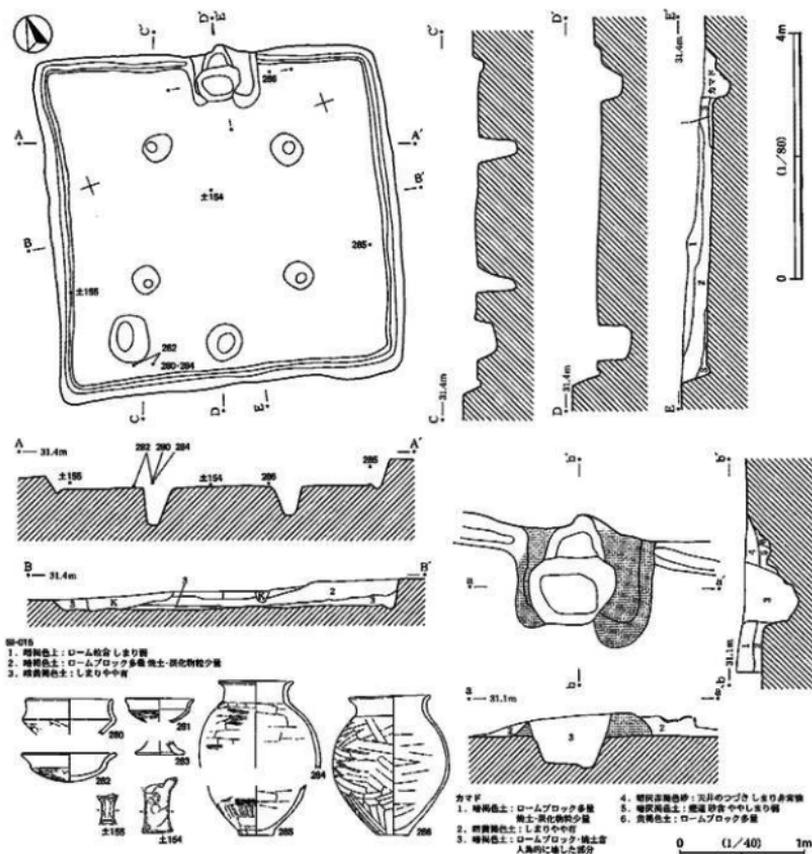
SI-014 (第37・69・70・76図, 第7・8・10表, 図版10・27・34)

3D-87グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、南1/3は調査区外にあたる。主軸はN-9°-E, 規模は主軸

長不明、幅5.15mである。掘り込みは確認面から85cmである。カマドは北西壁中央に付設される。火焼部床面は顕著に被熱し赤化していた。奥壁の掘り込みは弱い。右袖脇からほぼ完形の高環(272)が転がった状態で出土した。ビットは支柱穴が2基検出され、西側のビットが深い。覆土は自然堆積と考えられ、遺物は第2層中からの出土が多い。下層ほど炭化材・焼土はみられたが、それほど多量ではない。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は巡らない。

遺物は住居中央部で、やや浮いた状態で出土したものが多く、環類は口縁端部が緩くS字に屈曲する形態のものが多い。高環も含め、黒色処理された個体はなく、半数近くが赤彩個体である。頸部が細い壺形の土器も出土した。他に焼成後、土師器胴部に刻みを施された破片が3点(土151~153)出土した。これらは本来黒色処理された土師器環の体部である。

実測個体以外では、環類に黒色処理破片はなく、他に甔破片1点、甔底部約3個体分が確認できた。



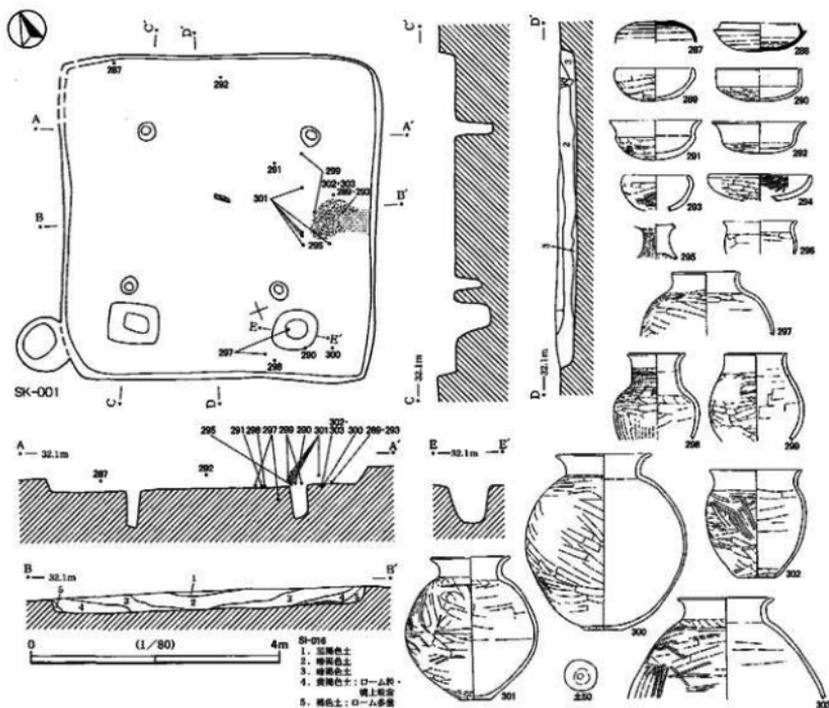
第38図 SI-015

SI-015 (第38・70・76図, 第7・8・10表, 図版10・27・34・35)

3D-23グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-15°-E, 規模は主軸長5.2m, 幅5.28mである。掘り込みは確認面から42cmである。住居西側は南北に延びる近代以降の道に削平され壁の遺存が悪いが、床面は部分的に掘り込まれる程度で攪乱部分は少ない。カマドは北壁中央に付設されるが、中央火焼部が壊され遺存は不良である。根などによる攪乱ではなく、人為的に縦に深く掘ることにより破壊しているようである。SI-009と同様な作為が想定できる。カマド右袖脇には壺(286)がつぶれた状態で出土した。ピットは主柱穴が4基と入口ピット1基、貯蔵穴1基が検出された。貯蔵穴の南側の壁寄りからは破片の状態であるが、多くの土器が出土した。住居覆土は自然堆積の様相を呈する。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は全周し、深さは平均4.3cmである。

遺物はあまり多く出土しなかった。坏類は赤彩されるものが多く、壺は底径が比較的小さく、胴部がやや張るタイプの形状である。支脚状の土製品が2点出土した。土154は被熱しており、カマド構築材も付着しているため、やや小型であるが支脚として良いであろう。土155は形状はそれに近いが小型である。

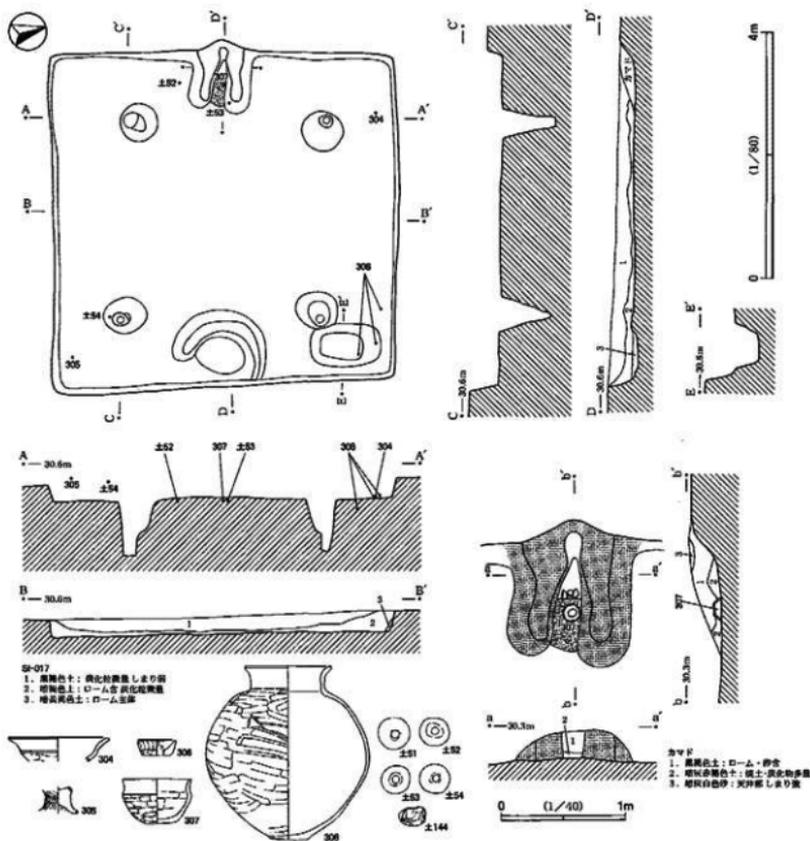
実測個体以外では、坏類破片に黒色処理はみられない。甕類は4個体分程度の破片があり、その半数は赤く被熱している。甕破片は3点確認できた。



第39図 SI-016

SI-016 (第39・70・71・75図, 第7・8・10表, 図版11・26・35)

3D-74グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-23°-E、規模は主軸長5.09m、幅4.84mである。掘り込みは確認面から35cmである。住居南西コーナーでSK-001と切り合うが、SI-016が古いのは平面からも明瞭であった。カマドは出土土器からみて付設されてもよい時期ではあるが、痕跡はみられなかった。東壁沿いに粘土と焼土が出土したが、カマド構築材等の崩れたものではない。ピットは主柱穴が4基と南側に貯蔵穴2基が検出された。貯蔵穴の形状は、西側は角のしっかりした方形であるが、東側は丸みを帯びる。いずれも住居に伴うものと考えられる。住居覆土は自然堆積の様相を呈する。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝は巡らない。



第40図 SI-017

遺物は住居東側を中心に遺存の良好な個体が出土した。須恵器坏(287・288)は口径が近く、セットとして捉えられ、胎土に白色砂礫を含む。坏類は口縁部の幅の広い個体が多く、実測点数の内1/3は赤彩される。甕類は多くの種類が出土し、口縁部形態に特徴があり、胴部は丸く張る。他に土玉が出土した。

実測個体以外では、坏類破片はほとんどが赤彩であるが、総点数は少ない。甕類は約2個体分程度の破片があり、甕もみられる。他に高坏脚部破片、ミニチュア土器破片3点が確認できた。

SI-O17 (第40・71・75・76図, 第7・8・10表, 図版11・12・26・27・35)

3C-58グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-76°-W、規模は主軸長5.25m、幅5.4mである。掘り込みは確認面から34cmである。カマドは西壁中央に付設される。カマド構築材の遺存は比較的良好で、煙道口の形状を平面的に確認することができた。火焼部中央に逆位でほぼ完形の椀(307)が置かれた状態で出土した。土玉が周辺から出土していることから、何かしらカマドに対する行為を想定できる。ピットは主柱穴が4基と貯蔵穴1基が検出された。入口部分はやや低く、その周りは地山掘り残しによる土手状の高まりが作られる。甕(308)が壁隙から落ち込むように出土した。住居覆土は自然堆積である。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はめぐらない。

遺物はあまり多く出土しなかった。実測個体で遺存が良好なものはカマド出土の椀と貯蔵穴付近出土の甕のみである。椀(307)はやや器面が荒れており被熱しているように観察される。他に高坏、ミニチュア土器、土玉4点、不明土製品が出土した。不明土製品(土144)は何らかの形を目指したものではないようだ。

実測個体以外では、坏類破片は器高の高い、赤彩されたものがほとんどである。甕類に胴部が大きく張り、底部を削り出す破片が1個体分確認できた。

SI-O18 (第41・72・77図, 第7・8・11表, 図版12・28・35)

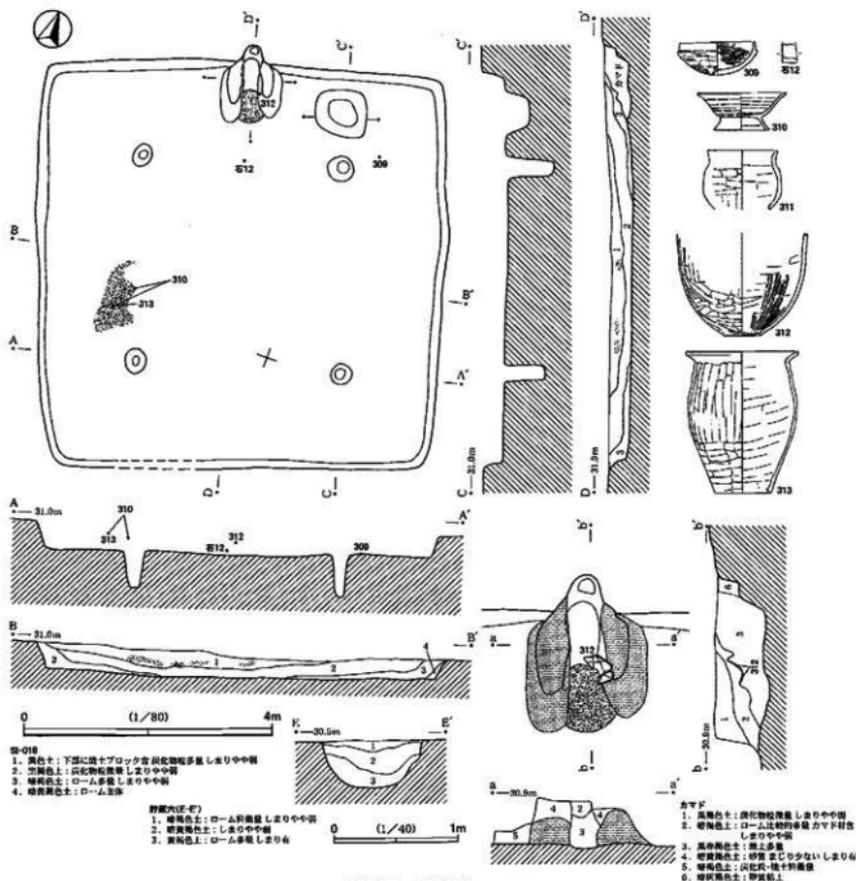
2C-77グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-19°-W、規模は主軸長6.38m、幅6.32mである。掘り込みは確認面から51cmである。カマドは北壁中央に付設される。カマド内に甕(312)が出土した。火焼部床面は緩やかに凹み、被熱して赤化が顕著である。奥壁は砂質粘土で補強された段を有して立ち上がる。ピットは主柱穴が4基と貯蔵穴1基が検出された。住居覆土の第1層下位に焼土がブロックで、広範囲で確認された。その焼土の上に平安時代の遺物が出土しており、住居が埋まりきらない時期とともに投棄されたと考えられる。住居の時期を示すのは309・312である。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はめぐらない。なお、床面精査時に住居より古い時期の土坑(SK-002)が確認された。

出土遺物は多くない。坏(309)は内外面とも炭素吸着の黒色処理で、内面にX字にヘラ書きが施される。

実測個体以外では、古墳時代土器と平安時代の土器器類がみられるが、8割は古墳時代の土器器類である。坏類には外反する口縁の赤彩破片や、黒色処理個体がみられる。ロクロ土器坏破片は5点確認できた。甕類は小破片が多く、厚手の破片である。その内、確実に平安時代の甕とできる遺物は少量である。

SI-O21 (第42・72・73図, 第7・8表, 図版14・36)

2C-30グリッド周辺に位置する。平面形は方形で、主軸はN-22°-E、規模は主軸長4.82m、幅4.86mである。掘り込みは確認面から62cmである。カマドは確認されなかった。ピットは主柱穴が4基と入口ピット、その他の比較的浅い補助柱穴が3基(北から深さ14cm, 27cm, 24cm)、貯蔵穴1基が検出された。住居覆土中に多量の焼土ブロックが含まれていたが、床面直上のもはなく、炭化材は検出されなかった。周溝は全

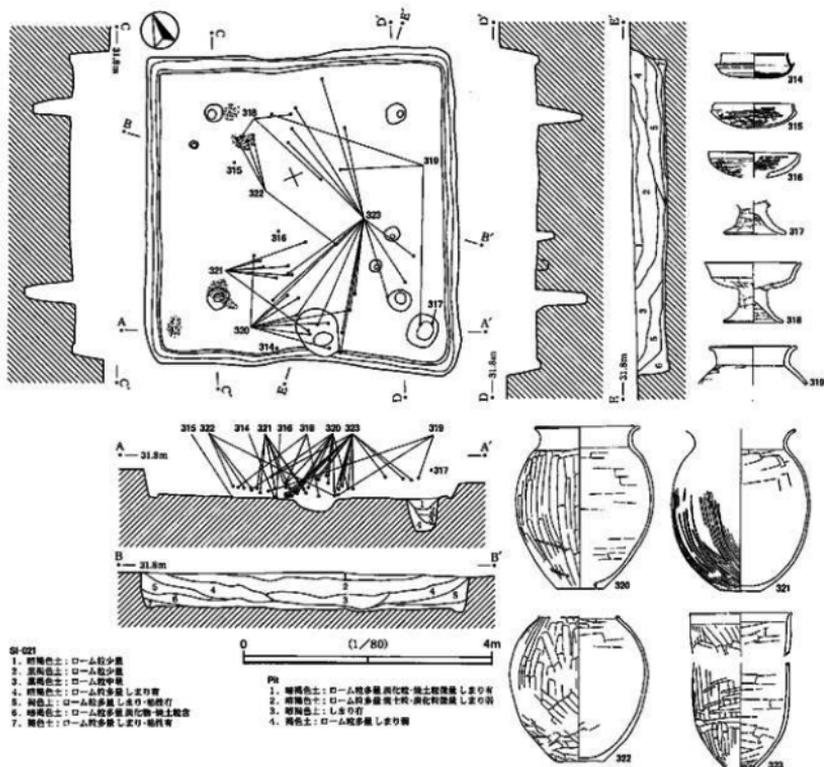


第41図 SI-018

周し、平均的な深さは4.5cmである。

遺物は比較的多く出土したが、坏以外は床面より浮いた状態で破片出土がほとんどである。完形の須恵器坏身(314)は正位で床面直上の出土である。高坏(318)は坏部と脚部は接合しないが、図面上合成して作成した。甕類は小破片の状態でもまとまりがなく出土したものが接合した。320・322は胎土・形状ともに同様である。321は胴部下半が磨かれ、胎土に白色砂礫が多く含まれる。

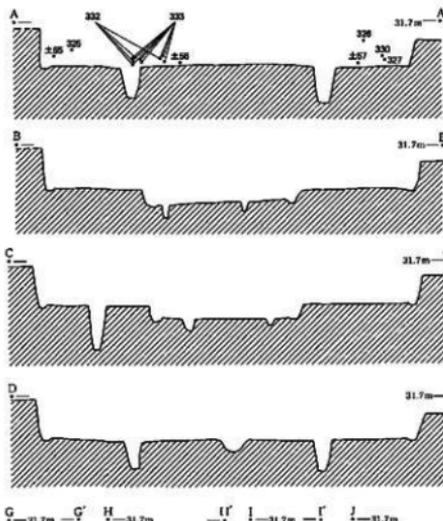
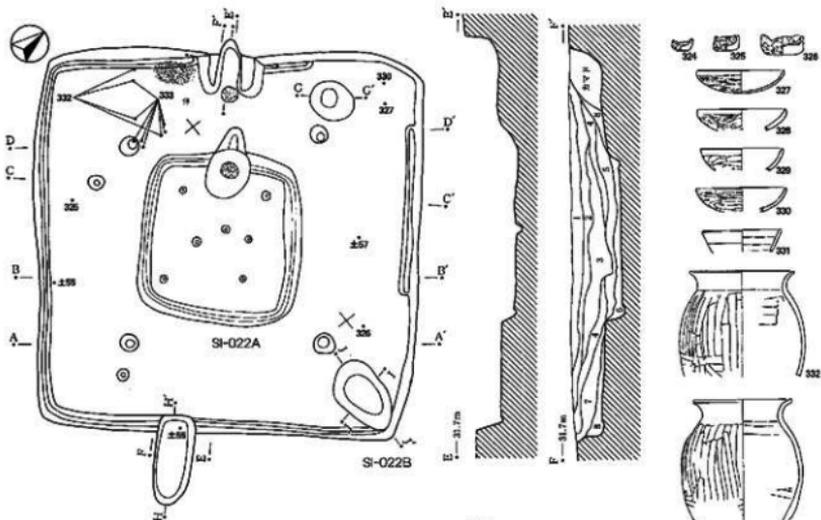
実測個体以外では、坏類はほとんどが須恵器模倣坏で、赤彩・黒色処理との点数比は半々であった。他にミニチュア土器の破片6点と支脚の破片が確認できた。



第42図 SI-021

SI-022A・B (第43・73・75・77図, 第7・8・10・11表, 図版14・26・27・36)

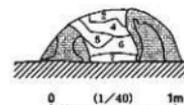
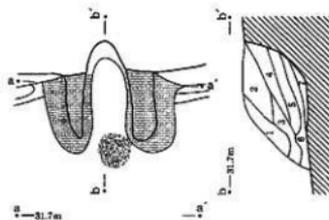
2C-24グリッド周辺に位置する。平面形はいずれも方形で、主軸はN-50°-Wである。規模はSI-022Aは2.63m×2.57mで、掘り込みは確認面から89cmである。SI-022Bは主軸長5.96m, 幅5.98mで、掘り込みは確認面から63cmである。カマドはともに北西壁中央に付設される。SI-022Aのカマドは掘り込みのみで、カマド構築材の遺存はなく、火焼部床面中央に赤化した範囲が確認できた。SI-022Bのカマド袖は比較的遺存が良好で、奥壁は急に立ち上がる。火焼面はフラットで、顕著に赤化していた。また、左袖には焼土が検出された。カマドの残存状況から、先にSI-022Aがつくられ、その後SI-022Bが構築されたと考えられる。平面的にはSI-022Bの高い位置での床面中央部には顕著な硬化はみられず、断面図の覆土堆積では深い中央部分も含めて、自然堆積にみられることから、最終的には段差を有して住居は機能していた可能性が高い。SI-022Aのピットは住居規模と同様に小型で主柱穴が4基と中央部にやや浅い補助柱穴が3基(南西から13cm・7cm・18cm)が検出された。SI-022Bのピットは主柱穴が4基と南側にしっかりと掘り込みの補助柱穴が2基(北西か



SI-022

1. 黄白色：ローム粘多量
2. 褐色褐色土：ローム粘少量
3. 黄白色：ローム粘
4. 暗褐色土：ローム粘的少量、しまり弱
5. 暗褐色土：ローム粘多量、しまり弱
6. 黄白色：ローム粘少量、しまり弱
7. 黄褐色土：ローム粘少量
8. 褐色土：ローム粘多量

土56 土57
土13

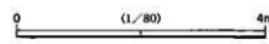


全マド

1. 褐色土：ローム粘多量
2. 暗褐色土：黄白色、ロームブロック黄褐色、ローム粘少量
3. 暗褐色土：黄白色、ロームブロック黄褐色
4. 暗褐色土：黄白色、ロームブロック黄褐色
5. 暗褐色土：黄白色、ローム粘多量
6. 暗褐色土：黄白色、ローム粘多量、しまり弱
7. 暗褐色土：黄白色、ローム粘多量

- PH(0-7)
1. 黄白色：ローム粘
 2. 褐色土：ローム粘、ロームブロック多量
 3. 褐色土：ロームブロック少量
 4. 暗褐色土：ローム粘

- PH(0-4)
1. 暗褐色土：ローム粘多量
 2. 暗褐色土：ローム粘多量、しまり弱
 3. 暗褐色土：ローム粘多量、ロームブロック黄褐色、しまり弱
 4. 暗褐色土：ローム粘多量、しまり弱



第43図 SI-022

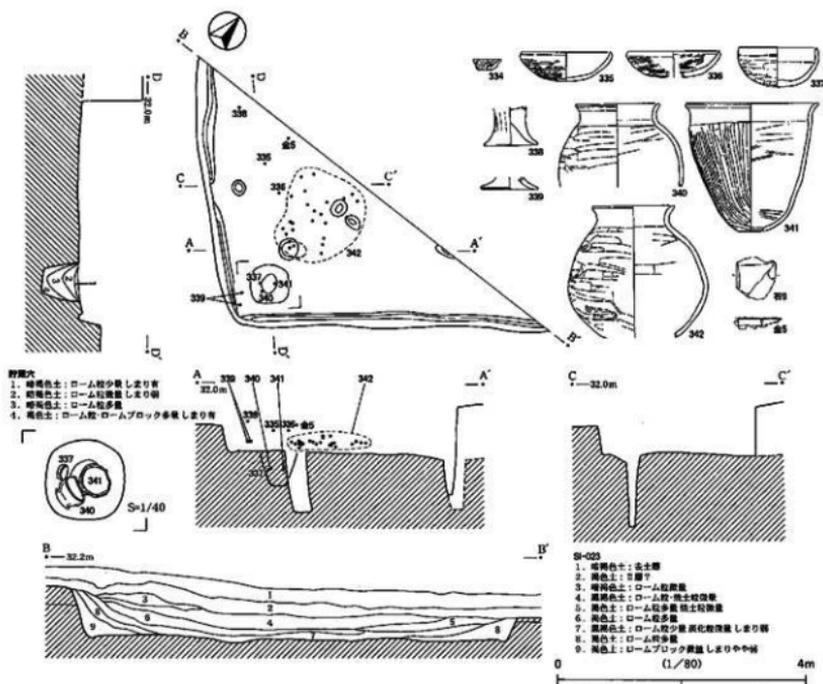
ら深さ71cm, 64cm), 貯蔵穴が北コーナーで1基が検出された。貯蔵穴はやや丸みを有し、ピット状である。他に、東壁に不整形なピットが2基検出されたが、住居に伴うものかは判断としない。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はSI-022Aは全周し、平均的な深さは5.8cmである。SI-022Bは北側壁で部分的に周溝がとぎれ、平均的な深さは2.6cmである。

遺物はSI-022A部分からは遺存の良好な個体がほとんど出土しなかった。坏は丸みをもった黒色処理された坏が主体である。ロクロ坏(331)は混入と考えられる。甕は形状・胎土ともに同質である。胴部の膨らみは弱く、やや長胴化している。他にミニチュア土器が出土したが、やや高い位置での出土である。土玉3点と凝灰岩製の砥石破片が出土した。

実測個体以外では、坏類は黒色処理された須恵器模倣坏が2~3個体分確認できた。甕類はほとんど小破片であった。

SI-023 (第44・73・74・77・78図, 第7~9・11表, 図版15・28・36)

2C-05グリッド周辺に位置する。北側半分以上は調査範囲外にあたる。平面形は方形で、主軸はN-42°-E、規模は不明である。掘り込みは確認面から55cmである。カマドは調査区外であるが、入口ピットの位置から北東壁に付設されると考えられる。ピットは主柱穴が2基と入口ピット1基、中央部に補助柱穴(深16~



第44図 SI-023

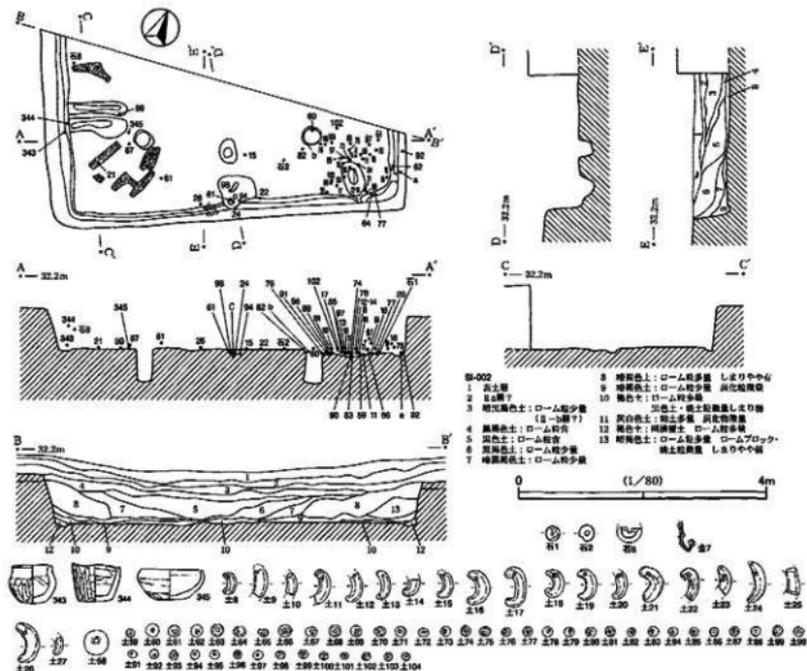
18cm), 貯蔵穴1基が検出された。貯蔵穴の覆土中位から337・340・341がまとまって出土した。337・340はやや傾いて、341は正位での出土である。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。周溝はほぼ全周し、深さは平均3.2cmである。

遺物はあまり多く出土しなかった。坏は口縁端部が短く上に立ち上がる個体が主体である。赤彩・黒色処理ともにみられる。高坏は短脚の破片が出土した。甕類は口縁部がやや短く、胴部が大きく膨らむ形状である。甕は外面もミガキが施され、底部付近がやや丸みを帯びる。石9は緑泥片岩製と考えられ、玉造の原石の可能性がある。金5は鉄製刀子の切先部分である。

実測個体以外の坏類は計6点で、須恵器模倣坏は1点のみで他の5点は実測個体と同形状である。甕類には底部破片はなく、大多数は接合できない破片であった。

SI-024 (第45・74~78図, 第7~11表, 図版15・26・28・36)

2C-12グリッド周辺に位置する。北側半分は調査範囲外にあたる。平面形は方形で、主軸はN-28°-W, 規模は幅5.44mである。掘り込みは確認面から76cmである。カマドは調査区外の北壁に付設されていると考えられる。ピットは支柱穴が2基と入口部に2基, 南東コーナーに浅い凹み(深4cm)が1か所検出された。住居全体の覆土中央部は現地表面より25cmほど凹んだ状態で、完全に埋まりきっていない様子が確認され



第45図 SI-024

た。覆土下層ほど炭化物・焼土が多く、焼失住居と考えられる。玉類は床面直上の層(第7～9層)からの出土が目立つ。床面には明瞭な硬化面は確認されなかった。南西コーナーに炭化材が出土した。間仕切り溝状の掘り込みもその周辺で確認できた。周溝は全周し、平均的な深さは2.5cmである。

遺物は一般土器類の出土は少ない。ミニチュア土器や土製品・石製品などの特殊遺物が多く出土し、他の遺構に比べ異質である。玉類は南東コーナーを中心に出土した。覆土下層についてはすべて土をフルイ掛けにより玉類の検出を行った。他に石製紡錘車の破片、釣り針状の鉄器(金7)が出土した。

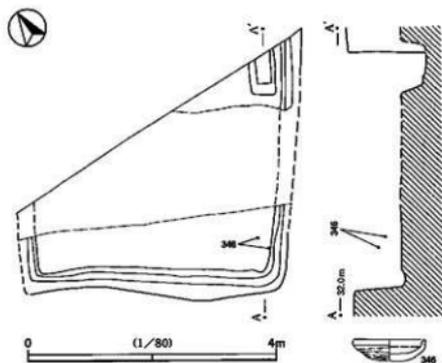
実測個体以外では、坏類はほとんどが黒色処理された破片であった。甕類は口縁部破片が1点、他は胴部破片である。その他は手捏土器の破片が2個体分確認できた。

SI-025 (第46・74図, 第7・8表, 図版16・36)

2B-17グリッド周辺に位置する。方墳(SM-001)築造前の住居跡で、北側半分は調査区外にあたる。わずかに残った覆土の状況は人為的な埋め戻し土とは考えられず、自然堆積後、古墳の周溝が住居中央部に掘り込まれたと考えられる。平面形は方形で、主軸はN-36°-W、規模は推定主軸長4.08mである。掘り込みは確認面(旧表土)から72cmである。カマドは調査区外であるが、恐らく北西壁に付設されていると考えられる。ピットは確認できず、貯蔵穴の一部が検出された。貯蔵穴は角のしっかりとした方形である。壁周溝は古墳周溝に削られていない部分では検出された。深さは平均4.8cmである。古墳の盛土中・旧表土中出土遺物には、この住居の遺物が混入している可能性が高い。

遺物は多く出土しなかった。坏(346)は内外面共に黒色処理され、外面には輪積度がみられる。器形は体部の中位が屈曲し、須恵器の蓋を模倣したものの可能性がある。

実測個体以外はほとんどが小破片で、総点数は64点と少ない。甕類はほとんどない。坏類で形状の分かるものは数点で、黒色処理された須恵器模倣の土師器坏と碗状の赤彩坏破片が確認できた。

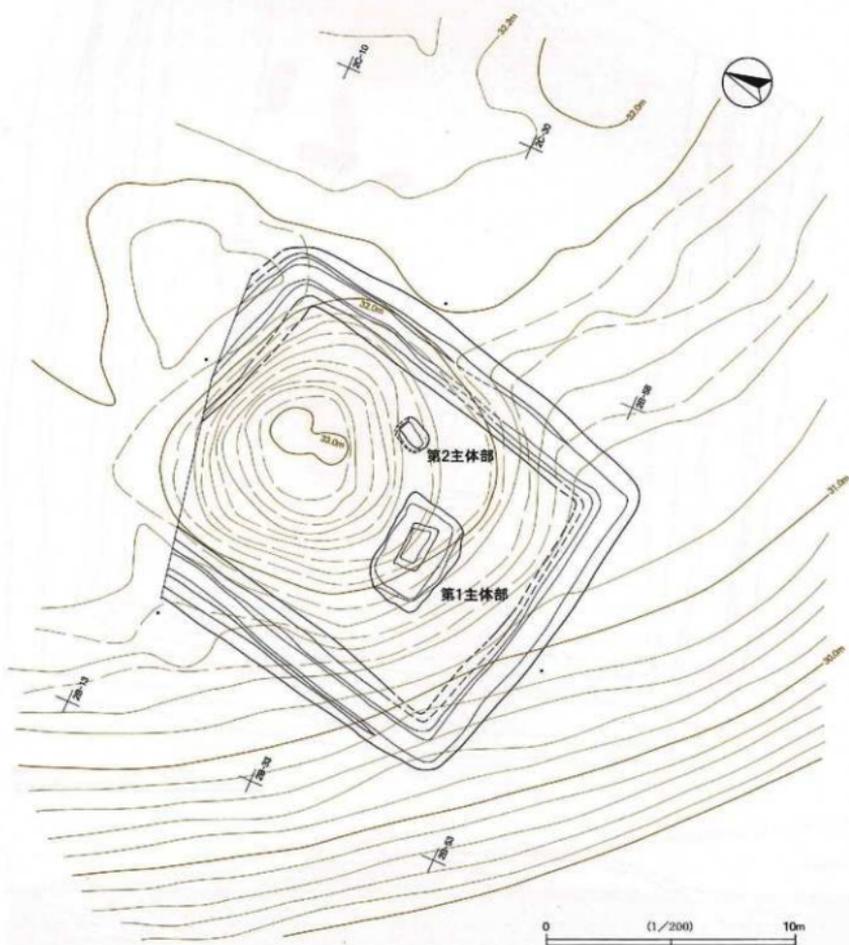


第46図 SI-025

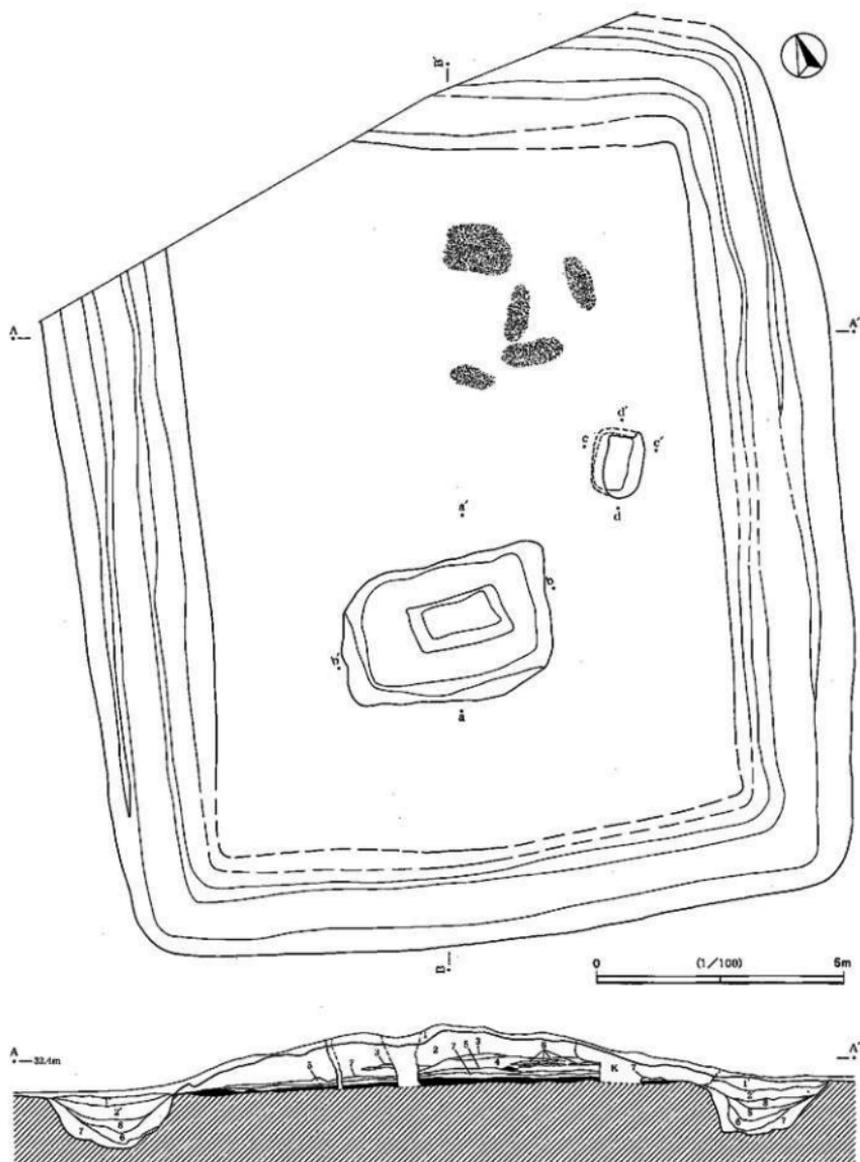
第2節 古墳

SM-001 (第47図, 図版17)

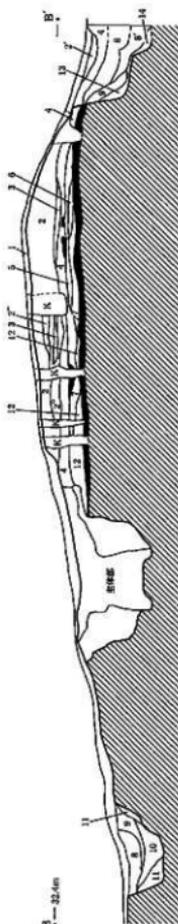
古墳は調査区西端の台地縁辺部に1基確認された。主体部は墳丘中央よりやや南に箱式石棺1基と東側に側壁挟り込みの土壌が1基検出された。調査区外には、古墳と思われる高まりは確認されず、本台地上には、古墳1基のみ造営された可能性が高い。



第47図 SM-001地形測量図



第48图 SM-001 填丘·周溝断面图(1)



SM-001

1. 現土
2. 黄褐色土：ローム主体
3. 黄褐色土：腐植層の付いたもの
4. 黄褐色土：腐植層とばらばら、やや色鮮やかなる
5. 黄褐色土：ローム主体
6. 黄褐色土：腐植層・粘土粒層
7. 黄褐色土：ローム主体
8. 黄褐色土：ローム少量・粘土粒層腐植層・しまり岩
9. 黄褐色土：しまり岩
10. 黄褐色土：しまり岩
11. 黄褐色土：しまり岩
12. 黄褐色土：ローム少量・しまり岩・腐植層
13. 黄褐色土：ロームブロック少量
14. 黄褐色土：ロームブロック少量

■ 現土

■ 現土

1 墳丘と周溝 (第48・49図, 図版17)

古墳は2B-35グリッド周辺に位置する。平面形は南北に長い長方形で、規模は長軸長18.8m, 短軸長は15.6mである。盛土厚は最大で1.1m(現表土層含む)である。主軸はN-12°-Eで、明確に北を意識した築造である。盛土は墳丘中央部ではなく、やや北寄りをピークにして、なだらかに墳丘が築成されている。盛土は黄褐色土(ローム)を主体にして水平に積まれた様子が確認できたが、細かく分層出来るほど明確な単位での版築状ではない。部分的に旧表土由来の黒色土が混じるが、互層にするなどの規格的な様相はみられない。第1主体部の掘り込みは盛土を切って構築されており、主体部の造営は盛土を終えた後である。墳丘北東部の旧表土面を精査中に焼土と炭化物粒のまとまった範囲が5か所で検出された。焼土の厚みは薄く、硬化もみられないため、短期間の使用と考えている。弥生時代の遺物も含まれており、直接、墳丘築造に伴う行為の痕跡とは断定できないが、参考にトーンで図示した(第48図)。

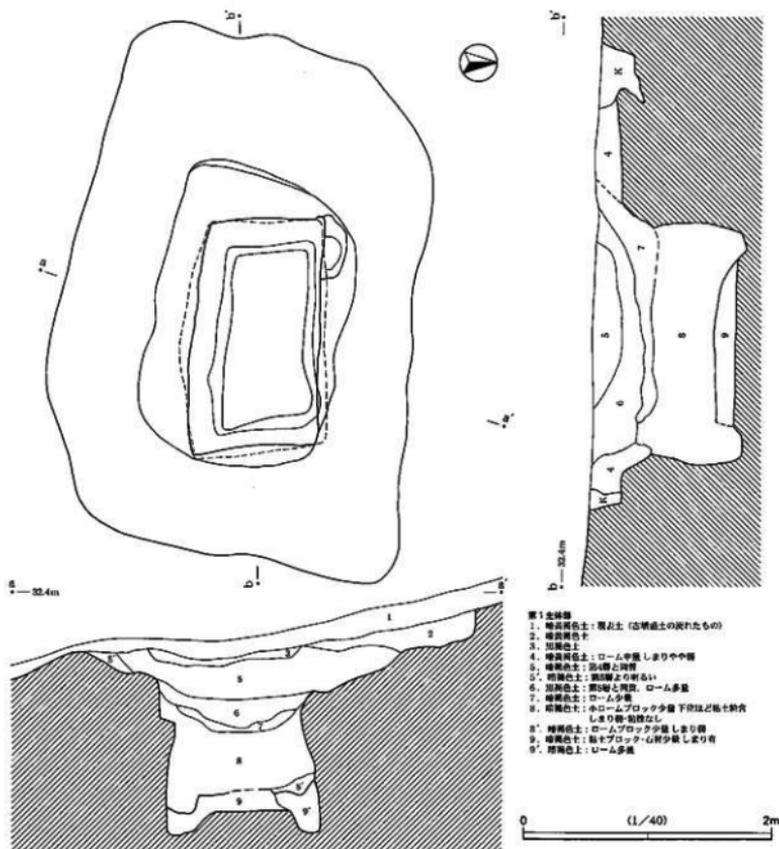
周溝は平均幅2.55m, 深さ1.0mである。北側で、SI-025と切り合うが、こちらの方が新しい。形状は立ち上がりが急角度な逆台形を基本として、中央部が一段低く掘り込まれる。しかし、確実にその段差を確認できたのは北側のSI-025と切り合う部分だけであった。他の部分はちょうどレベル的に地山のハードロームとの境にもあたりボロボロと崩れ、明瞭に検出することができなかった。周溝覆土はレンズ状堆積で、人為的な様相はみられない。

2 主体部

第1主体部 (第50～52図, 図版18・19)

第1主体部は絹雲母片岩製板石による箱式石棺である。石棺平面形は長軸がほぼ南北の周溝に並行する方で、規模は推定で長軸1.85m, 短軸1.13mである。掘り方はやや不整形な方形で長軸4.22m, 短軸2.81m, 深さは現表土から1.35mで、石棺規模

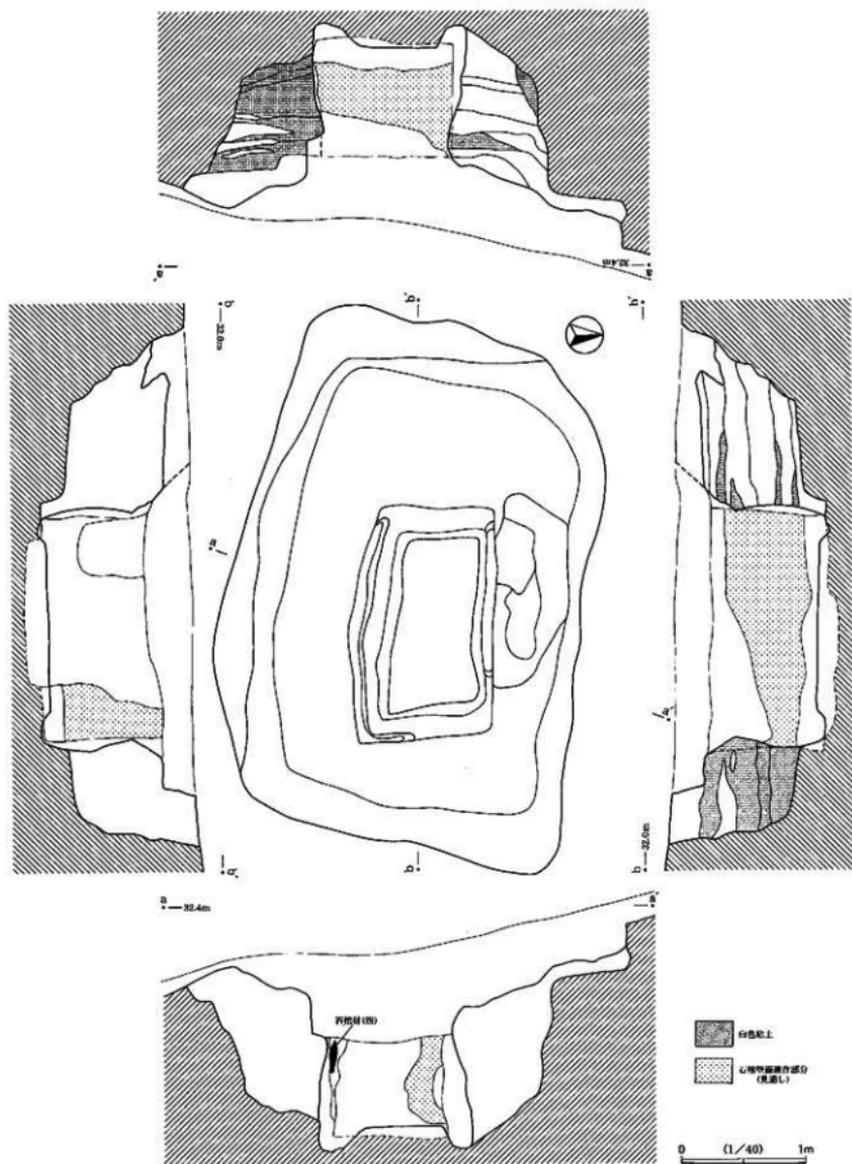
第49図 SM-001墳丘・周溝断面図(2)



第50図 SM-001第1主幹部(1)

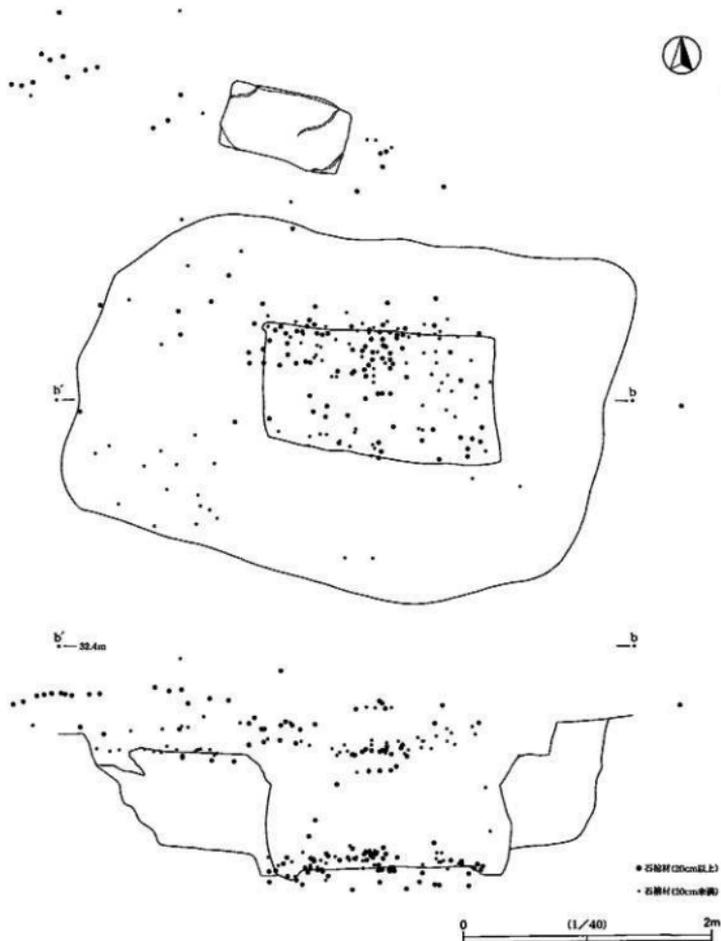
の割りに規模が大きい。

調査では現表土をベルトを残しながら平らに掘り下げるとすぐに、掘り出された蓋石の1枚が第1主幹部の中心から2m北東側で出土した(第52図)。当初は、その出土位置周辺に主幹部があると考えて、掘り進めたが、実際はその南東側を中心に黒色土が広がり、石棺材が抜き取られていたことが判明した。その後、黒色土の範囲を掘り下げると周辺から白色粘土の分布が検出され、掘り方の大きさを捉えることができた。ベルトの再設定を行い、石棺部分の掘り下げを行ったが、石棺材の小破片は出土するが、箱式石棺として設置された状態を留めていたものは、南西コーナーで、掘り方に突き刺さるように出土した長さ25cmの破片のみであった(第51図)。このことは、北西コーナーでの掘り込み(第50図)を考え合わせると石棺は長軸



第51图 SM-001第1主体部(2)

方向(小口側)に石材が飛び出すように組まれたことを示している。また、同じ北西コーナーには大きく抉れた部分があり、蓋石をまずこの位置からはずした痕跡と考えられる。第1主体部周辺の石棺材の出土状況(第52図)を見てみると、主体部確認面全体のレベルと石棺の最下層部分にまとまる。主体部確認面レベルの出土は石棺材抜き取りによって破片が散らばった状況を示し、最下層出土の石棺材破片は石棺埋設の際に床面を平らに補強するために意図的に入れられたものと考えられる。石棺内の覆土最下層の第9層は石棺床面の下に敷かれていた層と捉えられる。しかし、石棺材抜き取りの際に部分的に底面が荒らされて



第52図 SM-001第1主体部 石棺材出土状況

いたため、断面図には石棺床面ラインは引けたが、平面的には明瞭に捉えきれなかった。第8層は石棺材抜き取り後一気に埋まった層と考えられ、その後凹んだ部分に第7層以下が堆積したものと考えられる。

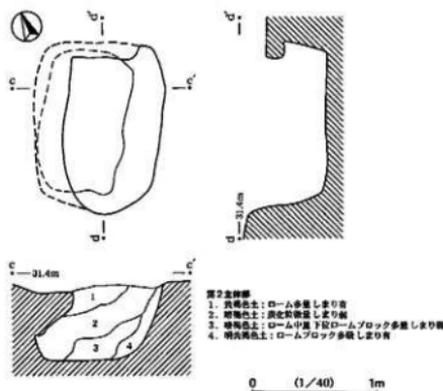
石棺の側面壁側は4面共に比較的良好に遺存していた。側壁の石棺材を丁寧に剥がして抜き取ったものと考えられる。側壁石材には白色粘土が側面壁との接地面に使用されたため、側面壁に遺存する白色粘土の痕跡(第51図網トーン部分)が側面板石の位置を明瞭に示している。その下端は第9層レベルまでは及んでいないことから、第9層上面が石棺床面のレベルと考えて良いであろう。

石棺規模からみて、最初に出土した板材(100×60×2.5cm)は側壁ではなく蓋石であり、石棺主軸に直交するように同規模の板材が3枚で蓋をしていたということが想定できる。今回の発掘調査で出土した石材の総重量は255.91kgであり、蓋石一枚は89.4kgである。よって蓋石2.86枚分の石材のみが古墳周辺に残されていたことになる。

掘り方部分は、断面観察により粘土を主体とする土とロームを混ぜた土とで段階的に裏込めとして固めていった様子が明瞭に確認できた(第51図)。部分的に白色粘土が多い部分と少ない部分があり、厳密に掘り方全体を水平に埋めていないことも明らかになった。石棺設置部分以外は石棺床面程度の深さまで掘り込みを行っている。石棺設置部分是一段深く掘り込み、側壁板材の埋め込み部分は周溝状に深く巡る。その溝状部分の北側は若干形が崩れているが、石棺材の抜き取りによって荒らされたのではなく、実際掘り方掘削時のゆがみである。

第2主体部 (第53図, 図版20)

盛土を平均的に掘り下げている時点で検出された。北東部分には木の根の攪乱があり、天井部の開口部分の形も不整形であったため、プランの確認が遅れ、掘り込み開始面を明らかにすることが出来なかった。規模は最大値で長軸が1.4m、短軸が1.0mである。下場(掘り込み)の規模は長軸1.13m、短軸0.66mである。掘り込みの深さは確認面から0.6mである。明瞭ではないが、主体部底面には掘り込んだ際の工具痕(幅10~15cm)の凹んだ跡が短軸方向に並行して3列確認することが出来た。覆土の第1層はしまりのある混じりの少ない土(ローム)であり、天井部の痕跡と考えられる。土は東から流れ込んだように堆積していた。

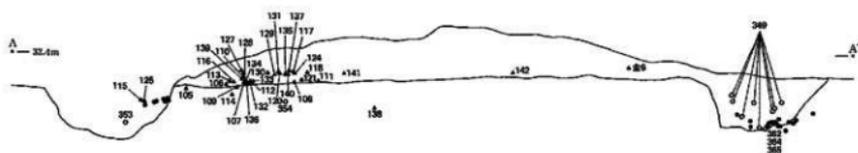
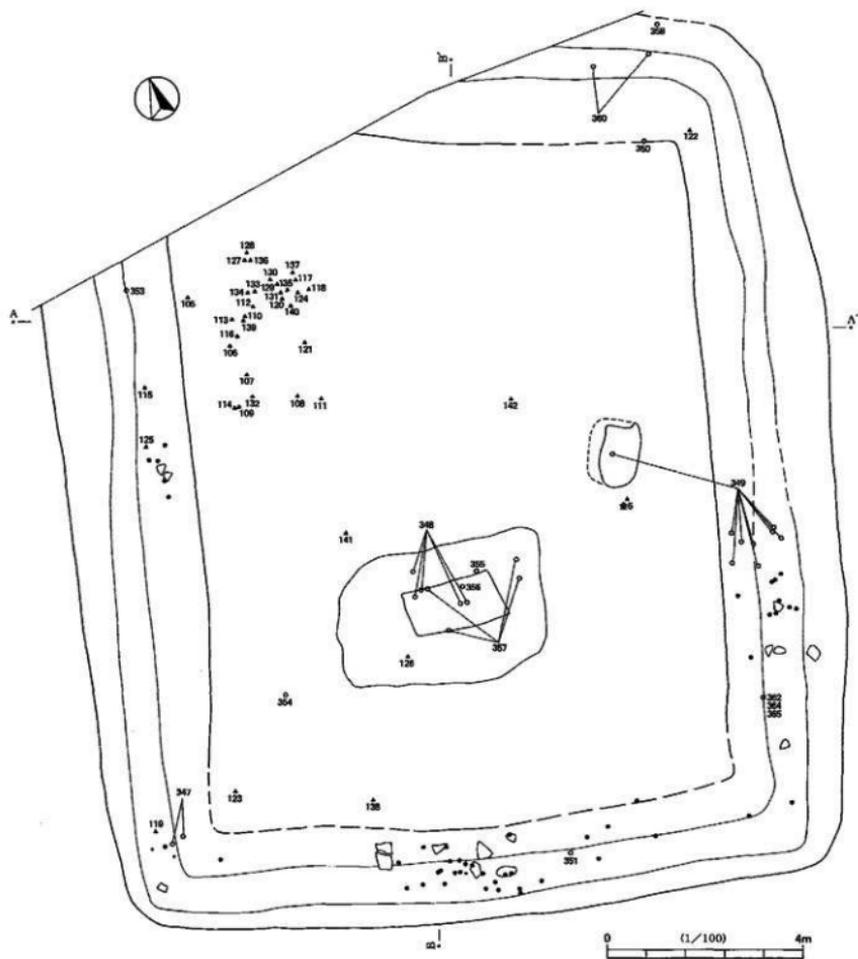


第53図 SM-001第2主体部

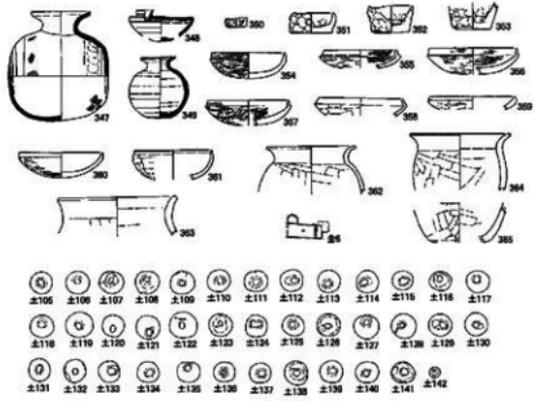
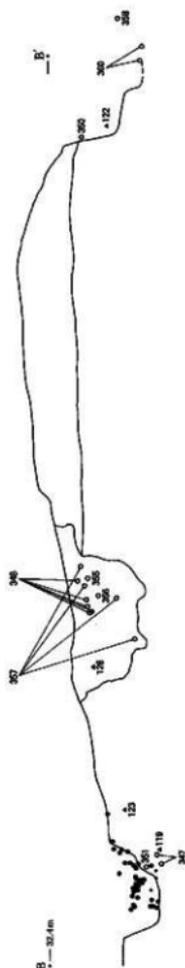
3 出土遺物 (第54・55・74・76・78図, 第8・9・11表, 図版20・26・28・36)

石棺材まで完全に抜き取られている状況からも分かるように、副葬品はほとんど出土しなかった。石棺の平面プランが確定してからは覆土についてすべてフルイ掛けを行ったが、副葬品は皆無であった。石棺石材を抜き取る際に完全に持ち去ったか、もともと多く副葬されていなかったと考えられる。

第1主体部からは須恵器の水滴椀の小型平瓶と土師器坏類が破片で浮いた状態で出土した。平瓶(348)は



第54図 SM-001遺物出土状況(1)



第55図 SM-001遺物出土状況(2)

色調が白みを帯び、非常に薄手で、口縁の立ち上がりは直線的で短い。類例は少なく時代を特定できないが、奈良時代以降の可能性が高い。土師器
 坏類はほとんど須恵器模倣坏であり、黒色処理が施される。第2主体部から
 は高さは明らかに出来なかったが、覆土中位～上位で須恵器の小型壺(349)
 が出土した(破片4点)。周溝中層からも同一個体破片が出土した。第2主
 体部のすぐ南からは孔のある鉄器破片が出土した。刀の基部分であろうか。
 錆で詳細は不明であるが、本体とは別に装飾部品(花状)が銕着している。

周溝からは、南西コーナー部分で須恵器模倣瓶(347)が正位で立った状態
 で出土した。胴部に割られた部分があり、意図的な行為と考えられる。他
 に土師器甕、ミニチュア土器が出土したが覆土中位からである。石棺材は
 周溝床面に近い部分と、覆土中層からの出土が多い。位置としては南西側
 の周溝に多く、北側周溝からは出土していない。特に中層から出土した石
 棺材は大型のものが多く、石棺材の抜き取りは周溝が半分ぐらい埋まった
 時期に行われた可能性が高い。

墳丘では、特に北西部分の旧表土面を中心に土玉が多量に出土した。旧
 表土面より上の盛土中からも出土していることは、墳丘築造の盛土前に墳
 丘北西にあたる部分において土玉を使用した行為が行われ、その後、その
 部分の周溝を掘り上げた際に盛土に混じったと考えられる。

- 石棺材(30cm以上)
- 石棺材(30cm未満)
- 土師器
- ▲ その他(土師器・金銅製品)

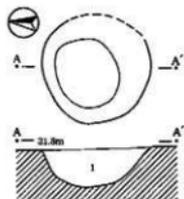
第3節 その他

ここでは、時代を決定できなかった遺構と遺構外出土遺物について説明する。

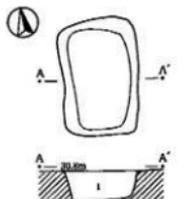
1 遺構

SK-001 (第56図)

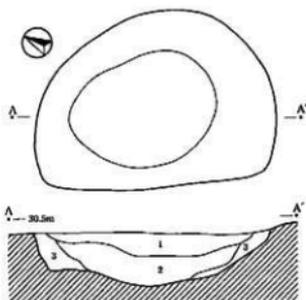
3D-73グリッド周辺に位置する。SI-016の平面プラン確認時に検出された。平面プランは確実にSI-016を切っており、こちらが新しい。出土遺物は小破片11点であり、時期は確定できない。比較的薄手の土師器片が中心であり、内面黒色処理された坏破片もみられることから、奈良時代に降に属する可能性も考えられる。平面形はいびつな円形で、径0.9m、深さ0.28mである。覆土はしまりの弱い暗褐色土である。底面は平らで、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。



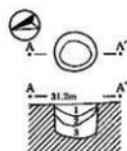
SK-001
1. 暗褐色土：ローム状しまり土



SK-002
1. 暗褐色土：粘性有しまりなし



SK-003
1. 暗褐色土：ローム状 弱粘地層
2. 暗褐色土：ローム状 弱粘地層
3. 灰褐色土：ローム上層



SH-001
1. 暗褐色土：ローム状少量しまり強
2. 暗褐色土：ローム状少量
3. 暗褐色土：ローム・ローム状少量

0 (1/40) 1m

第56図 SK-001～003・SH-001

SK-002 (第56図, 図版16)

2C-87グリッド周辺に位置する。SI-018を掘り終えた際、床面にプランが確認できたため、検出された。SI-018より古い、出土遺物は小破片3点のみで、時期は確定できない。縄文時代中期小破片も含まれ、縄文時代の可能性もある。平面形は不整形円形で、長軸1.94m、短軸1.44m、深さ0.44mである。平面形はいびつで、底面も平らではなく、壁面は比較的緩やかに立ち上がる。

SK-003 (第56図)

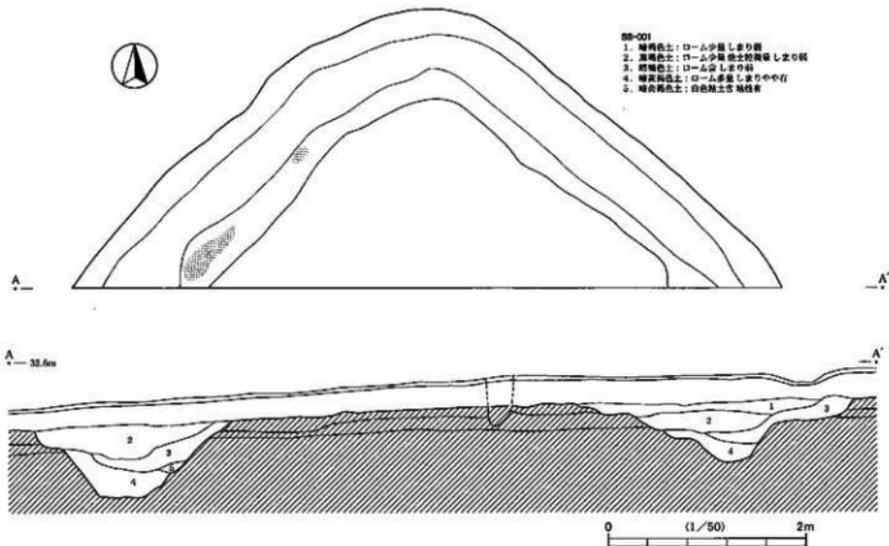
2B-57グリッド周辺に位置する。平面形は長方形で、長辺0.95m、短軸0.6m、深さ0.2mである。掘り込みは比較的しっかりしている。底面は平らで、壁面は急激に立ち上がる。遺物は土師器小破片1点のみで、時期は確定できない。台地が西側に傾斜しはじめる位置であり、形状・規模から住居に伴う貯蔵穴の可能性が考えられるが、周辺にピット類は検出されなかった。

SH-001 (第56図)

2C-54グリッドに位置する。周辺に土師器片が出土したことから、精査を行い検出された。周囲も広範囲に再精査を行ったが、確実に組めるピットは検出されず、単独である。平面形は円形で、径0.34m、深さ0.28mである。出土遺物の時期は古墳時代後期と考えられるが、小破片であり実測はできなかった。

SS-001 (第57図, 図版16)

3D-82グリッド周辺に位置する。平面形は方形と考えられるが、半分以上が調査範囲外となり、規模は判然としない。周溝幅0.9m、深さは0.72mである。周溝の掘り込みはしっかりしている。現表土からの断面を観察する限り、盛土は行われておらず、周溝の内側に白色粘土の分布がみられることから、方形区画墓と考えられる。形状からは古墳時代以降の所産と考えられるが、出土遺物は古墳時代後期土師器の小破片が主体だが、明確な時期・遺構の性格は不明である。周溝底面は平らで、壁面は45°で立ち上がる。

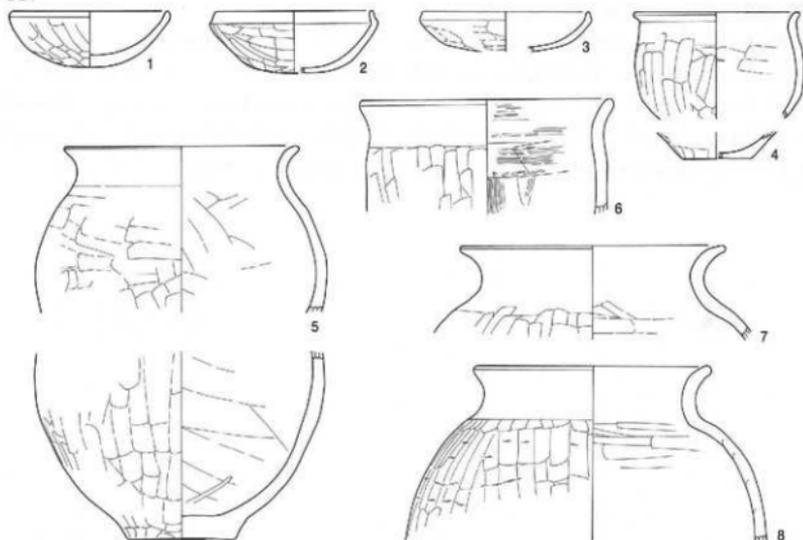


第57図 SS-001

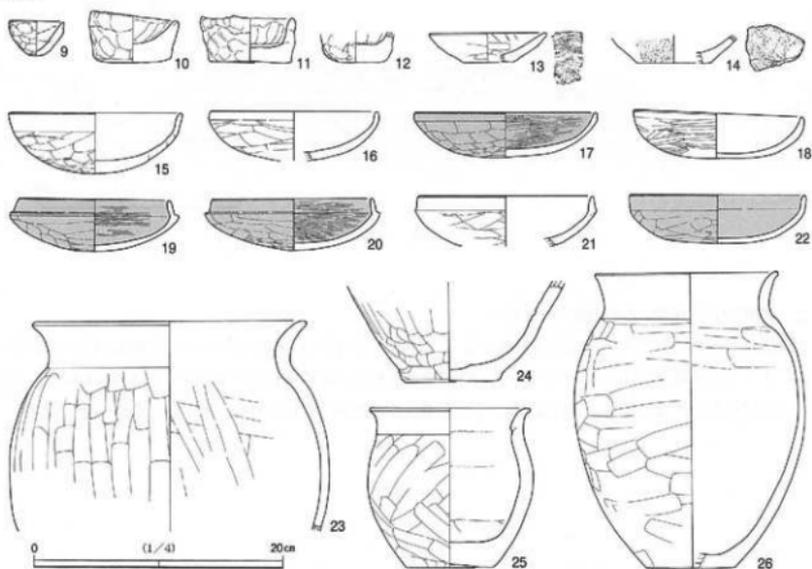
2 遺構外出土遺物 (第74図, 第8表)

遺構外から出土した土器はそれほど多くなく、古墳時代以降で、実測可能である個体は2点のみであった。1・2は土師器の坏である。いずれも内外面赤彩された古墳時代後期の坏である。1は3D-64グリッド出土で口縁部〜体部の70%、2は2E-52グリッドで全体の30%の遺存である。整形は比較的丁寧である。

SI-001

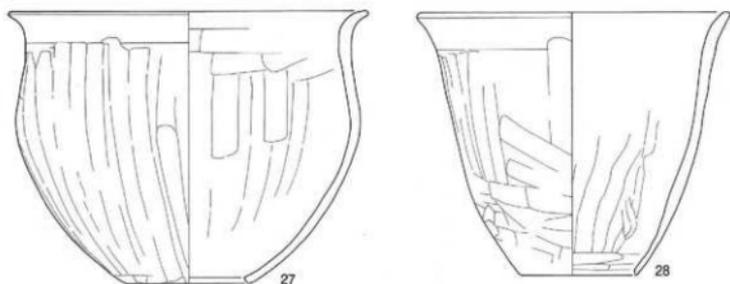


SI-002

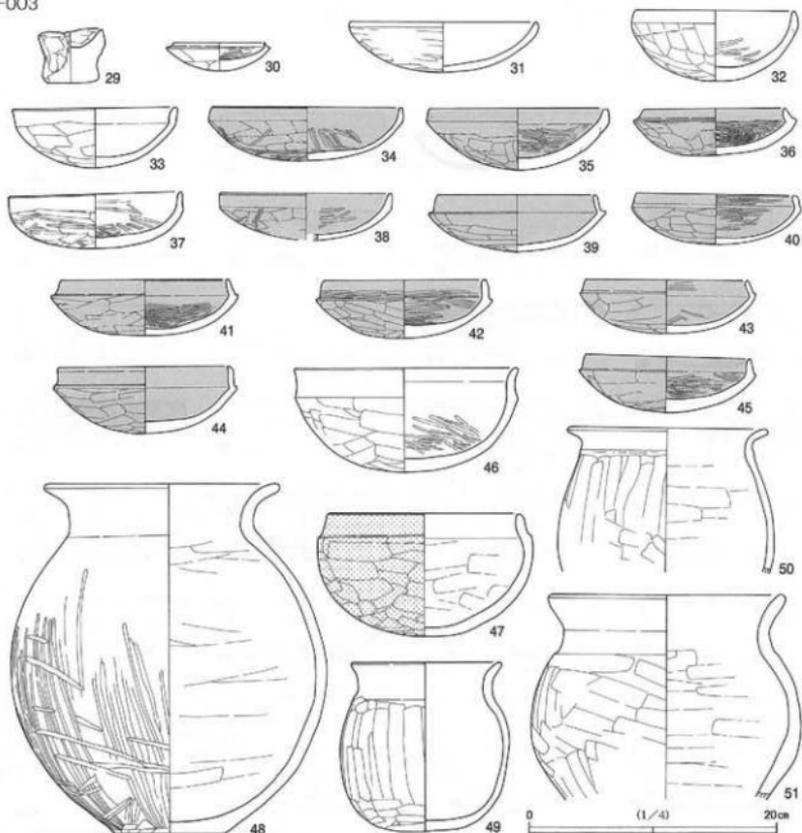


第58圖 土器類(1) (SI-001・SI-002(1))

SI-002

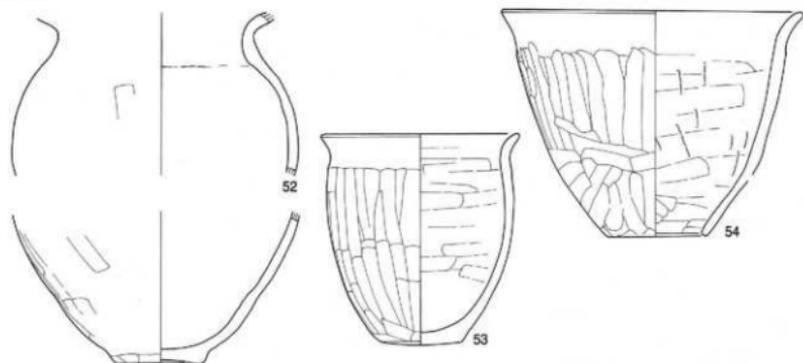


SI-003

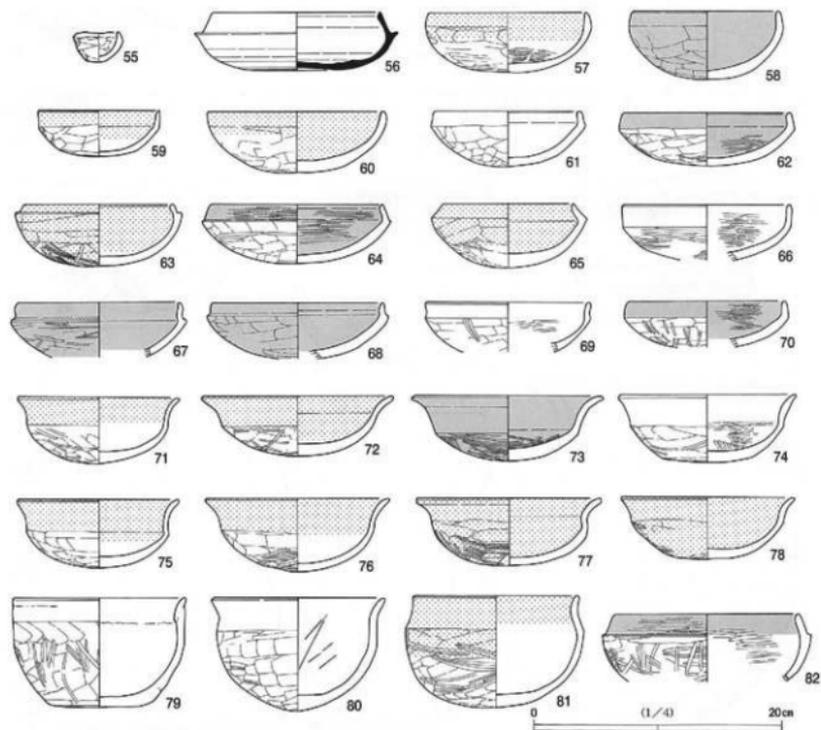


第59圖 土器類(2) (SI-002(2)・SI-003(1))

SI-003



SI-004



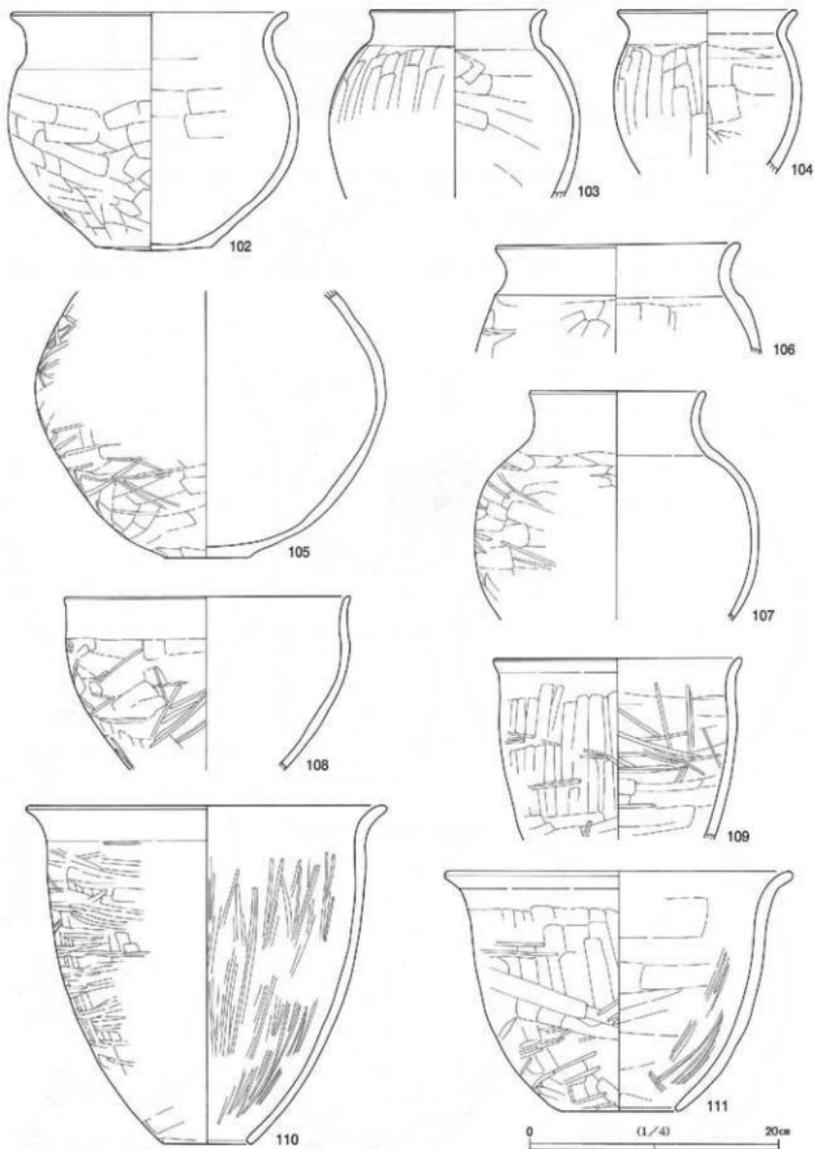
第60図 土器類(3) <SI-003(2)・SI-004(1)>

SI-004



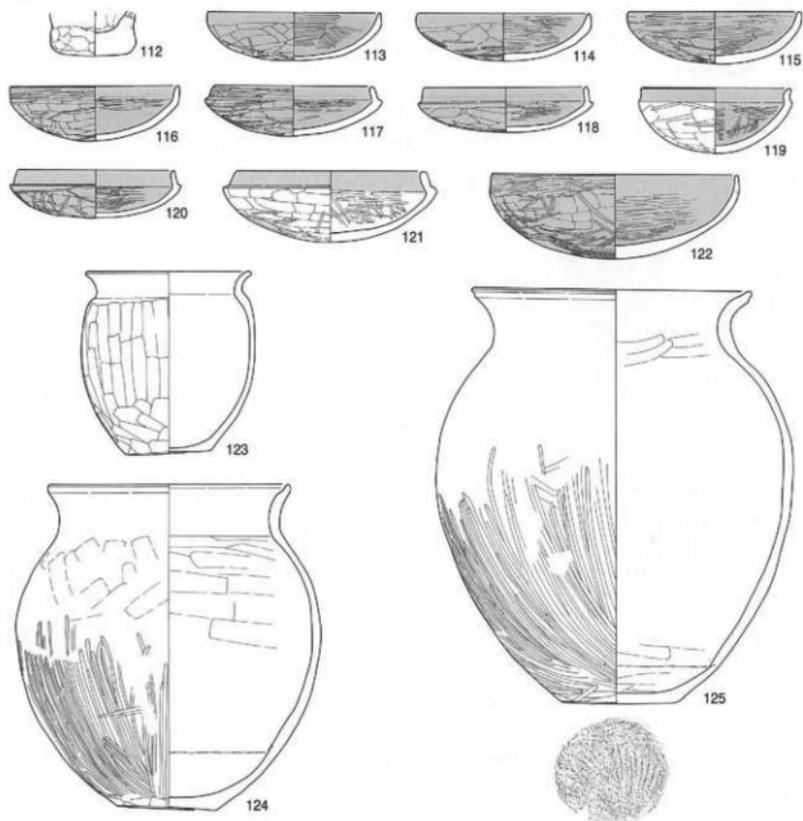
第61圖 土器類(4) (SI-004(2))

SI-004

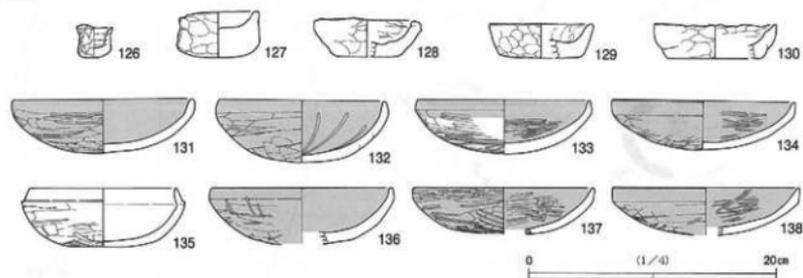


第62図 土器類(5) (SI-004(3))

SI-005

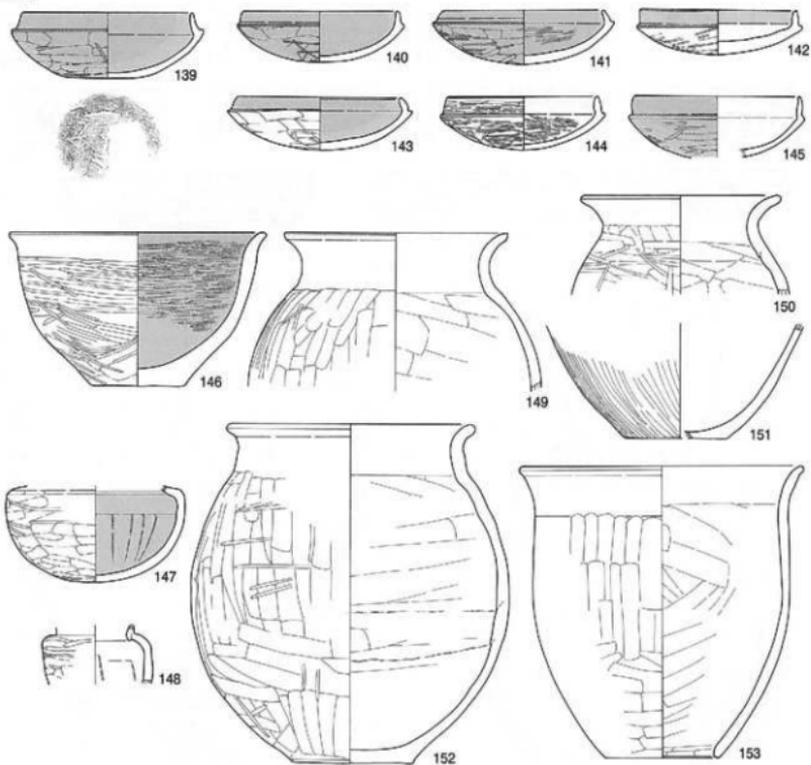


SI-006

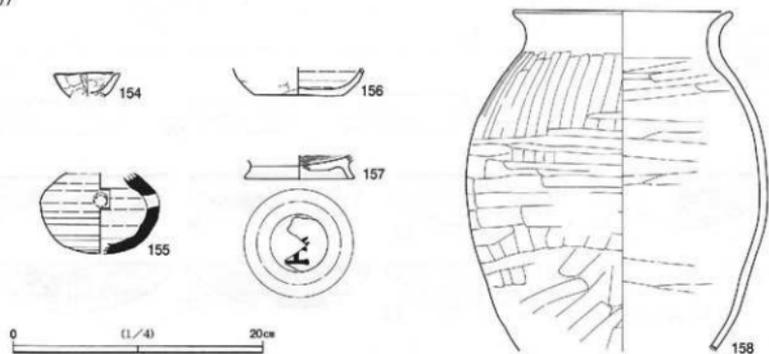


第63図 土器類(6) (SI-005・SI-006(1))

SI-006

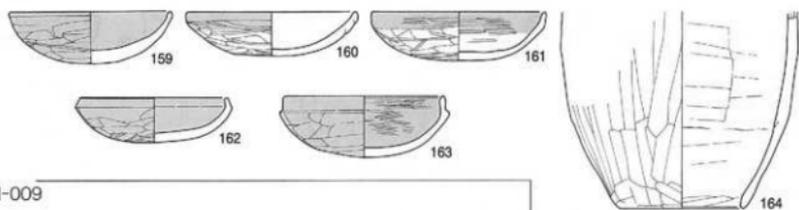


SI-007

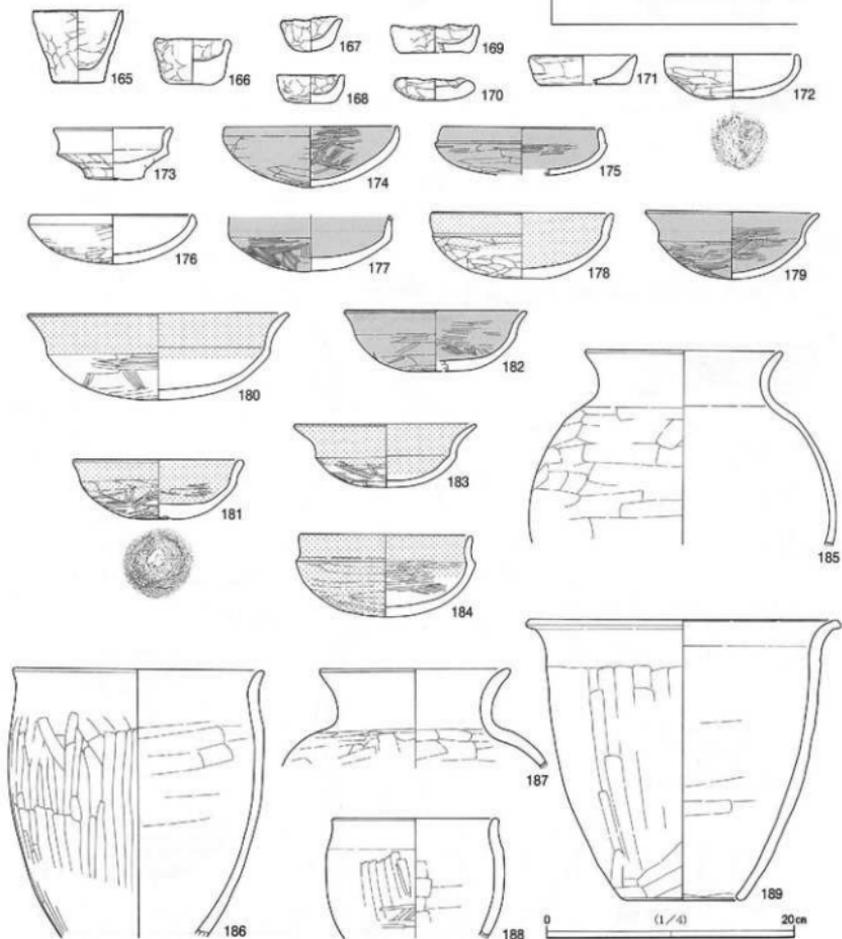


第64図 土器類(7) (SI-006(2)・SI-007)

SI-008

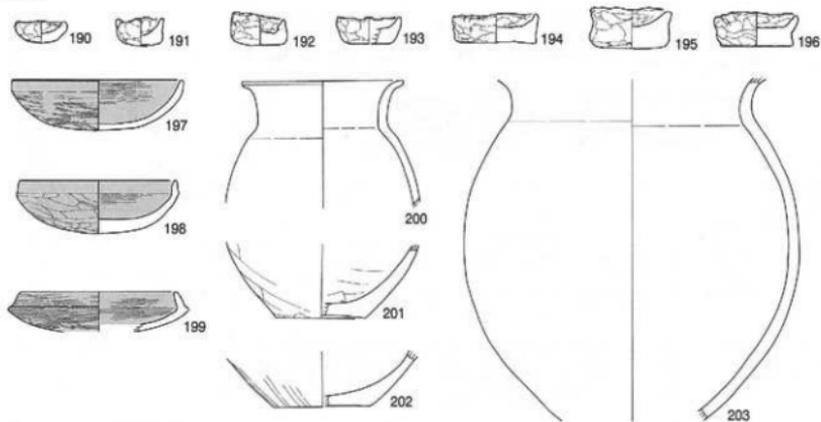


SI-009

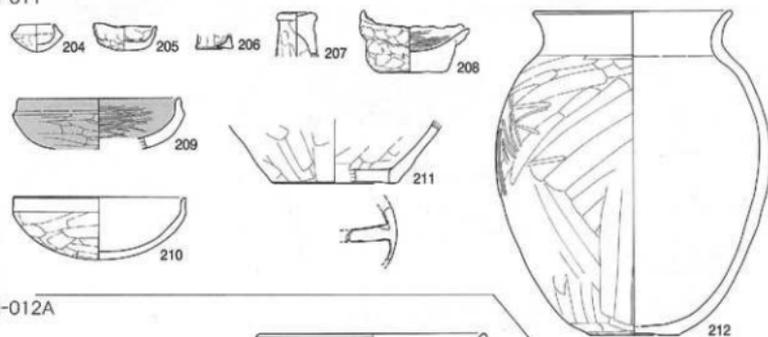


第65図 土器類(8) (SI-008・SI-009)

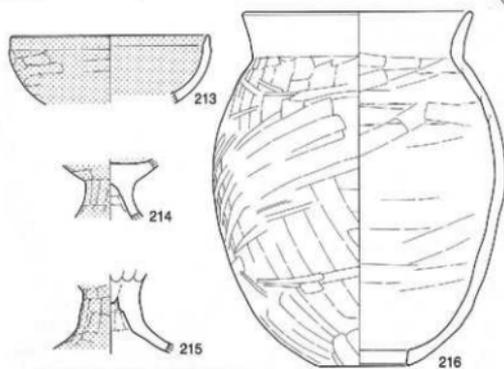
SI-010



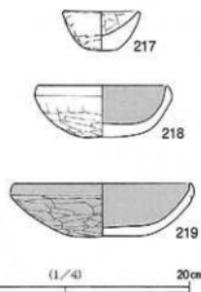
SI-011



SI-012A

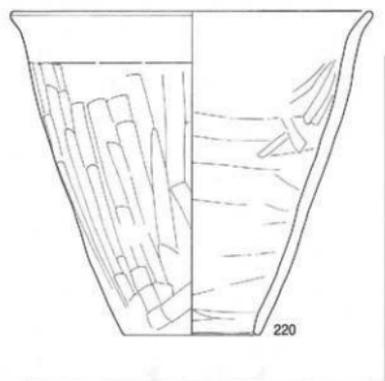


SI-012B

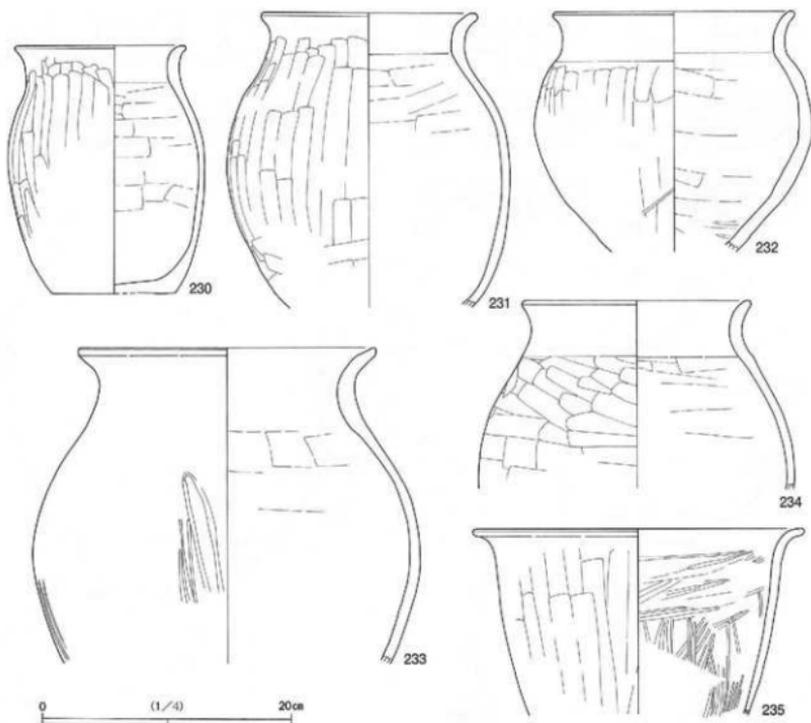
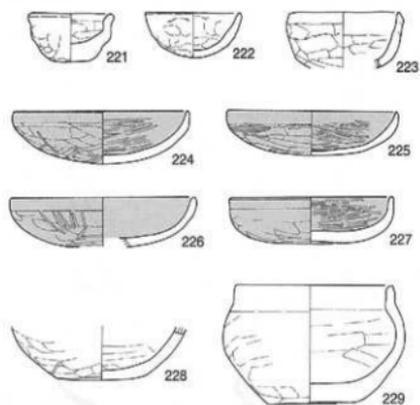


第66圖 土器類(9) (SI-010・SI-011・SI-012(1))

SI-012B

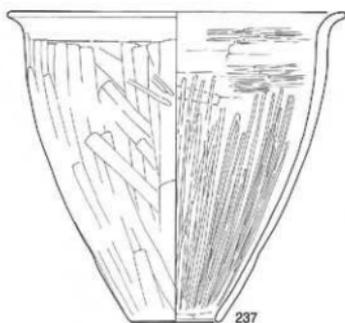
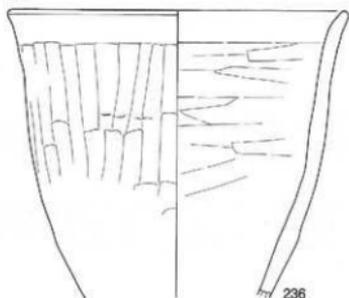


SI-012C

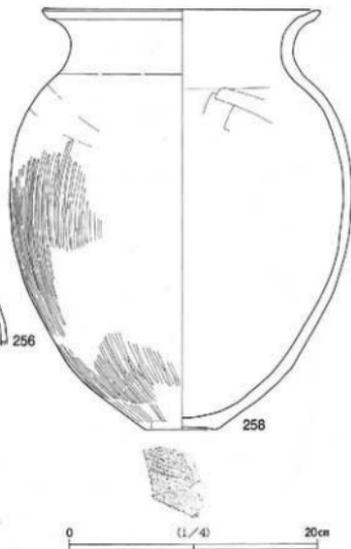
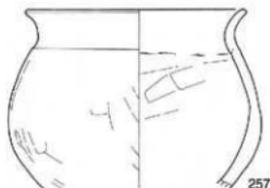
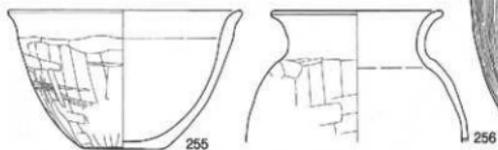


第67圖 土器類(10) (SI-012(2))

SI-012C

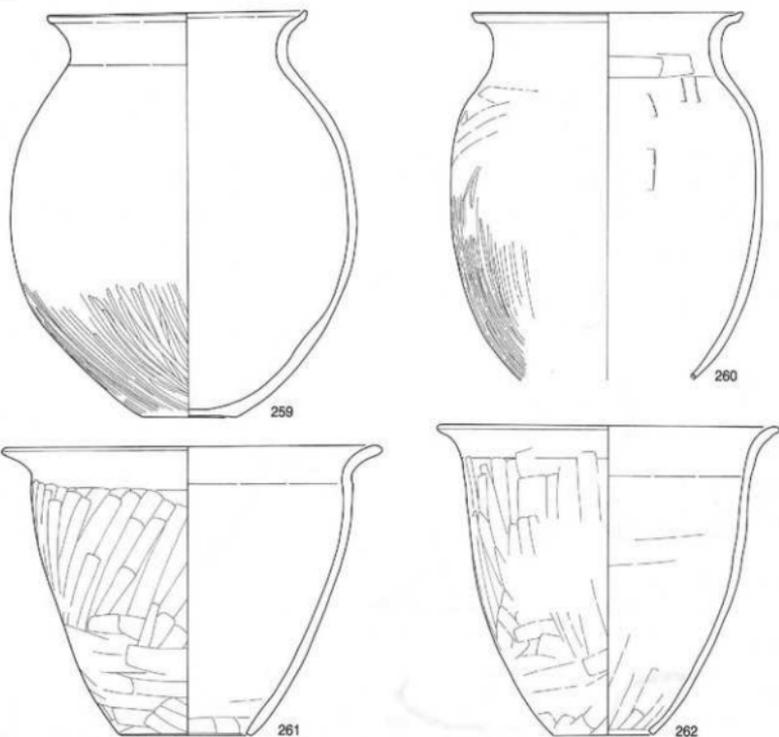


SI-013

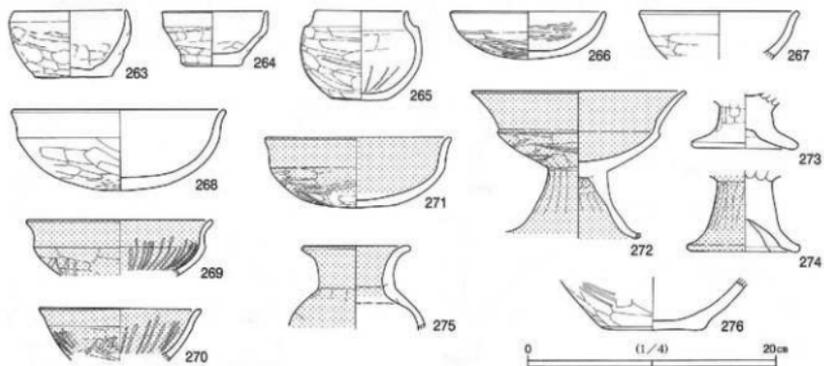


第68図 土器類(11) (SI-012(3)・SI-013(1))

SI-013



SI-014

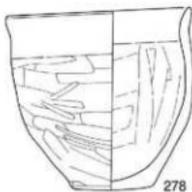


第69図 土器類(12) (SI-013(2)・SI-014(1))

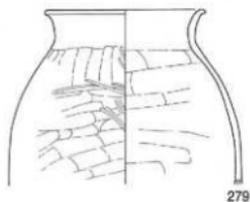
SI-014



277

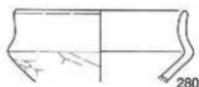


278



279

SI-015



280



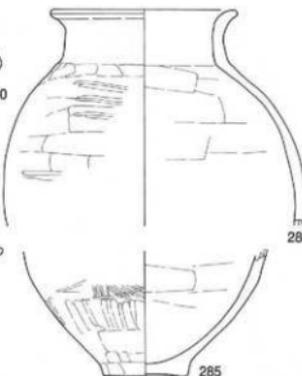
281



282

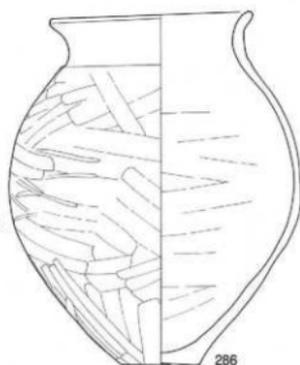


283



284

285



286

SI-016



287



288



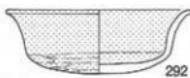
289



290



291



292



293



294



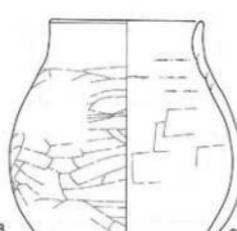
295



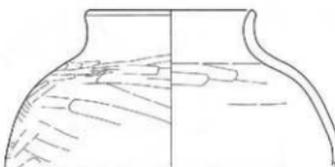
296



296



299

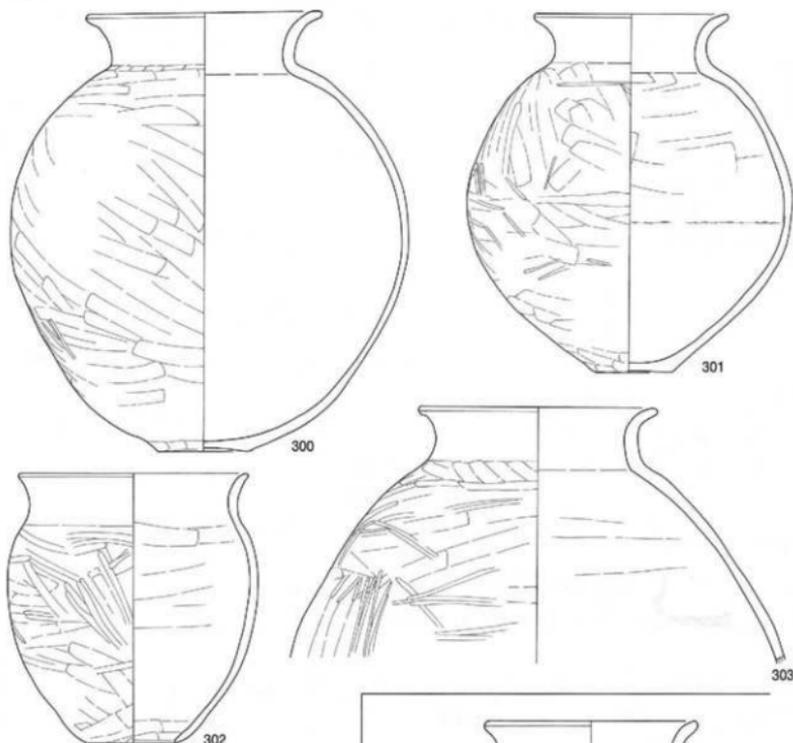


297

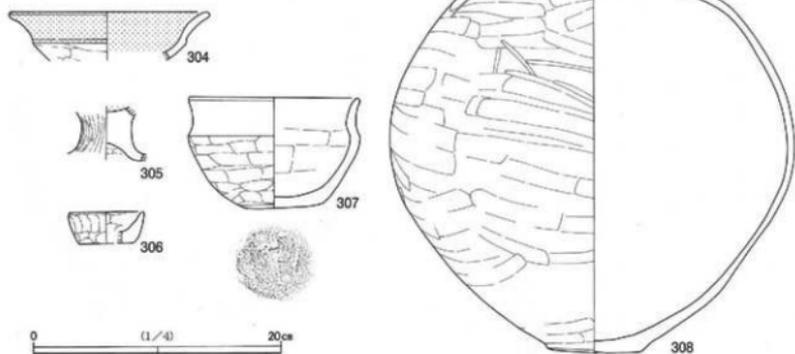
0 (1/4) 20cm

第70図 土器類(13) (SI-014(2)・SI-015・SI-016(1))

SI-016

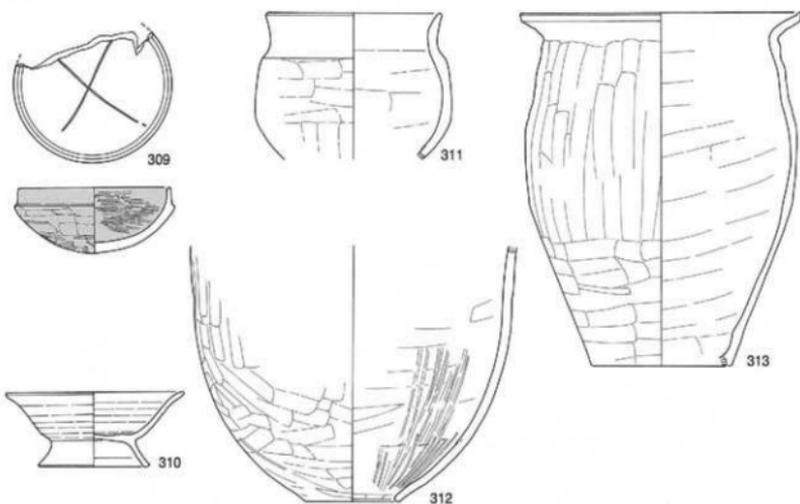


SI-017

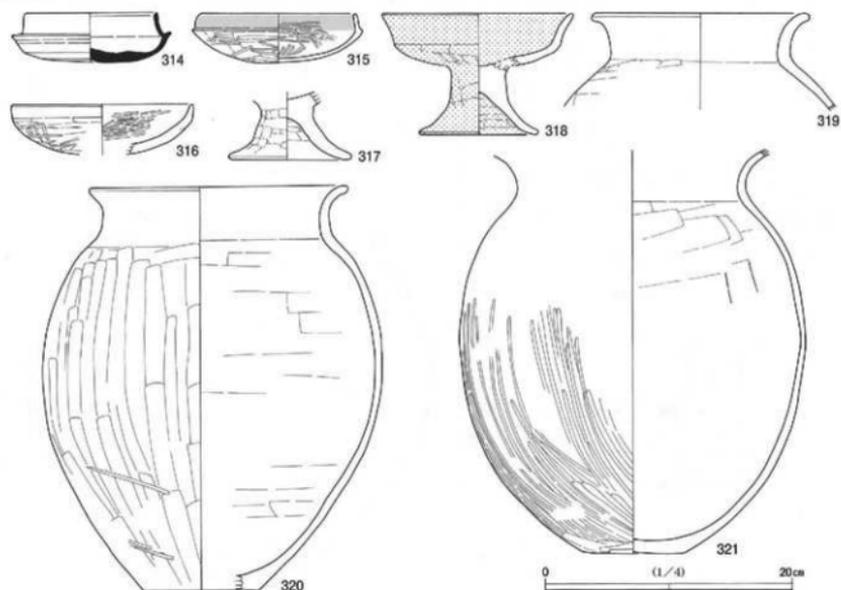


第71图 土器類(14) (SI-016(2)・SI-017)

SI-018

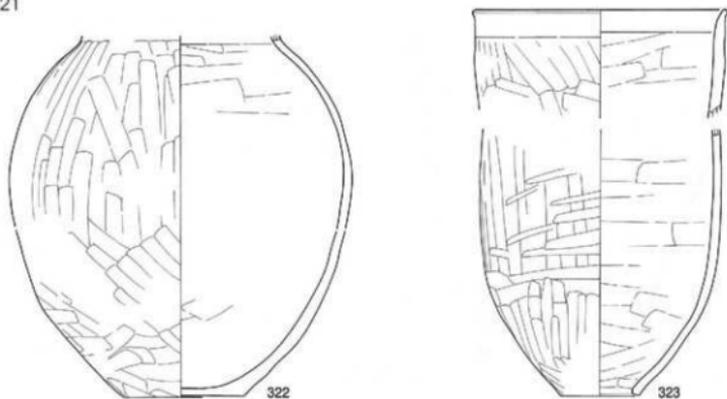


SI-021

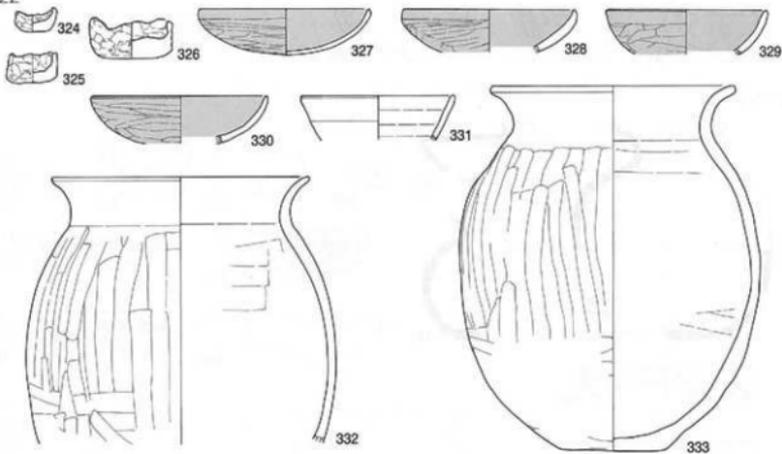


第72図 土器類(15) (SI-018・SI-021(1))

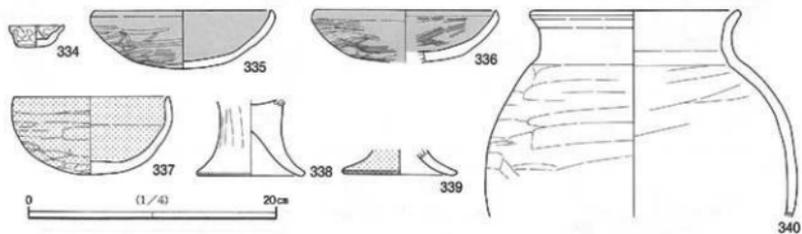
SI-021



SI-022

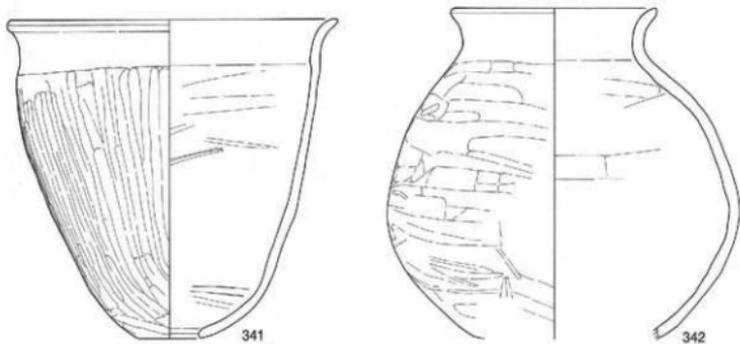


SI-023



第73図 土器類(16) (SI-021(2)・SI-022・SI-023(1))

SI-023



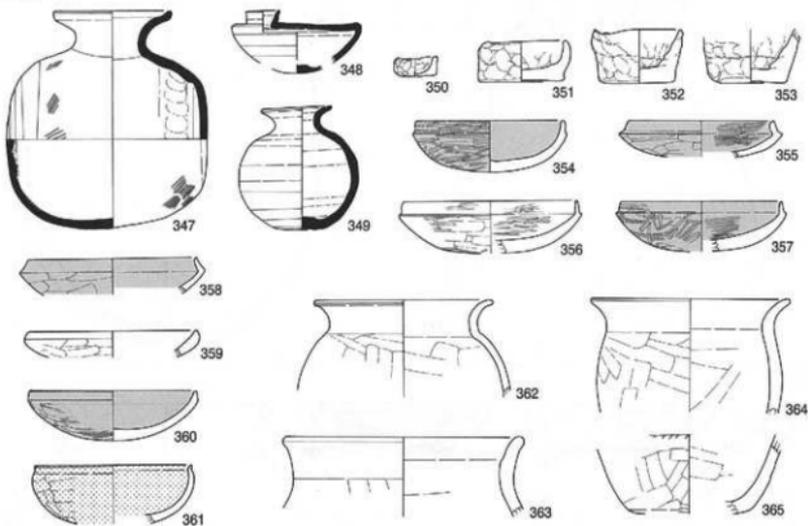
SI-024



SI-025



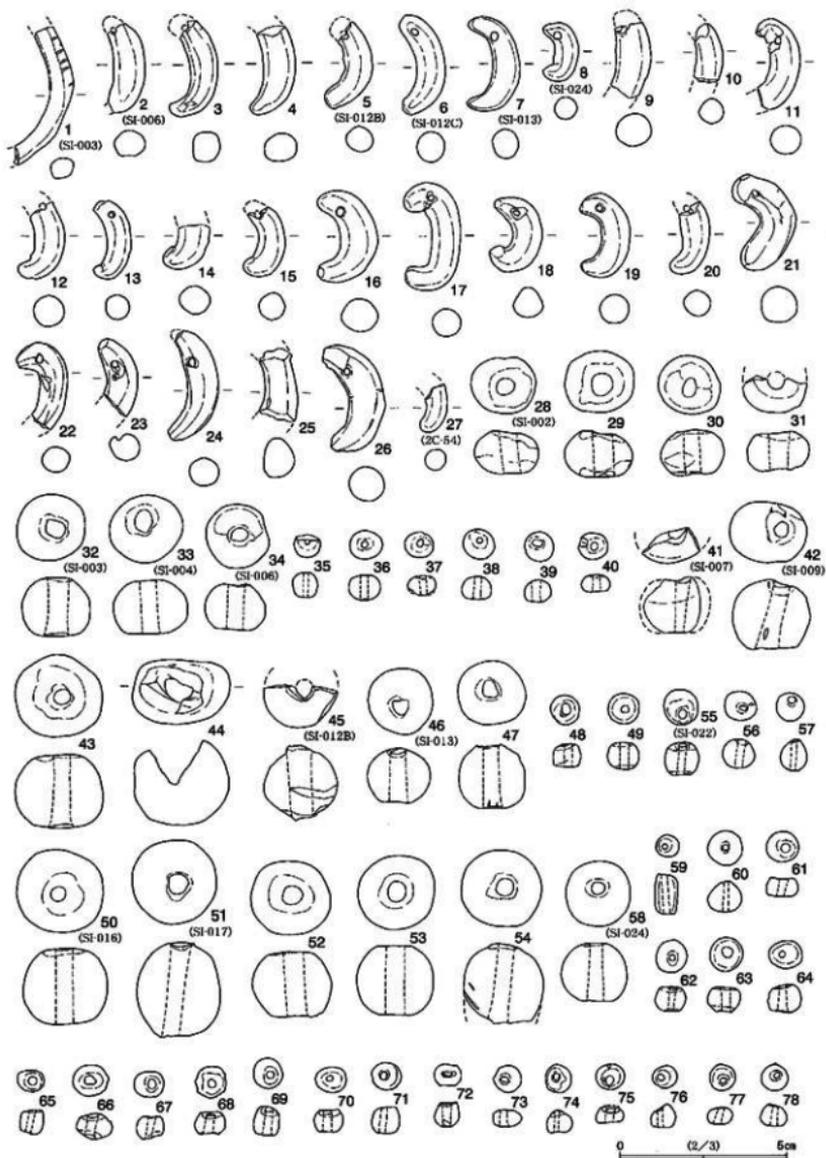
SM-001



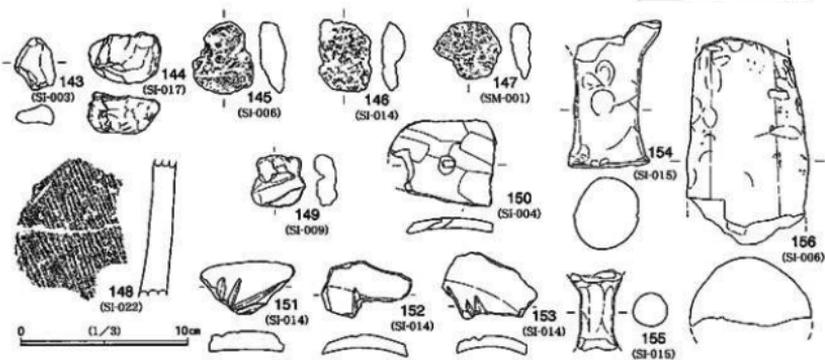
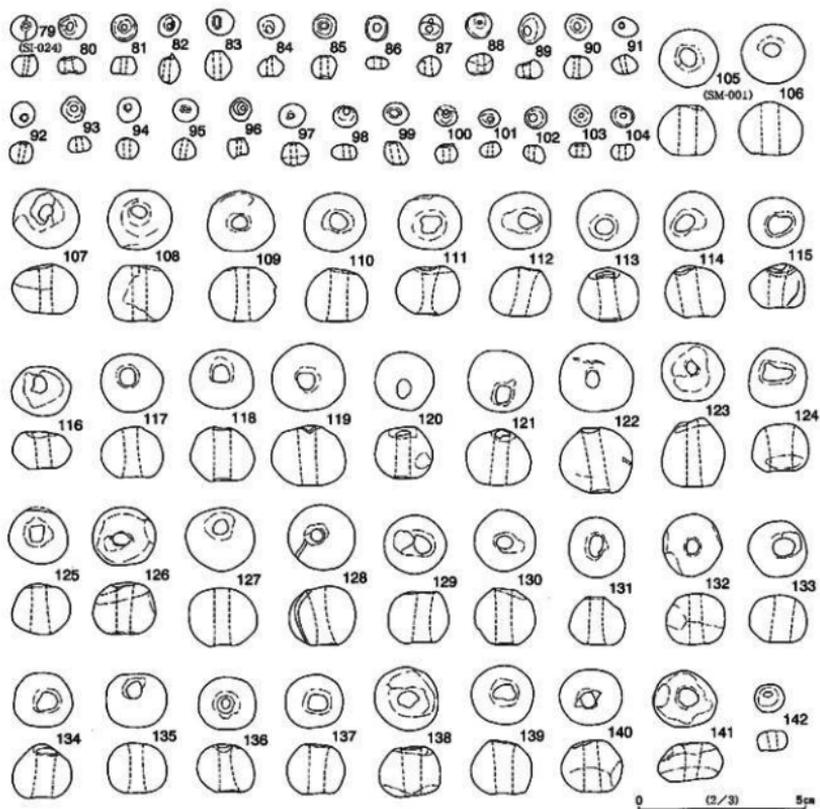
遺構外



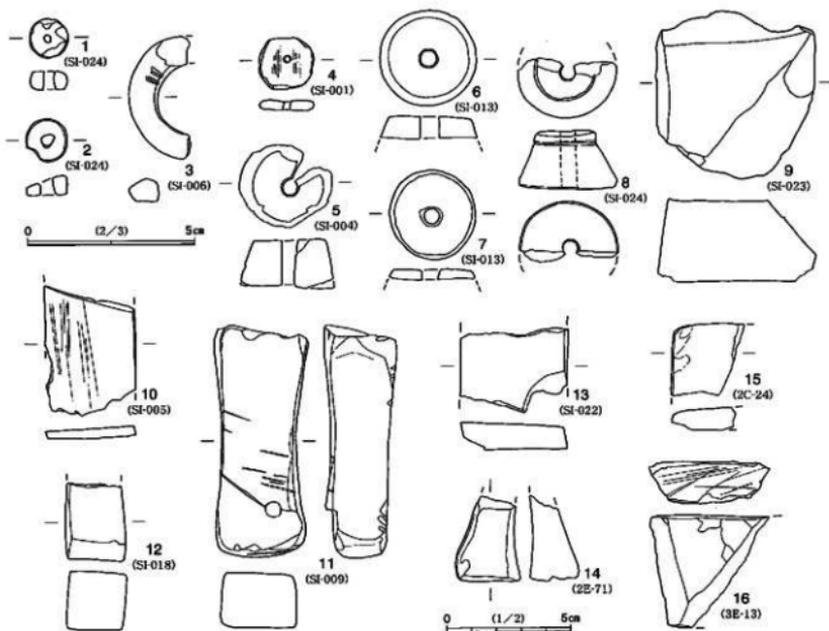
第74図 土器類(17) (SI-023(2)・SI-024・SI-025・SM-001・遺構外)



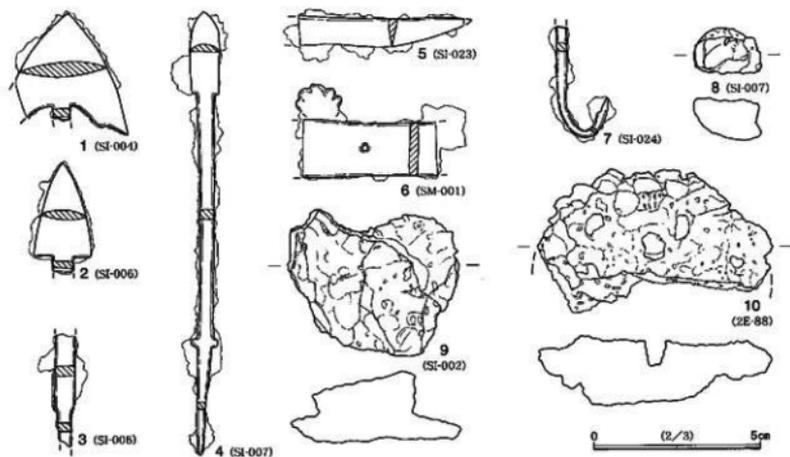
第75図 土製品(1)



第76図 土製品(2)



第77図 石製品



第78図 金属製品

第7表 古墳時代 竪穴住居 計測表

- 計測不能 () 推定

| 遺構No. | 位置 (主グリッド) | 平面形 | カマドの 有無・位置 | 主軸方向 | 規模 (m) | 床面積 (m ²) | 床高 標高(m) | 主柱穴 | 補助柱穴 (入口等) | 貯蔵穴 有無・位置 | 壁周溝 |
|---------|---------------|------|---------------|----------|-------------|--------------------------|-------------|------|---------------|------------------|------|
| SI-001 | 1E-95 | 方形 | (北西壁) | N-30° -W | -×8.7 | - | 31.648 | (4)2 | 入口1 | - | なし |
| SI-002 | 2E-17 | 方形 | 北西壁中央 | N-51° -W | 5.08×5.35 | 27.57 | 31.965 | 4 | 1 | 北隅 | 全周 |
| SI-003 | 2E-48 | 方形 | 北西壁中央 | N-60° -W | 5.26×5.45 | 28.68 | 31.818 | 4 | 1 | 北西壁北寄 | 全周 |
| SI-004 | 2E-67 | 方形 | 北東壁中央 | N-38° -E | 5.78×5.82 | 34.61 | 31.7 | 4 | 1 | 南隅 | 全周 |
| SI-005 | 2E-65 | 方形 | 北西壁中央 | N-54° -W | 5.48×5.5 | 29.05 | 31.812 | 4 | 1 | なし | 全周 |
| SI-006 | 3D-48 | 方形 | 北西壁中央 | N-58° -W | 7.64×8.01 | 59.64 | 31.665 | 4 | 入口1 能3 | 北西壁北寄 | 全周 |
| SI-007 | 3D-66 | 方形 | 北西壁中央 | N-27° -W | 6.28×6.18 | 38.47 | 31.113 | 4 | 1 | 北西壁中央寄 | 全周 |
| SI-008 | 2E-84 | 方形 | 削平(北西壁) | N-42° -W | 4.94×4.58 | 21.74 | 30.705 | 4 | なし | なし | 部分 |
| SI-009 | 3E-11 | 方形 | 北東壁中央 | N-37° -E | 6.63×6.7 | 44.09 | 31.672 | 4 | なし | 南隅 | 全周 |
| SI-010 | 2E-53 | 縦長方形 | 北西壁中央 | N-33° -W | (7.8)×6.96 | 51.89 | 31.405 | 4 | なし | なし | なし |
| SI-011 | 3C-25 | 方形 | 北西壁やや北寄 | N-34° -W | 4.64×(4.32) | 19.82 | 29.51 | 4 | なし | なし | なし |
| SI-012A | 3D-61 | 縦長方形 | 削平? | N-42° -W | (5.04)×4.24 | 20.94 | 30.678 | - | - | 南隅 | なし |
| SI-012B | 3D-61 | 方形 | 削平? | N-42° -W | 5.7×5.22 | 30.87 | 30.58 | (4)2 | 1 | (なし) | なし |
| SI-012C | 3D-61 | 方形 | 北西壁中央 | N-42° -W | 4.41×4.43 | 19.22 | 30.137 | 4 | なし | なし | なし |
| SI-013 | 3D-25 | 方形 | 北西壁中央 | N-26° -W | 8.5×8.16 | 71.42 | 31.223 | 4 | 入口1 能4 | 2(北西壁中央寄 北東寄) | 一部欠 |
| SI-014 | 3D-87 | 方形 | 北壁中央 | N-9° -E | -×5.15 | - | 31.825 | (4)2 | - | - | なし |
| SI-015 | 3D-23 | 方形 | 北壁中央 | N-15° -E | 5.2×5.28 | 21.54 | 30.852 | 4 | 入口1 | 南西壁寄 | 全周 |
| SI-016 | 3D-74 | 方形 | なし | N-23° -E | 5.09×4.84 | 24.85 | 31.535 | 4 | なし | 2(西壁寄・南壁寄) | なし |
| SI-017 | 3C-58 | 方形 | 西壁中央 | N-76° -W | 5.25×5.4 | 28.46 | 30.017 | 4 | 入口込み | 北東隅 | なし |
| SI-018 | 2C-77 | 方形 | 北壁中央 | N-19° -W | 6.38×6.32 | 39.24 | 30.41 | 4 | なし | 北壁北東寄 | なし |
| SI-021 | 2C-30 | 方形 | なし | N-22° -E | 4.82×4.86 | 23.77 | 31.058 | 4 | 入口1 能3 | 南東隅 | 全周 |
| SI-022A | 2C-24 | 方形 | 北西壁中央 | N-50° -W | 2.63×2.57 | 5.81 | 30.758 | 4 | 能3 | なし | 全周 |
| SI-022B | 2C-24 | 方形 | 北西壁中央 | N-50° -W | 5.96×5.98 | 35.34 | 30.985 | 4 | 能2 不明2 | 北東隅 | 一部欠 |
| SI-023 | 2C-06 | 方形 | (北東壁) | N-42° -E | - | - | 30.885 | (4)2 | 入口1 能2 | 南隅 | (全周) |
| SI-024 | 2C-12 | 方形 | (北壁) | N-28° -W | -×5.44 | - | 30.988 | (4)2 | 入口2 | - | (全周) |
| SI-025 | 2B-17 | 方形 | (北西壁) | N-36° -W | (4.08)×- | - | 30.982 | - | - | 東隅 | (全周) |

第8表 古墳時代以降 土器類 観察表

- 計測不能()、現存長()推定

| No. | 遺構No. | 種類 | 器種 | 法量(cm) | 透存度 | 胎土 | 色(褐色処理)構成 | 断面観察技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|----|--------------------------------|------|------------|--|--------------------------------|--------------------|
| 1 | SI-001 | 土師器 | 坏 | 口径 112.0 底径 96.0 高さ 4.6 | 30% | 砂粒多量 | 内面 灰白・黄(2.5YR3) 外面 黄(2.5YR20) | 内面 下窓ナデ 外面 ケズリ | |
| 2 | SI-001 | 土師器 | 坏 | 口径 12.6 底径 9.6 高さ 5.0 | 80% | 砂粒多量 | 内面 灰白・黄(7.5YR7/4) 外面 灰白・黄(7.5YR7/4) | 内面 下窓ナデ 外面 ケズリ | |
| 3 | SI-001 | 土師器 | 坏 | 口径 13.4 底径 9.6 高さ 3.3 | 25% | 雲母粒多量 | 内面 黒色処理・地・灰白・黄(2.5YR4) 外面 黒色処理・地・灰白・黄(2.5YR4) | 内面 下窓ナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ | 底部に深い |
| 4 | SI-001 | 土師器 | 甕 | 口径 11.0 底径 5.6 高さ 11.0 | 80% | 砂粒多量スコリア多 | 内面 灰白・黄(7.5YR6/4) 外面 灰白・黄(7.5YR6/4) | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ | 口縁部知照曲 しつかり(同別) |
| 5 | SI-001 | 土師器 | 甕 | 口径 18.7 底径 12.6 高さ 29.5 | 40% | 白色砂粒多量 | 内面 灰白・黄(7.5YR7/4) 外面 灰白・黄(7.5YR7/4) | 内面 ヘラナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ | |
| 6 | SI-001 | 土師器 | 甕 | 口径 20.0 底径 - 高さ (9.4) | 100% | 砂粒 | 内面 灰白・黄(7.5YR6/4) 外面 灰白・黄(7.5YR6/4) | 内面 ケズリ 外面 ヘラナデ | |
| 7 | SI-001 | 土師器 | 甕 | 口径 21.0 底径 - 高さ (7.6) | 100% | 砂粒 | 内面 灰白(2.5Y7/4) 外面 灰白(2.5Y7/4) | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ | |
| 8 | SI-001 | 土師器 | 甕 | 口径 18.6 底径 - 高さ (14.1) | 100% | 砂粒 | 内面 黄(2.5Y7/4) 外面 黄(7.5YR7/6) | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ | |
| 9 | SI-002 | ミニチュア土器 | | 口径 14.4 底径 1.2 高さ 2.8 | 40% | 砂粒 | 内面 灰白・黄(10YR6/4) 外面 灰白・黄(10YR6/4) | 内面 輪縁後ナデ 外面 指頭圧痕 | 輪上縁上成形・焼 |
| 10 | SI-002 | ミニチュア土器 | | 口径 6.9 底径 6.0 高さ 3.8 | 100% | 砂粒 | 内面 灰白・黄(10YR6/4) 外面 灰白・黄(10YR6/4) | 内面 ナデ 外面 指頭圧痕・輪縁後 | 輪上縁上成形・焼 |
| 11 | SI-002 | ミニチュア土器 | | 口径 7.3 底径 6.5 高さ 3.6 | 80% | 砂粒多量 | 内面 灰白・黄(10YR6/4) 外面 灰白・黄(10YR6/4) | 内面 指頭圧痕・明瞭な輪縁後 | 輪上縁上成形・焼 |
| 12 | SI-002 | ミニチュア土器 | | 口径 - 底径 4.8 高さ (2.5) | 70% | 白色砂粒多量 | 内面 灰白・黄(10YR7/4) 外面 灰白・黄(10YR7/4) | 内面 ヘラナデ 外面 指頭圧痕 | 底部にびつ |
| 13 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 29.2 底径 22.4 高さ (2.4) | 100% | 砂粒 | 内面 灰白・黄(10YR7/4) 外面 灰白・黄(10YR7/4) | 内面 灰白・ヘラナデ 外面 ケズリ・ナデ | 口縁内部に浅 い割ミガキ |
| 14 | SI-002 | 土師器 | 甕 | 口径 - 底径 26.0 高さ (2.2) | 100% | 砂粒多量 | 内面 灰白・黄(10YR6/4) 外面 黄褐色 | 内面 ナデ 外面 指頭圧痕 | 外周がガラス押 付 |
| 15 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 13.8 底径 9.6 高さ 4.9 | 95% | 砂粒多量 | 内面 灰白・黄(10YR6/4) 外面 黄褐色・黄(10YR6/4) | 内面 ケズリ後ナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ・輪縁後 | 口縁部に磨面 割れ |
| 16 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 13.4 底径 9.6 高さ 4.0 | 30% | 砂粒多量 | 内面 明焼(7.5YR6/8) 外面 明焼(7.5YR6/8) | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ | 器蓋が内外面 ともに現れ |
| 17 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 14.6 底径 9.6 高さ 3.6 | 85% | 砂粒 | 内面 黒色処理・地・灰白・黄(10YR6/4) 外面 黒色処理・地・灰白・黄(10YR6/4) | 内面 ミガキ 外面 ケズリ・部分的にミガキ | |
| 18 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 13.5 底径 9.6 高さ 3.7 | 70% | 赤褐色スコリア少量 | 内面 灰白・黄(10YR6/4) 外面 灰白・黄(10YR6/4) | 内面 1窓ナデ 外面 ミガキ | |
| 19 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 12.1 底径 9.6 高さ 4.2 | 100% | 砂粒 | 内面 黒色処理・地・黄(2.5Y5/3) 外面 黒色処理・地・黄(2.5Y5/3) | 内面 ミガキ 外面 ケズリ・部分的にミガキ | |
| 20 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 12.8 底径 9.6 高さ 4.1 | 96% | 白色砂粒 | 内面 黒色処理・地・灰白・黄(10YR6/4) 外面 黒色処理・地・灰白・黄(10YR6/4) | 内面 ミガキ 外面 ケズリ・部分的にミガキ | |
| 21 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 14.0 底径 9.6 高さ 4.2 | 100% | 砂粒 | 内面 明焼(7.5YR6/8) 外面 灰白・黄(10YR6/4) | 内面 ナデ 外面 ケズリ・輪縁後 | |
| 22 | SI-002 | 土師器 | 坏 | 口径 10.0 底径 7.0 高さ 4.0 | 55% | 砂粒・赤褐色スコリア | 内面 黒色処理・地・灰白・黄(10YR6/4) 外面 黒色処理・地・灰白・黄(10YR6/4) | 内面 1窓ナデ・ミガキ 外面 ケズリ・部分的にミガキ | 黒色処理不明 内部はまだら |
| 23 | SI-002 | 土師器 | 甕 | 口径 16.6 底径 - 高さ (18.0) | 100% | 砂粒多量 | 内面 灰白・黄(10YR6/4) 外面 灰白・黄(10YR6/4) | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ | |
| 24 | SI-002 | 土師器 | 甕 | 口径 14.6 底径 7.8 高さ (8.1) | 100% | 砂粒 | 内面 灰白・黄(10YR5/4) 外面 灰白・黄(10YR5/4) | 内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 | 器蓋著しく割 れ |
| 25 | SI-002 | 土師器 | 甕 | 口径 12.7 底径 7.0 高さ 12.9 | 40% | 砂粒多量 | 内面 灰白・黄(10YR5/3) 一部のみあり 外面 灰白・黄(10YR5/3) 一部のみあり | 内面 ヘラナデ・輪縁後(口縁部) 外面 ケズリ | |
| 26 | SI-002 | 土師器 | 甕 | 口径 14.6 底径 7.1 高さ 34.0 | 80% | 砂粒 | 内面 明焼(6YR6/6) 外面 明焼(6YR6/6) | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ | 胎土自体赤く 褐色 |
| 27 | SI-002 | 土師器 | 甕 | 口径 28.0 底径 22.2 高さ 34.4 | 30% | 砂粒多量 | 内面 灰白・黄(10YR5/4) 外面 灰白・黄(10YR5/4) | 内面 ヘラナデ・黄いケズリ 外面 ケズリ | 深いびつ |
| 28 | SI-002 | 土師器 | 甕 | 口径 34.4 底径 21.4 | 40% | 砂粒スコリア多量 | 内面 灰白・黄(10YR5/4) 外面 灰白・黄(10YR5/4) | 内面 ヘラナデ ケズリ 外面 ケズリ | |

| № | 遺構地 | 種類 | 部様 | 寸法(cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調(色処理)・焼成 | 器面装飾技法など | 備考 |
|----|--------|---------|-----|----------------------------------|----------------|-----------------------|--|---------------------------------|------------------|
| 29 | SI-003 | ミニチュア土器 | 口杯 | 口径 4.4 底径 3.9 高さ 4.2 | 80% | 砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) | 内面 ナデ 指形厚底ヘリナデナデ | 手製・器台形 |
| 30 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 7.3 底径 6.8 高さ 3.2 | 95% | 砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) | 内面 ナデ 外面 ナデ | 内面 ミガキ 外面 ケズリ |
| 31 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 (11.9) 底径 9.6 高さ 4.1 | 70% | 精緻 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) | 内面 ナデナデナデ 外面 ケズリ | 胎土自体赤く 褐色 |
| 32 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 12.8 底径 9.8 高さ 5.75 | 95% | 砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) | 内面 ナデ 外面 ケズリ、横溝 | 部分的に器面 剥離 |
| 33 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 13.1 底径 9.6 高さ 4.8 | 85% | 砂粒多量 | 内面 黒色処理・地・黒(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・黒(7.5YR6/6) | 内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ | |
| 34 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 15.2 底径 9.6 高さ 4.4 | 60% | 微砂粒 | 内面 黒色処理・地・黒(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・黒(7.5YR6/6) | 内面 ナデ 外面 ケズリ後清々ミガキ | 器端が湾い部 分あり |
| 35 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 (14.3) 底径 9.6 高さ 5.0 | 90% | 砂粒多量 | 内面 黒色処理・地・黒(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・黒(7.5YR6/6) | 内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ、横溝 | 口縁全体剥離 |
| 36 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 11.4 底径 9.6 高さ 3.5 | 90% | 赤褐色スコ リア少量 | 内面 黒色処理・地・黒(7.5YR6/6) 外面 赤褐色・黒(7.5YR6/6) | 内面 ナデ・ミガキ 外面 ナデナデ | 口縁部・底面・ 取手感あり |
| 37 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 13.9 底径 9.6 高さ 4.4 | 95% | 白色砂粒多 量赤褐色ス コリア | 内面 赤褐色(7.5YR6/4) 外面 赤褐色(7.5YR6/4) | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後清々ミガキ | |
| 38 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 13.8 底径 9.6 高さ 4.0 | 85% | 微砂粒 | 内面 黒色処理・地・赤褐色(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地・赤褐色(7.5YR6/4) | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ | |
| 39 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 (14.3) 底径 9.6 高さ 4.6 | 100% | 砂粒少量 | 内面 黒色処理・地・赤褐色(10YR6/4) 外面 黒色処理・地・赤褐色(10YR6/4) | 内面 ナデナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ | 褐色処理の残 存良好 |
| 40 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 12.9 底径 9.6 高さ 4.05 | 45% | 砂粒 | 内面 黒色処理・地・赤褐色(10YR6/4) 外面 黒色処理・地・赤褐色(7.5YR6/4) | 内面 ミガキ 外面 ケズリ | |
| 41 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 13.5 底径 9.6 高さ 4.5 | 90% | 赤褐色スコ リア残 | 内面 黒色処理・赤・黒(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・赤・黒(7.5YR6/6) | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ | |
| 42 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 13.05 底径 9.6 高さ 4.7 | 100% | 砂粒多量 | 内面 黒色処理・赤・黒(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・赤褐色(7.5YR6/4) | 内面 ナデ・ミガキ 外面 ナデ・ミガキ | 内面木目線残 存 |
| 43 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 13.15 底径 9.6 高さ 4.35 | 70% | 砂粒少量赤 褐色スコリ ア残 | 内面 黒色処理・地・赤褐色(10YR6/4) 外面 黒色処理・地・赤褐色(10YR6/4) | 内面 ナデナデ・ミガキ 外面 ケズリ | |
| 44 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 13.8 底径 9.6 高さ 5.4 | 70% | 精緻 | 内面 黒色処理・地・赤褐色(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・赤褐色(7.5YR6/6) | 内面 ナデナデ・ミガキ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ | |
| 45 | SI-003 | 土師器 | 杯 | 口径 13.35 底径 9.6 高さ 4.5 | 98% | 砂粒 | 内面 黒色処理・地・赤褐色(7.5YR6/6) 外面 黒色処理・地・赤褐色(7.5YR6/6) | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ | |
| 46 | SI-003 | 土師器 | 大型杯 | 口径 17.8 底径 9.6 高さ 5.4 | 90% | 砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 赤褐色(7.5YR6/4) | 内面 ナデ後清々ミガキ 外面 ケズリ | |
| 47 | SI-003 | 土師器 | 大型杯 | 口径 15.5 底径 9.6 高さ 10.0 | 100% | 砂粒少量赤 褐色スコリ ア残 | 内面 赤(7.5YR6/6) 外面 赤(7.5YR6/6) | 内面 ヘラナデ まだらに器面剥 離 | |
| 48 | SI-003 | 土師器 | 壺 | 口径 18.3 底径 8.0 高さ 28.5 | 95% | 白色砂粒多 量 | 内面 赤褐色(5YR6/4) 外面 赤褐色(5YR6/4) | 内面 ナデナデナデ・ミガキ 外面 ナデナデ・ミガキ | 赤褐色 |
| 49 | SI-003 | 土師器 | 壺 | 口径 18.9 底径 8.0 高さ 13.8 | 100% | 砂粒 | 内面 赤褐色(5YR6/4) 外面 赤褐色(5YR6/4) | 内面 ナデナデ・器面剥離 外面 ケズリ | 頸部以下ゆが み大きい |
| 50 | SI-003 | 土師器 | 壺 | 口径 (15.7) 底径 8.0 高さ (11.7) | 口縁部一部 部45% | 砂粒少量赤 褐色スコリ ア残 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 赤(7.5YR6/6) | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ | 口縁部剥離物 質付着 |
| 51 | SI-003 | 土師器 | 壺 | 口径 (18.0) 底径 8.0 高さ (16.5) | 口縁部一部 部下45% | 砂粒 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 赤(7.5YR6/6) | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ | 器端より底面 まであり |
| 52 | SI-003 | 土師器 | 壺 | 口径 17.8 底径 8.0 高さ (24.0) | 80% | 砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 赤(7.5YR6/6) | 内面 器面著しく剥離 外面 ケズリ後ナデ | |
| 53 | SI-003 | 土師器 | 壺 | 口径 15.8 底径 8.0 高さ 5.7 | 100% | 白色砂粒多 量 | 内面 赤褐色(5YR6/4) 外面 赤褐色(5YR6/4) | 内面 ナデナデ 外面 ナデナデ まだらに器面剥 離 | |
| 54 | SI-003 | 土師器 | 壺 | 口径 24.0 底径 7.9 高さ 18.5 | 100% | 砂粒少量赤 褐色スコリ ア残 | 内面 赤(7.5YR6/6) 外面 赤(7.5YR6/6) | 内面 ヘラナデ・ナデ 外面 ケズリ | |
| 55 | SI-004 | ミニチュア土器 | 口杯 | 口径 5.2 底径 4.4 高さ 2.4 | 100% | 砂粒 | 内面 赤褐色(5YR6/6) 外面 赤褐色(5YR6/6) | 内面 ナデ 外面 ナデ | 手製・楕円形 |
| 56 | SI-004 | 須恵器 | 杯 | 口径 (15.4) 底径 9.6 高さ 4.7 | 50% | 白色砂粒 | 内面 灰(10Y6/1) 外面 灰(10Y6/1) | 内面 ロコナデ 外面 ロコナデ、器底ケズリ | 内面赤褐色・底 面剥離 |
| 57 | SI-004 | 土師器 | 杯 | 口径 12.6 底径 9.6 高さ 4.8 | 95% | 砂粒赤褐色 スコリア | 内面 赤褐色(5YR6/6) 外面 赤褐色(5YR6/6) | 内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後部分的ミガキ | |

| No. | 遺構No. | 種類 | 器種 | 流量(cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調(色処環)-焼成 | 表面調査技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|----|---------------------------------------|-----------|---------|---|--|------------------|
| 58 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 11.7 底径 9.6 高さ 5.5 胎高 5.5 | 70% | 砂粒微量 | 内面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 外面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 胎底 良好 | 内面 ナメなミガキ 外面 ケズリ後ナメ 胎内面 ナメ 胎外面 ケズリ 胎底面 ケズリ(両部露出) | |
| 59 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 9.6 底径 7.6 高さ 3.7 胎高 3.7 | 95% | 砂粒 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ 胎内面 ナメ 胎外面 ケズリ(両部露出) | |
| 60 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 14.1 底径 9.6 高さ 5.0 胎高 5.0 | 80% | 砂粒 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後ナメ 胎内面 ナメ 胎外面 ケズリ後ナメ | |
| 61 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 11.6 底径 9.6 高さ 4.5 胎高 4.5 | 90% | 砂粒 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ 胎内面 ナメ 胎外面 ケズリ | |
| 62 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 13.4 底径 9.6 高さ 4.3 胎高 4.3 | 50% | 白色細砂粒 | 内面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 外面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 胎底 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 63 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 12.0 底径 9.6 高さ 5.0 胎高 5.0 | 55% | 精緻 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 64 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 13.8 底径 9.6 高さ 4.4 胎高 4.4 | 80% | 砂粒 | 内面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 外面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 胎底 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ,ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 65 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 10.4 底径 9.6 高さ 5.2 胎高 5.2 | 100% | 砂粒多量 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 66 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 13.0 底径 9.6 高さ 4.5 | 胎底削一体部40% | 粗砂粒 | 内面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 外面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 胎底 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 67 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 13.1 底径 9.6 高さ 4.4 | 胎底削一体部35% | 精緻 | 内面 黒色処理・地におい(模)10YR7(2) 外面 黒色処理・地におい(模)10YR7(2) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 68 | SI-004 | 土師器 | 高坏 | 口径 13.6 底径 9.6 高さ 14.6 | 30% | 精緻 | 内面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 外面 黒色処理・地におい(模)SYR6(4) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後ナメ・胎面露出部位 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | 黒色処理不明 |
| 69 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 13.1 底径 9.6 高さ 4.0 | 胎底削一体部50% | 砂粒 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ミガキ・ナメ 外面 ケズリ・削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 70 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 12.8 底径 9.6 高さ 4.3 | 胎底削一体部30% | 砂粒 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 71 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 12.8 底径 9.6 高さ 4.3 | 80% | 砂粒多量 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 72 | SI-001 | 土師器 | 坏 | 口径 15.2 底径 9.6 高さ 4.9 | 96% | 砂粒 | 内面 赤赤・地におい(模)SYR5(4) 外面 赤赤・地におい(模)SYR5(4) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ナメ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 73 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 15.0 底径 9.6 高さ 5.3 | 85% | 白色細砂粒多量 | 内面 黒色処理・地・明赤帯(10YR6(6)) 外面 黒色処理・地・明赤帯(10YR6(6)) 胎底 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | 黒色処理まだらに残存 |
| 74 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 14.2 底径 7.25 胎高 5.5 | 95% | 砂粒多量 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ケズリ後削キミガキ | |
| 75 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 12.9 底径 9.6 高さ 3.65 | 95% | 砂粒多量 | 内面 赤赤・地におい(模)SYR6(4) 外面 赤赤・地におい(模)SYR6(4) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後ナメ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | 約10% 胎底露出 |
| 76 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 14.7 底径 9.6 高さ 5.96 | 95% | 砂粒 | 内面 赤赤・地におい(模)SYR6(4) 外面 赤赤・地におい(模)SYR6(4) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 77 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 14.8 底径 9.6 高さ 5.5 | 95% | 砂粒 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 78 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 13.8 底径 9.6 高さ 4.9 | 50% | 砂粒少量 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 胎面露出 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | 外側の赤銅はほとんど遺存せず不明 |
| 79 | SI-004 | 土師器 | 柄 | 口径 13.8 底径 8.3 高さ 8.9 | 70% | 砂粒 | 内面 赤赤・地におい(模)SYR5(4) 外面 赤赤・地におい(模)SYR5(4) 胎底 良好 | 内面 胎面露出 外面 ナメ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | 破損による割害 |
| 80 | SI-004 | 土師器 | 柄 | 口径 13.7 底径 9.6 高さ 9.2 | 90% | 粗砂粒 | 内面 赤赤・地におい(模)SYR5(4) 外面 赤赤・地におい(模)SYR5(4) 胎底 良好 | 内面 胎面露出 外面 ナメ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | 破損による胎面露出 |
| 81 | SI-001 | 土師器 | 柄 | 口径 13.2 底径 9.6 高さ 9.0 | 90% | 砂粒多量 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 82 | SI-004 | 土師器 | 坏 | 口径 13.0 底径 9.6 高さ 5.5 | 胎底削一体部50% | 砂粒 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 83 | SI-004 | 土師器 | 柄 | 口径 18.0 底径 9.6 高さ 9.8 | 30% | 粗砂粒 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 84 | SI-004 | 土師器 | 柄 | 口径 17.0 底径 9.6 高さ 7.5 | 胎底削一体部25% | 砂粒少量 | 内面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 外面 赤赤・地・明赤帯(SYR5(6)) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ケズリ後削キミガキ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | |
| 85 | SI-004 | 土師器 | 甕? | 口径 10.9 底径 7.8 胎高 11.1 | 80% | 砂粒 | 内面 赤赤・地におい(模)SYR6(4) 外面 赤赤・地におい(模)SYR6(4) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ナメ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | 内側の赤銅はほぼ遺存しない |
| 86 | SI-004 | ミニチュア土師 | | 口径 5.0 底径 3.0 | 胎底削一体部65% | 砂粒 | 内面 赤赤・地におい(模)SYR5(4) 外面 赤赤・地におい(模)SYR5(4) 胎底 良好 | 内面 ナメ 外面 ナメ 胎内面 ナメ 胎外面 ナメ | 高坏形 |

| No. | 遺構No. | 種類 | 器種 | 流量(cm) | 透水性 | 粘土 | 色調(色相環)・構成 | 器面調整技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|----|---------------------------------|-------------|-------------|---|---|------------------|
| 87 | SI-004 | 土師器 | 高坏 | 口径 13.2 底径 8.3 器高 9.9 | 90% | 砂粒多量 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR5/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR5/6) 胎土 良好 | 内面 丁寧なナデ・ヘラナデ 外面 クズリ後ミガキ・ナデ 底外面 - | |
| 88 | SI-004 | 土師器 | 高坏 | 口径 13.2 底径 8.0 器高 8.4 | 90% | 細砂粒多量 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 器面削削・クズリナデ 外面 クズリ後ナデ・ナデ 底外面 - | |
| 89 | SI-004 | 土師器 | 高坏 | 口径 14.0 底径 7.6 器高 8.4 | 90% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 丁寧なナデ・ナデ 外面 クズリ後ナデ・ナデ 底外面 - | |
| 90 | SI-004 | 土師器 | 高坏 | 口径 13.5 底径 7.9 器高 8.5 | 90% | 細砂粒多量 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 クズリ後ナデ 底外面 - | |
| 91 | SI-004 | 土師器 | 高坏 | 口径 13.5 底径 - 器高 (4.7) | 下部50% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 著しく不潔 | 内面 器面削削 外面 クズリ 底外面 - | |
| 92 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 14.4 底径 7.1 器高 9.7 | 95% | 砂粒白色土(立つ) | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 クズリ後削削・ナデ 底外面 - | |
| 93 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 12.0 底径 6.3 器高 15.7 | 95% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 丁寧なヘラナデ 外面 クズリ後削削・ナデ 底外面 ナデ・クズリ | 磁面(内面の半片) |
| 94 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 12.2 底径 7.1 器高 11.7 | 80% | 白色砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 クズリ 底外面 丁寧なクズリ | 磁面による黄色土土赤く発色 |
| 95 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 17.0 底径 7.8 器高 31.4 | 60% | 砂粒多量(白色土立つ) | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 胎土 良好 | 内面 器面削削 外面 クズリ後削削・ナデ 底外面 丁寧なナデ | |
| 96 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 15.7 底径 7.5 器高 29.3 | 70% | 砂粒多量 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 器面削削 外面 クズリ後削削・ナデ・ミガキ 底外面 丁寧なナデ | |
| 97 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 14.9 底径 (6.5) 器高 - | 口縁部~胴部70% | 砂粒多量 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 クズリ 底外面 - | |
| 98 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 7.1 底径 (15.7) 器高 18.9 | 60% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 クズリ・クズリ後ミガキ 底外面 丁寧なクズリ | No100と同一個体の可能性あり |
| 99 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 16.9 底径 (15.4) 器高 - | 口縁部~胴部上半70% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 クズリ 底外面 - | |
| 100 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 9.6 底径 (5.2) 器高 11.1 | 口縁部 | 白色砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ・器面削削 外面 クズリ 底外面 丁寧なクズリ | No100と同一個体の可能性高い |
| 101 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 5.8 底径 (3.2) 器高 21.8 | 底底部60% | 細砂粒(少量) | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR5/4) 胎土 良好 | 内面 丁寧なナデ(1/3) 外面 クズリ後ミガキ 底外面 丁寧なクズリ・ミガキ | |
| 102 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 9.3 底径 19.3 器高 14.0 | 50% | 砂粒多量 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 丁寧なヘラナデ 外面 クズリ 底外面 丁寧なクズリ | 粘土自体が赤く発色 |
| 103 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 14.0 底径 (15.3) 器高 19.9 | 60% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 クズリ 外面 クズリ・クズリ後ミガキ 底外面 丁寧なクズリ | No89と同一個体の可能性あり |
| 104 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 14.2 底径 - 器高 (13.3) | 口縁部~胴部上半60% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR5/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR5/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 クズリ 底外面 - | 磁面で器面荒れ |
| 105 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 21.6 底径 6.8 器高 19.4 | 胴部下半~底底部60% | 白色砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 器面削削 外面 クズリ後ミガキ 底外面 丁寧なクズリ | |
| 106 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 19.4 底径 - 器高 (8.8) | 口縁部 | 白色砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ・器面削削 外面 クズリ 底外面 丁寧なクズリ | No100と同一個体の可能性高い |
| 107 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 12.8 底径 - 器高 (16.6) | 口縁部~胴部上半30% | 細砂粒(少量) | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR7/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 器面削削 外面 クズリ後削削・ナデ 底外面 丁寧なクズリ | |
| 108 | SI-004 | 土師器 | 鉢 | 口径 22.9 底径 - 器高 (14.9) | 口縁部~胴部70% | 細砂粒多量 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 丁寧なナデ 外面 クズリ後ミガキ 底外面 - | |
| 109 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 19.8 底径 19.9 器高 (14.7) | 口縁部~胴部上半20% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ後ミガキ 外面 クズリ削削・ミガキ 底外面 丁寧なクズリ | |
| 110 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 28.4 底径 (7.1) 器高 27.4 | 30% | 砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 クズリ後ミガキ 底外面 - | |
| 111 | SI-004 | 土師器 | 甕 | 口径 27.9 底径 9.9 器高 19.9 | 25% | 白色砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ削削・ミガキ 外面 クズリ後削削・ミガキ 底外面 丁寧なクズリ | |
| 112 | SI-005 | ミニチュア土器 | 甕 | 口径 6.1 底径 (3.7) 器高 13.9 | 胴部~底底部30% | 細砂粒 | 内面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 赤影・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 押指圧痕・器面削削 底外面 丁寧なナデ | 粘土焼覆上成部・焼痕 |
| 113 | SI-005 | 土師器 | 坏 | 口径 19.6 底径 4.0 器高 13.8 | 90% | 細砂粒少量 | 内面 黒色粘土・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 黒色粘土・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 クズリ後削削・ミガキ 底外面 丁寧なクズリ | |
| 114 | SI-005 | 土師器 | 坏 | 口径 19.8 底径 4.3 器高 3.9 | 95% | 砂粒 | 内面 黒色粘土・地・明赤帯(SYR6/6) 外面 黒色粘土・地・明赤帯(SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 クズリ後ミガキ 底外面 - | |
| 115 | SI-005 | 土師器 | 坏 | 口径 13.8 底径 4.3 器高 4.3 | 90% | 砂粒 | 内面 黒色粘土・地・明赤帯(SYR5/6) 外面 黒色粘土・地・明赤帯(SYR5/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 クズリ後ミガキ 底外面 - | |

| No. | 通稱No. | 種類 | 器種 | 成量(cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調(色地調)・焼成 | 表面調整技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|----|---------------------------------|------|-----------------------|---|--|-----------------------------------|
| 116 | SI-005 | 土師器 | 杯 | 口径 13.4 底径 9.8 器高 4.5 | 90% | 微砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 中々不良 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕跡々々ミガキ 底外面 | |
| 117 | SI-005 | 土師器 | 杯 | 口径 12.8 底径 9.8 器高 4.5 | 98% | 砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 中々不良 | 内面 ミガキ、丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ痕ミガキ 底外面 | |
| 118 | SI-005 | 土師器 | 杯 | 口径 13.1 底径 9.8 器高 3.7 | 90% | 砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ部分的ミガキ 底外面 | |
| 119 | SI-005 | 土師器 | 杯 | 口径 12.0 底径 9.8 器高 5.3 | 80% | 砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ部分的ミガキ 底外面 | |
| 120 | SI-005 | 土師器 | 杯 | 口径 12.5 底径 9.8 器高 3.9 | 95% | 細砂粒多量 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕ミガキ 底外面 | 外口縁のみを磨 びる部分あり |
| 121 | SI-005 | 土師器 | 杯 | 口径 15.1 底径 9.8 器高 5.7 | 100% | 砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕跡々々ミガキ 底外面 | 黒色地調不明 胎 |
| 122 | SI-005 | 土師器 | 鉢 | 口径 19.6 底径 9.8 器高 6.9 | 98% | 砂粒少量 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕跡々々ミガキ 底外面 | 外口口縁付近 のみ磨びる |
| 123 | SI-005 | 土師器 | 甕 | 口径 13.1 底径 7.0 器高 14.8 | 80% | 砂粒多量 | 内面 黒・赤褐色(5YR5/0) 外面 黒・赤褐色(5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 手磨ケズリ | |
| 124 | SI-005 | 土師器 | 甕 | 口径 19.2 底径 7.9 器高 26.3 | 90% | 白色砂粒多量 | 内面 明赤褐色(2.5YR5/0) 外面 明赤褐色(2.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 明赤褐色ヘラナデ 外面 ケズリ痕ナデミガキ 底外面 手磨ケズリ | |
| 125 | SI-005 | 土師器 | 甕 | 口径 22.2 底径 9.0 器高 33.6 | 96% | 白色砂粒多量 | 内面 地におい焼(10YR5/4) 外面 地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 丁寧なヘラナデ、輪磨 外面 ミガキ 底外面 | |
| 126 | SI-006 | ミニチュア上層 | | 口径 2.9 底径 2.6 器高 2.4 | 100% | 微砂粒 | 内面 微(5YR6/0) 外面 微(5YR6/0) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 | 胎土地調上成 形・焼色 |
| 127 | SI-006 | ミニチュア上層 | | 口径 6.3 底径 4.9 器高 3.7 | 90% | 砂粒 | 内面 微(7.5YR5/0) 外面 微(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 胎面調整 外面 胎面調整 底外面 | 手磨成形・胎形 |
| 128 | SI-006 | ミニチュア上層 | | 口径 8.3 底径 (5.4) 器高 3.0 | 25% | 微砂粒砂粒 微量 | 内面 赤褐色・地におい焼(5YR5/4) 外面 赤褐色・地におい焼(5YR5/4) 胎土 良好 | 内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 | 胎土地調上成 形・胎形 |
| 129 | SI-006 | ミニチュア上層 | | 口径 8.2 底径 (8.6) 器高 2.9 | 40% | 砂粒少量 | 内面 微(7.5YR5/0) 外面 微(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 | 手磨成形・胎形 |
| 130 | SI-006 | ミニチュア上層 | | 口径 7.0 底径 (7.0) 器高 1.7 | 17% | 細粒 | 内面 赤褐色・地におい焼(5YR5/4) 外面 赤褐色・地におい焼(5YR5/4) 胎土 良好 | 内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 底外面 | 胎土地調上成 形・胎形、No.128 と同質 |
| 131 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 14.4 底径 9.8 器高 4.4 | 95% | 砂粒多量 | 内面 黒色地調・地・明赤褐色(5YR5/0) 外面 黒色地調・地・明赤褐色(5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ナデ、器面調整 外面 ナデ、ケズリ痕ミガキ 底外面 | 胎面調整 胎土地調上成 形・胎形、黒色 地調不明 |
| 132 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 13.4 底径 9.8 器高 5.5 | 80% | 砂粒微量 | 内面 黒色地調・地・微(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地・微(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ナデ、指頭調整 外面 ナデ、指頭調整 底外面 | |
| 133 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 (11.3) 底径 9.8 器高 4.4 | 30% | 砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 中々不良 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕ミガキ 底外面 | |
| 134 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 (14.6) 底径 9.8 器高 3.9 | 30% | 砂粒少量 | 内面 黒色地調・地・明赤褐色(5YR5/0) 外面 黒色地調・地・明赤褐色(5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕跡々々ミガキ 底外面 | |
| 135 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 (11.7) 底径 9.8 器高 4.7 | 30% | 砂粒少量 | 内面 黒色地調・地・明赤褐色(5YR5/0) 外面 黒色地調・地・明赤褐色(5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ痕ミガキ 底外面 | 胎土自体が赤 褐色 |
| 136 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 (14.4) 底径 9.8 器高 4.6 | 25% | 微砂粒砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(5YR5/4) 外面 黒色地調・地におい焼(5YR5/4) 胎土 中々不良 | 内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ痕跡々々ミガキ 底外面 | |
| 137 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 (14.4) 底径 9.8 器高 3.8 | 40% | 微砂粒赤褐色 スコリア粒 微量 | 内面 黒色地調・地・微(5YR6/0) 外面 黒色地調・地・微(5YR6/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕ミガキ 底外面 | 外口縁のみを磨 びる箇所あり |
| 138 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 (14.5) 底径 9.8 器高 (3.5) | 25% | 砂粒、赤褐色 針状物質 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕跡々々ミガキ 底外面 | |
| 139 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 13.7 底径 9.8 器高 5.4 | 70% | 微砂粒砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(5YR6/4) 外面 黒色地調・地におい焼(5YR6/4) 胎土 中々不良 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ痕ミガキ 底外面 木磨痕 | |
| 140 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 (12.4) 底径 9.8 器高 4.2 | 30% | 微砂粒砂粒 | 内面 黒色地調・地・微(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地・微(7.5YR5/0) 胎土 中々不良 | 内面 ナデ 外面 ケズリ痕跡々々ミガキ 底外面 | |
| 141 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 13.0 底径 9.8 器高 4.4 | 55% | 砂粒微量 | 内面 黒色地調・地・微(7.5YR5/0) 外面 黒色地調・地・微(7.5YR5/0) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ痕跡々々ミガキ 底外面 | |
| 142 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 12.6 底径 9.8 器高 3.6 | 80% | 砂粒少量 | 内面 黒色地調・地・微(5YR6/0) 外面 黒色地調・地・微(5YR6/0) 胎土 中々不良 | 内面 ナデ 外面 ケズリ痕ミガキ 底外面 | 黒色地調は口 縁以外不明 |
| 143 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 13.2 底径 9.8 器高 4.3 | 70% | 砂粒 | 内面 黒色地調・地におい焼(7.5YR6/4) 外面 黒色地調・地におい焼(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ痕跡部分的ミガキ 底外面 | |
| 144 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 12.0 底径 9.8 器高 4.3 | 50% | 砂粒 | 内面 地におい焼(5YR5/0) 外面 地におい焼(5YR5/0) 胎土 中々不良 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 底外面 | |

| No. | 遺構No. | 種類 | 母種 | 流量(cm) | 透水性 | 胎土 | 色調(色処理)-構成 | 器面調整技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|------|-------------------------------|--------------|----------------|---|---|----------------------|
| 145 | SI-006 | 土師器 | 杯 | 口径 13.4 底径 9.6 胎高 5.0 | 40% | 精製白色胎土 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR7/4) 外面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR7/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 胎土面 - | |
| 146 | SI-006 | 土師器 | 鉢 | 口径 30.4 底径 7.3 胎高 12.4 | 85% | 砂粒 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 下線ナミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 胎土面 黒色地 | |
| 147 | SI-006 | 土師器 | 鉢 | 口径 25.0 底径 7.8 胎高 7.8 | 体部~底部 50% | 粗砂粒 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 下線ナミガキ 外面 ケズリ後線ナミガキ 胎土面 - | |
| 148 | SI-006 | 土師器 | 小型壺 | 口径 12.0 底径 4.8 胎高 4.8 | 胴部~底部 50% | 砂粒 | 内面 黒色地・赤帯(10YR6/6) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ・ヘラナデ 外面 ミガキ 胎土面 黒色地 | |
| 149 | SI-006 | 土師器 | 壺 | 口径 17.0 底径 12.0 胎高 12.0 | 口縁部~胴部 上半20% | 60%多量砂粒 減少量 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ナデ 胎土面 - | |
| 150 | SI-006 | 土師器 | 壺 | 口径 15.7 底径 8.1 胎高 8.1 | 口縁部~胴部 上半30% | 砂粒 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 黒いヘラナデ(一部ハケナデ) 外面 ケズリ後ミガキ 胎土面 黒色地 | |
| 151 | SI-006 | 土師器 | 壺 | 口径 12.0 底径 8.3 胎高 9.4 | 胴部下半~底部 75% | 白色砂礫土 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ミガキ 胎土面 黒色地 | |
| 152 | SI-006 | 土師器 | 壺 | 口径 19.2 底径 9.6 胎高 27.5 | 62% | 砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 輪槽痕 外面 ケズリ 胎土面 黒色ケズリ | |
| 153 | SI-006 | 土師器 | 飯 | 口径 22.0 底径 9.0 胎高 23.6 | 25% | 砂粒少量 | 内面 赤い帯(7.5YR7/4) 外面 赤い帯(7.5YR7/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ・ケズリ 外面 ケズリ 胎土面 - | |
| 154 | SI-007 | ミニチュア土師 | | 口径 5.2 底径 2.0 胎高 2.0 | 口縁部~胴部 35% | 微砂粒 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 下線ナデ 外面 ナデ 胎土面 - | 手捏成形-碗形 |
| 155 | SI-007 | 模写器 | はらう | 口径 9.0 底径 6.0 胎高 6.0 | 胴部~底部 30% | 精製白色胎土 微量黒 | 内面 赤(10Y5/7) 外面 赤(10Y5/7) 胎土 赤々不貞 | 内面 ロゴナデ 外面 ロゴナデ 圓形ケズリ 胎土面 黒色地 | 滑面自然釉 |
| 156 | SI-007 | 土師器 | 杯 | 口径 7.0 底径 2.3 胎高 4.0 | 体部~底部 40% | 砂粒 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ロゴナデ 外面 ロゴナデ 手持ケズリ 胎土面 黒色ケズリ後手持ケズリ | 住居にもなるか? |
| 157 | SI-007 | 土師器 | 高台付杯 | 口径 8.8 底径 4.9 胎高 11.9 | 体部下半~底部 17% | 微砂粒 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ミガキナデ 外面 ロゴナデ 胎土面 黒色ケズリ | 住居にもなるか? |
| 158 | SI-007 | 土師器 | 壺 | 口径 12.4 底径 7.0 胎高 12.7 | 口縁部~胴部 下半70% | 砂粒 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 胎土面 黒色地 | |
| 159 | SI-008 | 土師器 | 杯 | 口径 12.0 底径 9.6 胎高 13.0 | 65% | 粘粒 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 外面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 胎土面 黒色地 | 黒色処理口縁以外小凹線 胎土面あり |
| 160 | SI-008 | 土師器 | 杯 | 口径 13.6 底径 9.6 胎高 3.6 | 80% | 砂粒 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 外面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後線ナミガキ・輪槽痕 胎土面 黒色地 | |
| 161 | SI-008 | 土師器 | 杯 | 口径 14.0 底径 9.6 胎高 4.0 | 95% | 砂粒 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 外面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後線ナミガキ 胎土面 黒色地 | 黒色処理小凹線 胎土面あり |
| 162 | SI-008 | 土師器 | 杯 | 口径 11.9 底径 9.6 胎高 3.7 | 95% | 精製 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 外面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 下線ナデ 外面 ケズリ後線ナミガキ 胎土面 黒色地 | |
| 163 | SI-008 | 土師器 | 杯 | 口径 12.8 底径 9.6 胎高 3.7 | 80% | 砂粒多量 | 内面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 外面 黒色地・地・赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ 胎土面 黒色地 | |
| 164 | SI-008 | 土師器 | 飯 | 口径 10.0 底径 10.0 胎高 18.1 | 胴部下半~底部 50% | 砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 輪槽痕 ケズリ 外面 ケズリ 胎土面 黒色地 | |
| 165 | SI-009 | ミニチュア土師 | | 口径 7.1 底径 5.0 胎高 2.1 | 40% | 砂粒 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 指頭圧痕 ヘラナデつけ 胎土面 黒色地 | 粘土指輪上成形? コップ形 |
| 166 | SI-009 | ミニチュア土師 | | 口径 5.8 底径 3.5 胎高 3.7 | 62% | 砂粒 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 胎土面 木葉痕 | 手捏成形-碗形 |
| 167 | SI-009 | ミニチュア土師 | | 口径 4.7 底径 2.4 胎高 2.6 | 100% | 微砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 指頭圧痕 ナデ 外面 指頭圧痕 胎土面 黒色地 | 手捏成形-碗形 |
| 168 | SI-009 | ミニチュア土師 | | 口径 5.3 底径 4.3 胎高 2.3 | 40% | 白色細砂粒 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 指頭圧痕 外面 指頭圧痕 胎土面 黒色地 | 手捏成形-碗形 |
| 169 | SI-009 | ミニチュア土師 | | 口径 6.0 底径 5.0 胎高 2.1 | 25% | 粘粒多量砂粒 微量 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 指頭圧痕 胎土面 黒色地 | 手捏成形-碗形 |
| 170 | SI-009 | ミニチュア土師 | | 口径 9.6 底径 1.8 胎高 8.5 | 82% | 砂粒 | 内面 赤い帯(7.5YR6/4) 外面 赤い帯(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 指頭圧痕 ナデ 外面 指頭圧痕 ナデ 胎土面 黒色地 | 手捏成形-皿形 |
| 171 | SI-009 | ミニチュア土師 | | 口径 8.5 底径 6.0 胎高 10.6 | 30% | 砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 胎土面 黒色地 | 手捏成形-碗形 器面美観丁寧 |
| 172 | SI-009 | 土師器 | 杯 | 口径 4.2 底径 3.6 胎高 9.4 | 85% | 砂粒 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 下線ナデ 外面 ケズリ後線ナミガキ 胎土面 木葉痕指頭圧痕による平度 | |
| 173 | SI-009 | 土師器 | 杯 | 口径 9.4 底径 4.2 胎高 4.7 | 75% | 砂粒多量 | 内面 黒(7.5YR6/6) 外面 黒(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ・輪槽痕 胎土面 ミガキ | |

| № | 選柄No. | 種類 | 器種 | 法量(cm) | 透光度 | 胎土 | 色調(色処理・焼成) | 器面調整技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|----|-------------------------------|-----------------|--------------|---|--|-------------------------|
| 174 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 13.9 底径 9.8 高さ 4.9 | 50% | 精粒 | 内面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 外面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧なミガキ ケズリ鏡ミガキ 底外面 - | |
| 175 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 12.2 底径 9.8 高さ (3.8) | 25% | 精粒砂状の 雑質 | 内面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 外面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ・器面割削 外面 ケズリ鏡ミガキ 底外面 - | |
| 176 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 13.0 底径 9.8 高さ 4.0 | 50% | 精粒 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ鏡ミガキ 底外面 - | |
| 177 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 14.2 底径 (4.8) | | 砂粒多量 | 内面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 外面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 器割削しく凸面割削 外面 ケズリ鏡ミガキ・器割削 | |
| 178 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 14.4 底径 9.8 高さ 5.3 | 30% | 砂粒多量 | 内面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 外面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ部分的にナデ 底外面 - | |
| 179 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 (13.8) | 30% | 砂粒多量 | 内面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 外面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 底外面 - | |
| 180 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 (21.0) | 35% | 砂粒多量 | 内面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 外面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ鏡ミガキ・ナデ 底外面 - | |
| 181 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 13.5 底径 9.8 高さ 4.9 | 70% | 砂粒多量 | 内面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 外面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ鏡ミガキ 底外面 - | |
| 182 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 (14.0) | 30% | 砂粒 | 内面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 外面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ部分的にミガキ・ナデ 底外面 - | |
| 183 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 14.4 底径 9.8 高さ 5.1 | 75% | 砂粒(白色混 立) | 内面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 外面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ鏡ミガキ 底外面 - | |
| 184 | SI-009 | 土師器 | 坏 | 口径 13.8 底径 9.8 高さ 6.7 | 60% | 砂粒多量 | 内面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 外面 赤系・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ・器面割削 外面 ケズリ鏡ナデ・ミガキ 底外面 - | 焼熱による器 面割削 |
| 185 | SI-009 | 土師器 | 甕 | 口径 (15.6) | 口縁部一帯 瓶上平25% | 砂粒 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 器割削しく凸面に割削 外面 ケズリ鏡ナデ・一帯割削 底外面 - | |
| 186 | SI-009 | 土師器 | 甕 | 口径 18.8 底径 - 高さ (21.9) | 口縁部一帯 瓶上平80% | 砂粒 | 内面 土にイロ(7SYR64) 外面 土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ部分的にミガキ 底外面 - | |
| 187 | SI-009 | 土師器 | 甕 | 口径 (15.1) | 口縁部一帯 瓶上平25% | 砂粒多量 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ鏡ナデ 底外面 - | |
| 188 | SI-009 | 土師器 | 甕 | 口径 (13.2) | 口縁部一帯 瓶上平35% | 粗砂粒 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ鏡ナデ・ミガキ 底外面 - | 半成形・輪削 胎土自体が赤 褐色 |
| 189 | SI-009 | 土師器 | 甕 | 口径 (25.0) | 底径 (9.2) | 砂粒 | 内面 土にイロ(7SYR64) 外面 土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ ケズリ ケズリ 底外面 - | |
| 190 | SI-010 | ミニチュア土器 | | 口径 3.8 底径 2.8 高さ 1.8 | 50% | 砂粒 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 指染仕立 外面 指染仕立 底外面 - | 半成形・輪削 |
| 191 | SI-010 | ミニチュア土器 | | 口径 3.5 底径 3.0 高さ 2.3 | 95% | 砂粒 | 内面 土にイロ赤褐色(5YR54) 外面 土にイロ赤褐色(5YR54) 胎土 良好 | 内面 指染仕立 外面 指染仕立・集合気引取 底外面 - | 半成形・輪削 胎土自体赤み 替ひる |
| 192 | SI-010 | ミニチュア土器 | | 口径 4.1 底径 4.0 高さ 2.5 | 100% | 砂粒多量 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 輪指染仕立 外面 指染仕立 ナデ 底外面 - | 半成形・輪削 |
| 193 | SI-010 | ミニチュア土器 | | 口径 (5.0) | 底径 (3.4) | 白色砂粒多 量 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧なナデ 外面 指染仕立 底外面 ナデ | 半成形・輪削 胎土自体赤み 替ひる |
| 194 | SI-010 | ミニチュア土器 | | 口径 (6.8) | 底径 (6.4) | 砂粒 | 内面 焼(7SYR64) 外面 赤褐色(5YR54) 胎土 良好 | 内面 指染仕立 外面 指染仕立 底外面 無調整 | 半成形・輪削 |
| 195 | SI-010 | ミニチュア土器 | | 口径 6.3 底径 5.7 高さ 3.2 | 95% | 砂粒多量 | 内面 土にイロ(7SYR64) 外面 土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 指染仕立 底外面 ナデ | 半成形・輪削 |
| 196 | SI-010 | ミニチュア土器 | | 口径 6.6 底径 5.8 高さ 2.8 | 100% | 砂粒 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 指染仕立 外面 指染仕立 底外面 無調整 | 半成形・輪削 胎土自体赤み 替ひる |
| 197 | SI-010 | 土師器 | 坏 | 口径 13.6 底径 9.8 高さ 4.1 | 60% | 精粒 | 内面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 外面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ鏡ミガキ 底外面 - | |
| 198 | SI-010 | 土師器 | 坏 | 口径 13.1 底径 9.8 高さ 4.3 | 25% | 粗粒砂状の 雑質 | 内面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 外面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ鏡ミガキ 底外面 - | |
| 199 | SI-010 | 土師器 | 坏 | 口径 12.5 底径 - 高さ (3.2) | 口縁部一帯 瓶上平50% | 粗粒砂状の 雑質 | 内面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 外面 黒色処理・地・土にイロ(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ・ケズリ鏡ミガキ 底外面 - | |
| 200 | SI-010 | 土師器 | 甕 | 口径 (13.0) | 口縁部一帯 瓶上平20% | 白色砂粒多 量 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリナデ 底外面 - | |
| 201 | SI-010 | 土師器 | 甕 | 口径 - 底径 7.2 高さ (6.0) | 底部60% | 白色砂粒多 量 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 手輪ケズリ | |
| 202 | SI-010 | 土師器 | 甕 | 口径 7.0 底径 (4.5) | 底部100% | 白色砂粒多 量 | 内面 焼(7SYR64) 外面 焼(7SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧なヘラナデ 外面 ミガキ 底外面 ミガキ | |

| No. | 遺構名 | 種類 | 部様 | 法長(cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調(色見環)構成 | 器面装飾技法など | 備考 |
|-----|---------|---------|----|------------------------------------|----------------|----------------|---|--|--------------------------|
| 203 | SI-010 | 土師器 | 甕 | 口径 - 底径 - 高さ (27.7) | 頸部~底部 80% | 白色砂粒多量 | 内面 横(7.5YR7/6) 外面 横(7.5YR7/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 - | |
| 204 | SI-011 | ミニチュア土師 | | 口径 2.6 底径 大底 高さ 2.2 | 80% | 砂粒 | 内面 赤影・地・横(5YR6/6) 外面 赤影・地・横(5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 - | 地上掘様上成 形・残存 |
| 205 | SI-011 | ミニチュア土師 | | 口径 4.9 底径 4.2 高さ 2.0 | 70% | 砂粒 | 内面 横(5YR6/6) 外面 横(5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 指圧直 外面 指圧直 底外面 - | 地上掘様上成 形・残存 |
| 206 | SI-011 | ミニチュア土師 | | 口径 (12.8) 底径 (12.2) 高さ 1.7 | 底部40% | 微砂粒 | 内面 赤影・地・横(7.5YR6/6) 外面 赤影・地・横(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 指圧直ナデ 外面 指圧直ナデ 底外面 - | 残存? |
| 207 | SI-011 | ミニチュア土師 | | 口径 5.5 底径 5.9 高さ 3.6 | 脚部50% | 砂粒 | 内面 横(7.5YR6/6) 外面 横(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 - | 地上掘様上成 形・残存 |
| 208 | SI-011 | ミニチュア土師 | | 口径 8.5 底径 5.9 高さ 1.7 | 80% | 砂粒 | 内面 横(5YR6/4) 外面 横(5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 強いミガキ 外面 指圧直 底外面 - | 地上掘様上成 形・残存 |
| 209 | SI-011 | 土師器 | 甕 | 口径 (13.7) 底径 (12.8) 高さ (4.1) | 口縁部~体 部25% | 白色微砂粒 多量 | 内面 黒色処理・地・横(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地・横(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 - | 内面黒色処理 の残存良好 |
| 210 | SI-011 | 土師器 | 甕 | 口径 (13.7) 底径 5.1 高さ 5.7 | 40% | 砂粒多量 | 内面 横(7.5YR6/4) 外面 横(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 - | 赤影の可能性 はあるが器面 確認不明 |
| 211 | SI-011 | 土師器 | 甕 | 口径 (10.1) 底径 (5.2) 高さ (15.8) | 底部15% | 砂粒 | 内面 横(7.5YR6/6) 外面 横(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデケズリ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ | |
| 212 | SI-011 | 土師器 | 甕 | 口径 (15.8) 底径 7.4 高さ 26.4 | 40% | 砂粒多量 | 内面 横(7.5YR6/6) 外面 横(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 器面剥離 外面 ケズリ箇所々ミガキ 底外面 - | |
| 213 | SI-012A | 土師器 | 甕 | 口径 15.7 底径 大底 高さ (5.5) | 口縁部~体 部60% | 白色微砂粒 | 内面 赤影・地・横(7.5YR6/4) 外面 赤影・地・横(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 - | |
| 214 | SI-012A | 土師器 | 高甕 | 口径 - 底径 - 高さ (4.9) | 脚部50% | 白色砂粒 | 内面 赤影・地・横(5YR6/6) 外面 赤影・地・横(5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 - | |
| 215 | SI-012A | 土師器 | 高甕 | 口径 - 底径 - 高さ (6.9) | 脚部80% | 砂粒多量 | 内面 横(5YR6/6) 外面 赤影・地・横(5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 - | |
| 216 | SI-012A | 土師器 | 甕 | 口径 18.0 底径 7.2 高さ 28.9 | 60% | 砂粒多量 | 内面 横(7.5YR6/6) 外面 横(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ輪縁 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 - | |
| 217 | SI-012B | ミニチュア土師 | | 口径 (6.0) 底径 (2.0) 高さ 3.1 | 40% | 微砂粒多量 | 内面 横(5YR6/4) 外面 横(5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 指圧直後ナデ 外面 指圧直 底外面 - | 平縁成形・残存 |
| 218 | SI-012B | 土師器 | 甕 | 口径 10.4 底径 丸底 高さ 4.2 | 70% | 砂粒多量 | 内面 黒色処理・地・横(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地・横(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 - | |
| 219 | SI-012B | 土師器 | 甕 | 口径 6.1 底径 4.3 高さ (28.6) | 35% | 微砂粒少量 | 内面 黒色処理・地・横(5YR7/4) 外面 黒色処理・地・横(5YR7/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 ケズリ後ミガキ | |
| 220 | SI-012B | 土師器 | 甕 | 口径 (28.6) 底径 26.4 高さ (6.4) | 50% | 砂粒 | 内面 横(10YR6/4) 外面 横(10YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデケズリ 外面 ケズリ 底外面 - | 全体的に器 面剥離 |
| 221 | SI-012C | ミニチュア土師 | | 口径 (6.4) 底径 3.9 高さ (7.5) | 40% | 砂粒 | 内面 横(7.5YR6/6) 外面 横(7.5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 - | 地上掘様上成 形・残存 |
| 222 | SI-012C | ミニチュア土師 | | 口径 (7.5) 底径 3.7 高さ 3.7 | 40% | 微砂粒 | 内面 横(5YR6/4) 外面 横(5YR6/4) 胎土 やや不良 | 内面 指圧直ナデ 外面 指圧直ナデ 底外面 指圧直ナデ | 地上掘様上成 形・残存 |
| 223 | SI-012C | ミニチュア土師 | | 口径 8.8 底径 5.5 高さ (4.5) | 口縁部~体 部下70% | 微砂粒多量 | 内面 横(5YR6/4) 外面 横(5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ・ケズリ 底外面 - | 地上掘様上成 形・残存 |
| 224 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 14.0 底径 丸底 高さ 4.3 | 95% | 砂粒・赤褐色 スロリヤ | 内面 黒色処理・地・横(7.5YR6/4) 外面 黒色処理・地・横(7.5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 - | |
| 225 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 13.5 底径 丸底 高さ 5.5 | 90% | 砂粒 | 内面 黒色処理・地・横(5YR6/4) 外面 黒色処理・地・横(5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 強いケズリ 底外面 - | |
| 226 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 (14.8) 底径 丸底 高さ (4.0) | 口縁部~体 部30% | 精粒 | 内面 黒色処理・地・横(5YR6/4) 外面 黒色処理・地・横(5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ後々々ミガキ 底外面 - | |
| 227 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 13.0 底径 5.0 高さ 3.8 | 95% | 砂粒多量 | 内面 黒色処理・地・横(5YR6/4) 外面 黒色処理・地・横(5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 - | |
| 228 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 - 底径 7.2 高さ (4.4) | 脚部下平~ 底部70% | 砂粒 | 内面 横(5YR6/6) 外面 横(5YR6/6) 胎土 やや不良 | 内面 強いヘラナデ 外面 ケズリ部分弱ミガキ 底外面 手締ケズリ・ミガキ | |
| 229 | SI-012C | 土師器 | 鉢 | 口径 12.5 底径 8.8 高さ 9.9 | 50% | 砂粒 | 内面 横(5YR6/4) 外面 横(5YR6/4) 胎土 やや不良 | 内面 ナデ・ナデ 外面 ナデ 底外面 - | 連続により器 面剥離 |
| 230 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 13.5 底径 9.8 高さ 20.1 | 55% | 微砂粒 | 内面 横(5YR6/6) 外面 横(5YR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 手締ケズリ | |
| 231 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 17.0 底径 - 高さ (21.0) | 口縁部~脚 部下70% | 砂粒 | 内面 横(5YR6/4) 外面 横(5YR6/4) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 - | |

| 施 | 遺構No. | 種類 | 素材 | 法量(cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調(色相)・焼成 | 表面調査技法など | 備考 |
|-----|---------|-----|----|----------------------------------|-----------------|---------------|---|--|---------------------------|
| 232 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 119.0 底径 - 器高 119.4 | 口縁部~胴 部下半25% | 砂粒多量 | 内面 紅・白・黄(7SYR6/4) 外面 紅・白・黄(7SYR6/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ・ナデ ケズリ 底外面 - | |
| 233 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 123.0 底径 115.0 器高 108.0 | 口縁部~胴 部40% | 白色砂粒多 量・黄 | 内面 黄(7SYR6/6) 外面 黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ナデ、ミガキ 底外面 良好 | 糸割型壁 |
| 234 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 18.0 底径 - 器高 115.3 | 口縁部~胴 部上半40% | 精緻 | 内面 黄(7SYR6/6) 外面 黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 丁寧なヘラナデ ケズリ 底外面 - | |
| 235 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 126.0 底径 115.1 器高 110.9 | 口縁部~胴 部上半25% | 砂粒多量 | 内面 明赤黄(5YR5/6) 外面 明赤黄(5YR5/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ後ミガキ ケズリ 底外面 - | (内面)スス (外面)スス |
| 236 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 26.8 底径 - 器高 124.4 | 口縁部~胴 部50% | 砂粒 | 内面 黄(7SYR6/6) 外面 黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 - | |
| 237 | SI-012C | 土師器 | 甕 | 口径 126.8 底径 115.0 器高 111.8 | 45% | 砂粒多量 | 内面 明赤黄(5YR5/6) 外面 明赤黄(5YR5/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ後ミガキ、ケズリ ケズリ 底外面 - | |
| 238 | SI-013 | 両口器 | 坏 | 口径 111.2 底径 丸底 器高 65.5 | 30% | 精緻な白色砂 粒多量 | 内面 灰(10YR7/1) 外面 灰(10YR7/1) 胎土 良好 | 内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ 底外面 回転ケズリ | (内面)自然釉に ローム痕あり |
| 239 | SI-013 | 両口器 | 坏 | 口径 61.9 底径 丸底 器高 63.6 | 口縁部~胴 部18% | 精緻 | 内面 紅・白・黄(7SYR5/4) 外面 紅・白・黄(10YR5/2) 胎土 良好 | 内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ、回転ケズリ 底外面 良好 | |
| 240 | SI-013 | 両口器 | 坏 | 口径 111.0 底径 丸底 器高 63.8 | 口縁部~胴 部25% | 精緻 | 内面 灰(10YR7/1) 外面 灰(10YR7/1) 胎土 良好 | 内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ、回転ケズリ 底外面 - | (内面)自然釉 山型足やケズリ |
| 241 | SI-013 | 両口器 | 高坏 | 口径 - 底径 丸底 器高 68.0 | 脚部上半 70% | 白色砂粒 白色砂礫 | 内面 灰(10Y5/1) 外面 灰(10Y5/1) 胎土 良好 | 内面 ロクロナデ後ナツク 外面 回転ケズリ新痕 底外面 - | (外面)自然釉 |
| 242 | SI-013 | 土師器 | 甕 | 口径 7.0 底径 丸底 器高 4.7 | 100% | 砂粒多量 | 内面 紅・白・黄(7SYR7/4) 外面 紅・白・黄(7SYR7/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 - | |
| 243 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 12.6 底径 丸底 器高 4.1 | 60% | 精緻な白色 スロリア | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ、後ミガキ 底外面 - | No244と同型 |
| 244 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 12.8 底径 丸底 器高 3.7 | 50% | 精緻 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ後黄々ミガキ、ナデ 底外面 - | No243と同型 |
| 245 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 12.0 底径 丸底 器高 4.1 | 80% | 精緻 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ(ミガキ状) 底外面 - | |
| 246 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 13.0 底径 丸底 器高 3.8 | 45% | 砂粒 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 - | 精緻により内 外面部割傷 |
| 247 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 12.4 底径 丸底 器高 4.6 | 75% | 砂粒 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ後ナデ・ミガキ 底外面 - | |
| 248 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 12.0 底径 丸底 器高 4.3 | 30% | 黄砂粒 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 - | 内面の黒色地 埋はほとんど 遺存しない |
| 249 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 11.8 底径 丸底 器高 4.0 | 60% | 砂粒 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 - | 一部器高が少 みを著げる |
| 250 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 12.1 底径 丸底 器高 4.2 | 80% | 砂粒 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 - | |
| 251 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 12.1 底径 丸底 器高 4.0 | 60% | 砂粒 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底外面 - | |
| 252 | SI-013 | 土師器 | 坏 | 口径 12.1 底径 丸底 器高 4.0 | 口縁部~胴 部60% | 砂粒 | 内面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 外面 黒色地埋・地・黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後所々ミガキ 底外面 - | |
| 253 | SI-013 | 土師器 | 高坏 | 口径 - 底径 - 器高 68.1 | 脚部70% | 白色砂粒多 量 | 内面 赤砂・地・黄(7SYR6/6) 外面 赤砂・地・黄(7SYR6/6) 胎土 不良 | 内面 ヘラナデ、輪模痕 ケズリ 底外面 - | |
| 254 | SI-013 | 土師器 | 鉢 | 口径 121.0 底径 117.0 器高 75.0 | 口縁部~胴 部25% | 砂粒 | 内面 紅・白・黄(7SYR7/4) 外面 赤砂・地・黄(7SYR7/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ(ミガキ状) ケズリ 底外面 - | |
| 255 | SI-013 | 土師器 | 鉢 | 口径 18.5 底径 6.4 器高 11.2 | 65% | 砂粒多量 | 内面 黄(7SYR6/6) 外面 黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ、ミガキ 外面 ナデ多量的にミガキ 底外面 手滑ケズリ | |
| 256 | SI-013 | 土師器 | 甕 | 口径 113.3 底径 107.0 器高 110.5 | 口縁部~胴 部40% | 砂粒 | 内面 紅・白・黄(7SYR6/4) 外面 紅・白・黄(7SYR6/4) 胎土 良好 | 内面 筋面新痕 外面 ケズリ 底外面 良好 | 内外面ともに 被熱して変色 |
| 257 | SI-013 | 土師器 | 甕 | 口径 117.8 底径 - 器高 145.5 | 口縁部~胴 部下半30% | 白色砂粒多 量 | 内面 紅・白・黄(7SYR6/4) 外面 紅・白・黄(7SYR6/4) 胎土 不良 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 - | |
| 258 | SI-013 | 土師器 | 甕 | 口径 22.0 底径 6.7 器高 34.1 | 80% | 白色砂粒砂 礫多量 | 内面 紅・白・黄(7SYR6/4) 外面 紅・白・黄(7SYR6/4) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ナデ・ミガキ 底外面 ミガキ | |
| 259 | SI-013 | 土師器 | 甕 | 口径 120.0 底径 7.4 器高 33.0 | 65% | 白色砂粒砂 礫多量 | 内面 黄(7SYR6/6) 外面 黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 割傷多い 外面 ナデ・ミガキ 底外面 手滑ケズリ | |
| 260 | SI-013 | 土師器 | 甕 | 口径 111.8 底径 107.0 器高 30.0 | 口縁部~胴 部下半30% | 白色砂粒砂 礫多量 | 内面 黄(7SYR6/6) 外面 黄(7SYR6/6) 胎土 良好 | 内面 細かいヘラナデ 外面 ナデ、ミガキ 底外面 良好 | |

| No. | 遺構No. | 種類 | 形状 | 法長(cm) | 遺存度 | 胎土 | 色顔(色器理)構成 | 器面調整技法など | 備考 |
|-----|--------|-----|----|--------------------------------|------------------|---------------|---|--|-----------------|
| 261 | SI-013 | 土師器 | 瓶 | 口径 29.9 底径 10.6 高さ 23.5 | 90% | 砂粒多量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ・ミガキ、ケズリ 外面 ケズリ 底面 - | 内面磨滅して フツキあり |
| 262 | SI-013 | 土師器 | 瓶 | 口径 27.0 底径 8.0 高さ 25.2 | 70% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 丁寧なヘラナデ 外面 ケズリ 底面 - | |
| 263 | SI-014 | 土師器 | 瓶 | 口径 9.1 底径 6.3 高さ 5.4 | 80% | 細砂粒多量 | 内面 横(7)SYR7(6) 外面 横(7)SYR7(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ナデ 磨滅感 底面 ナデ | |
| 264 | SI-014 | 土師器 | 瓶 | 口径 8.4 底径 4.9 高さ 4.5 | 75% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR7(6) 外面 横(7)SYR7(6) 底面 平々心良 | 内面 ヘラナデ・ナデ 外面 ナデ 底面 ナデ | |
| 265 | SI-014 | 土師器 | 瓶 | 口径 7.4 底径 4.6 高さ 7.3 | 100% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR7(6) 外面 横(7)SYR7(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ、ミガキ 底面 手持ケズリ | |
| 266 | SI-014 | 土師器 | 坏 | 口径 12.3 底径 丸底 高さ 3.8 | 98% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(4) 外面 横(7)SYR6(4) 底面 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底面 - | |
| 267 | SI-014 | 土師器 | 坏 | 口径 (13.9) 底径 - 高さ (3.9) | 口縁部一帯 約40% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(4) 外面 横(7)SYR6(4) 底面 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底面 - | |
| 268 | SI-014 | 土師器 | 坏 | 口径 17.1 底径 丸底 高さ 6.6 | 75% | 白色砂粒 | 内面 横(7)SYR7(6) 外面 横(7)SYR7(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底面 - | |
| 269 | SI-014 | 土師器 | 坏 | 口径 (14.9) 底径 丸底 高さ (4.5) | 口縁部一帯 約40% | 砂粒多量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底面 - | 胎土自体赤く 黄色 |
| 270 | SI-014 | 土師器 | 坏 | 口径 (13.0) 底径 - 高さ - | 口縁部一帯 約30% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 丁寧なミガキ 外面 ケズリ後ミガキ 底面 - | |
| 271 | SI-014 | 土師器 | 坏 | 口径 (4.2) 底径 丸底 高さ 3.6 | 60% | 砂粒多量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ後ミガキ 底面 - | |
| 272 | SI-014 | 土師器 | 高坏 | 口径 17.2 底径 - 高さ (12.0) | 口縁部一帯 約85% | 白色砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ケズリ、ナデ 外面 ケズリ、ナデ 底面 - | |
| 273 | SI-014 | 土師器 | 高坏 | 口径 8.2 底径 (4.5) 高さ 8.6 | 約570% | 白色細砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底面 - | |
| 274 | SI-014 | 土師器 | 高坏 | 口径 6.6 底径 (6.6) 高さ 8.4 | 約570% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ナデ 底面 - | 器面内面十字 磨あり |
| 275 | SI-014 | 土師器 | 壺 | 口径 8.4 底径 (6.7) 高さ (6.7) | 口縁部一帯 約60% | 砂粒少量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ナデ 磨滅感 外面 ケズリ 底面 - | |
| 276 | SI-014 | 土師器 | 壺 | 口径 - 底径 8.0 高さ (4.3) | 底面100% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 部分的ミガキ 底面 手持ケズリ | |
| 277 | SI-014 | 土師器 | 壺 | 口径 8.4 底径 2.5 高さ 14.7 | 90% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR7(6) 外面 横(7)SYR7(6) 底面 良好 | 内面 磨滅感、ヘラナデ(ケズリ)状 外面 ナデ 部分的にミガキ 底面 - | |
| 278 | SI-014 | 土師器 | 壺 | 口径 14.6 底径 6.6 高さ 11.6 | 70% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ・ミガキ 外面 手持ケズリ 底面 - | |
| 279 | SI-014 | 土師器 | 壺 | 口径 (12.6) 底径 丸底 高さ (4.3) | 口縁部一帯 約30% | 砂粒赤褐色 スコリア | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 部分的ミガキ 底面 - | 薄く硬質 |
| 280 | SI-015 | 土師器 | 坏 | 口径 (13.6) 底径 丸底 高さ (5.8) | 口縁部一帯 約60% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底面 - | |
| 281 | SI-015 | 土師器 | 坏 | 口径 10.9 底径 丸底 高さ (3.9) | 口縁部一帯 約60% | 砂粒 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 丁寧なナデ 外面 ミガキ 底面 - | |
| 282 | SI-015 | 土師器 | 坏 | 口径 14.6 底径 丸底 高さ 4.8 | 70% | 白色砂粒多量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 丁寧なナデ・ミガキ 外面 ケズリ後部分的ミガキ 底面 - | |
| 283 | SI-015 | 土師器 | 高坏 | 口径 8.0 底径 (2.3) 高さ (2.3) | 約75% | 砂粒多量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ヨコナデ 底面 - | |
| 284 | SI-015 | 土師器 | 壺 | 口径 14.6 底径 - 高さ (17.6) | 口縁部一帯 約上半部75% | 砂粒多量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 部分的に斜磨 外面 ケズリ後部分的ミガキ 底面 - | |
| 285 | SI-015 | 土師器 | 壺 | 口径 6.5 底径 (10.2) 高さ 16.0 | 約75% | 白色砂粒多量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ後ミガキ ナデケケ状 底面 手持ケズリ | |
| 286 | SI-015 | 土師器 | 壺 | 口径 6.4 底径 28.5 | 90% | 砂粒多量 | 内面 横(7)SYR6(6) 外面 横(7)SYR6(6) 底面 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底面 手持ケズリ | |
| 287 | SI-016 | 須恵器 | 坏産 | 口径 - 底径 丸底 高さ (3.5) | 約80% | 白色砂粒 | 内面 横(10)Y(1) 外面 横(10)Y(1) 底面 良好 | 内面 ロコロナデ 外面 ロコロナデ、回転ケズリ 底面 - | No288とセット |
| 288 | SI-016 | 須恵器 | 坏 | 口径 12.6 底径 丸底 高さ 4.5 | 85% | 白色砂粒 | 内面 横(10)Y(1) 外面 横(10)Y(1) 底面 良好 | 内面 ロコロナデ 外面 ロコロナデ、回転ケズリ 底面 - | No287とセット |
| 289 | SI-016 | 土師器 | 坏 | 口径 12.2 底径 丸底 高さ 3.3 | 70% | 砂粒 | 内面 横(10)Y(1) 外面 横(10)Y(1) 底面 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底面 - | 底面により磨 面もろい |

| No. | 遺構No. | 種類 | 器種 | 法量(cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調(色尾端)-焼成 | | 器面調整技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|------|----------------------------------|----------------|---------------|---|--|-------------------|----|
| | | | | | | | 内面 | 外面 | | |
| 290 | SI-016 | 土師器 | 坏 | 口径 113.0 底径 9.8 器高 5.4 | 40% | 砂粒 | 内面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ兼ナデ 底外面 底ナデ | | |
| 291 | SI-016 | 土師器 | 坏 | 口径 14.4 底径 9.8 器高 6.5 | 90% | 砂粒多量 | 内面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ・ミガキ 外面 ケズリ兼ナデ 底外面 ナデ | | |
| 292 | SI-016 | 土師器 | 坏 | 口径 14.6 底径 9.8 器高 5.2 | 90% | 砂粒 | 内面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ兼ナデ・ミガキ 底外面 底ナデ | | |
| 293 | SI-016 | 土師器 | 坏 | 口径 10.2 底径 9.8 器高 4.5(7) | 口縁部一帯 約60% | 砂粒 | 内面 赤影(7.SYR64) 外面 赤影(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ兼ミガキ 底外面 底ナデ | | |
| 294 | SI-016 | 土師器 | 坏 | 口径 116.0 底径 9.8 器高 4.3(7) | 口縁部一帯 約50% | 砂粒少量 | 内面 黒色染・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 黒色染・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧ナミガキ 外面 ケズリ兼ミガキ 底外面 底ナデ | | |
| 295 | SI-016 | 土師器 | 高坏 | 口径 - 底径 15.8 器高 4.5(7) | 胴部(口縁部以外) | 砂粒多量 | 内面 赤影(7.SYR64) 外面 赤影(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデヘラナデ 外面 ケズリナデ 底外面 底ナデ | 破熟により器 面白み帯びる | |
| 296 | SI-016 | 土師器 | 横 | 口径 14.5 底径 - 器高 4.6(6) | 口縁部一帯 約70% | 砂粒 | 内面 地にぶい耀(7.SYR64) 外面 地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 底ナデ | 穴縁部により 器面白み帯びる | |
| 297 | SI-016 | 土師器 | 罎 | 口径 13.1 底径 - 器高 12.7(2) | 口縁部一帯 約上80% | 粒状物(砂粒) 多量 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ兼ナデ 底外面 底ナデ | 器面割傷気味 | |
| 298 | SI-016 | 土師器 | 罎 | 口径 11.0 底径 - 器高 4.7(3) | 口縁部一帯 約上90% | 砂粒 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ兼ナデ・ミガキ 底外面 底ナデ | 胎土自体が赤く 褐色 | |
| 299 | SI-016 | 土師器 | 罎 | 口径 12.1 底径 - 器高 4.7(2) | 口縁部一帯 約下50% | 砂粒 | 内面 明赤(7.SYR64) 外面 明赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧ヘラナデ 外面 ケズリ兼ナデ(ミガキ状) 底外面 底ナデ | | |
| 300 | SI-016 | 土師器 | 罎 | 口径 18.6 底径 7.5 器高 35.7 | 75% | 白色砂粒多 量 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 横面割傷 外面 ケズリ 底外面 横割ケズリ | | |
| 301 | SI-016 | 土師器 | 罎 | 口径 15.5 底径 8.4 器高 12.9(2) | 40% | 砂粒多量 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ部分的にミガキ | | |
| 302 | SI-016 | 土師器 | 罎 | 口径 18.3 底径 7.0 器高 21.9 | 55% | 砂粒多量 | 内面 地にぶい耀(7.SYR64) 外面 地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ・ケズリ 外面 ケズリ兼ミガキ 底外面 底ナデ | | |
| 303 | SI-016 | 土師器 | 罎 | 口径 18.9 底径 12.0 器高 15.8 | 口縁部一帯 約上80% | 砂粒多量 | 内面 地にぶい耀(7.SYR64) 外面 地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ・器面割傷 外面 ケズリ兼ナデ・ミガキ 底外面 底ナデ | | |
| 304 | SI-017 | 土師器 | 高坏 | 口径 15.8 底径 9.8 器高 4.9(5) | 坏底55% | 砂粒多量 | 内面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ兼ナデ 底外面 底ナデ | №005と質感近い | |
| 305 | SI-017 | 土師器 | 高坏 | 口径 - 底径 4.3(3) 器高 16.0(1) | 胴部(口縁部以外) | 砂粒多量 | 内面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデヘラナデ 外面 ナデ(ミガキ状) 底外面 底ナデ | №004と質感近い | |
| 306 | SI-017 | ミニチュア土器 | | 口径 14.1 底径 2.6 器高 2.6 | 30% | 砂粒微量 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 底ナデ | 手捏成形-柄足 | |
| 307 | SI-017 | 土師器 | 坏 | 口径 13.7 底径 6.5 器高 9.0 | 90% | 白色砂粒多 量 | 内面 地にぶい耀(7.SYR64) 外面 地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 丁寧ヘラナデ 外面 ケズリ兼ナデ 底外面 底ナデ | 底面にケズリ? | |
| 308 | SI-017 | 土師器 | 罎 | 口径 16.7 底径 7.8 器高 35.3 | 80% | 砂粒多量 | 内面 明赤(7.SYR64) 外面 明赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 器面割傷 外面 ケズリ・器面割傷にミガキ 底外面 丁寧ケズリ | | |
| 309 | SI-018 | 土師器 | 坏 | 口径 12.2 底径 9.8 器高 5.3 | 75% | 砂粒微量 | 内面 黒色染・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 黒色染・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ兼ナデ・ミガキ 底外面 底ナデ | | |
| 310 | SI-018 | 土師器 | 表合付坏 | 口径 14.3 底径 8.4 器高 6.1 | 70% | 粒状物(砂粒) 微量 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ロタロナデ 外面 ロタロナデ 底外面 底ナデ | | |
| 311 | SI-016 | 土師器 | 罎 | 口径 114.0 底径 - 器高 11.9(1) | 口縁部一帯 約25% | 砂粒 | 内面 明赤(7.SYR64) 外面 明赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ兼ナデ 底外面 底ナデ | 破熟により器 面白み帯びる | |
| 312 | SI-018 | 土師器 | 罎 | 口径 17.9 底径 10.9 器高 4.0(3) | 胴部下半 底限30% | 砂粒 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 底ナデ | | |
| 313 | SI-018 | 土師器 | 罎 | 口径 22.6 底径 11.2 器高 28.8 | 50% | 砂粒 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 底外面 底ナデ | | |
| 314 | SI-021 | 須恵器 | 坏 | 口径 10.7 底径 9.8 器高 4.0 | 100% | 白色の塵少 量 | 内面 赤(7.SY91) 外面 赤(7.SY91) 胎土 良好 | 内面 ロタロナデ 外面 ロタロナデ・回転ケズリ 底外面 底ナデ | 内外面削自然 焼付 | |
| 315 | SI-021 | 土師器 | 坏 | 口径 12.9 底径 9.8 器高 4.0 | 40% | 砂粒 | 内面 黒色染・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 黒色染・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ兼ミガキ 底外面 底ナデ | | |
| 316 | SI-021 | 土師器 | 坏 | 口径 114.0 底径 9.8 器高 4.3(1) | 口縁部一帯 約30% | 砂粒 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 黒色染・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ兼ミガキ 底外面 底ナデ | 胎土自体が赤く 褐色 | |
| 317 | SI-021 | 土師器 | 高坏 | 口径 - 底径 10.0 器高 4.5(5) | 胴部40% | 粒状物多量 | 内面 赤(7.SYR64) 外面 明赤(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ケズリナデ 外面 ケズリ兼ナデナデ 底外面 底ナデ | | |
| 318 | SI-021 | 土師器 | 高坏 | 口径 115.4 底径 10.7 器高 4.9(9) | 40% | 砂粒多量 | 内面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 外面 赤影・地にぶい耀(7.SYR64) 胎土 良好 | 内面 ナデヘラナデ 外面 ケズリ兼ナデナデ 底外面 底ナデ | | |

| No. | 遺構No. | 種類 | 器種 | 流量(cm) | 透水性 | 粘土 | 色(質色処理)構成 | 器面調整技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|----|--|------------------------|--------|---|--------------------------------|-------------------|
| 319 | SI-021 | 土師器 | 甕 | 口径 12.1 底径 - 高さ 7.8 器高 20.6 | 口径部~胴 腹上下40% | 砂粒 | 内面 明赤帯(SYR60) 外面 明赤帯(SYR60) 構成 良好 | 内面 顔面磨 外面 ケズリ 底外面 - | |
| 320 | SI-021 | 土師器 | 甕 | 口径 20.6 底径 9.1 高さ 32.9 | 40% | 砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 ヘナナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ | No.322と同上・ 同形状 |
| 321 | SI-021 | 土師器 | 甕 | 口径 32.9 底径 9.1 高さ 32.9 器高 80.8 | 75% | 白色砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 ヘナナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ | 常給型 |
| 322 | SI-021 | 土師器 | 甕 | 口径 9.5 底径 3.5 高さ 25.5 | 胴部~底部 45% | 砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 1.單なナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ | No.320と同上・ 同形状 |
| 323 | SI-021 | 土師器 | 甕 | 口径 20.3 底径 6.4 高さ 22.0 器高 22.0 | 50% | 砂粒 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 ヘナナデ 外面 ケズリ 底外面 - | |
| 324 | SI-022 | ミニチュア土師 | 甕 | 口径 2.9 底径 1.8 高さ 2.0 器高 2.5 | 65% | 微砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ | 手捏成形・胴形 |
| 325 | SI-022 | ミニチュア土師 | 甕 | 口径 3.0 底径 2.5 高さ 2.5 器高 2.5 | 100% | 微砂粒多量 | 内面 赤い帯(10YR64) 外面 赤い帯(10YR64) 構成 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ | 手捏成形・胴形 |
| 326 | SI-022 | ミニチュア土師 | 甕 | 口径 6.0 底径 4.1 高さ 3.4 器高 6.0 | 80% | 微砂粒多量 | 内面 赤い帯(10YR74) 外面 赤い帯(10YR64) 構成 良好 | 内面 顔面磨 外面 ナデ 底外面 ナデ | 手捏成形・胴形 |
| 327 | SI-022 | 土師器 | 甕 | 口径 13.8 底径 3.7 高さ 13.8 器高 31.7 | 75% | 精粒砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 ナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ | |
| 328 | SI-022 | 土師器 | 甕 | 口径 13.8 底径 3.5 高さ 13.8 器高 31.7 | 口径部~胴 腹20% | 精粒 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 1.單なナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ | |
| 329 | SI-022 | 土師器 | 甕 | 口径 13.1 底径 3.5 高さ 13.1 器高 30.6 | 口径部~胴 腹25% | 砂粒 | 内面 赤い帯(10YR74) 外面 赤い帯(10YR74) 構成 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | |
| 330 | SI-022 | 土師器 | 甕 | 口径 14.2 底径 3.5 高さ 14.2 器高 33.5 | 1.口径部~胴 腹30% | 精粒砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 1.單なナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ | |
| 331 | SI-022 | 土師器 | 甕 | 口径 11.9 底径 3.0 高さ 11.9 器高 30.0 | 1.口径部~胴 腹40% | 砂粒多量 | 内面 赤い帯(10YR74) 外面 赤い帯(10YR64) 構成 良好 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ 底外面 ナデ | ロコ型 |
| 332 | SI-022 | 土師器 | 甕 | 口径 20.5 底径 9.1 高さ 21.8 器高 47.8 | 口径部~胴 腹上半40% | 白色砂粒多量 | 内面 赤い帯(10YR74) 外面 赤い帯(10YR74) 構成 良好 | 内面 ヘナナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | No.332と同上・ 同形状 |
| 333 | SI-022 | 土師器 | 甕 | 口径 19.7 底径 8.3 高さ 20.5 器高 46.4 | 65% | 白色砂粒多量 | 内面 赤い帯(10YR74) 外面 赤い帯(10YR74) 構成 良好 | 内面 ヘナナデ 外面 ケズリ 底外面 ケズリ | No.332と同上・ 同形状 |
| 334 | SI-023 | ミニチュア土師 | 甕 | 口径 14.0 底径 2.0 高さ 1.7 器高 3.7 | 70% | 微砂粒 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 指押圧 外面 指押圧 底外面 ナデ | 手捏成形・胴形 |
| 335 | SI-023 | 土師器 | 甕 | 口径 14.4 底径 4.7 高さ 14.4 器高 43.3 | 55% | 砂粒少量 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 1.單なナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | |
| 336 | SI-023 | 土師器 | 甕 | 口径 14.7 底径 4.8 高さ 14.7 器高 43.3 | 口径部~胴 腹25% | 微砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 ミガキ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | |
| 337 | SI-023 | 土師器 | 甕 | 口径 12.5 底径 4.8 高さ 12.5 器高 31.3 | 85% | 砂粒少量 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | |
| 338 | SI-023 | 土師器 | 高坏 | 口径 8.7 底径 6.1 高さ 8.7 器高 16.1 | 胴部40% | 微砂粒 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 ヨコナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | 粘土自体赤く 見える |
| 339 | SI-023 | 土師器 | 高坏 | 口径 9.3 底径 2.1 高さ 9.3 器高 21.1 | 胴部70% | 砂粒少量 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ 底外面 ナデ | |
| 340 | SI-023 | 土師器 | 甕 | 口径 16.6 底径 6.1 高さ 16.6 器高 41.9 | 口径部~胴 腹上半 器高100% | 砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 ヘナナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | |
| 341 | SI-023 | 土師器 | 甕 | 口径 26.0 底径 6.0 高さ 25.9 器高 61.1 | 90% | 砂粒 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 1.單なナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | |
| 342 | SI-023 | 土師器 | 甕 | 口径 16.3 底径 6.1 高さ 16.3 器高 40.9 | 口径部~胴 腹75% | 砂粒 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 ヘナナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | |
| 343 | SI-024 | ミニチュア土師 | 甕 | 口径 5.8 底径 3.2 高さ 6.1 器高 7.55 | 50% | 砂粒少量 | 内面 赤い帯(10YR64) 外面 赤い帯(10YR74) 構成 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | 粘土線彫り成 形・甕形 |
| 344 | SI-024 | ミニチュア土師 | 甕 | 口径 5.25 底径 3.25 高さ 6.25 器高 9.85 | 100% | 砂粒少量 | 内面 赤い帯(10YR64) 外面 赤い帯(10YR64) 構成 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | 粘土線彫り成 形・コップ形 |
| 345 | SI-024 | 土師器 | 甕 | 口径 4.85 底径 2.9 高さ 4.85 器高 11.3 | 90% | 砂粒少量 | 内面 赤い帯(7.SYR74) 外面 赤い帯(7.SYR74) 構成 良好 | 内面 ヨコナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ | |
| 346 | SI-025 | 土師器 | 甕 | 口径 9.4 底径 3.45 高さ 9.4 器高 17.6 | 70% | 砂粒多量 | 内面 赤い帯(7.SYR64) 外面 赤い帯(7.SYR64) 構成 良好 | 内面 ナデ 外面 ケズリ 底外面 ナデ | |
| 347 | SM-001 | 灰青磁 | 横瓶 | 口径 9.4 底径 3.45 高さ 9.4 器高 17.6 | 95% | 白色砂粒少量 | 内面 オリーブ黒(10Y3/1) 外面 オリーブ黒(10Y3/1) 構成 良好 | 内面 当て具 外面 当て具 底外面 ナデ | 断面灰色 |

| № | 遺構No | 種類 | 器種 | 法量(cm) | 遺存度 | 胎土 | 色調(色処理)-焼成 | 表面調整技法など | 備考 |
|-----|--------|---------|--------|---|-----------------|--------|---|---|-------------------------------|
| 348 | SM-001 | 須恵器 | 平皿(水筒) | 口径 2.6 底径 - 高さ (5.1) | 50% | 細砂粒少量 | 内面 灰白(7.5Y7/1) 外面 灰白(7.5Y7/1) 胎土 やや不良 | 内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ, 回転ケズリ | |
| 349 | SM-001 | 須恵器 | 壺 | 口径 3.4 底径 3.7 口径 3.9 口径 3.1 | 70% | 微砂粒 | 内面 灰白(10Y4/0) 外面 灰白(10Y4/0) 胎土 不明(7.5Y5/6) | 内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ, 回転ケズリ 胎土 不明ケズリ | |
| 350 | SM-001 | ミニチュア土器 | | 口径 2.8 底径 1.4 高さ 1.4 | 80% | 砂粒多量 | 内面 明黄(7.5Y5/6) 外面 明黄(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 胎土 手得ケズリ | 手堀成形-筒形 |
| 351 | SM-001 | ミニチュア土器 | | 口径 6.3 底径 6.9 口径 5.9 口径 6.0 | 75% | 砂粒 | 内面 明赤(7.5Y5/6) 外面 明赤(7.5Y5/6) 胎土 不明(10Y5/6) | 内面 指ナデ 外面 指頭圧気, 輪轆成 | 胎土 胎土上成 形-筒形, 胎土 自体赤く灰色 |
| 352 | SM-001 | ミニチュア土器 | | 口径 5.9 底径 4.4 高さ 4.4 | 80% | 砂粒少量 | 内面 明黄(7.5Y5/6) 外面 明黄(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 輪轆後指頭圧気 外面 指頭圧気, 輪轆成 | 胎土 胎土上成 形-筒形 |
| 353 | SM-001 | ミニチュア土器 | | 口径 5.9 底径 5.9 口径 5.9 口径 4.2 | 80% | 砂粒少量 | 内面 明黄(7.5Y5/6) 外面 明黄(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 輪轆後指頭圧気 外面 指頭圧気, 輪轆成 | 胎土 胎土上成 形-筒形 |
| 354 | SM-001 | 土師器 | 杯 | 口径 9.6 底径 9.6 高さ 4.2 | 45% | 粗粒 | 内面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎土 胎土上成 | 胎土 胎土上成 形-筒形 |
| 355 | SM-001 | 土師器 | 杯 | 口径 11.0 底径 9.8 口径 11.8 口径 11.0 | 口縁部-体 部25% | 白色砂粒 | 内面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎土 胎土上成 | |
| 356 | SM-001 | 土師器 | 杯 | 口径 14.0 底径 9.8 口径 14.2 口径 13.0 | 口縁部-体 部20% | 砂粒少量 | 内面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎土 胎土上成 | |
| 357 | SM-001 | 土師器 | 杯 | 口径 13.0 底径 9.8 口径 13.8 口径 13.8 | 口縁部-体 部75% | 砂粒 | 内面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎土 胎土上成 | |
| 358 | SM-001 | 土師器 | 杯 | 口径 13.8 底径 9.8 口径 13.8 口径 13.8 | 口縁部-体 部20% | 砂粒少量 | 内面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎土 胎土上成 | |
| 359 | SM-001 | 土師器 | 杯 | 口径 13.6 底径 9.1 口径 13.4 口径 13.4 | 口縁部-体 部25% | 粗粒砂粒少量 | 内面 明赤(7.5Y5/6) 外面 明赤(7.5Y5/6) 胎土 やや不良 | 内面 ナデ 外面 ナデ 胎土 胎土上成 | |
| 360 | SM-001 | 土師器 | 杯 | 口径 13.4 底径 9.8 口径 13.4 口径 13.4 | 80% | 粗粒 | 内面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ミガキ 外面 ミガキ 胎土 胎土上成 | |
| 361 | SM-001 | 土師器 | 杯 | 口径 12.8 底径 9.8 口径 12.7 口径 12.7 | 口縁部-体 部25% | 砂粒 | 内面 赤部-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 赤部-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 手取ナデ 外面 ナデ 胎土 胎土上成 | |
| 362 | SM-001 | 土師器 | 甕 | 口径 14.0 底径 9.8 口径 14.0 口径 14.0 | 口縁部-胴 部上半15% | 砂粒多量 | 内面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 黒色処理-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ナデ 胎土 胎土上成 | |
| 363 | SM-001 | 土師器 | 甕 | 口径 11.0 底径 9.8 口径 11.0 口径 11.0 | 口縁部50% | 砂粒 | 内面 明赤(7.5Y5/6) 外面 明赤(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ナデ 胎土 胎土上成 | 特に外面の割 落が目立つ |
| 364 | SM-001 | 土師器 | 甕 | 口径 11.0 底径 9.8 口径 11.0 口径 11.0 | 口縁部-胴 部上半30% | 砂粒多量 | 内面 明赤(7.5Y5/6) 外面 明赤(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ナデ 胎土 胎土上成 | ケズリ痕部分的にナデ |
| 365 | SM-001 | 土師器 | 甕 | 口径 10.0 底径 9.8 口径 10.0 口径 10.0 | 胴下半-底 部30% | 砂粒 | 内面 明赤(7.5Y5/6) 外面 明赤(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 ヘラナデ 外面 ナデ 胎土 胎土上成 | 胎土 胎土上成 形-ケズリが確認 できる |
| 366 | 遺構外 | 土師器 | 杯 | 口径 9.8 底径 9.8 口径 9.8 口径 9.8 | 作部-口縁 部70% | 白色砂粒少量 | 内面 赤部-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 赤部-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 手取ナデ 外面 ナデ 胎土 胎土上成 | |
| 367 | 遺構外 | 土師器 | 杯 | 口径 12.0 底径 9.8 口径 12.0 口径 12.0 | 口縁部-体 部30% | 粗粒砂少量 | 内面 赤部-地, 滑(7.5Y5/6) 外面 赤部-地, 滑(7.5Y5/6) 胎土 良好 | 内面 手取ナデ 外面 ナデ 胎土 胎土上成 | |

第9表 古墳時代 金属製品 計測表

< 現存長 () 推定

| 揮動No | 遺構番号 | 遺物No | 材質 | 製品名 | 横幅(mm) | 縦幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) |
|------|--------|------|----|-----|--------|--------|--------|-------|
| 1 | SI-004 | 1 | 鉄 | 鉄鏃 | <33.0> | <38.0> | 5.0 | 9.75 |
| 2 | SI-006 | 28 | 鉄 | 鉄鏃 | 17.0 | <33.0> | 3.0 | 3.34 |
| 3 | SI-006 | 29 | 鉄 | 鉄鏃 | 6.0 | <34.5> | 3.0 | 2.61 |
| 4 | SI-007 | 13 | 鉄 | 鉄鏃 | 9.0 | 135.0 | 2.0 | 8.56 |
| 5 | SI-023 | 25 | 鉄 | 刀子? | 10.0 | <50.0> | 2.5 | 4.46 |
| 6 | SM-001 | 4区-5 | 鉄 | 不明 | 17.0 | <40.5> | 2.5 | 9.3 |
| 7 | SI-024 | 5 | 鉄 | 不明 | 15.0 | <39.0> | 2.5 | 2.13 |
| 8 | SI-007 | 1 | 鉄棒 | | 20.0 | 14.0 | 13.0 | 4.39 |
| 9 | SI-002 | 19 | 鉄棒 | | 52.0 | 44.0 | 21.0 | 64.5 |
| 10 | 2E-88 | 1 | 鉄棒 | | 71.0 | <44.0> | 21.0 | 34.65 |

第10表 古墳時代 土製品 計測表

〈 保存長 () 推定

| 図号№ | 遺構№ | 遺物№ | 種類 | 色調(hue) | 縦横(mm) | 縦幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) | 備考 |
|-----|---------|------|-----|---------------|---------|---------|---------|-------|---------|
| 1 | SI-003 | 117 | 勾玉? | 7.5YR 明褐5/6 | <14.00> | <42.00> | 6.00 | 2.09 | |
| 2 | SI-006 | 1 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <11.00> | <27.10> | 7.90 | 2.18 | |
| 3 | SI-006 | 1 | 勾玉 | 10YR 灰黄褐4/2 | <12.50> | <28.90> | 9.00 | 2.63 | |
| 4 | SI-006 | 13 | 勾玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | <12.10> | <27.10> | 8.80 | 2.58 | |
| 5 | SI-012B | 2 | 勾玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | <11.90> | <26.10> | 7.80 | 1.86 | |
| 6 | SI-012C | 10 | 勾玉 | 10YR 黒褐3/1 | 13.00 | 30.70 | 9.20 | 2.73 | |
| 7 | SI-013 | 40 | 勾玉 | 10YR にぶい黄褐5/3 | 15.70 | 29.10 | 8.80 | 2.58 | |
| 8 | SI-024 | 21 | 勾玉 | 7.5YR 褐灰4/1 | 10.80 | 12.40 | 6.90 | 1.17 | |
| 9 | SI-024 | 2 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <11.10> | <22.40> | 9.80 | 2.57 | |
| 10 | SI-024 | 2 | 勾玉 | 7.5YR 橙6/6 | <8.30> | <17.90> | 7.20 | 1.08 | |
| 11 | SI-024 | 34 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <12.80> | <27.80> | 8.20 | 2.37 | |
| 12 | SI-024 | 35 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <11.30> | <22.90> | 9.00 | 2.23 | |
| 13 | SI-024 | 36 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 11.00 | 23.30 | 7.20 | 1.54 | |
| 14 | SI-024 | 35 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙5/3 | <13.60> | <13.20> | 8.20 | 1.37 | |
| 15 | SI-024 | 42 | 勾玉 | 10YR 黒褐3/1 | <12.00> | <20.70> | 7.90 | 1.82 | |
| 16 | SI-024 | 50 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 17.70 | 27.40 | 10.00 | 3.81 | |
| 17 | SI-024 | 38 | 勾玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 16.40 | 32.30 | 8.00 | 3.62 | |
| 18 | SI-024 | 57 | 勾玉 | 7.5YR 明褐5/6 | 15.00 | 22.10 | 8.90 | 2.45 | |
| 19 | SI-024 | 51 | 勾玉 | 2.5Y 黄褐5/3 | 14.90 | 25.30 | 8.30 | 2.36 | |
| 20 | SI-024 | 56 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <9.80> | <21.90> | 7.40 | 1.62 | |
| 21 | SI-024 | 73 | 勾玉 | 7.5YR 橙6/6 | 18.10 | 28.80 | 10.60 | 4.11 | |
| 22 | SI-024 | 83 | 勾玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | <13.30> | <26.00> | 7.20 | 1.99 | |
| 23 | SI-024 | 92-1 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <10.70> | <23.60> | 8.10 | 1.74 | |
| 24 | SI-024 | 85 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <14.10> | <33.10> | 8.20 | 3.03 | |
| 25 | SI-024 | 92-2 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <11.00> | <22.10> | 12.10 | 2.82 | |
| 26 | SI-024 | 63 | 勾玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 17.20 | 31.90 | 10.30 | 4.10 | |
| 27 | 2C-54 | 1 | 勾玉 | 10YR にぶい黄褐5/3 | 7.00 | 14.60 | 5.80 | 0.58 | |
| 28 | SI-002 | 30 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 19.30 | 17.00 | 13.30 | 4.01 | |
| 29 | SI-002 | 31 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙7/4 | 20.50 | 18.80 | 14.00 | 4.88 | |
| 30 | SI-002 | 47 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 18.90 | 17.80 | 13.80 | 4.16 | |
| 31 | SI-002 | 17 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | <19.00> | <11.80> | 12.50 | 1.95 | |
| 32 | SI-003 | 94 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 20.30 | 20.00 | 17.80 | 6.56 | |
| 33 | SI-004 | 25 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 22.10 | 20.40 | 16.30 | 6.55 | |
| 34 | SI-006 | 19 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 19.20 | 19.20 | 13.90 | 4.79 | |
| 35 | SI-006 | 31 | 土玉 | 10YR 黒褐3/1 | 7.60 | <6.90> | 7.30 | 0.41 | |
| 36 | SI-006 | 1 | 土玉 | 10YR 明黄褐6/6 | 9.30 | 8.90 | 8.20 | 0.56 | |
| 37 | SI-006 | 3 | 土玉 | 10YR 黒褐3/1 | <8.80> | 7.50 | <6.10> | 0.32 | |
| 38 | SI-006 | 2 | 土玉 | 7.5YR 褐灰4/1 | 9.20 | 9.10 | 7.00 | 0.57 | |
| 39 | SI-006 | 4 | 土玉 | 10YR 黒褐3/1 | 8.30 | 9.00 | 6.80 | 0.50 | |
| 40 | SI-006 | 5 | 土玉 | 10YR 黒褐3/1 | 8.30 | 8.20 | 5.10 | 0.33 | |
| 41 | SI-007 | 1 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | <17.10> | <10.80> | 16.60 | 7.18 | |
| 42 | SI-009 | 3 | 土玉 | 7.5YR 明褐5/6 | 23.00 | 18.00 | 20.90 | 7.10 | |
| 43 | SI-009 | 35 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 26.10 | 24.90 | 22.00 | 14.88 | |
| 44 | SI-009 | 58 | 不明 | 10YR にぶい黄褐5/3 | 29.10 | 19.30 | 25.50 | 12.87 | |
| 45 | SI-010 | 10 | 勾玉 | 10YR にぶい黄褐5/3 | - | - | - | 0.42 | 破片・実測せず |
| 46 | SI-012B | 2 | 土玉 | 10YR にぶい黄褐5/3 | (21.90) | <12.90> | 22.90 | 5.24 | |
| 47 | SI-013 | 18 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 18.90 | 20.20 | 16.60 | 5.61 | |
| 48 | SI-013 | 21 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 20.20 | 19.60 | 19.80 | 6.77 | |
| 49 | SI-013 | 30 | 土玉 | 10YR 黒褐3/1 | 8.40 | 8.90 | 7.00 | 0.59 | |
| 50 | SI-013 | 38 | 土玉 | 10YR 褐灰4/1 | 9.20 | 9.20 | 8.10 | 0.73 | |
| 51 | SI-016 | 1 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙7/4 | 25.90 | 25.00 | 22.30 | 15.33 | |
| 52 | SI-017 | 15 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙5/3 | 25.00 | 24.90 | 28.00 | 17.64 | |
| 53 | SI-017 | 5 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 23.60 | 21.90 | 19.40 | 10.74 | |
| 54 | SI-017 | 18 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 22.80 | 22.30 | 20.70 | 10.85 | |
| 55 | SI-017 | 8 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/3 | (23.90) | (23.10) | <24.20> | 10.98 | |
| 56 | SI-022 | 17 | 土玉 | 10YR 灰黄褐5/2 | 10.40 | 10.10 | 9.70 | 1.05 | |
| 57 | SI-022 | 19 | 土玉 | 7.5YR 褐灰4/1 | 9.40 | 8.80 | 8.40 | 0.71 | |
| 58 | SI-022 | 25 | 土玉 | 7.5YR 黒2/1 | 8.20 | 8.40 | 9.20 | 0.61 | |
| 59 | SI-024 | 92-3 | 土玉 | 10YR にぶい黄褐5/3 | 19.30 | 19.60 | 17.50 | 6.35 | |
| 60 | SI-024 | 58 | 土玉? | 7.5YR 黒2/1 | 6.70 | 6.50 | 11.80 | 0.49 | |
| 61 | SI-024 | 41 | 土玉 | 10YR 褐灰4/1 | 10.20 | 10.20 | 8.90 | 0.96 | |
| 62 | SI-024 | 88 | 土玉 | 10YR 黒褐3/2 | 9.20 | 8.90 | 5.40 | 0.65 | |
| 63 | SI-024 | 70 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 8.90 | 9.40 | 7.20 | 0.45 | |
| 64 | SI-024 | 92-4 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 9.60 | 9.80 | 7.50 | 0.62 | |
| 65 | SI-024 | 53 | 土玉 | 10YR 黒褐3/1 | 9.30 | 8.20 | 8.30 | 0.69 | |

| 得意地 | 遺構No. | 遺物No. | 種類 | 色調(Hue) | 個径(mm) | 縦幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) | 備考 |
|---------|--------|---------|-----|----------------|--------|--------|--------|-------|---------|
| 65 | SI-024 | 92-15 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.30 | 6.10 | 7.20 | 0.34 | |
| 66 | SI-024 | 92-9 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 10.50 | 9.00 | 7.80 | 0.67 | |
| 67 | SI-024 | 92-12 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 8.70 | 7.40 | 6.50 | 0.39 | |
| 68 | SI-024 | 92-11 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 9.10 | 9.40 | 6.30 | 0.50 | |
| 69 | SI-024 | 92-6 | 土冢 | 10YR 黒褐3/2 | 8.20 | 8.90 | 8.40 | 0.61 | |
| 70 | SI-024 | 92-7 | 土冢 | 10YR 灰黄褐4/2 | 8.60 | 7.30 | 6.60 | 0.42 | |
| 71 | SI-024 | 54 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 8.40 | 7.90 | 7.90 | 0.58 | |
| 72 | SI-024 | 92-8 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.70 | 6.30 | 7.30 | 0.28 | |
| 73 | SI-024 | 62 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | 8.10 | 7.90 | 4.80 | 0.38 | |
| 74 | SI-024 | 22 | 土冢 | 7.5YR 黒2/1 | 7.30 | 8.30 | 6.20 | 0.40 | |
| 75 | SI-024 | 92-13 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 8.40 | 7.60 | 4.60 | 0.29 | |
| 76 | SI-024 | 29 | 土冢 | 7.5YR 黒褐3/1 | 7.10 | 6.40 | 6.80 | 0.32 | |
| 77 | SI-024 | 71 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.20 | 7.80 | 4.90 | 0.28 | |
| 78 | SI-024 | 23 | 土冢 | 7.5YR 黒2/1 | 7.80 | 8.00 | 6.10 | 0.36 | |
| 79 | SI-024 | 92-10 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.60 | 7.40 | 6.30 | 0.34 | |
| 80 | SI-024 | 92-14 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.80 | 7.20 | 4.90 | 0.27 | |
| 81 | SI-024 | 32 | 土冢 | 7.5YR 黒褐3/1 | 7.70 | 7.80 | 5.30 | 0.39 | |
| 82 | SI-024 | 30 | 土冢 | 7.5YR 黒褐3/1 | 6.30 | 6.80 | 8.90 | 0.36 | |
| 83 | SI-024 | 63 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.90 | 7.50 | 8.90 | 0.45 | |
| 84 | SI-024 | 59 | 土冢 | 7.5YR 褐灰4/1 | 7.30 | 7.00 | 6.20 | 0.31 | |
| 85 | SI-024 | 25 | 土冢 | 7.5YR 褐灰4/1 | 6.80 | 6.90 | 6.90 | 0.33 | |
| 86 | SI-024 | 72 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 6.50 | 7.10 | 3.60 | 0.18 | |
| 87 | SI-024 | 33 | 土冢 | 7.5YR 褐灰4/1 | 6.80 | 7.30 | 5.90 | 0.29 | |
| 88 | SI-024 | 92-5 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.70 | 7.30 | 5.90 | 0.36 | |
| 89 | SI-024 | 39 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | 7.40 | 8.60 | 5.10 | 0.32 | |
| 90 | SI-024 | 60 | 土冢 | 7.5YR 褐灰4/1 | 7.70 | 7.30 | 6.80 | 0.39 | |
| 91 | SI-024 | 64 | 土冢 | 10YR 黒褐3/2 | 7.20 | 5.90 | 5.30 | 0.21 | |
| 92 | SI-024 | 69 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 6.40 | 7.20 | 6.00 | 0.29 | |
| 93 | SI-024 | 37 | 土冢 | 7.5YR 黒褐3/1 | 6.40 | 7.20 | 4.30 | 0.23 | |
| 94 | SI-024 | 84 | 土冢 | 10YR 灰黄褐4/2 | 6.30 | 7.30 | 6.00 | 0.26 | |
| 95 | SI-024 | 91 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.10 | 6.90 | 6.10 | 0.29 | |
| 96 | SI-024 | 28 | 土冢 | 7.5YR 黒褐3/1 | 6.10 | 7.00 | 6.20 | 0.25 | |
| 97 | SI-024 | 24 | 土冢 | 7.5YR 黒2/1 | 7.60 | 7.10 | 6.80 | 0.35 | |
| 98 | SI-024 | 89 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 7.20 | 6.10 | 4.30 | 0.20 | |
| 99 | SI-024 | 44 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | 7.20 | 6.30 | 6.80 | 0.34 | |
| 100 | SI-024 | 92-17 | 土冢 | 10YR 褐灰4/1 | 6.40 | <4.90> | 5.70 | 0.15 | |
| 101 | SI-024 | 92-16 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | 6.10 | 4.80 | 4.30 | 0.14 | |
| 102 | SI-024 | 40 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | 6.10 | 6.10 | 5.20 | 0.24 | |
| 103 | SI-024 | 19 | 土冢 | 7.5YR 褐灰4/1 | 6.10 | 6.30 | 4.20 | 0.18 | |
| 104 | SI-024 | 27 | 土冢 | 7.5YR 黒褐3/1 | 6.40 | 6.20 | 4.80 | 0.19 | |
| a(出土位置) | SI-024 | 80 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | - | - | - | 0.24 | 破片・実測せず |
| b(出土位置) | SI-024 | 86 | 土冢 | 10YR 灰黄褐4/2 | - | - | - | 0.14 | 破片・実測せず |
| c(出土位置) | SI-024 | 87 | 土冢 | 10YR 灰黄褐4/2 | - | - | - | 0.60 | 破片・実測せず |
| - | SI-024 | 92-18 | 土冢? | 10YR 灰黄褐4/2 | - | - | - | 0.37 | 破片・実測せず |
| - | SI-024 | 61 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | - | - | - | 0.22 | 破片・実測せず |
| - | SI-024 | 43 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | - | - | - | 0.14 | 破片・実測せず |
| - | SI-024 | 26 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | - | - | - | 0.18 | 破片・実測せず |
| - | SI-024 | 20 | 土冢 | 10YR 黒褐3/1 | - | - | - | 0.33 | 破片・実測せず |
| 105 | SM-001 | 2トレ-2 | 土冢 | 7.5YR にぶい-褐5/4 | 17.40 | 17.80 | 15.00 | 3.99 | |
| 106 | SM-001 | 2トレ-3 | 土冢 | 10YR にぶい-黄褐5/4 | 18.80 | 18.10 | 16.30 | 4.79 | |
| 107 | SM-001 | 18K-103 | 土冢 | 10YR 橙1/6 | 19.40 | 18.00 | 15.00 | 4.91 | |
| 108 | SM-001 | 18K-105 | 土冢 | 7.5YR にぶい-橙6/3 | 18.90 | 17.90 | 16.80 | 6.45 | |
| 109 | SM-001 | 18K-107 | 土冢 | 7.5YR 橙6/6 | 19.90 | 18.80 | 16.20 | 5.59 | |
| 110 | SM-001 | 28K-4 | 土冢 | 7.5YR にぶい-橙5/4 | 18.30 | 17.90 | 16.20 | 4.58 | |
| 111 | SM-001 | 18K-106 | 土冢 | 10YR にぶい-黄褐5/3 | 19.00 | 16.60 | 14.90 | 4.14 | |
| 112 | SM-001 | 28K-5 | 土冢 | 7.5YR 橙6/6 | 18.40 | 17.30 | 15.00 | 4.29 | |
| 113 | SM-001 | 28K-3 | 土冢 | 10YR にぶい-黄褐5/4 | 18.20 | 18.20 | 16.00 | 4.32 | |
| 114 | SM-001 | 18K-108 | 土冢 | 10YR にぶい-黄褐6/4 | 17.80 | 17.90 | 15.90 | 4.37 | |
| 115 | SM-001 | 18K-23 | 土冢 | 7.5YR 橙6/6 | 16.40 | 15.30 | 13.50 | 2.91 | |
| 116 | SM-001 | 2トレ-4 | 土冢 | 10YR にぶい-黄褐6/4 | 17.80 | 15.10 | 11.50 | 2.81 | |
| 117 | SM-001 | 28K-17 | 土冢 | 7.5YR 明黄5/6 | 18.40 | 17.80 | 15.20 | 4.45 | |
| 118 | SM-001 | 28K-19 | 土冢 | 10YR 明黄褐6/6 | 18.90 | 18.20 | 16.70 | 4.81 | |
| 119 | SM-001 | 18K-13 | 土冢 | 7.5YR にぶい-橙5/4 | 22.00 | 20.50 | 18.10 | 8.14 | |
| 120 | SM-001 | 28K-21 | 土冢 | 10YR 明黄褐6/6 | 17.30 | 17.70 | 15.90 | 4.14 | |
| 121 | SM-001 | 2トレ-5 | 土冢 | 7.5YR 橙6/6 | 19.20 | 18.90 | 16.90 | 5.34 | |
| 122 | SM-001 | 38K-7 | 土冢 | 10YR にぶい-黄褐7/3 | 22.10 | 21.00 | 19.80 | 8.89 | |
| 123 | SM-001 | 18K-14 | 土冢 | 10YR にぶい-黄褐6/4 | 18.70 | 17.30 | 20.80 | 6.71 | |
| 124 | SM-001 | 28K-16 | 土冢 | 7.5YR 橙6/6 | 17.30 | 17.90 | 14.60 | 3.82 | |

| 押印№ | 遺物№ | 遺物% | 種類 | 色調(Hue) | 横幅(mm) | 縦幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) | 備考 |
|-----|----------|--------|------|------------------------|---------|---------|---------|--------|----|
| 125 | SM-001 | 1K-22 | 土玉 | 10YR にぶい黄褐5/4 | 17.40 | 〈17.20〉 | 〈15.40〉 | 3.38 | |
| 126 | SM-001 | 1K-91 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 18.50 | 17.70 | 15.50 | 4.48 | |
| 127 | SM-001 | 2K-8 | 土玉 | 10YR 黄褐5/8 | 20.80 | 19.30 | 17.80 | 5.93 | |
| 128 | SM-001 | 2K-9 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 20.00 | 19.90 | 17.90 | 6.30 | |
| 129 | SM-001 | 2K-12 | 土玉 | 10YR 黄褐5/8 | 18.70 | 17.90 | 15.90 | 4.46 | |
| 130 | SM-001 | 2K-11 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 18.20 | 18.60 | 17.20 | 4.94 | |
| 131 | SM-001 | 2K-13 | 土玉 | 10YR 黄褐5/8 | 16.90 | 18.20 | 14.80 | 3.80 | |
| 132 | SM-001 | 1K-104 | 土玉 | 7.5YR にぶい橙6/4 | 17.90 | 18.90 | 15.30 | 4.54 | |
| 133 | SM-001 | 2K-7 | 土玉 | 7.5YR 明褐5/6 | 17.30 | 16.90 | 14.40 | 3.63 | |
| 134 | SM-001 | 2K-6 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 17.60 | 16.40 | 16.60 | 3.76 | |
| 135 | SM-001 | 2K-14 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 18.30 | 16.40 | 15.40 | 4.42 | |
| 136 | SM-001 | 2K-10 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙5/4 | 17.10 | 15.80 | 14.70 | 3.43 | |
| 137 | SM-001 | 2K-18 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 17.00 | 16.50 | 15.40 | 3.83 | |
| 138 | SM-001 | 1K-31 | 土玉 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 18.00 | 19.30 | 15.20 | 5.47 | |
| 139 | SM-001 | 2K-20 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 18.50 | 17.80 | 16.40 | 4.83 | |
| 140 | SM-001 | 2K-15 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 18.90 | 16.90 | 15.90 | 4.35 | |
| 141 | SM-001 | 1K-2 | 土玉 | 7.5YR 橙6/6 | 19.00 | 16.50 | 11.20 | 3.63 | |
| 142 | SM-001 | 4K-4 | 土玉 | 10YR にぶい黄褐4/3 | 9.00 | 8.50 | 6.00 | 0.48 | |
| 143 | SI-003 | 118 | 不明 | 7.5YR橙6/6 | 3.10 | 2.40 | 1.20 | 6.20 | |
| 144 | SI-017 | 1 | 不明 | 7.5YR 橙6/6 | 42.60 | 31.20 | 24.20 | 22.42 | |
| 145 | SI-006 | 1 | 不明 | 7.5YR 明褐5/6 | 36.00 | 43.60 | 15.40 | 18.87 | |
| 146 | SI-014 | 1 | 不明 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 43.40 | 31.50 | 13.30 | 14.63 | |
| 147 | (SM-001) | 3K-102 | 不明 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 34.30 | 39.80 | 11.80 | 11.45 | |
| 148 | SI-022 | 1 | 埴輪 | 10YR にぶい黄橙6/4 | 〈82.70〉 | 〈81.20〉 | 15.50 | 114.54 | |
| 149 | SI-009 | 2 | 不明 | 7.5YR 橙6/6 | 32.00 | 30.90 | 12.20 | 11.14 | |
| 150 | SI-004 | 64 | 穿孔上板 | にぶい橙(7.5YR6/4) | 5.2 | 6.4 | 0.9 | 25.44 | |
| 151 | SI-014 | 1 | 線刻 | にぶい橙(7.5YR6/4) | 5.99 | 3.16 | 0.9 | 15.17 | |
| 152 | SI-014 | 1 | 線刻 | 黒色処理・(地)にぶい橙(7.5YR6/4) | 5.28 | 3.5 | 0.68 | 12.75 | |
| 153 | SI-014 | 1 | 線刻 | 黒色処理・(地)にぶい橙(7.5YR6/4) | 5.6 | 3.9 | 0.6 | 16.05 | |
| 154 | SI-015 | 4 | 支脚? | 7.5YR にぶい橙5/4 | 55.20 | 89.20 | 43.30 | 193.92 | |
| 155 | SI-015 | 3 | 支脚? | 10YR にぶい黄橙6/4 | 30.80 | 49.20 | 20.10 | 26.20 | |
| 156 | SI-006 | 26 | 支脚 | 7.5YR 橙6/6 | 73.40 | 〈125.3〉 | 41.90 | 360.22 | |

第11表 古墳時代 石製品 計測表

◁ 現存品 ()推定

| 押印№ | 遺物№ | 遺物% | 種類 | 石材 | 横幅(mm) | 縦幅(mm) | 厚み(mm) | 重量(g) |
|-----|--------|-----|------|-------|---------|----------|--------|--------|
| 1 | SI-024 | 55 | 小玉 | 滑石 | 11.20 | 11.80 | 6.10 | 1.18 |
| 2 | SI-024 | 31 | 小玉 | 滑石 | 11.80 | 12.50 | 5.90 | 1.15 |
| 3 | SI-006 | 23 | 勾玉? | 滑石 | 〈18.80〉 | 〈37.10〉 | 7.10 | 5.73 |
| 4 | SI-001 | 1 | 有孔円板 | 滑石 | 21.90 | 21.10 | 4.70 | 3.78 |
| 5 | SI-004 | 18 | 紡錘車 | 絹雲母片岩 | 32.20 | 33.80 | 20.10 | 22.21 |
| 6 | SI-013 | 44 | 紡錘車 | 粘板岩? | 38.80 | 39.10 | 9.70 | 20.05 |
| 7 | SI-013 | 39 | 紡錘車 | 粘板岩? | 34.40 | 36.70 | 4.80 | 7.38 |
| 8 | SI-024 | 74 | 紡錘車 | 滑石 | 〈39.40〉 | 〈24.30〉 | 24.20 | 26.16 |
| 9 | SI-023 | 78 | 玉原石 | 綠泥片岩? | 68.7 | 64.6 | 37.6 | 237.48 |
| 10 | SI-005 | 1 | 砥石 | 凝灰岩 | 53.4 | 37.1 | 5.5 | 13.62 |
| 11 | SI-009 | 49 | 砥石 | 凝灰岩 | 56.50 | 〈141.00〉 | 43.50 | 501.30 |
| 12 | SI-018 | 10 | 砥石 | 凝灰岩 | 23.90 | 〈31.80〉 | 23.80 | 31.12 |
| 13 | SI-022 | 1 | 砥石 | 凝灰岩 | 34.9 | 43.9 | 13.5 | 22.32 |
| 14 | 2E-71 | 1 | 砥石 | 凝灰岩 | 25.60 | 〈34.60〉 | 19.40 | 20.35 |
| 15 | 2C-24 | 1 | 砥石 | 凝灰岩 | 30.1 | 29.9 | 10.3 | 10.75 |
| 16 | 3E-13 | 1 | 玉原石 | 凝灰岩 | 46.3 | 48.3 | 17.6 | 35.68 |

第4章 まとめ

遺跡全体の調査概要については第1章にて記述したため、ここでは本遺跡で主体を占める古墳時代後期～終末期についての成果を中心にまとめることにしたい。

第1節 出土遺物の様相と集落の変遷

1 出土遺物の様相 (第79図, 第12・13表)

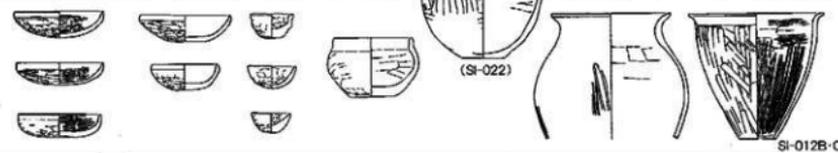
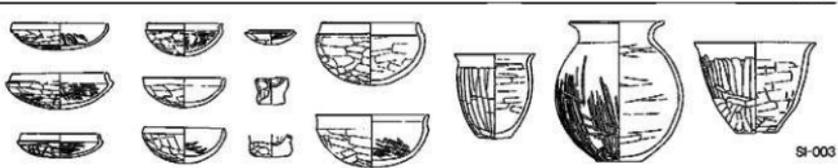
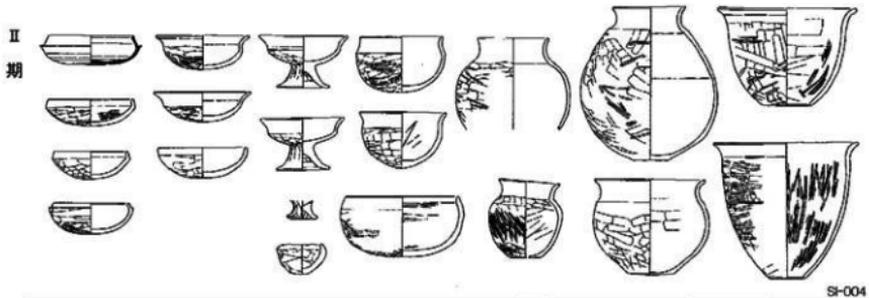
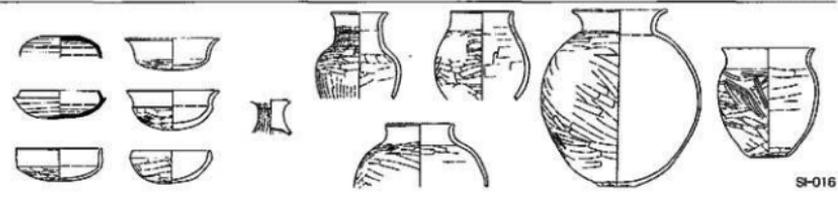
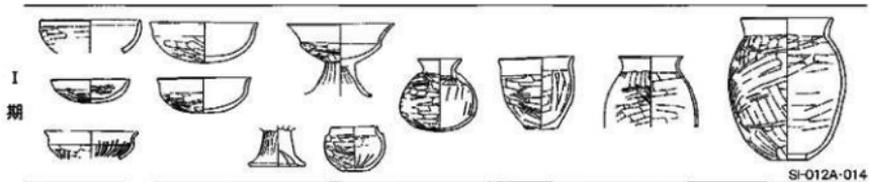
本遺跡の古墳時代後期～終末期の遺構は23軒の竪穴住居と1基の長方墳である。竪穴住居は台地全体に散在し、切り合いはSI-012A・B・CとSI-022A・Bでのみ確認された。SI-012B・CとSI-022A・Bでは出土遺物や覆土堆積の状況から時期が大きく離れるものではなく、軸やカマドの位置の共通性などからも建て替えと考えられる。このように竪穴住居の切り合いが非常に少ないという点は、単一集団の継続性のある集落と捉えることも可能で、古墳が検出された長方墳以外に同台地上では確認されていない点も同様な視点で説明が可能かと思われる。

多くの竪穴住居のカマド周辺や貯蔵穴からは完形に近い土器類がまとまって出土した。ここでは、周辺遺跡の良好な調査成果⁹⁾を参考にし、本遺跡の土器形態や器種の組み合わせの様相を大きく3段階に分期して変遷を考えることにしたい。各期の土器様相は以下の通りである。

第Ⅰ期 SI-012A・SI-014が該当する。いずれの住居跡も完掘ができず、遺物量が少なく、全器種の様相は不明瞭である。また、SI-012AとSI-014の土器様相は若干異なるが、集落内で古相を示す土器群としてまとめて捉えた。坏類はすべて赤彩され、碗状の大型坏と口縁が外反する坏が特徴である。高坏の坏部は外反する坏と同形状のものである。甕類は個体数が少なく、特徴は判然としませんが、壺や肩部の張りの緩やかな小型の甕がみられる。甕は甕形を呈し、孔は底部底面を削って穿く。外面調整は横方向のヘラケズリが主体である。この時期の住居からは須恵器は出土していない。

第Ⅱ期 SI-016・SI-004から出土した土器を指標とする。土師器坏は前段階に引き続き、口縁が外反する個体がみられ、外反も大きい。また、底部から体部に丸みをもつ須恵器坏身模倣の土師器坏が新たに加わる。明らかにMT15型式段階の須恵器坏蓋を模倣した土師器坏がSI-016に含まれる。高坏は口縁部の外反する小型の良好個体がみられるが、SI-004のみで他の遺構にはほとんど含まれない。坏類の表面塗彩は赤彩と黒色処理が混在するが、赤彩がやや目立つ。赤彩から黒色処理に移り変わる過渡期の土器様相と捉えられる。他に中型碗・鉢類や口縁部が短く直立する形状の甕類がみられる。大型甕は肩部が張る個体が多く、肩部が下膨れ状で口径の小さい甕など形状が多種である。甕は甕形のものと同様に開く個体もみられる。甕類の外面調整は前段階と同様に横方向のヘラケズリが主体である。この時期の住居から須恵器が伴出するようになるが、希少である。遺存度の高い須恵器型式はMT15～TK10型式段階と考えられる。

第Ⅲ期 SI-003・SI-005・SI-012B・Cから出土した土器を指標とする。土師器坏は前段階までの口縁が大きく外反する個体はなく、口縁が短くわずかに開く個体がわずかにみられる程度である。主体は漆による黒色処理の施された須恵器坏身模倣の土師器坏となる。内面は丁寧なヘラミガキ調整が施される。前段階に



第79図 土器の変遷 (坏類:S=1/8, 壶・甕類:S=1/10)

比べ、口縁部高はほとんど変化はないが、口径が広く、器高がやや低くなる(第13表)。底部付近の丸みが取れ扁平化するものが多い。口縁端部が短く直立する坏類も含まれ、それらは新相になると平底を意識した形状に変化すると考えられる(SI-12B・C)。高坏に良好な資料はないが、大型の碗・鉢類は引き続き個体数は多くないが含まれる。大型甕類には胴部下半が縦位にヘラミガキ調整され、胎土には多量の白色砂礫が含まれる常総型甕がみられるようになる。それ以外の甕類は遺存率が低く良好な資料は少ないが、前段階よりも胴部の張りが弱い傾向にある。甕は胴部が直線的に開く形状が主体で、第Ⅱ期より比較的薄手で、外面調整は縦方向のヘラケズリが目立つ。須恵器は前段階と変わらず少量で破片資料だが、口径の小さいものがほとんどである。

それぞれの年代であるが、土師器が主体で須恵器が数点しか出土しておらず積極的に断定できる根拠はほとんどない。とりあえずの可能性として、第Ⅱ期の住居から出土した須恵器をMT15～TK10型段階(6世紀前半～中葉)と捉え、土師器の連続的な器形変化から考えて第Ⅰ期がそれ以前のTK23～47型段階、第Ⅲ期がTK43～209型段階とおおまかに想定するのが、現段階の主流な土師器編年観とも整合すると考えている。

2 集落の変遷(第80～82図、第12・13図)

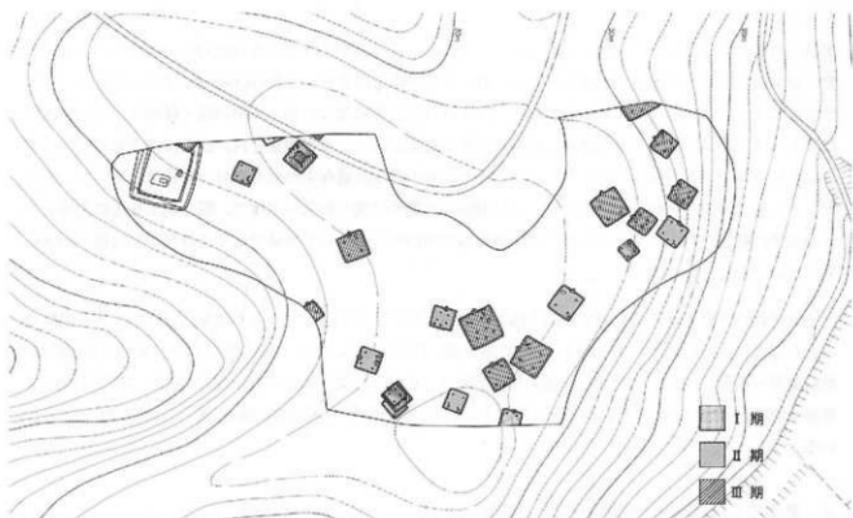
出土土師の検討により、本遺跡では本格的な集落の形成は古墳時代後期から開始され、長方墳の築造をもって、集落自体も終焉を迎える様相が明らかになってきた。第Ⅰ期～Ⅲ期と比較的おおまかに段階を設定したが、土師器の形態変化は連続的に進めるため、継続性のあった集落を想定することが可能であろう。土師器の変遷を基準に竪穴住居を時期別にまとめたのが、第12表である。なお、遺構の情報が少なく、一般土師器類の出土が少ないSI-024については少なくとも第Ⅰ期ではないと考えられるが、時期を特定できなかった。表の右側に記入した遺構は時期を断定できなかったことを示し、?を付して表示した。第Ⅰ期が2軒、第Ⅱ期が7軒、第Ⅲ期が16軒となり、古墳時代後期の後半ほど竪穴住居数が増加する。

第Ⅰ期の竪穴住居は調査区南側に偏って検出された。台地自体は調査区南側にも延びているためその方向に当該期の遺構が展開する可能性はあるが、等高線のみより現地では調査区南側の台地平坦面は狭く、大きな広がりはない。住居床面積を計測できたのはSI-012Aの1軒で20.94㎡であるが、SI-014も調査部分から想定して25～30㎡と推定できる。各期の中では比較的小規模である。平面形もやや長方形を呈する点の特徴としてあげられる。また、主軸が目立った傾向はみられない。

第Ⅱ期の竪穴住居は、分布にまとまりはなく、台地全体に散在する。住居規模のばらつきは少なく、平均床面積は29.55㎡で、第Ⅰ期よりはやや大きくなる。SI-016・SI-021ではカマドの痕跡を確認できなかった。主軸はSI-017を除きN-30°-E周辺に集中する傾向がみられる。

第Ⅲ期の竪穴住居は、台地全体に5軒程度ずつまとまりをもって分布する。調査区北側に更に展開する可能性があるが、北東側は台地がくびれるように細くなるため集落単位としてはそれほど大きく広がらない。SI-001・SI-006・SI-010・SI-013の様に大型住居と中型住居とに規模が分化しているようにみえる。住居の平均床面積は34.19㎡で、3期の内で最大規模である。住居の主軸方向はN-40°-W周辺にすべて集中し、第Ⅱ期と同様に同時期内における深い関連が想定できる。

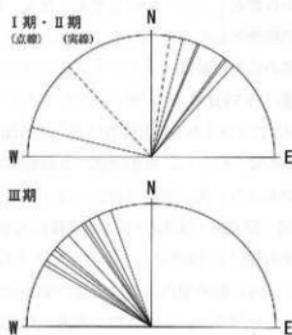
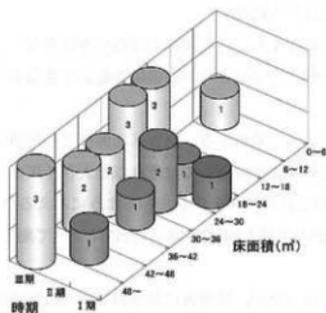
主に出土土師によって3時期の変遷を想定した竪穴住居であったが、時期毎に共通の傾向が指摘できた。



第80図 竪穴住居の変遷

第12表 竪穴住居 時期別一覧表

| | | |
|------|--|-----------------|
| I期 | SI-012A SI-014 | |
| II期 | SI-004 SI-009 SI-015 SI-016 SI-017 SI-021 SI-023 | SI-024? |
| III期 | SI-001 SI-002 SI-003 SI-005 SI-006 SI-008 SI-010 SI-011 SI-013 SI-018 | SI-007? SI-025? |
| | SI-012B・C SI-022A・B | |



第81図 時期別 竪穴住居床面積分布

第13表 整穴住居 時期別内容一覧表

| 時期 | 遺構№ | 実測坪積平均値 (cm) | | | | 赤漆環 | | 黒色処理環 | | 常総型 点数 | 貯蔵穴の 位置 | 主軸方向 | 規模 (m) | 床面積 (㎡) |
|-------|---------|--------------|-------|------|------|-----|------|-------|------|-----------|------------|---------|-------------|------------|
| | | 実測数 | 口径 | 器高 | 口縁高 | 点数 | 比率 | 点数 | 比率 | | | | | |
| Ⅰ期 | SI-012A | 3 | - | - | - | 3 | 100% | 0 | 0% | 0 | 入口寄り? | N-42°-W | (5.04)×4.24 | 20.94 |
| | SI-014 | 12 | - | - | - | 5 | 42% | 0 | 0% | 0 | (入口寄り?) | N-9°-E | -×5.15 | - |
| Ⅱ期 | SI-004 | 35 | 12.13 | 4.71 | 1.19 | 17 | 49% | 9 | 26% | 0 | 入口寄り | N-38°-E | 5.78×5.82 | 34.61 |
| | SI-009 | 13 | 12.5 | 4.16 | 0.88 | 5 | 38% | 5 | 38% | 0 | 入口寄り | N-37°-E | 6.63×6.7 | 44.09 |
| | SI-015 | 4 | - | - | - | 2 | 50% | 0 | 0% | 0 | 入口寄り | N-15°-E | 5.2×5.28 | 21.54 |
| | SI-016 | 9 | 12.2 | 5.3 | 1.15 | 3 | 33% | 1 | 11% | 0 | 入口寄り? | N-23°-E | 5.09×4.84 | 24.86 |
| | SI-017 | 3 | - | - | - | 1 | 33% | 0 | 0% | 0 | 入口寄り | N-76°-W | 5.25×5.4 | 28.46 |
| | SI-021 | 5 | 12.5 | 4 | 1.35 | 1 | 20% | 1 | 20% | 1 | 入口寄り | N-22°-E | 4.82×4.86 | 23.77 |
| | SI-023 | 5 | 12.5 | 6.3 | 1.3 | 2 | 40% | 2 | 40% | 0 | 入口寄り | N-42°-E | - | - |
| Ⅱ-Ⅲ期? | SI-024 | 1 | 9.85 | 4.3 | 1.5 | 1 | 100% | 0 | 0% | 0 | カマド寄り? | N-28°-W | -×5.44 | - |
| Ⅲ期 | SI-001 | 3 | 12.86 | 4.3 | 1.05 | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | カマド寄り? | N-30°-W | -×8.7 | - |
| | SI-002 | 8 | 13.52 | 4.06 | 1.08 | 0 | 0% | 4 | 50% | 0 | カマド寄り | N-51°-W | 5.06×5.35 | 27.57 |
| | SI-003 | 18 | 13.45 | 4.54 | 1.21 | 1 | 6% | 10 | 56% | 1 | カマド寄り | N-60°-W | 5.26×5.45 | 28.68 |
| | SI-005 | 10 | 13.37 | 4.37 | 1.21 | 0 | 0% | 10 | 100% | 2 | なし | N-54°-W | 5.48×5.5 | 29.05 |
| | SI-006 | 15 | 13.3 | 4.4 | 1.21 | 0 | 0% | 13 | 87% | 0 | カマド寄り | N-55°-W | 7.64×8.01 | 59.64 |
| | SI-008 | 5 | 13.06 | 4.1 | 0.91 | 0 | 0% | 5 | 100% | 0 | なし | N-42°-W | 4.94×4.58 | 21.74 |
| | SI-010 | 3 | 13.06 | 4.2 | 1.03 | 0 | 0% | 3 | 100% | 1? | なし | N-33°-W | (7.8)×6.96 | 51.89 |
| | SI-011 | 2 | 13.7 | 5.1 | 1.2 | 0 | 0% | 1 | 50% | 0 | なし | N-34°-W | 4.64×(4.32) | 19.82 |
| | SI-013 | 16 | 12.43 | 4.1 | 1.18 | 0 | 0% | 10 | 63% | 3 | カマド寄り | N-26°-W | 8.5×5.16 | 71.42 |
| | SI-018 | 2 | 12.2 | 5.3 | 1.5 | 0 | 0% | 1 | 50% | 0 | カマド寄り | N-19°-W | 6.38×6.32 | 39.24 |
| Ⅲ期新 | SI-012B | 2 | 12.3 | 4.25 | 0.9 | 0 | 0% | 2 | 100% | 0 | (なし) | N-42°-W | 5.7×5.22 | 30.87 |
| | SI-012C | 4 | 13.82 | 3.92 | 1.01 | 0 | 0% | 4 | 100% | 1 | なし | N-42°-W | 4.44×4.43 | 19.22 |
| | SI-022A | 5 | - | - | - | 0 | 0% | 4 | 80% | 0 | なし | N-50°-W | 2.63×2.57 | 5.81 |
| | SI-022B | 5 | 13.8 | 3.7 | 0.8 | 0 | 0% | 4 | 80% | 0 | カマド寄り | N-50°-W | 5.96×5.96 | 35.34 |
| Ⅲ期? | SI-007 | 2 | - | - | - | 0 | 0% | 1 | 50% | 0 | カマド寄り | N-27°-W | 6.28×6.18 | 38.47 |
| | SI-025 | 1 | 11.3 | - | 0.95 | 0 | 0% | 1 | 100% | 0 | カマド寄り? | N-36°-W | (4.08)×- | - |

※床面積は住居下層(壁河溝を含む)をプランメータで計測して算出した。なお、カマドの突出部分は除外している。

竪穴住居における貯蔵穴の位置を確認してみると、第Ⅱ期と第Ⅲ期とで設置される位置が変化することが分かる(第13表)。主軸の共通性も併せて、土器による時期設定がある程度確度の高いものといえよう。

一方、本集落の特徴として多くの遺構から土製玉類が出土することが挙げられる。出土遺構は竪穴住居13軒と古墳1基からで、時期は第Ⅱ期以降の遺構に限られるようである。種類は勾玉、大型丸玉(直径20mm前後)と小型丸玉(直径8mm前後)である。各遺構で数点程度出土するのがほとんどで、多量に出土したのはSI-024とSM-001のみである。一般土器類の出土がなく時期を確定できなかったSI-024については、小型丸玉の出土が第Ⅲ期の遺構に限られる点と貯蔵穴が入口部分にみられない点、主軸がN-28°-Wである点から第Ⅲ期の可能性が高い。他の特徴として、第1章でも記述したように竪穴住居跡上の現地表面が凹み、完全に埋没していない状況が検出された点も貴重な事例として挙げておきたい。周辺で確認された例では富里市稲荷谷津遺跡⁹があり、古墳時代後期の竪穴住居跡5軒が検出されている。

また、カマドの最終状態を時期別にみてみると、第Ⅱ期ではカマドを人為的に掘り壊す例(SI-009・SI-015)や通常は火にかけない坏類が火焼部で出土する例(SI-004・SI-017)などカマドに対する特別な行為が観察できる。第Ⅲ期のカマドでは輪軸に坏・壺類がまとめられる例(SI-003・SI-005)や壺・甕破片が火焼部付近で出土する例(SI-002・SI-011・SI-018)など通常の使用状態を想定できるような事例が多い傾向がみられる。

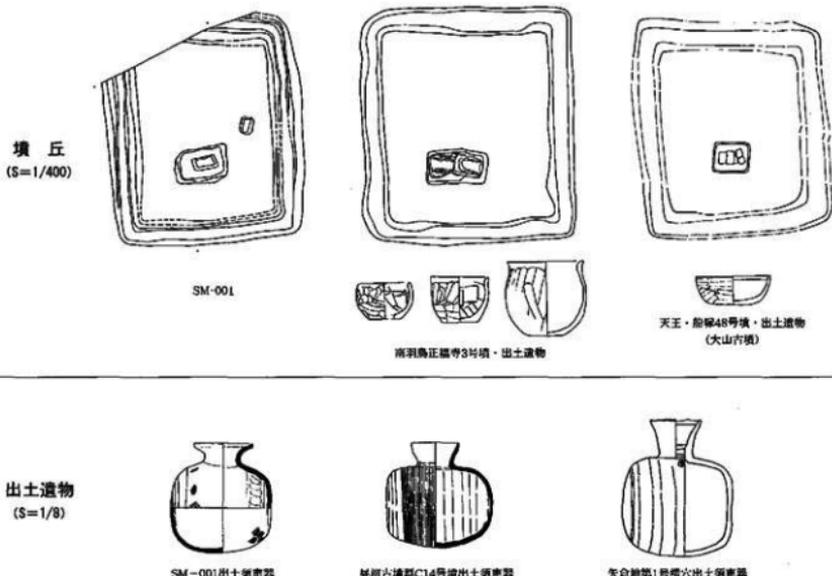
第2節 古墳の検討(第83図)

SM-001は長方墳で、18.8(墳丘長14.3)×15.6(10.5)m、盛土高1.1mの小規模な墳墓である。周溝北側で、SI-025(第Ⅲ期?)と切り合うが、SM-001の方が新しい。主体部は墳丘長軸に直交して長軸をもつ箱雲母片岩製板石による箱式石棺(第1主体部)と墳丘東側に側壁挟り込み土壇(第2主体部)が検出された。箱式石棺の規模は推定長軸1.85(内法1.5)×1.13(内法0.8)mである。石棺材まで完全に抜き取られ、副葬品は少量しか出土しなかった。第1主体部からは須恵器小型平瓶と土師器坏が破片で浮いた状態で出土した。土師器坏はほとんど黒色処理の施された須恵器模倣坏である。これらの土師器坏は第Ⅲ期の坏に比べ若干の小型化・口縁部の短さが指摘できるが、古墳に伴うと考えるべきか、切り合うSI-025竪穴住居に伴っていたものの混入とすべきか判断に苦しむ。時期としては第Ⅲ期新相以降と捉えておきたい。第2主体部と周溝からは須恵器小型壺、周溝南西コーナー部分で須恵器横瓶が周溝テラス面に接して出土した。他に土師器甕、ミニチュア土器、土玉が出土した。

ここでは墳丘・出土遺物の類別を検討し、SM-001の造営年代や集落における位置づけを考えてみたい。小型長方墳で、長軸と直交して箱式石棺を墳裾に設置する墳墓は他の地域では見あたらなかったが、同地域内で成田市南羽鳥正福寺3号墳(墳丘長15.5×13.5m)・成田市天王・船塚48号墳(大山古墳)(墳丘長12.2m×11.0m)の2例¹⁰を確認できた。ともに、墳丘等高線を見る限り墳丘中心から南寄りか他の部分よりなだらかに盛土され、その部分に箱式石棺を設置するなどSM-001と共通性が極めて高い。南羽鳥正福寺3号墳の箱式石棺は、内法1.64×0.90m(蓋石7枚、側石10枚)で、床面は地山を平坦に成形したのみで床板は設置されない。天王・船塚48号墳の箱式石棺は内法1.76×0.90m(蓋石4枚、側石8枚)で、床面は床石がなく木炭が敷かれる。SM-001では石棺材が抜き取られていたため、発掘時では判然としなかったが、この2遺跡と同様に床板石は敷かれていなかったと考えるべきかもしれない。箱式石棺規模の小型化・床板石材の省略など、形式的には新相を示していることが分かる¹¹。南羽鳥正福寺3号墳では小型の壺型土器が周溝中位から

破碎された状況で出土し、古墳築造から一定の期間を経た後古墳に供えられたと考えられている。それ以外の遺物は出土せず時代の想定は難しいが、SM-001周溝からも頸部屈曲の弱い中型甕破片が出土しており、同様な行為の想定は可能である。天王・船塚48号墳では石棺外から片刃箭式鉄鏃、周溝から土師器環が出土している。鉄鏃は鎌身長1.5cm前後の棘莖被を有する長頸鏃であり、土師器環は明確に平底を意識した形状で、金属器を模倣したものである。これらの特徴から時期はTK-217型式段階以降と想定される。

次に、周溝からほぼ完形で出土した須恵器横瓶については、千葉県内では類別はなく、伊勢市昼河C14号墳・横浜市矢倉地第1号横穴⁹でほぼ同形状の横瓶が確認できた。昼河C14号墳出土品は口縁部はほとんど外反せず、体部は比較的横広となっている。出土状況などの検討から追葬はなく、伴出した須恵器環類などがTK217型式・猿投編年東山50号様式に比定されており、横瓶もその時期と考えられる。矢倉地横穴1号墓出土品は肩部にボタン状の把手があり、口縁部は直線的に開き端部は薄くなる。体部の形状・法量はSM-001出土横瓶と近似する。報告者は遺物の年代を7世紀前半としている。横瓶の出土量は比較的少なく編年が確立している状態とは言えないが、型式変化の方向性として体部の横への拡大化を基準⁹とすると矢倉地1号横穴→SM-001→昼河C14号墳出土横瓶の順と捉えておきたい。



第83図 SM-001の類別

以上、類例の検討を総合的にまとめると、SM-001はTK217型式期、現段階の年代観で7世紀中頃には築造されていたと想定するのが妥当であろう。集落との関係では、調査区内ではTK-217型式段階の堅穴住居は検出されておらず、同時代関連性を積極的に主張することはできない。しかし、調査区北側未調査地部分に古墳と同時期の遺構が展開する可能性や堅穴住居形態以外の住居の想定、古墳出土品と集落出土品による年代設定の問題⁹などから、この規模の集落の最終段階に小規模墳墓1基が造営されたと想定できるなら古墳時代終末期における集落と古墳の関係を考える上で貴重な成果といえるであろう。

また、本遺跡周辺には大規模古墳群が存在することは第1章でも述べたが、それらの古墳群との関連や小型方墳と大型方墳との時代・地域性の問題、採用される主体部種類の多様性など7世紀代の方墳のあり方には今後検討すべき課題は多い。

(注)

1) 土器編年については下記文献を参考にした。

- 1988 村山好文「平賀遺跡群における古墳時代後期土器の再検討」『日本考古学研究所集報X』日本考古学研究所
- 1994 糸川道行「妙経遺跡・井戸谷9号墳」(財)千葉県文化財センター調査報告第246集
- 1995 小沢 洋「房総の古墳後期土器一坏の変遷を中心として」『東国土器研究』4 東国土器研究会
- 1999 高橋 誠「南羽鳥遺跡群Ⅲ-中軸第1遺跡F地点-」(財)印旛都市文化財センター発掘調査報告書第145集

2) 稲荷谷津遺跡では重機による表土除去を行わず、出土遺物すべての位置を記録するなど極めて綿密な発掘調査が行われている。

- 1998 『富里第二工業団地土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査』(財)印旛都市文化財センター発掘調査報告書第138集

3) 墳丘の類例については下記の文献から引用したが、墳丘図については原因を一部編集、再トレースを行った。

- 1965 茂木雅博「成田市大山古墳調査報告」『古代学研究』41
- 1975 『公津原』(財)千葉県地域振興公社
- 1996 『南羽鳥遺跡群Ⅰ-南羽鳥高野遺跡、南羽鳥正福寺遺跡-』(財)印旛都市文化財センター発掘調査報告書第112集

4) 箱式石棺の編年については下記文献を参考にした。

- 1993 上野恵司「総における古墳時代後期の埋葬施設の研究-箱式石棺-」『立正考古』32 立正大学考古学研究会
- 1995 石橋 充「寿行地古墳の年代について」『寿行地古墳発掘調査報告書』土浦・出島合同遺跡調査会

5) 横瓶の類例については下記文献から引用した。なお、横瓶以外の須恵器(小型平瓶・壺)については現段階では残念ながら類例を確認することができなかった。器形から古墳時代の所産ではなくいずれも奈良時代以降の遺物である可能性は高い。出土状況からも第1次埋葬に伴うものではなく、追葬・墳墓再利用に伴うものであろうと捉えている。

- 1975 池上 悟「横浜市矢倉地横穴墓群の調査」『考古学ジャーナル』103
- 1993 『昼河古墳群』伊勢市教育委員会

6) 2000 鈴木敏則「古墳時代湖西窯編年の再構築に向けて」『須恵器生産の出現から消滅』第1回東海土器研究会

7) 7世紀における集落と古墳の年代観について、集落は6世紀から続く資料が多く土器器編年の連続性から7世紀の年代を想定する傾向があり、終末期古墳の年代は出土須恵器・武器類の関西・東海の様式を直接あてはめて想定する傾向にあり、前者が7世紀中葉と捉える時期と後者が7世紀後半と位置づける時期が本当にそれほどの差があるものなのか今後更に検討が必要であろう。

写 真 图 版



松崎山ノ台遺跡



調査前(西から)



3D-61グリッド断面(西から)



2D-61拡張区石器出土(北から)



2E-09拡張区石器出土(北東から)



2E-25拡張区石器出土(南から)



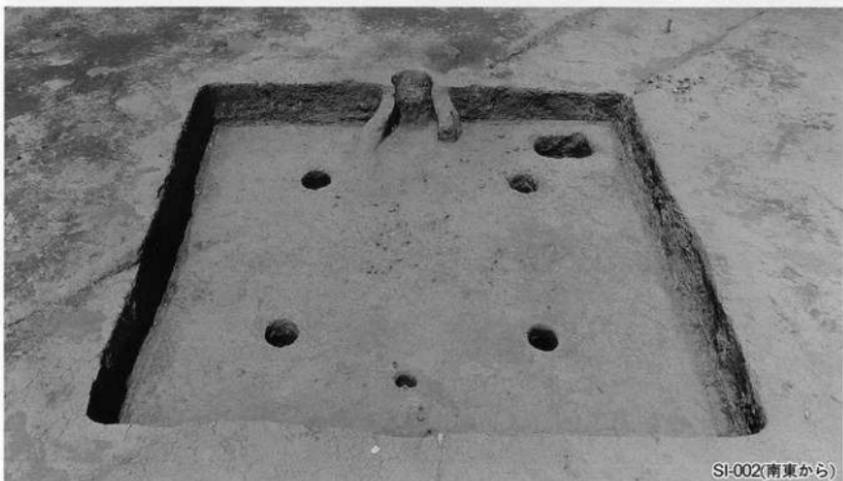
SI-001(南西から)



SI-001断面(南東から)



SI-001遺物出土(西から)



SI-002(南東から)



SI-002カマド(南東から)



SI-003カマド遺物出土(南東から)



SI-003(南東から)



SI-004(北から)



SI-004遺物出土(北から)



SI-004貯蔵穴遺物出土(東から)



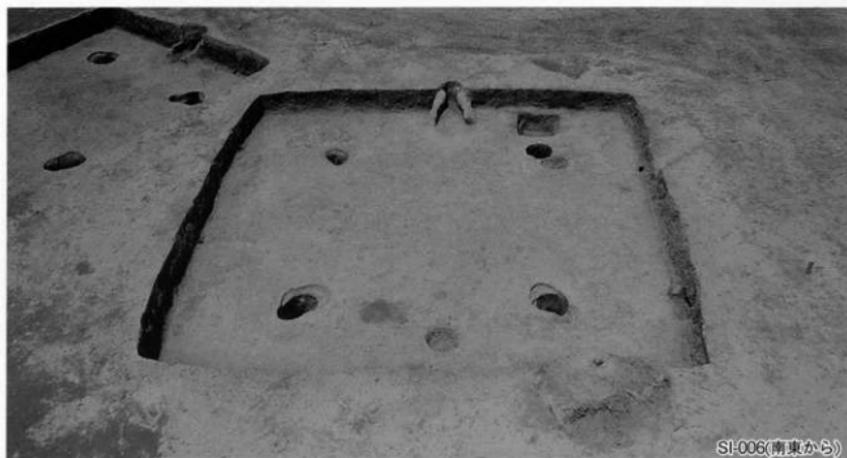
SI-005(北東から)



SI-005カマド遺物出土(南東から)



SI-005カマド(南東から)



SI-006(南東から)



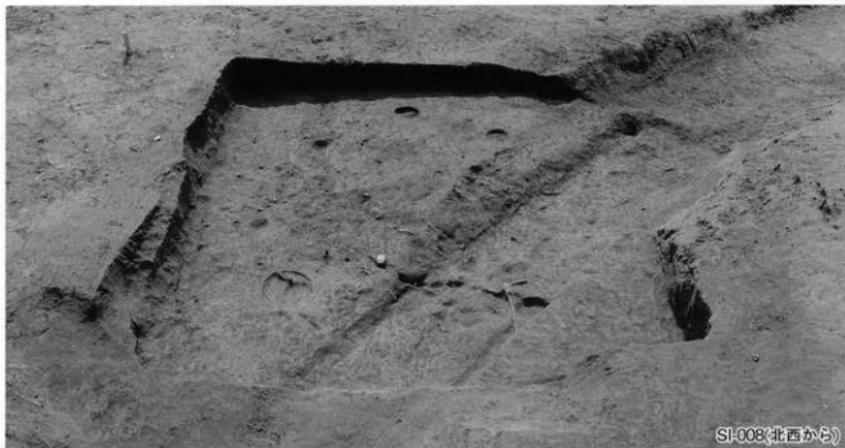
SI-006カマド(南東から)

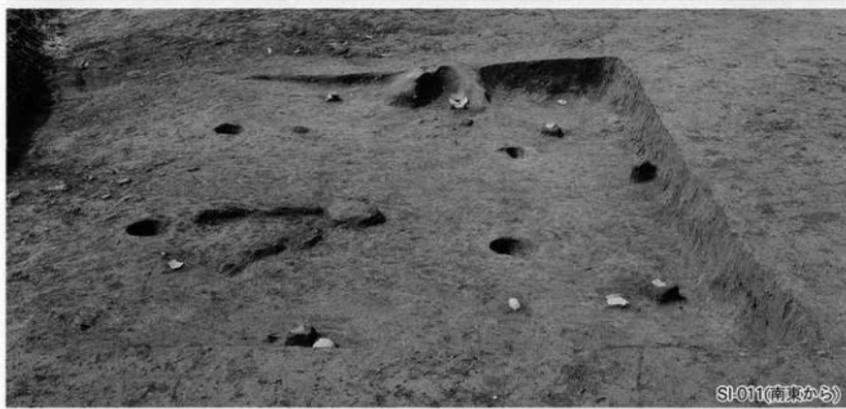


SI-007カマド遺物出土(南西から)



SI-007(南から)







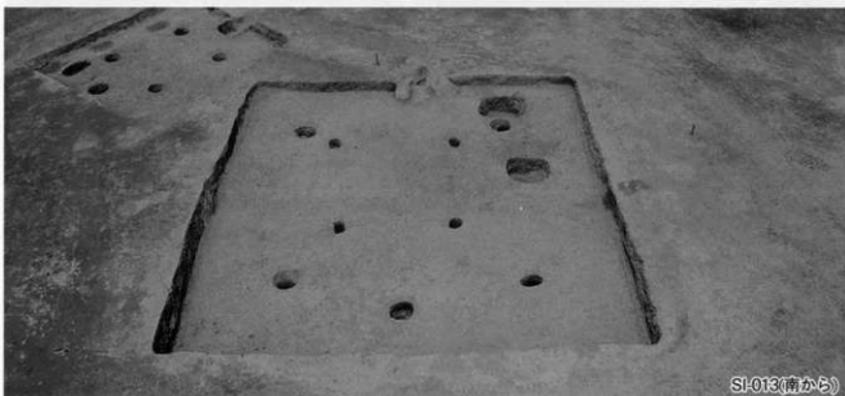
SI-012(北東から)



SI-012カマド(南東から)



SI-013貯蔵穴遺物出土(南から)



SI-013(南から)





SI-016(北から)



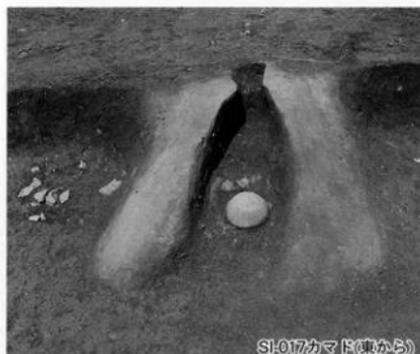
SI-016遺物出土(北から)

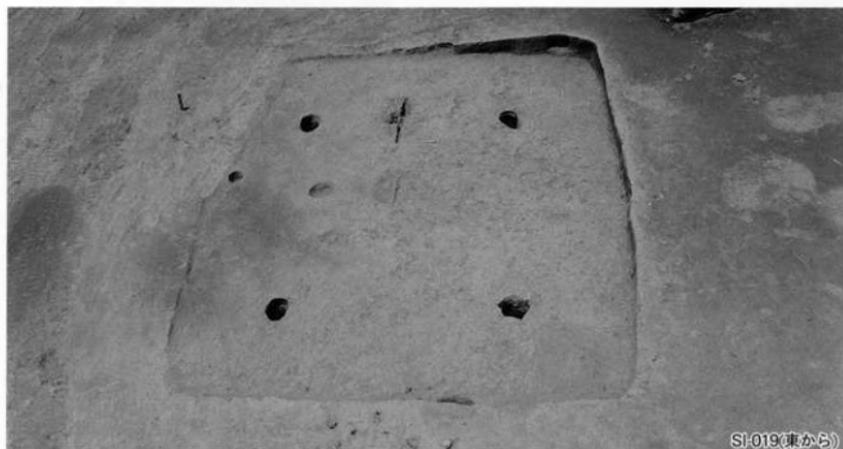


SI-016遺物出土(北西から)



SI-017(東から)





SI-019(東から)



SI-019遺物出土(西から)



SI-020遺物出土(南東から)



SI-020(南東から)









SM-001調査前(東から)



SM-001現表主除去後(南東から)



SM-001南北墳丘断面<南側>(南西から)



SM-001南北墳丘断面<北側>(北東から)



SM-001主体部確認段階(手前が南)



SM-001第1主体部(東から)



SM-001主体部完掘段階(手前が南)



SM-001第1主体部断面(北東から)



SM-001第1主体部掘方断面(東から)



SM-001第1主体部石棺材出土(西から)



SM-001第1主体部(西から)



SM-001南周溝石棺材出土(東から)



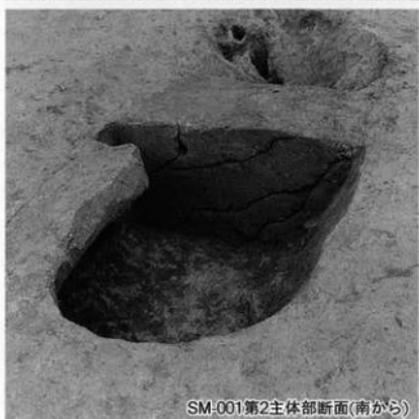
SM-001南周溝断面(東から)



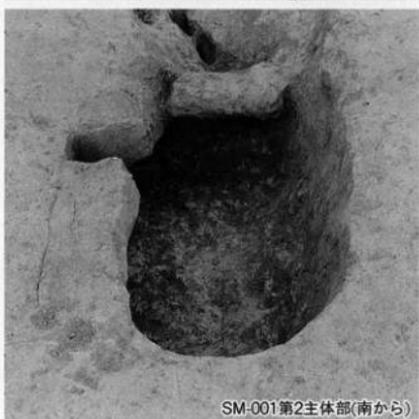
SM-001東周溝遺物出土(南から)



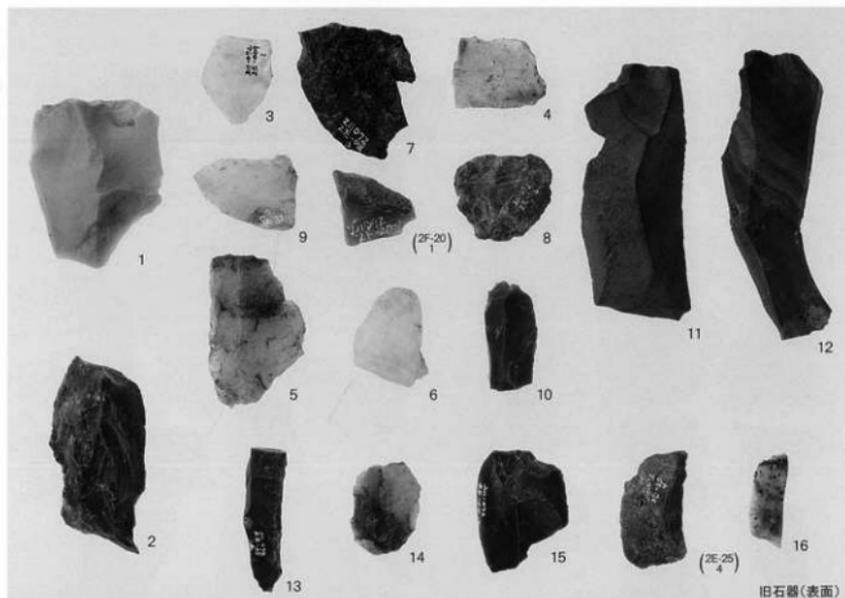
SM-001南西隅周溝遺物出土(北から)



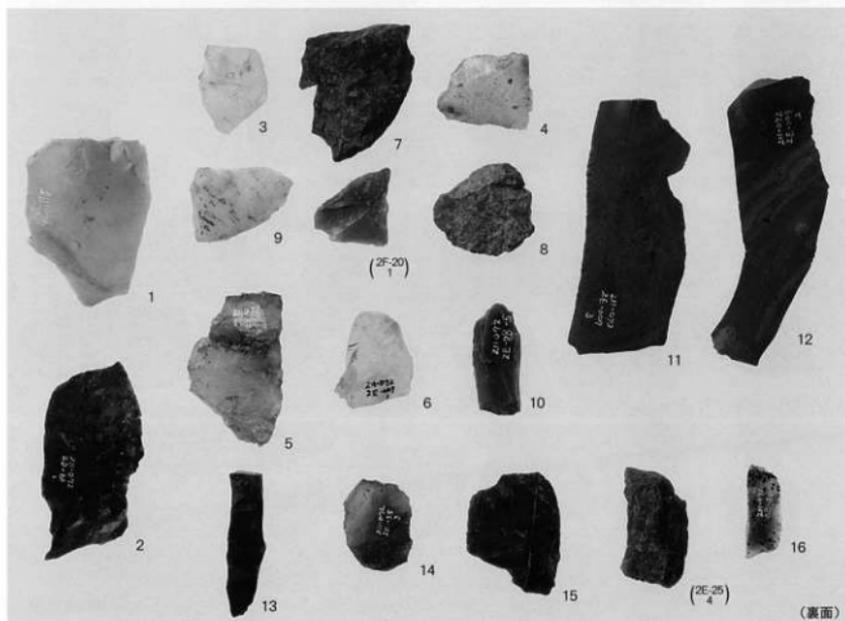
SM-001第2主体部断面(南から)



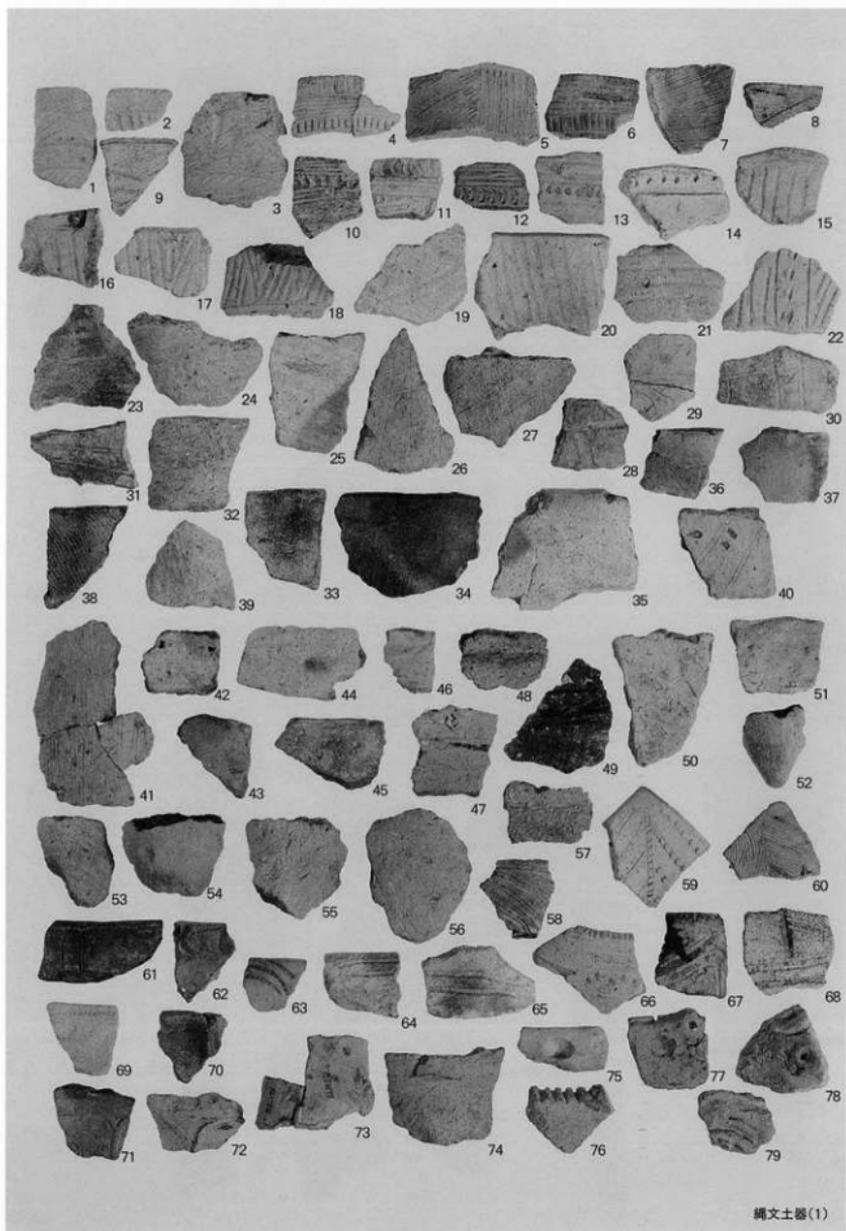
SM-001第2主体部(南から)

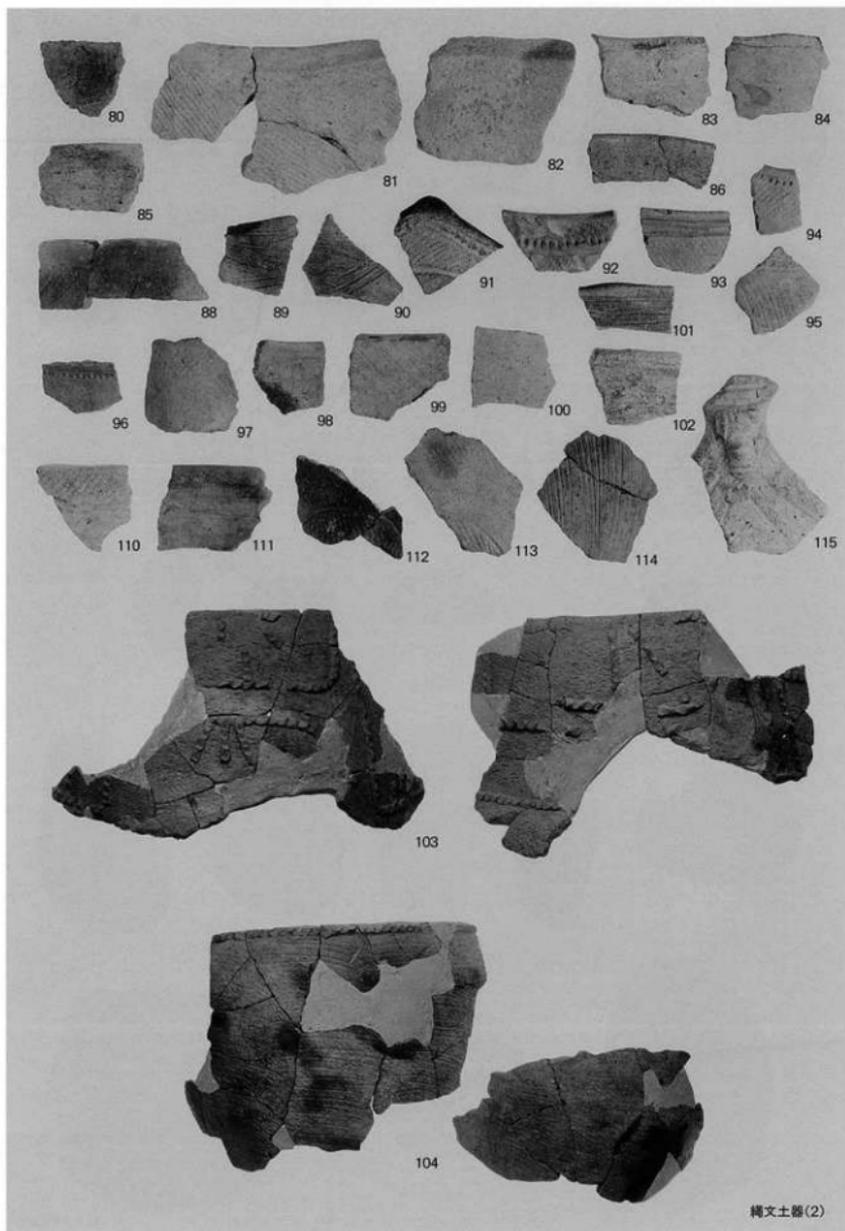


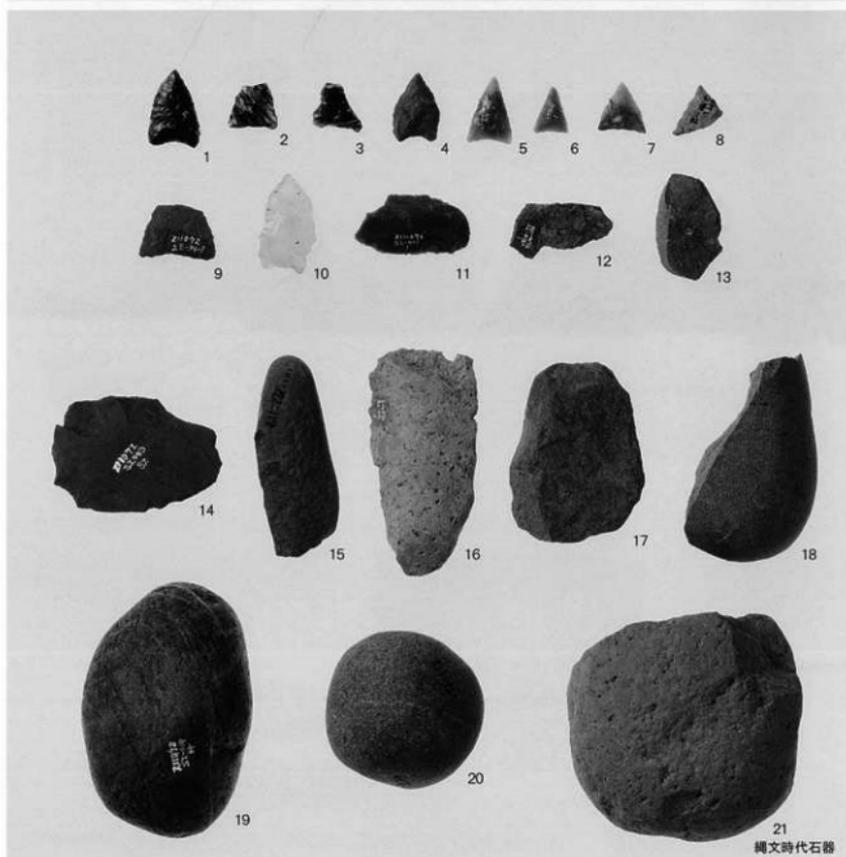
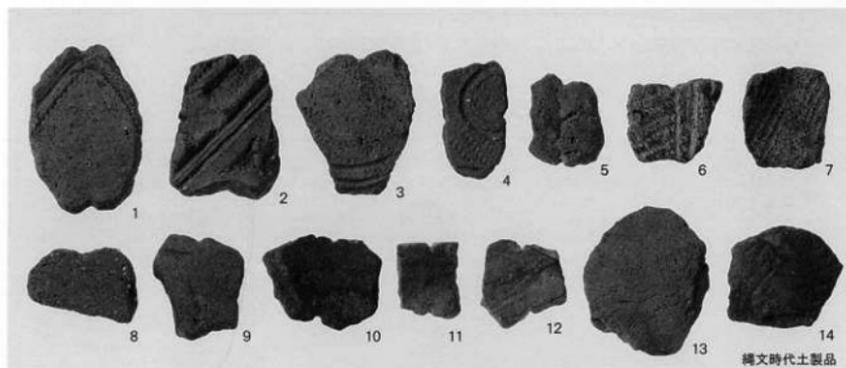
旧石器(表面)

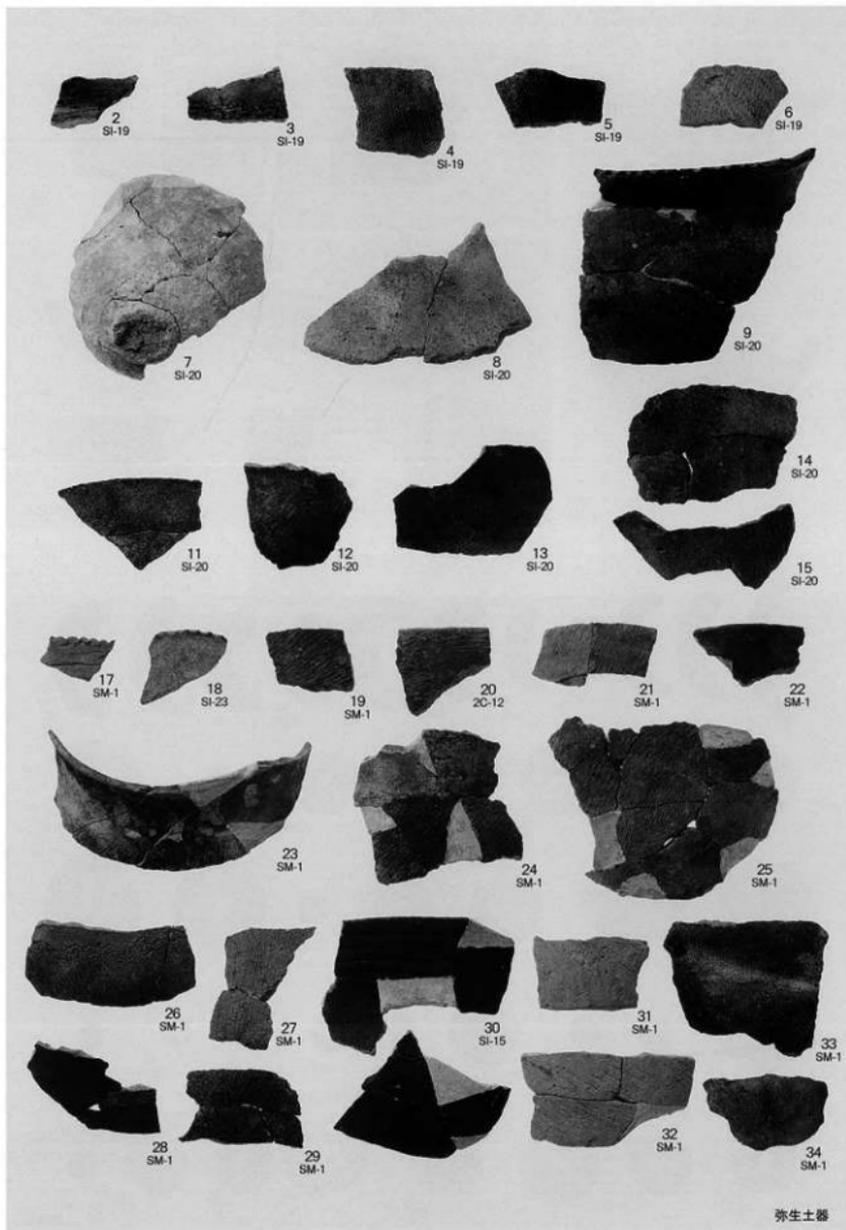


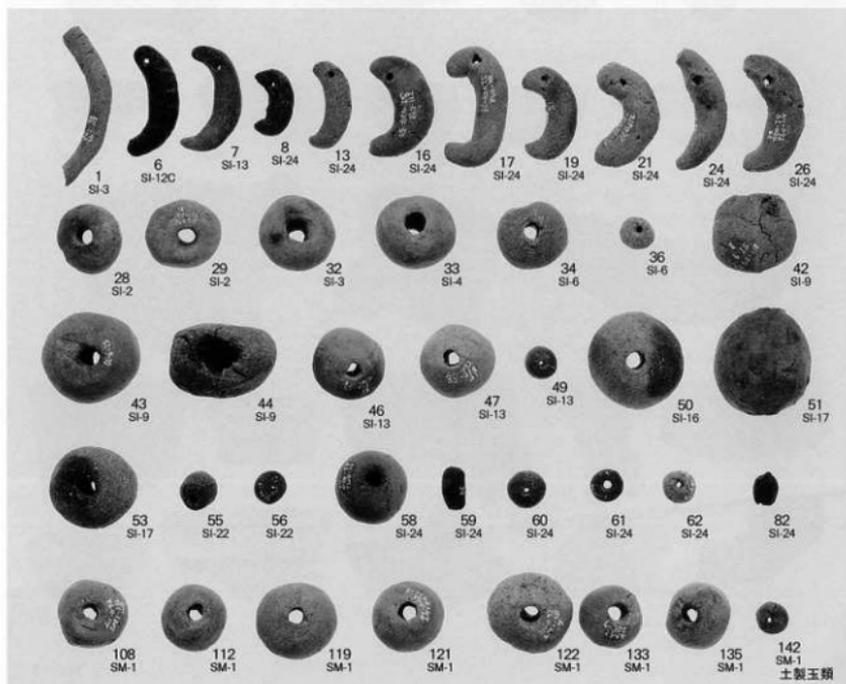
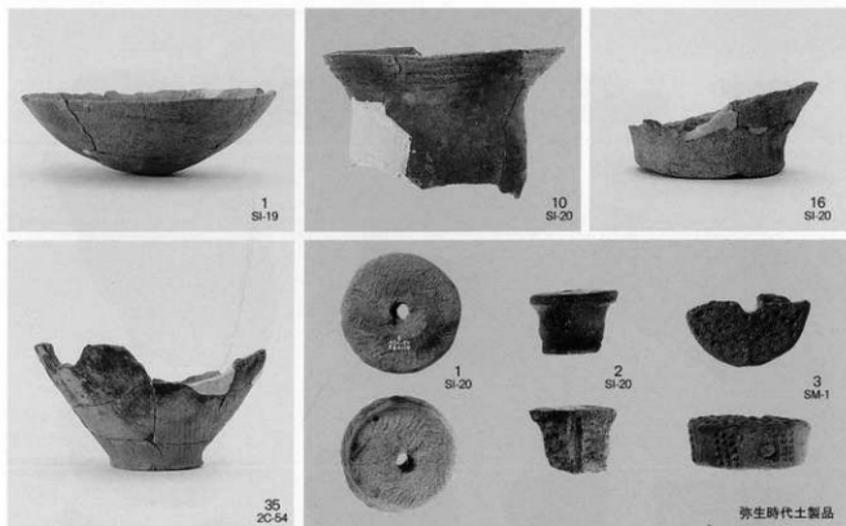
(裏面)

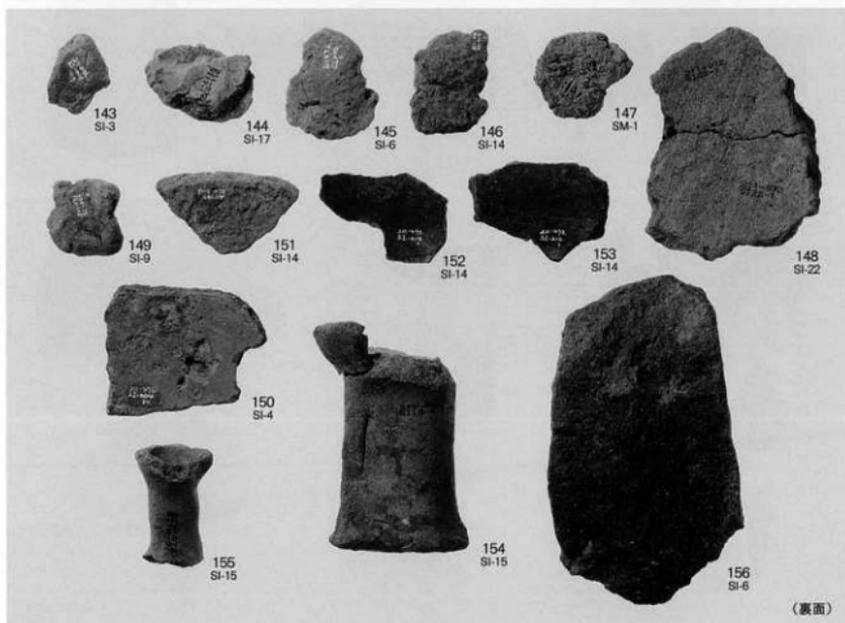
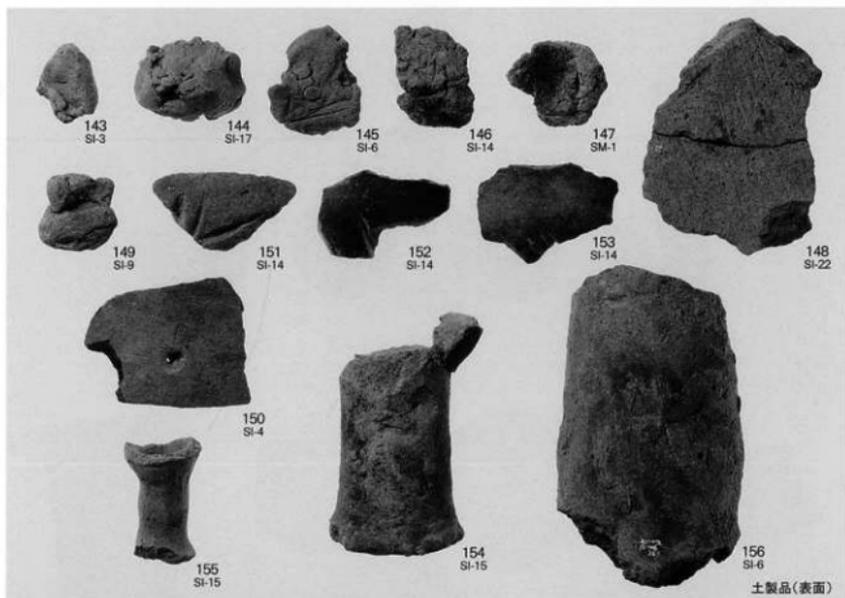


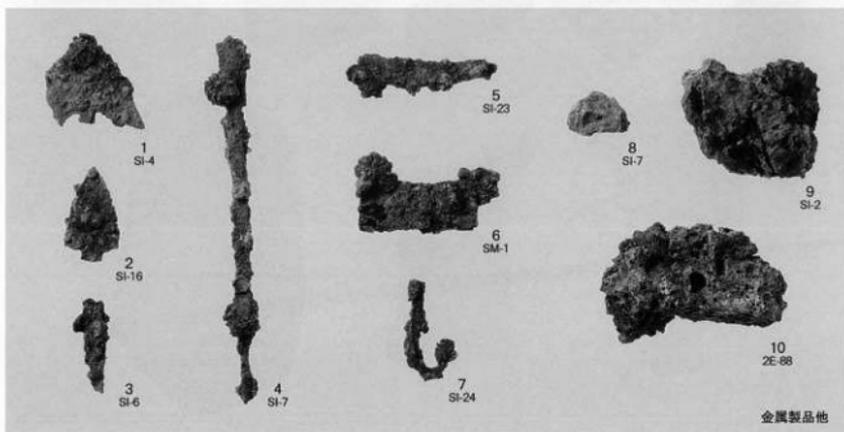
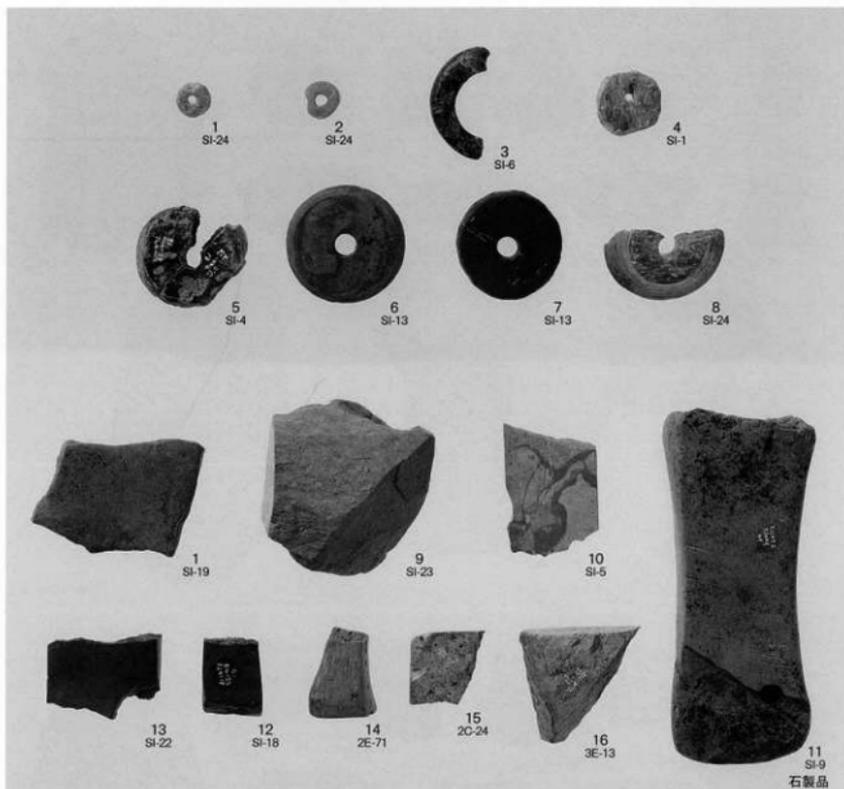










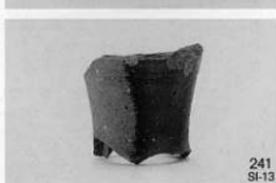
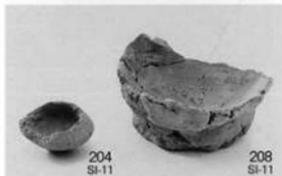


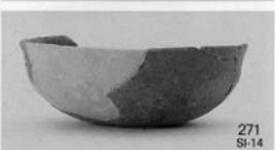




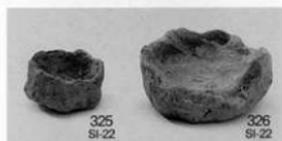












報告書抄録

| | | | | | | | | |
|--------|---|---|----------------------------------|-------------------|---|--|--------|------------------------|
| ふりがな | なりたしんこうそくてつどう・きたちばどうろまいぞうぶんかざいはいくつちょうりさほうこくしょ なりたしまんぎやまのだいせいせき | | | | | | | |
| 書名 | 成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 成田市松崎山ノ台遺跡 | | | | | | | |
| 巻次 | 1 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 千葉県教育振興財団調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第618集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 黒沢 崇 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 千葉県教育振興財団 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL043-424-4848 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2009年2月25日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コ ー ド | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積㎡ | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 松崎山ノ台 | 成田市松崎 字山ノ台1374ほか | 12211 | 072 | 35度 47分 59秒 | 140度 17分 36秒 | 20070118～ 20070327 20070406～ 20070629 | 10,360 | 成田新高速鉄道・北千葉道路建設に伴う事前調査 |
| | | | | 世界測地系 | | | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 松崎山ノ台 | 古墳 集落跡 | 旧石器時代 縄文時代 弥生時代後期 古墳時代後期 ～終末期 | 旧石器出土地点4地点 竪穴住居 竪穴住居 方墳 | 2軒 23軒 1基 | 旧石器 縄文土器・石器 弥生土器・石器 土師器・須恵器・ 金属製品・土製品・ 石製品 | 古墳時代後期～終末期の集落跡と方墳を検出した。 | | |
| 要 約 | <p>本遺跡は主に古墳時代後期の竪穴住居で構成される集落遺跡である。ほとんどの竪穴住居にはカマドが付設され、周辺から完形の土師器が多く出土した。また、住居跡が土砂で埋まりきらず、現地表面にて窪地として存在を確認できたものがある。台地西側縁辺部では集落に隣接して、箱式石棺を主体部とする長方形墳が造営された。石棺材はほとんど抜き取られ、副葬品はほとんど出土しなかったが、古墳時代後期～終末期にかけての集落と古墳の関係を考える上で興味深い。</p> <p>弥生時代では後期の竪穴住居が台地西側で隣接して2軒検出されたが、出土遺物は少量であった。古墳旧表土面以下層からは遺存の良好な縄文時代後期土器片が出土したが、縄文時代の遺構は確認できなかった。下層(旧石器時代)調査では、台地東側を中心に主にⅢ層・Ⅳ層から石器剥片が4地点で出土したが、分布に大きな広がりは見られなかった。</p> | | | | | | | |

千葉県教育振興財団調査報告第618集

成田新高速鉄道・北千葉道路
埋蔵文化財発掘調査報告書1
－成田市松崎山ノ台遺跡－

平成21年2月25日発行

| | |
|-----|---------------------------------|
| 編 集 | 財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター |
| 発 行 | 成田高速鉄道アクセス株式会社 船橋市本町2-10-14 |
| | 財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2 |
| 印 刷 | 三陽工業株式会社 市原市五井5510-1 |
